

WebSphere® Adapters

バージョン 7 リリース 0 Feature Pack 1

WebSphere Adapter for FTP
ユーザーズ・ガイド
バージョン 7 リリース 0
Feature Pack 1

IBM

WebSphere® Adapters

バージョン 7 リリース 0 Feature Pack 1

**WebSphere Adapter for FTP
ユーザーズ・ガイド
バージョン 7 リリース 0
*Feature Pack 1***

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、231ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

目次

WebSphere Adapter for FTP の資料 . . .	1
このリリースの新機能	1
ファイルの名前変更のサポート	1
サポートされる操作	2
Outbound データ変換	7
対話仕様プロパティの設定およびサービスの生成	9
Wrapper および対話仕様プロパティ	12
FTP スクリプトを使用してダウンロードされたイベ ント・ファイルの処理	23
Inbound 処理	23
ユーザーのホーム・ディレクトリーでの Inbound お よび Outbound 操作	28
Inbound 処理	28
デプロイメント・プロパティおよびランタイ ム・プロパティの設定	32
対話仕様プロパティの設定およびサービスの生 成	36
デプロイメント・プロパティおよびランタイ ム・プロパティの設定	39
Wrapper および対話仕様プロパティ	52
活動化仕様プロパティ	63
FTP または FTPS サーバーへの再接続時にファイル 転送を再開する	94

Outbound データ変換	95
Inbound 処理	96
Wrapper および対話仕様プロパティ	100
トラブルシューティングおよびサポート	111
接続パラメーターを動的に渡すことによる FTP サ ーバーへの認証	112
接続仕様プロパティを使用した認証	112
未変更ファイルのポーリングのサポート	118
ファイル取得	119
デプロイメント・プロパティおよびランタイ ム・プロパティの設定	119
活動化仕様プロパティ	132
リモート・ディレクトリー内の相対パスに関するサ ポート	163
Inbound 処理	163
管理 (J2C) 接続ファクトリー・プロパティ	167
活動化仕様プロパティ	186
Wrapper および対話仕様プロパティ	218

特記事項	231
プログラミング・インターフェース情報	233
商標	233

WebSphere Adapter for FTP の資料

WebSphere® Adapter for FTP は、WebSphere Process Server および WebSphere Enterprise Service Bus のアプリケーションに、FTP サーバーを介してのみアクセス可能なデータに、特別なコーディングなしでアクセスできる機能を提供します。アダプターは、要求を送信し、発生したイベントをモニターおよび応答することによって、FTP サーバーを処理します。

このリリースの新機能

このバージョンには、ビジネスの柔軟性、ユーザー・エクスペリエンス、およびアダプターのパフォーマンスを拡張するさまざまな新機能が含まれています。

サポートされている他の機能に関する詳細な情報は、WebSphere Adapter for FTP インフォメーション・センター (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/stbp_ftp_welcome.html) に記載されています。このサイトは、定期的に最新の情報に更新されます。

WebSphere Adapter for FTP は、以下の新機能をサポートします。

- FTP サーバーで作成したファイルの名前変更
- FTP スクリプトを使用してダウンロードされたイベント・ファイルの処理。
- FTP サーバーにあるユーザーのホーム・ディレクトリーでの Inbound および Outbound 操作の実行。
- FTP または FTPS サーバーへの再接続後にファイル転送を再開。
- 接続仕様プロパティを使用した認証。
- 特定の時間間隔でのイベント・ディレクトリー内の未変更ファイルのポーリング。
- リモート・ディレクトリーでの相対パスの使用。

注: WebSphere Integration Developer では、1 つのバージョンのアダプターのみをワークスペースにインポートしてください。バージョン 7.0.0.1 のフィックスパックまたはバージョン 7.0.1.0 のフィーチャー・パックの、いずれかのアダプターが使用できます。

ランタイム環境のアプリケーション (EAR) には、1 つのバージョンの組み込み RAR ファイル (バージョン 7.0.0.1 のフィックスパックまたはバージョン 7.0.1.0 のフィーチャー・パックの、いずれかのアダプター) のみを含めるようにしてください。ノード・レベルがデプロイされたアダプターでも、1 つのバージョンのアダプターのみを組み込んでください。

ファイルの名前変更のサポート

対話仕様プロパティに新規プロパティ「一時ファイル名」が追加されました。このプロパティは、作成操作のための一時ファイル名を指定します。

指定された名前のファイルが、FTP サーバー内の指定ディレクトリーに作成される。一時ファイル名が指定された場合、その一時ファイル名を使用して FTP サーバーにファイルが作成されます。リモート・ロケーションでファイルが正常に作成されると、そのファイルは、「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティーで指定された値に名前変更されます。

サポートされる操作

操作は、Outbound 処理時に FTP サーバーを介してアクセス可能なリモート・ファイル・システムに対してアダプターが実行できるアクションです。通常、操作の名前は、Create または Append など、アダプターが実行するアクションのタイプを示します。

WebSphere Adapter for FTP は、Outbound 処理時に以下の操作をサポートします。

表 1. サポートされる Outbound 操作

操作	結果
Create	<p>指定された名前のファイルが、FTP サーバー内の指定ディレクトリーに作成される。一時ファイル名が指定された場合、その一時ファイル名を使用して FTP サーバーにファイルが作成されます。リモート・ロケーションでファイルが正常に作成されると、ターゲット・ファイル名に名前変更されます。</p> <p>ファイルの内容は、要求の一部として送信されることもありますし、ローカル・ファイル・システムから取得されることもあります。要求の一部としてファイル内容を受け取った場合、アダプター・ワークステーションにファイルをアーカイブしてからファイルを作成するオプションが、アダプターによって提供されます。</p> <p>要求の一部としてファイル内容を受け取った場合、アダプター・ワークステーションにファイルをアーカイブしてからファイルを作成するオプションが、アダプターによって提供されます。</p> <p>ファイルをステージング・ディレクトリーに作成してから、実際のディレクトリーに送信することができます。ステージング・ディレクトリーを指定しない場合、ファイルは実際のディレクトリーに直接作成されます。</p> <p>ファイルが作成された後に、ファイル名が呼び出し側コンポーネントに返されて、ファイル作成が成功したことが示されます。作成すべきファイルが存在する場合は、DuplicateRecord 例外が送信されて、ファイルは作成されません。既存のファイルも上書きされません。</p> <p>アダプターには、固有のファイル名を生成する機能があります。7 ページの『固有ファイル名の生成』を参照してください。</p> <p>アダプターには、作成された出力ファイルにファイル・シーケンスを作成する機能があります。5 ページの『Create 操作中のファイル・シーケンスの生成』を参照してください。</p>

表 1. サポートされる Outbound 操作 (続き)

操作	結果
Append	<p>FTP サーバーの指定されたディレクトリーにある指定された名前のファイルに、要求で送信された内容が付加される。</p> <p>付加するファイルが存在する場合は、内容が付加され、ファイル名が呼び出し側コンポーネントに返されて、正常に対応したことが示されます。</p> <p>ステージング・ディレクトリーが指定された場合、付加するファイルが指定の出力ディレクトリーからステージング・ディレクトリーにコピーされ、内容がステージング・ディレクトリー内の該当ファイルに付加されます。その後で、追加されたファイルは元のディレクトリーに戻されます。</p> <p>付加するファイルが存在せず、CreateIfFileNotExist プロパティーが true に設定されている場合、アダプターは新規ファイルを作成します。</p> <p>付加するファイルが存在しない場合は、呼び出し側コンポーネントに RecordNotFound 例外が送信されます。</p>
Delete	<p>指定されたディレクトリー内のファイルが FTP サーバーで削除され、ファイルが正常に削除されたことを示す true をアダプターが呼び出し側コンポーネントに返す。</p> <p>削除するファイルが存在しない場合は、呼び出し側コンポーネントに RecordNotFound 例外が送信されます。</p>
Retrieve	<p>指定された要求のファイルの内容が返される。</p> <p>SplittingFunctionClassName プロパティーおよび SplitCriteria プロパティーに基づいて、ファイル内容が分割されます。構成済みのデータ・ハンドラーに基づいて、ファイル内容がビジネス・オブジェクトに変換されます。</p> <p>ファイル内容が取得された後、それが応答として送信されます。ファイル内容は、呼び出し側コンポーネントに返すこともできますし、ローカル・ファイル・システムに保存することもできます。取得するファイルが存在しない場合は、呼び出し側コンポーネントに RecordNotFound 例外が送信されます。</p> <p>アダプターは、DeleteOnRetrieve プロパティーを使用してファイルを取得した後に、FTP サーバー・ディレクトリーからファイルを削除するオプションを提供します。</p> <p>アダプターは、ArchiveDirectoryForDeleteOnRetrieve プロパティーを使用して、FTP サーバーにファイルをアーカイブしてからファイルを削除するオプションをサポートしています。</p> <p>データ変換用に Retrieve 操作を構成中に、CustomerRetrieveWrapper または CustomerRetrieveWrapperBG、あるいは OrderRetrieveWrapper または OrderRetrieveWrapperBG のようなカスタム取得ラッパーを作成し、そのラッパーを操作ウィンドウで出力タイプとして使用します。</p> <p>データ変換を伴わない Retrieve 操作の場合、デフォルトのラッパー RetrieveResponseWrapper が使用されます。</p> <p>注: 後方互換性により、データ変換を伴う XML データの取得に RetrieveResponseWrapper を使用できます。</p>

表 1. サポートされる Outbound 操作 (続き)

操作	結果
Overwrite	<p>この操作は、ディレクトリーのファイルに要求で指定された内容を上書きする。</p> <p>内容が上書きされたのち、ファイル名が呼び出し側コンポーネントに返されて、正常に対応したことが示されます。</p> <p>上書きするファイルが指定のディレクトリーからステージング・ディレクトリー (指定した場合) にコピーされ、ステージング・ディレクトリー内の該当ファイルの内容が上書きされます。その後で、このファイルは指定されたディレクトリーに戻されます。ステージング・ディレクトリーが指定されていない場合は、指定されたディレクトリー内のファイルの内容が上書きされます。</p> <p>上書きするファイルが存在せず、CreateIfFileNotExist プロパティーが true に設定されている場合、アダプターは新規ファイルを作成します。</p> <p>上書きするファイルが存在しない場合は、呼び出し側コンポーネントに RecordNotFound 例外が送信されます。</p>
Exists	<p>要求内のファイル名が、指定のディレクトリー、またはそのサブフォルダーに存在する場合、アダプターは true を返すと共に、ファイルの絶対パスを呼び出し側コンポーネントに返す。同じ名前のファイルが複数のディレクトリーに存在する場合、アダプターは、呼び出し側コンポーネントに true を返すと共に、最初に検出したファイルの絶対パスを返します。</p> <p>ファイル名が存在しない場合、またはディレクトリーが存在しない場合、アダプターは呼び出し側コンポーネントに false を返します。</p>
List	<p>要求で指定されたすべてのファイル名およびディレクトリーは呼び出し側コンポーネントに返される。</p> <p>ディレクトリーのみが指定されている場合、ディレクトリー内のすべてのファイル名が取得され、応答として呼び出し側コンポーネントに送信されます。</p> <p>指定したディレクトリーが存在しない場合は、呼び出し側コンポーネントに RecordNotFound 例外が送信されます。</p>
ServerToServer FileTransfer	<p>指定されたファイルは、1 つの FTP サーバー・ディレクトリーから別の FTP サーバー・ディレクトリーに転送される。ファイルが正常に転送された後、呼び出し側コンポーネントに true が返されます。</p> <p>両方の FTP サーバーが ServerToServerFileTransfer 操作をサポートし、FTP サーバーとアダプターが稼働中のワークステーションとの間で接続が確立される必要があります。</p> <p>2 つのサーバーに関する必須情報のすべてが要求に含まれていない場合、アダプターは呼び出し側コンポーネントに FTPFileServerToServerFileTransfer 例外を送信します。</p> <p>注: ServerToServerFileTransfer 操作では、FTPS (FTP over SSL および FTP over TLS) プロトコルも SFTP プロトコルもサポートされません。</p>

表 1. サポートされる Outbound 操作 (続き)

操作	結果
ExecuteFTPScript	<p>FTP スクリプト・ファイルに含まれているコマンドは、アダプター・ワークステーションで実行される。この操作では、FTP サーバーがサポートするコマンドのみが実行されます。操作が失敗すると、アダプターは FTPFileExecuteFTPScript 例外を呼び出し側コンポーネントに送信します。</p> <p>アダプターは、確立されている接続を使用してコマンドを実行するため、接続関連のコマンド (open など) をスクリプト・ファイルに組み込まないでください。</p> <p>ディレクトリーは DirectoryPath プロパティーに指定し、ファイル名は FileName プロパティーに指定する必要があります。</p> <p>スクリプト・ファイル内のコマンドを FTP サーバー上の特定のディレクトリーで実行する必要がある場合は、スクリプト・ファイルにそのディレクトリーに移動する最初のコマンドを指定する必要があります。</p> <p>コマンド・リストが実行されると、応答ストリングが呼び出し側コンポーネントに返されます。また、アダプターは FTP スクリプト・ファイルにおけるパラメーター置換をサポートします (パラメーター %1、%2 を実際の値に置換)。値は要求の一部として送信されます。</p> <p>注: スクリプト・ファイルには、選択されたプロトコルでサポートされているコマンドが含まれます。</p>

Create 操作中のファイル・シーケンスの生成

Adapter for FTP では、Outbound の Create 操作中におけるファイル・シーケンスの生成をサポートしています。シーケンスの保管先ファイルの絶対パスを指定する FileSequenceLog プロパティーが導入されました。

シーケンス・ファイルは、シーケンス番号の保管に使用されるファイルです。アダプターは、現在の操作のためのこのファイルにあるシーケンス番号を取得し、その番号を 1 増やしてファイルを更新します。シーケンス・ファイルが作成されるとき、ファイルにはデータは何も入っておらず、アダプターはシーケンス番号 1 から生成し始めます。

アダプターは要求のたびにシーケンス番号を読み取り、その番号を 1 増やして、シーケンス・ファイルを更新します。シーケンス番号は、ターゲット・フォルダーで要求ファイルを作成しているときに使用されます。例えば、非数値であったり、特殊文字で構成されていたり、ゼロまたは負であったりなど、番号が無効な場合、アダプターは、再びシーケンス番号 1 から始めます。アダプターを再始動したときは、アダプターはファイル内の既存のシーケンス番号を使用します。

注: ディレクトリーまたはファイル名にかかわらず、シーケンス番号が Outbound Create 操作に使用されるシーケンス・ファイルの唯一の内容です。

FileSequenceLog プロパティーの値が指定された場合、アダプターはファイル・シーケンス番号を生成し、作成するファイルのファイル名に付加します。シーケンス番号では、\$FILENAME.\$SEQUENCE_NUMBER.\$FILE_EXT の形式が受け入れられます。例えば、HostName = localhost および Filename = Customer.txt の場合、出力ファイルは Customer.1.txt、Customer.2.txt、Customer.3.txt のようになります。この

形式は z/OS® および i5/OS® も含め、すべてのプラットフォームで同じです。シーケンス番号は、アダプターが再始動するたびに、増え続けます。

アダプターがスタンドアロン・モードで作動している場合、FileSequenceLog プロパティの値はローカル・ファイル・システム上のファイルになければなりません。アダプターがクラスター環境で作動している場合、FileSequenceLog プロパティの値は、すべてのクラスターからアクセス可能なマップ済みドライブ上のファイルになければなりません。アダプターにはシーケンス・ログ・ファイルに対する書き込み権限がなければなりません。書き込み権限がなければ、IOException が発生します。

注: ファイル・シーケンス番号は、ファイル内のエントリーを削除するか、ファイルを削除すると、リセットできます。新しいシーケンスは 1 から始まります。FileSequenceLog プロパティおよび GenerateUniqueFilename プロパティの両方が有効な場合、GenerateUniqueFilename プロパティ値が優先され、FileSequenceLog プロパティは生成されません。

ファイル・シーケンス名を生成できます。ファイル・シーケンス名を作成するには、次の項目を指定します。

1. シーケンス・ファイル。これは、シーケンス番号が保管されているファイルの絶対パスです。
2. デフォルト・ターゲット・ファイル名

アダプターは、デフォルト・ターゲット・ファイル名にシーケンス番号が付加されたファイル名を生成します。デフォルト・ファイル名に拡張子がある場合には、その拡張子の前にシーケンス番号が付加されます。例えば、管理接続ファクトリーでのデフォルト・ファイル名が Customer.txt の場合、作成される出力ファイル名は Customer.1.txt、Customer.2.txt のようになります。

アダプターは、前のバージョンとの互換性をサポートするために、次のステップを実行します。

1. アダプターは、シーケンス・ファイルを読み取り、path = sequenceNumber の形式のエントリーを検査します。
2. このようなエントリーがファイルに存在する場合、シーケンス・ファイルには、Adapter for FTP バージョン 6.1 でサポートされる形式でデータが含まれていません。
3. アダプターは、すべてのエントリーから、有効な最大のシーケンス番号を取得します。
4. この番号は、新規ファイルの作成に使用されます。
5. アダプターは、番号を増やして、その新しい番号でファイル全体を上書きします。

注: 2 つの別個の管理接続ファクトリーが同じシーケンス・ファイルにアクセスしてはなりません。また、2 つの別個のアダプター・インスタンスは、クラスターのパーツでない限り、同じシーケンス・ファイルにアクセスしてはなりません。2 つのアダプター・インスタンスがクラスターのパーツである場合は、共用シーケンス・ファイルにアクセスします。

固有ファイル名の生成

Create 操作は、次の条件の下で、固有ファイル名の生成をサポートします。

- Create 操作では、GenerateUniqueFile プロパティが true に設定されている場合は、固有ファイル名の生成がサポートされます。GenerateUniqueFile プロパティが使用可能になっているか、または FileSequenceLog プロパティが設定されている場合、一時ファイル名が指定されていても、ファイルはターゲット・ファイル名を使用して直接作成されます。

注: Append 操作および Overwrite 操作では、v6.2 以降、GenerateUniqueFile プロパティが推奨されなくなりました。このプロパティに値が設定されていても、アダプターはその値を「False」と見なします。

固有ファイル名の生成を制御するプロパティは、次の 3 つの場所にあります。

- 管理接続ファクトリー・プロパティ (デフォルト・ターゲット・ファイル名およびシーケンス・ファイル・プロパティ)
- 対話仕様プロパティ (デフォルト・ターゲット・ファイル名および固有ファイルの生成プロパティ)
- Wrapper ビジネス・オブジェクト

ビジネス・オブジェクトのプロパティは、対話仕様のプロパティより優先されます。対話仕様のプロパティは、管理接続ファクトリー・プロパティよりも優先されます。特定のオブジェクトを異って処理するのではない限り、管理接続ファクトリーのプロパティを使用して、ファイル名の生成を制御します。

FTP サーバーが RFC 1123 に指定されている STOU コマンドをサポートする場合、アダプターはこのサーバー・サポートを使用して、固有ファイル名を生成します。

FTP サーバーが STOU コマンドをサポートしない場合、Adapter for FTP は、固有ファイル名を生成し、それを FTP サーバー上に作成します。アダプターによって作成されるファイルのフォーマットは、F の後に TP と乱数の組み合わせが付いたものになります。番号の範囲は、0 から 99999 の間です。次の例は、この形式を示します。FTP0、FTP9、FTP729、FTP99999

注: アダプターは、GenerateUniqueFile と StagingDirectory の両方のオプションを同時にはサポートしません。

関連資料

12 ページの『Wrapper および対話仕様プロパティ』

Wrapper プロパティは Wrapper ビジネス・オブジェクトの属性で、Wrapper ビジネス・オブジェクトによって、アプリケーション・プログラマーはラッパーの中のビジネス・オブジェクトの操作を制御できます。対話仕様プロパティは、全体のアダプターの操作の対話を制御します。

Outbound データ変換

Outbound 通信時のデータ変換とは、アダプターがビジネス・オブジェクトをネイティブ・フォーマットで作成されたイベント・レコード (バイトまたはストリングなど) に変換するために使用するプロセスを指します。アダプターは、アダプター固有のデータ・バインディングおよびデータ・ハンドラーを使用してこの変換を行います。

データ変換によって、外部アプリケーションは、容易に理解および処理できる形式でデータを送受信できます。アダプターがビジネス・オブジェクト内の対応する属性からイベント・レコードを作成するために使用するデータ・バインディングおよびデータ・ハンドラーは、WebSphere Integration Developer の外部サービス・ウィザードを使用して構成されます。

データ・バインディング

データ・バインディングとは、基本的にはビジネス・オブジェクトのフォーマット設定方法を定義したマップです。データ・バインディングは、ビジネス・オブジェクトのフィールドを読み取って、イベント・レコード内の対応するフィールドに書き込む役割があります。各データ・バインディングは、ビジネス・オブジェクトのフォーマット設定方法を定義したマップです。Adapter for FTPは、Outbound 通信時に FTPFileBaseDataBinding データ・バインディングを使用します。

Outbound 通信時に、データ・バインディングはビジネス・オブジェクト内の以下のフィールドを使用して、イベント・レコード内の相当するフィールドに値を取り込みます。

- DirectoryPath
- Filename
- TemporaryFilename
- DataConnectionMode
- FileTransferType
- DataProtectionLevel
- SecondServerDirectory
- SecondServerUsername
- SecondServerPassword
- IncludeEndBODElimiter
- ResumeFailedTransfer
- FileInLocalDirectory
- LocalDirectoryPath
- LocalArchivingEnabledForCreate
- LocalArchiveDirForCreate
- StagingDirectory
- GenerateUniqueFile
- SplittingFunctionClassName
- SplitCriteria
- DeleteOnRetrieve
- ArchiveDirectoryForRetrieve
- FileContentEncoding

変換する必要のないデータの場合、データは変更されずにシステムを通過するため、アダプターはパススルー処理を実行します。

データ・ハンドラー

データ変換では、データ・バインディングのほかにデータ・ハンドラーも使用する必要があります。データ・ハンドラーは、ビジネス・オブジェクトとネイティブ・フォーマットの間の変換を実行します。バージョン 6.2 以降の WebSphere Adapter for FTP では、以下のデータ・ハンドラーが提供されます。

- 区切り形式
- 固定幅
- XML

対話仕様プロパティの設定およびサービスの生成

対話仕様プロパティは、オプションです。設定すると、指定した値が、外部サービス・ウィザードによって生成されるすべての親 FTP ビジネス・オブジェクトのデフォルトとして表示されます。対話仕様プロパティは、操作の対話を制御します。アダプターは、モジュールの成果物を作成するときにインポート・ファイルを生成します。インポート・ファイルには、トップレベル・ビジネス・オブジェクトの操作が含まれます。

このタスクについて

対話仕様プロパティを設定して成果物を生成するには、以下の手順を実行します。詳しくは、『Wrapper および対話仕様プロパティ』のトピックを参照してください。

手順

1. オプション: 対話仕様プロパティを設定するには、「操作」ウィンドウにフィールドを取り込みます。「**拡張**」をクリックして、追加のプロパティ詳細を追加することもできます。
 - a. デフォルトとして設定するフィールドすべてに、値を入力します。
 - b. 「**次へ**」をクリックします。

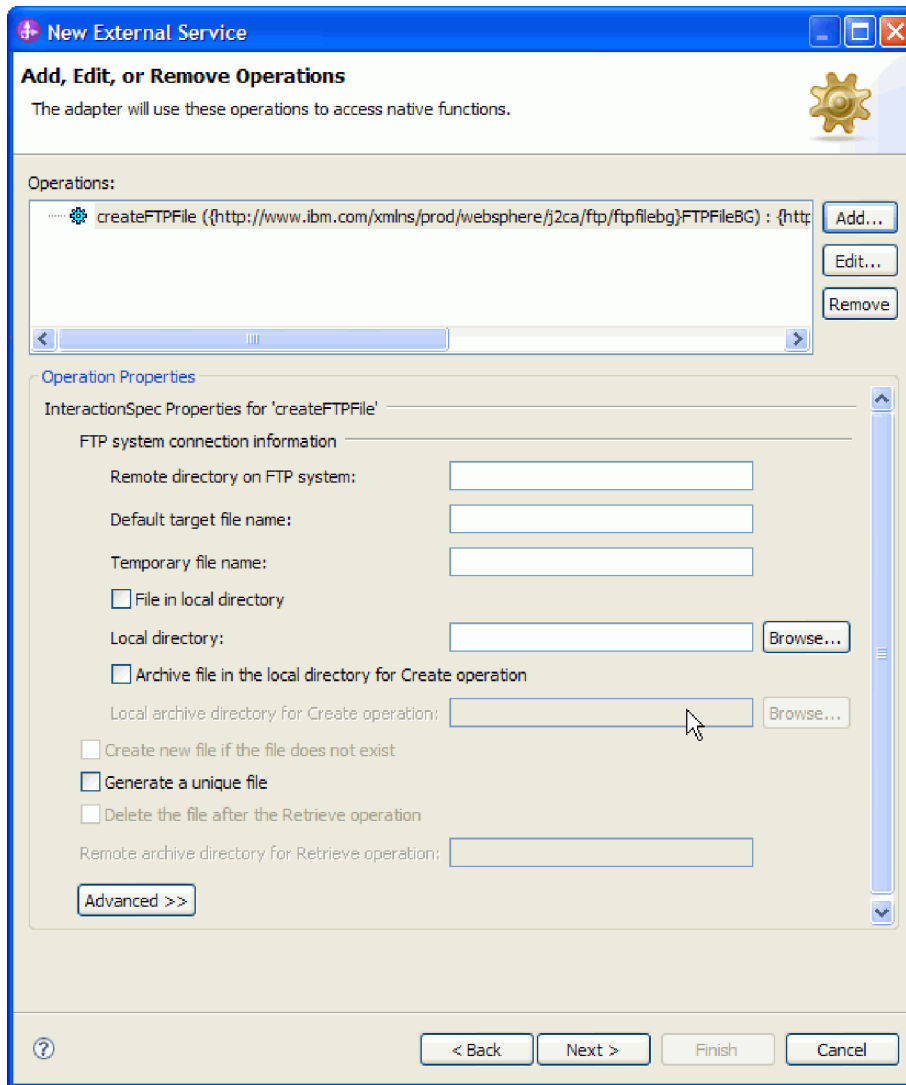


図 1. 対話仕様プロパティ

2. 「サービスの生成」ウィンドウで、インターフェースの名前を指定します。これは、WebSphere Integration Developer アセンブリー・ダイアグラムに表示される名前です。

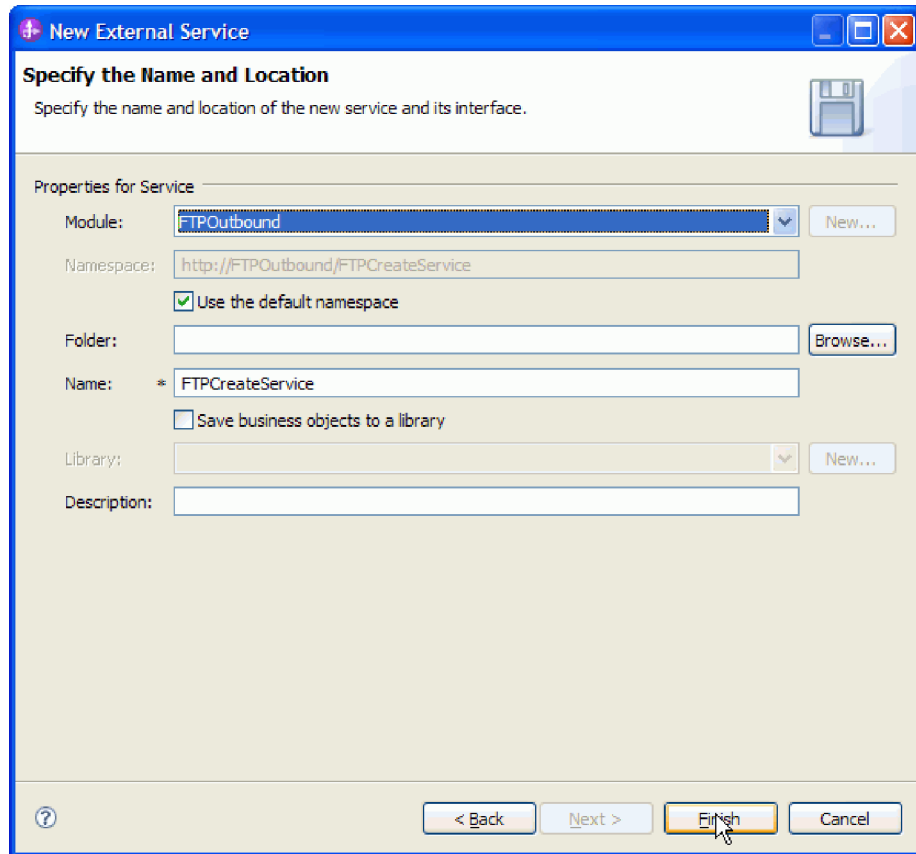


図2. 「名前およびロケーションの指定」ウィンドウ

3. 「終了」をクリックします。 WebSphere Integration Developer アセンブリー・ダイアグラムが開き、作成したインターフェースが表示されます。

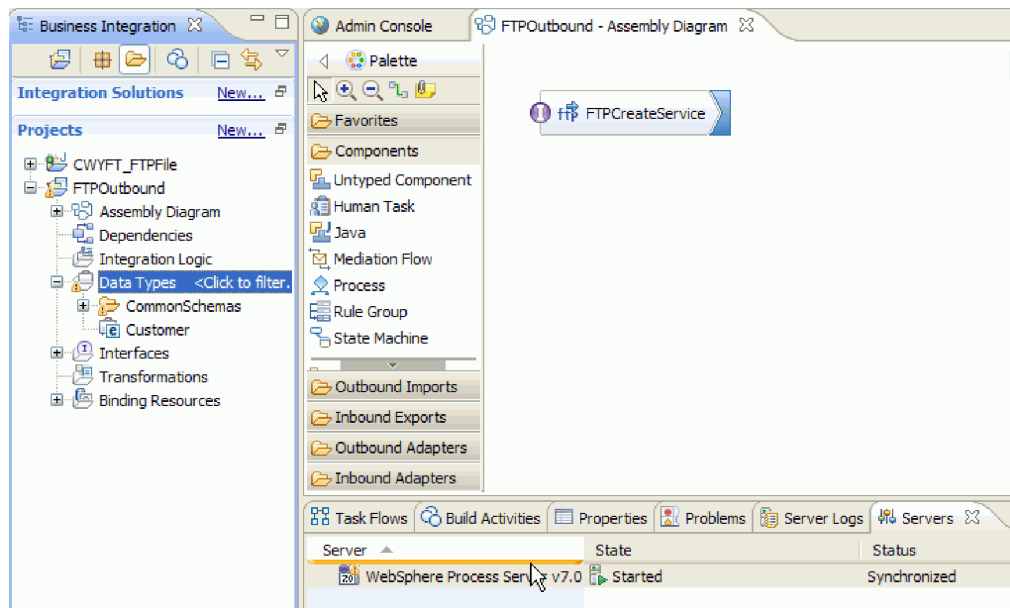


図3. WebSphere Integration Developer のインターフェース

- オプション: 上記の手順を繰り返して、バインディング、データ・ハンドラー、対話仕様などの、必要な操作をすべて追加します。

タスクの結果

WebSphere Integration Developer によって、成果物およびインポートが生成されます。作成された Outbound の成果物は、WebSphere Integration Developer Project Explorer 内のモジュールの下に表示されます。

次のタスク

モジュールをサーバーにデプロイします。

Wrapper および対話仕様プロパティ

Wrapper プロパティは Wrapper ビジネス・オブジェクトの属性で、Wrapper ビジネス・オブジェクトによって、アプリケーション・プログラマーはラッパーの中のビジネス・オブジェクトの操作を制御できます。対話仕様プロパティは、全体のアダプターの操作の対話を制御します。

アダプターの構成時には、外部サービス・ウィザードによって対話仕様プロパティを設定します。これらのプロパティには、変更可能なものもありますが、すべてを変更することはできません。ただし、Outbound 操作の一部のプロパティは変更できます。アセンブリー・エディターを使用して、インポートのメソッド・バインディングに存在するこれらのプロパティを変更します。Wrapper プロパティは、WebSphere Integration Developer テスト・クライアントを使用して設定するか、実行時にプログラムで設定します。

以下の表は、Wrapper および対話仕様プロパティをリストしています。各プロパティの完全な説明は、表に続くセクションで説明します。これ以降のセクションのプロパティの詳細表を読む方法については、『プロパティ詳細についてのガイド』を参照してください。

表 2. 対話仕様プロパティ

プロパティ名		説明
ウィザード内	ラッパー・ビジネス・オブジェクト内	
Retrieve 操作のリモート・アーカイブ・ディレクトリー	ArchiveDirectoryForRetrieve	アダプターは、ファイルを Retrieve 操作中に削除される前に、このフォルダーにオプションでアーカイブする。
ファイルが存在しない場合に新規ファイルを作成する	CreateFileIfNotExists	ファイルが FTP サーバーに存在しない場合、Append および Overwrite 操作中にこのプロパティが true に設定されていると、アダプターはファイルを作成する。
FTP サーバー接続モード	DataConnectionMode	FTP サーバーがファイル転送時に使用するデータ接続モード。
retrieve 操作後のファイルの削除	DeleteOnRetrieve	このプロパティが true に設定されている場合、アダプターは、ファイルを取得した後、FTP サーバーからファイルを削除する。

表 2. 対話仕様プロパティ (続き)

FTP システム上のリモート・ディレクトリー	DirectoryPath	Outbound 操作を実行する必要がある FTP サーバー上のディレクトリーの絶対パス。
14 ページの『データ・チャネル保護レベル (dataProtectionLevel)』	dataProtectionLevel	FTPS プロトコルの場合、データ・チャネルの保護レベルを指定します。
ファイル内容のエンコード	FileContentEncoding	ファイルへの書き込み中に使用されるエンコード。
ローカル・ディレクトリー内のファイル	FileInLocalDirectory	Create 操作時に true に設定されている場合、アダプター・ワークステーションのローカル・ディレクトリー・パスからファイル内容が取り出される。
デフォルト・ターゲット・ファイル名	Filename	DirectoryPath プロパティで指定されたディレクトリー内のファイルの名前。
ファイル転送タイプ	FileTransferType	Outbound 操作時に使用されるファイル転送タイプ。
固有ファイルの生成	GenerateUniqueFile	アダプターは、このプロパティが true に設定されている場合、固有ファイル名を作成する。
ホスト名プロパティ	SecondServerHostName	2 次 FTP サーバーのホスト名。
「ファイル内のビジネス・オブジェクト間の区切り文字」プロパティ	IncludeEndBODelimiter	この値がファイルの内容に付加される。
Create 操作のローカル・アーカイブ・ディレクトリー	LocalArchiveDirForCreate	Create 操作時に LocalArchivingEnabledForCreate が true に設定されている場合、このディレクトリーのローカル・ワークステーションにファイルが保存される。
Create 操作のローカル・ディレクトリーへのファイルのアーカイブ	LocalArchivingEnabledForCreate	true に設定されている場合、ファイルは Create 操作時にローカル・ワークステーションに保存される。
ローカル・ディレクトリー	LocalDirectoryPath	このディレクトリーからファイルが取り出される。
(なし)	ResumeFailedTransfer	作成操作時にこのプロパティが true に設定されていると、アダプターは、接続エラーのためにファイル転送が中断された位置からファイル転送を再開します。
ポート番号	SecondServerPortNumber	2 次 FTP サーバーのポート番号。
プロトコル	SecondServerProtocol	2 次サーバーへの接続に使用されるプロトコルを指定します。
スクリプト・ファイル・パラメーター	ScriptFileParameters	FTP スクリプト・ファイルに必要なパラメーター。
ディレクトリー	SecondServerDirectory	ServerToServerFileTransfer 操作時の 2 次 FTP サーバーのディレクトリー・パス。
パスワード	SecondServerPassword	ServerToServerFileTransfer 操作時の 2 次 FTP サーバーのパスワード。
ユーザー名	SecondServerUsername	ServerToServerFileTransfer 操作時の 2 次 FTP サーバーのユーザー名。

表 2. 対話仕様プロパティー (続き)

ファイル内容を分割するための基準の指定	SplitCriteria	イベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトを分割する区切り文字。
関数クラス名の分割	SplittingFunctionClassName	ファイル分割を有効にするために使用するクラス・ファイルの完全修飾クラス名。
ステージング・ディレクトリー	StagingDirectory	ファイルはこのディレクトリーに最初に作成される。
一時ファイル名	TemporaryFilename	作成操作のための一時ファイル名を指定します。

「Create 操作のローカル・ディレクトリーへのファイルのアーカイブ」プロパティー (LocalArchivingEnabledForCreate)

Outbound の create 操作時に、ファイルの内容が、J2EE アプリケーションからビジネス・オブジェクトの一部として提供され、このプロパティーが true に設定されている場合は、ファイルはローカル・ワークステーションの LocalArchiveDirForCreate ディレクトリーに保存されてから、Outbound 操作が実行されます。

表 3. 「create 操作のローカル・ディレクトリーへのファイルのアーカイブ」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティー・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「ファイルが存在しない場合に新規ファイルを作成する」プロパティー (CreateFileIfNotExists)

Outbound Append および Overwrite 操作中に、ファイルが FTP サーバーに存在しない場合、このプロパティーが true に設定されていると、アダプターはファイルを作成します。このプロパティーが false でファイルが存在しない場合、アダプターはエラーを送信します。

表 4. 「ファイルが存在しない場合に新規ファイルを作成する」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティー・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

データ・チャネル保護レベル (dataProtectionLevel)

このプロパティーでは、データ・チャネルを介したデータ転送の保護レベルを指定します。FTP アダプターとそのサーバーが使用するデータ・チャネル保護のタイプを指定します。

データ・チャネルを開く前に、保護バッファー・サイズ (PBSZ) コマンドおよびデータ・チャネル保護レベル (PROT) コマンドが FTP アダプターによって発行さ

れ、そのデータ・チャンネルの保護レベルが指定されます。デフォルトでは、アダプターは PROT コマンドを発行する前に「PBSZ 0」コマンドを発行します。

表5. データ・チャンネル保護レベル プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	Private - データは暗号化形式で転送されます Clear - データは平文として転送されます
デフォルト	Private - データは暗号化形式で転送されます
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティは、データ・チャンネルの保護レベルを選択するために使用します。以下は、保護レベルの値です。 <ul style="list-style-type: none"> • Private - データ転送の保水性および機密性が保護されることを示します。 • Clear - セキュリティ対策を取らずに、データ・チャンネルで、FTP アダプターとサーバーとの間のファイル転送用に生データが伝送されることを示します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

retrieve 操作後のファイルの削除 (DeleteOnRetrieve)

Outbound Retrieve 操作時に、このプロパティが true に設定されている場合、アダプターは、ファイルを取得した後、FTP サーバーからファイルを削除します。

表6. 「retrieve 操作後のファイルの削除」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティ (Filename)

Outbound 操作時に使用するファイル名。

表7. 「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイル内のビジネス・オブジェクト間の区切り文字」プロパティ (IncludeEndBODelimiter)

この値がファイルの内容に付加される。Outbound の create、append、および overwrite 操作時に使用されます。

表8. 「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ特性

必須	いいえ
----	-----

表 8. 「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ特性 (続き)

デフォルト	<p>Create および Overwrite 操作の場合、デフォルト値は設定されていません。</p> <p>Append 操作の場合、デフォルト値は <EndB0> です。</p> <p>Append 操作の場合、次の規則が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネス・オブジェクト・ラッパーで区切り文字が null に設定されている場合、ビジネス・オブジェクトの分離に区切り文字は使用されません。 ビジネス・オブジェクト・ラッパーに IncludeEndBODelimiter プロパティが設定されておらず、対話仕様の中の値も null である場合、デフォルトは <EndB0> です。 ビジネス・オブジェクト・ラッパーに特定の区切り文字の値が指定されていれば、指定されている値が付加されます。 ビジネス・オブジェクト・ラッパーと対話仕様の両方に値が指定されていれば、ビジネス・オブジェクト・ラッパー値が優先されます。
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ディレクトリー」プロパティ (SecondServerDirectory)

サーバー間のファイル転送の Outbound 操作の実行対象の 2 次 FTP サーバーのディレクトリー。これは、ファイルの転送先のリモート・イベント・ディレクトリーです。

表 9. 「ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	<p>対話仕様プロパティの場合、FTP サーバーにあって Outbound 操作で使用されるディレクトリーは、FTP ディレクトリーの絶対パスを表します。例えば、/home/usr/output です。これにはホスト名または URL 情報は含まれません。</p> <p>wrapper ビジネス・オブジェクト・プロパティの場合、Outbound 操作 ServerToServerFileTransfer の実行対象となる 2 次サーバーの URL。例えば、FTP URL を指定する場合の構文は ftp://[UserId:password@]FTPserver[:port]/DirectoryForSecondServer です。</p>
グローバル化	はい

「ファイル内容のエンコード」プロパティ (FileContentEncoding)

ファイルへの書き込み中に使用されるエンコード。このプロパティを指定しない場合、アダプターは特定のエンコードを使用せずに読み取りを行おうとします。Java™ がサポートする任意のエンコード・セットを指定できます。

表 10. 「ファイル内容のエンコード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「ローカル・ディレクトリー内のファイル」プロパティー (FileInLocalDirectory)

Outbound の create 操作時に、このプロパティーが true に設定されていると、ファイルの内容はビジネス・オブジェクト内で使用できません。ファイルは、アダプター・ワークステーションのローカル・ディレクトリーから取り出されます。

Outbound の retrieve 操作時に、このプロパティーが true に設定されていると、ファイルの内容はビジネス・オブジェクトの一部として J2EE アプリケーションに送信されません。ファイルは、アダプター・ワークステーションのローカル・ディレクトリーに保存されます。

表 11. 「ローカル・ディレクトリー内のファイル」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティー・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「ファイル転送タイプ」プロパティー (FileTransferType)

Outbound 操作時に使用されるファイル転送タイプ。ASCII または binary のいずれかの設定値を指定します。

表 12. 「ファイル転送タイプ」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	binary
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「FTP サーバー接続モード」プロパティー (DataConnectionMode)

FTP サーバーがファイル転送時に使用するデータ接続モード。active または passive のいずれかの設定値を指定します。この値は、ファイル転送が行われる場合にのみ使用されます。このプロパティーは、サーバー間のファイル転送の Outbound 操作の実行時は使用されません。

表 13. 「FTP サーバー接続モード」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	active
プロパティー・タイプ	String
使用可能な値	active または passive
グローバル化	いいえ

固有ファイルの生成 (GenerateUniqueFile)

このプロパティが true に設定されていると、Outbound Create 操作の実行中、アダプターは固有ファイル名を作成します。このプロパティが true に設定されている場合、アダプターは、Filename プロパティに設定されているあらゆる値を無視します。

注: アダプターは、GenerateUniqueFile と StagingDirectory の両方のオプションを同時にはサポートしません。

表 14. 「固有ファイルの生成」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ
制約事項	この機能を使用するには、FTP サーバーが RFC1123 をサポートしている必要があります。

「ホスト名」プロパティ (SecondServerHostName)

Outbound 操作時に接続の確立先となる 2 次 FTP サーバーのホスト名。

表 15. 「ホスト名」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「create 操作のローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (LocalArchiveDirForCreate)

Outbound の create 操作時に、ファイルの内容が、ビジネス・オブジェクトの一部として提供され、LocalArchivingEnabledForCreate が true に設定されている場合は、ファイルはローカル・ワークステーションのこのディレクトリーに保存されます。

表 16. 「create 操作のローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、LocalArchiveDirForCreate ディレクトリーを手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

「ローカル・ディレクトリー」プロパティ (LocalDirectoryPath)

Outbound の create 操作時に、FileInLocalDirectory プロパティが true に設定されていると、ファイルの内容はビジネス・オブジェクト内で使用できません。その代わりに、このディレクトリーからファイルが取り出されます。Outbound の retrieve 操作時に、FileInLocalDirectory プロパティが true に設定されていると、ファイルの内容はビジネス・オブジェクトの一部として送信できません。ファイルはこのディレクトリーに保存されます。

表 17. 「ローカル・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、LocalDirectoryPath ディレクトリーを手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

「ポート番号」プロパティ (SecondServerPortNumber)

Outbound 操作時に接続の確立先となる 2 次 FTP サーバーのポート番号。

表 18. 「ポート番号」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	FTP は 21、FTPS は 990
プロパティ・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

「プロトコル」プロパティ (SecondServerProtocol)

2 次サーバーへの接続を確立するために使用されるプロトコル。この FTP プロトコルは、接続の確立に使用されます。

表 19. 「プロトコル」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	FTP
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「パスワード」プロパティ (SecondServerPassword)

サーバー間のファイル転送の Outbound 操作時にファイルの転送先となる 2 次 FTP サーバーのパスワード。

表 20. 「パスワード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし

表 20. 「パスワード」プロパティ特性 (続き)

プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「retrieve 操作のリモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (ArchiveDirectoryForRetrieve)

Outbound Retrieve 操作時に、アダプターはファイルが削除される前に、このフォルダーにオプションでファイルをアーカイブします。アーカイブ・ディレクトリーが存在する必要があります。

表 21. 「retrieve 操作のリモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「FTP システム上のリモート・ディレクトリー」プロパティ (DirectoryPath)

ExecuteFTPScript 以外のすべての操作に Outbound 操作を実行する必要がある FTP サーバー上のディレクトリーの絶対パス、または ExecuteFTPScript 操作のみのローカル・アダプター・ワークステーション上のディレクトリー・パス。ディレクトリーが存在している必要があります。

注: DirectoryPath として 値 <HOME_DIR> が指定されている場合、Outbound 操作はユーザーのホーム・ディレクトリーで実行されます。

表 22. 「FTP システム上のリモート・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、DirectoryPath ディレクトリーを手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

ResumeFailedTransfer

このプロパティは FTP サーバーへの接続エラーのために中断されたファイル転送の再開をサポートします。

注: このプロパティは、Outbound 処理のみに適用可能です。

表 23. 「ResumeFailedTransfer」プロパティ特性

必須	いいえ
----	-----

表 23. 「ResumeFailedTransfer」プロパティ特性 (続き)

デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	作成操作時に、このプロパティが true に設定されていると、接続時のエラーが原因でファイル転送が中断された位置から、アダプターはファイル転送を再開します。
グローバル化	いいえ

「スクリプト・ファイル・パラメーター (Script File Parameters)」 プロパティ (ScriptFileParameters)

Outbound ExecuteFTPScript 操作時に、FTP スクリプト・ファイルに必要なパラメーターがこのプロパティに設定されます。ランタイム時に、アダプターはパラメーターをこれらの値で置換します。

表 24. 「スクリプト・ファイル・パラメーター (Script File Parameters)」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイル内容を分割するための基準の指定」プロパティ (SplitCriteria)

このプロパティは、SplittingFunctionClassName プロパティの値に基づいた各種の値を受け入れます。

- SplittingFunctionClassName プロパティで、区切り文字に基づいてファイルを分割することを指定する場合、SplitCriteria にはイベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトを分割する区切り文字を指定します。
- SplittingFunctionClassName をサイズに基づいた分割を行う値に設定する場合、SplitCriteria プロパティには、バイト単位のサイズを表す有効な数値を指定します。
 - イベント・ファイルのサイズがこの値より大きい場合、アダプターはファイルをこのサイズのチャンクに分割し、各チャンクが送られます。
 - イベント・ファイルのサイズがこの値より小さい場合、イベント・ファイル全体が送られます。SplitCriteria=0 の場合、チャンクへの分割は無効です。

表 25. 「ファイル内容を分割するための基準の指定」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	0
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「分割関数クラス名」プロパティ (SplittingFunction ClassName)

ファイル分割を有効にするために使用するクラス・ファイルの完全修飾クラス名を指定する。以下の 2 つの値が必要です。

- 区切り文字に基づいてイベント・ファイルを分割する
com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitByDelimiter クラス。
- イベント・ファイル・サイズに基づいてイベント・ファイルを分割する
com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize クラス。

区切り文字またはファイル・サイズは、SplitCriteria プロパティで指定します。

表 26. 「分割関数クラス名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「ステージング・ディレクトリー」プロパティ (StagingDirectory)

Outbound の create 操作時に、ファイルは最初にこのディレクトリー内に作成されます。ファイルの作成が完了したら、ファイルは DirectoryPath プロパティで指定されたディレクトリーにコピーされます。このステージング・ディレクトリーは、Append 操作および Overwrite 操作でも使用されます。ここでは、指定されたファイルは StagingDirectory (存在する場合) にコピーされます。付加された内容または上書きされた内容は、この後、元の指定されたディレクトリーに戻されます。StagingDirectory が指定されていない場合、操作は実際の必要なディレクトリー内で実行されます。

注: アダプターでは、StagingDirectory と GenerateUniqueFile の両方のオプションを同時にはサポートしていません。

表 27. 「ステージング・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、StagingDirectory ディレクトリーを手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

「一時ファイル名」プロパティ (TemporaryFilename)

このプロパティは、作成操作のための一時ファイル名を指定します。ファイルが正常に作成されると、そのファイルは、「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティで指定された値に名前変更されます。

表 28. 「一時ファイル名」 プロパティ特性

必須	いいえ
使用可能な値	すべての有効なファイル名
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティは作成操作で使用されます。一時ファイル名が指定された場合、ファイルはその一時ファイル名を付けて作成されます。ファイルが正常に作成されると、そのファイルは、「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティで指定された値に名前変更されます。
例	xyz.tmp
グローバル化	いいえ

「ユーザー名」 プロパティ (SecondServerUsername)

サーバー間のファイル転送の Outbound 操作時にファイルの転送先となる 2 次 FTP サーバーのユーザー名。

表 29. 「ユーザー名」 プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

関連概念

2 ページの『サポートされる操作』

操作は、Outbound 処理時に FTP サーバーを介してアクセス可能なリモート・ファイル・システムに対してアダプターが実行できるアクションです。通常、操作の名前は、Create または Append など、アダプターが実行するアクションのタイプを示します。

FTP スクリプトを使用してダウンロードされたイベント・ファイルの処理

WebSphere Adapter for FTP は、ポーリング中にイベント・ディレクトリーからダウンロードされたファイル処理するほかに、FTP スクリプトを使用してダウンロードされたファイル処理するためにも使用できます。

「ファイル・ダウンロードの前に FTP スクリプト・ファイルを実行」および「ファイル・ダウンロード後に FTP スクリプト・ファイルを実行」プロパティを使用して、イベント・ディレクトリーのポーリング前またはポーリング後にスクリプトを実行するように指定できます。

Inbound 処理

Adapter for FTP では、イベントの Inbound 処理をサポートしています。アダプターは、イベントに対して指定された間隔で、FTP サーバーに関連付けられたファイル・システムをポーリングします。ファイルがイベント・ディレクトリーに作成されるたびに、アダプターはこれをイベントとして追跡します。アダプターは、イベ

ントを検出すると、ファイルのコピーを要求し、ファイル・データをビジネス・オブジェクトに変換して、利用するサービスに送信します。

以下の図は、WebSphere Adapter for FTP の Inbound 処理フローを示しています。

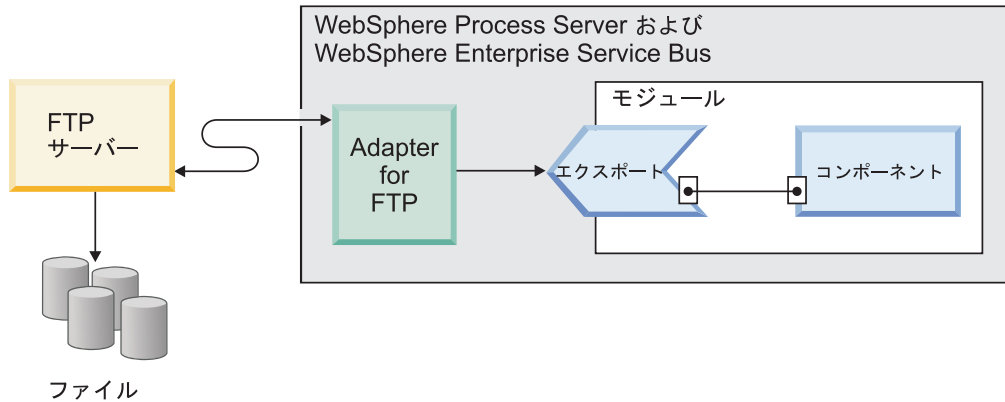


図4. Inbound 処理フロー

アダプターは、FTPPollFrequency プロパティーに基づいて定期的に、FTP サーバーのイベント・ディレクトリーのファイルをポーリングします。ファイルがイベント・ディレクトリーに到達すると、アダプターは、ファイル全体を読み取って、このファイルをアダプター・ワークステーション上のローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードします。アダプターは、ファイルを一度に 1 つずつ順番に FTP サーバーからダウンロードします。すべてのファイルを同時にダウンロードすることはできません。ファイルがダウンロードされた後、アダプターは、FTPArchiveDirectory プロパティーで指定された FTP サーバーのアーカイブ・ディレクトリーにファイルをアーカイブするか、またはユーザー構成に基づいてファイルを削除します。イベント・ディレクトリー、アーカイブ・ディレクトリー、ポーリング頻度、およびポーリング数量 (1 回のポーリング周期でポーリングするファイルの数) は、すべて構成可能なプロパティーです。

注: リモート・ディレクトリーの値が <HOME_DIR> に設定されている場合、アダプターは、ユーザーのホーム・ディレクトリー内のイベント・ファイルをポーリングします。

注: イベント・ディレクトリー・プロパティーの値は、ディレクトリーの絶対パスと相対パスの両方を受け入れます。値がスラッシュ (/) で始まらない場合、アダプターは、パスがユーザーのホーム・ディレクトリーを基準とする相対パスであると見なします。

例えば、リモート・ディレクトリー・プロパティーの値が「ftpuser/event」に設定されている場合、アダプターは、その値がユーザーのホーム・ディレクトリーを基準とする相対パスであると見なします。ホーム・ディレクトリーが「/usr/ftp」に設定されている場合、アダプターはイベント・ファイル用にディレクトリー「/usr/ftp/ftpuser/event」をポーリングします。

ビジネス・オブジェクトが正常にエクスポートに通知された後、ローカル・ステージング・ディレクトリーのイベントは、ローカル・ファイル・システム上のアーカイブ・ディレクトリー内にアーカイブされるか、または構成に基づいて削除されま

す。アダプターは、イベントをアーカイブするか削除する必要があります。そうしないと、イベントは再びポーリングされます。

Inbound イベント処理は、次のステップで構成されます。

1. FTP サーバーが、ファイルのフォーマットでイベントを生成します。
2. Adapter for FTP が、イベント・ディレクトリーをポーリングします。
3. ファイルがアダプターにダウンロードされます。
4. `SplittingFunctionClassName` プロパティーおよび `SplitCriteria` プロパティーに基づいて、ファイルが分割されます。イベント・ファイルは数個のチャンクに分割され、それぞれのチャンクはエクスポートに対して別々に通知されます。これにより、イベント処理時のメモリー・ロードを削減します。
 - 区切り文字に基づいて分割を行う場合は、この機能を実行するクラスおよび分割基準が提供されます。
 - ファイル・サイズに基づいて分割を行う場合は、この機能を実行するクラス名が提供されます。
 - 他の基準に基づいて分割を行う場合は、専用のファイル分割クラスを提供する必要があります。
5. アダプターは、関数セクターを介して、ポーリングされた文書の場所およびファイルの取得先であるマシンのホスト名を含むデータを、エクスポートに送信します。関数セクターでは、構成済みのデータ・バインディングを呼び出して、テキスト・レコードをビジネス・オブジェクトに変換します。

FTP スクリプトを使用したファイルの処理

WebSphere Adapter for FTP は、ポーリング中にイベント・ディレクトリーからダウンロードされたファイルを処理するほかに、FTP スクリプトを使用してダウンロードされたファイルを処理するためにも使用できます。

プロパティー 79 ページの『「ファイルのダウンロード前に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティー (FTPScriptFileExecutedBeforeInbound)』および 78 ページの『「ファイルのダウンロード後に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティー (FTPScriptFileExecutedAfterInbound)』を使用して、イベント・ディレクトリーをポーリングする前または後に FTP スクリプトを実行するように指定できます。スクリプト・ファイルには、FTP サーバー上のリモート・ディレクトリーから、アダプターがインストールされているマシンのローカル・イベント・ディレクトリーにファイルをダウンロードするために `mget` や `get` などの FTP コマンドを組み込むことができます。WebSphere Adapter for FTP は、活動化仕様プロパティーで構成されたローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードされるファイルを処理し、処理済みのビジネス・オブジェクトをコンシューム側サービスに送信します。

次にスクリプトの例を示します。

```
!cd C:%FTPAdapter%\localevent
cd /ftpDir1
mget *.txt
cd /ftpDir2
get abc.xml
```

C:\%FTPAdapter%\localevent は WebSphere Adapter for FTP のローカル・イベント・ディレクトリーであり、ftpDir1 および ftpDir2 は FTP サーバーにあるディレクトリーです。アダプターはスクリプトを実行し、ファイルをローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードします。その後でアダプターはファイルを処理し、コンシューム側サービスにそれを送信します。

注:

1. このスクリプトを使用してダウンロードされたファイルは、アダプターで処理できるように、構成済みのローカル・イベント・ディレクトリーに置く必要があります。スクリプトを使用して何らかのファイルをダウンロードする前に、FTP コマンド lcd を使用して、ローカル作業ディレクトリーを localEventDirectory に変更しておく必要があります。
2. mget または get コマンドを使用してローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードされたファイルは、ダウンロード後に FTP アダプターによって FTP サーバーから削除されます。これは、次のポーリング周期中にファイルが再度ダウンロードされないようにするためです。
3. このスクリプト・ファイルは、リモート・ディレクトリーからのファイルのダウンロードのみに使用し、FTP アダプターのイベント・ディレクトリーからのダウンロードには使用しないでください。

サポートされる Inbound 操作

アダプターでは、emitFTPFile 操作をサポートしています。これは、Inbound 構成時のデフォルト操作として実行されます。

イベント・ファイル・ロック

ファイル・ロック動作は、オペレーティング・システムによって異なります。Windows® では、アダプターによってイベント・ディレクトリーからポーリングされているファイルのいずれかが、別のアプリケーションによって使用されていて、イベント・ディレクトリーへのコピー中である場合、それらのファイルをアダプターで処理することはできません。

しかし、AIX® などの UNIX® 環境には、書き込み中のファイルにアプリケーションがアクセスできないようにするファイル・ロック機構はありません。別のアプリケーションによってイベント・ディレクトリーにコピーされているファイルをアダプターから処理できるため、エラーが発生するおそれがあります。Java には、ファイルが書き込み中であるかどうかを確認するプラットフォーム固有の方法は存在しません。

この状態を発生させないためには、先にイベント・ファイルをステージング・ディレクトリーにコピーしてから、移動コマンドを使用してイベント・ディレクトリーに移動させます。UNIX スクリプトのサンプルが、アダプターの一部としていくつか用意されています。アダプター・インストーラーの Unix-script-file フォルダーから、CheckIfFileIsOpen.sh というスクリプト・ファイルを入手できます。

ルール・ベースのイベントのフィルター処理

アダプターでは、Inbound 処理についてオプションのルール・ベースのイベント・フィルター処理をサポートしています。イベントのフィルター処理は、複数のルー

ルに基づいて実行できます。こうしたルールを組み合わせて定義し、ブール論理でそれらをグループ化し、以下のメタデータを使用してイベントをフィルター処理することができます。

- FileName
- File Size
- Last Modified

例えば、「*FileName* "MatchesFilePattern" *.txt」の形を使用できます。*FileName* はプロパティ・タイプ、「MatchesFilePattern」は演算子、「*.txt」が値です。

ルールの使用はオプションで、イベント・ファイル・マスクの指定は必須ですが、ルールとイベント・ファイル・マスクの両方が指定された場合は、イベント・ファイル・マスクよりもルールの方が優先順位は上になります。イベント・ファイル・マスクが有効になるのは、ルールが指定されていない場合に限られます。デフォルトでは、イベント・ファイル・マスクには、デフォルト値として、「*.*」が設定されます。

ルール・ベースのフィルター処理では、複数ルール間の論理「OR」演算子値はサポートされません。

注: EIS が MVS™ プラットフォーム上にある場合、アダプターではルール・ベースのフィルター処理をサポートしません。

表 30. メタデータのフィルター・プロパティ

プロパティ	有効な演算子	値	前提条件
FileName	Matches_File_Pattern	例: *.txt	なし
	Matches_RegExp	Java 正規表現	
FileSize	Greater than (より大か等しい)、Less than (より小)、Greater than or equal to (より大か等しい)、Less than or equal to (より小か等しい)、Equal to (等しい)、Not equal to (等しくない)。	バイト単位の数値。例: 10000	なし
LastModified	Greater than (より大か等しい)、Less than (より小)、Greater than or equal to (より大か等しい)、Less than or equal to (より小か等しい)、Equal to (等しい)、Not equal to (等しくない)。 注: 曜日を選択する際には、「Equal to」演算子を選択します。	曜日または時刻。例: MONDAY または 20:41:10	なし
END-OF-RULE	END-OF-RULE	END-OF-RULE	なし

ユーザーのホーム・ディレクトリーでの Inbound および Outbound 操作

Inbound および Outbound 操作を行うように、ホーム・ディレクトリーを構成することができます。出力ディレクトリー・プロパティーおよびイベント・ディレクトリー・プロパティーには、デフォルト値 <Home_Dir> が含まれています。この値を指定した場合、アダプターはユーザーのホーム・ディレクトリーで操作を実行します。絶対パスを指定して、独自のディレクトリーを提供することもできます。

Inbound 処理

Adapter for FTP では、イベントの Inbound 処理をサポートしています。アダプターは、イベントに対して指定された間隔で、FTP サーバーに関連付けられたファイル・システムをポーリングします。ファイルがイベント・ディレクトリーに作成されるたびに、アダプターはこれをイベントとして追跡します。アダプターは、イベントを検出すると、ファイルのコピーを要求し、ファイル・データをビジネス・オブジェクトに変換して、利用するサービスに送信します。

以下の図は、WebSphere Adapter for FTP の Inbound 処理フローを示しています。

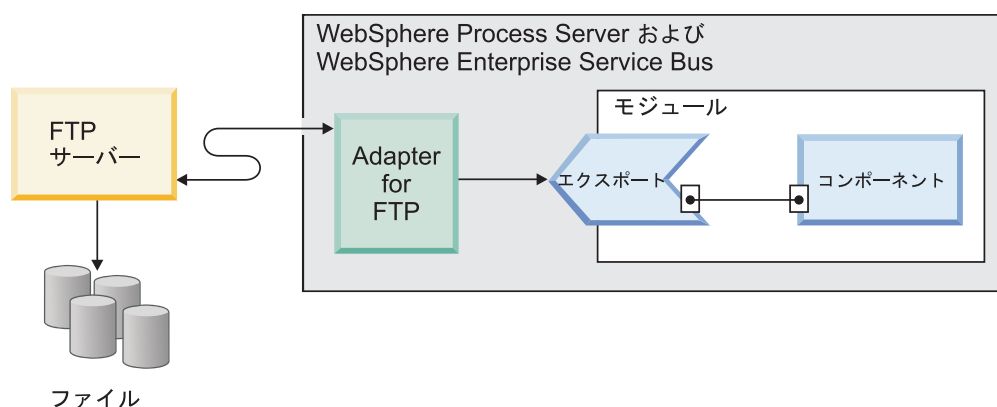


図5. Inbound 処理フロー

アダプターは、FTPPollFrequency プロパティーに基づいて定期的に、FTP サーバーのイベント・ディレクトリーのファイルをポーリングします。ファイルがイベント・ディレクトリーに到達すると、アダプターは、ファイル全体を読み取って、このファイルをアダプター・ワークステーション上のローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードします。アダプターは、ファイルを一度に 1 つずつ順番に FTP サーバーからダウンロードします。すべてのファイルを同時にダウンロードすることはできません。ファイルがダウンロードされた後、アダプターは、FTPArchiveDirectory プロパティーで指定された FTP サーバーのアーカイブ・ディレクトリーにファイルをアーカイブするか、またはユーザー構成に基づいてファイルを削除します。イベント・ディレクトリー、アーカイブ・ディレクトリー、ポーリング頻度、およびポーリング数量 (1 回のポーリング周期でポーリングするファイルの数) は、すべて構成可能なプロパティーです。

注: リモート・ディレクトリーの値が <HOME_DIR> に設定されている場合、アダプターは、ユーザーのホーム・ディレクトリー内のイベント・ファイルをポーリングします。

注: イベント・ディレクトリー・プロパティーの値は、ディレクトリーの絶対パスと相対パスの両方を受け入れます。値がスラッシュ (/) で始まらない場合、アダプターは、パスがユーザーのホーム・ディレクトリーを基準とする相対パスであると見なします。

例えば、リモート・ディレクトリー・プロパティーの値が「ftpuser/event」に設定されている場合、アダプターは、その値がユーザーのホーム・ディレクトリーを基準とする相対パスであると見なします。ホーム・ディレクトリーが「/usr/ftp」に設定されている場合、アダプターはイベント・ファイル用にディレクトリー「/usr/ftp/ftpuser/event」をポーリングします。

ビジネス・オブジェクトが正常にエクスポートに通知された後、ローカル・ステージング・ディレクトリーのイベントは、ローカル・ファイル・システム上のアーカイブ・ディレクトリー内にアーカイブされるか、または構成に基づいて削除されます。アダプターは、イベントをアーカイブするか削除する必要があります。そうしないと、イベントは再びポーリングされます。

Inbound イベント処理は、次のステップで構成されます。

1. FTP サーバーが、ファイルのフォーマットでイベントを生成します。
2. Adapter for FTP が、イベント・ディレクトリーをポーリングします。
3. ファイルがアダプターにダウンロードされます。
4. SplittingFunctionClassName プロパティーおよび SplitCriteria プロパティーに基づいて、ファイルが分割されます。イベント・ファイルは数個のチャンクに分割され、それぞれのチャンクはエクスポートに対して別々に通知されます。これにより、イベント処理時のメモリー・ロードを削減します。
 - 区切り文字に基づいて分割を行う場合は、この機能を実行するクラスおよび分割基準が提供されます。
 - ファイル・サイズに基づいて分割を行う場合は、この機能を実行するクラス名が提供されます。
 - 他の基準に基づいて分割を行う場合は、専用のファイル分割クラスを提供する必要があります。
5. アダプターは、関数セクターを介して、ポーリングされた文書の場所およびファイルの取得先であるマシンのホスト名を含むデータを、エクスポートに送信します。関数セクターでは、構成済みのデータ・バインディングを呼び出して、テキスト・レコードをビジネス・オブジェクトに変換します。

FTP スクリプトを使用したファイルの処理

WebSphere Adapter for FTP は、ポーリング中にイベント・ディレクトリーからダウンロードされたファイルを処理するほかに、FTP スクリプトを使用してダウンロードされたファイルを処理するためにも使用できます。

プロパティー 79 ページの『「ファイルのダウンロード前に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティー (FTPScriptFileExecutedBeforeInbound)』 および 78 ページの『「ファイルのダウンロード後に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティー (FTPScriptFileExecutedAfterInbound)』 を使用して、イベント・ディレクトリーをポーリングする前または後に FTP スクリプトを実行するように指定できます。スクリプト・ファイルには、FTP サーバー上のリモート・ディレクトリーか

ら、アダプターがインストールされているマシンのローカル・イベント・ディレクトリーにファイルをダウンロードするために `mget` や `get` などの FTP コマンドを組み込むことができます。WebSphere Adapter for FTP は、活動化仕様プロパティーで構成されたローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードされるファイルを処理し、処理済みのビジネス・オブジェクトをコンシューム側サービスに送信します。

次にスクリプトの例を示します。

```
lcd C:%FTPAdapter%localevent
cd /ftpDir1
mget *.txt
cd /ftpDir2
get abc.xml
```

`C:%FTPAdapter%localevent` は WebSphere Adapter for FTP のローカル・イベント・ディレクトリーであり、`ftpDir1` および `ftpDir2` は FTP サーバーにあるディレクトリーです。アダプターはスクリプトを実行し、ファイルをローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードします。その後でアダプターはファイルを処理し、コンシューム側サービスにそれを送信します。

注:

1. このスクリプトを使用してダウンロードされたファイルは、アダプターで処理できるように、構成済みのローカル・イベント・ディレクトリーに置く必要があります。スクリプトを使用して何らかのファイルをダウンロードする前に、FTP コマンド `lcd` を使用して、ローカル作業ディレクトリーを `localEventDirectory` に変更しておく必要があります。
2. `mget` または `get` コマンドを使用してローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードされたファイルは、ダウンロード後に FTP アダプターによって FTP サーバーから削除されます。これは、次のポーリング周期中にファイルが再度ダウンロードされないようにするためです。
3. このスクリプト・ファイルは、リモート・ディレクトリーからのファイルのダウンロードのみに使用し、FTP アダプターのイベント・ディレクトリーからのダウンロードには使用しないでください。

サポートされる Inbound 操作

アダプターでは、`emitFTPFile` 操作をサポートしています。これは、Inbound 構成時のデフォルト操作として実行されます。

イベント・ファイル・ロック

ファイル・ロック動作は、オペレーティング・システムによって異なります。Windows では、アダプターによってイベント・ディレクトリーからポーリングされているファイルのいずれかが、別のアプリケーションによって使用されていて、イベント・ディレクトリーへのコピー中である場合、それらのファイルをアダプターで処理することはできません。

しかし、AIX などの UNIX 環境には、書き込み中のファイルにアプリケーションがアクセスできないようにするファイル・ロック機構はありません。別のアプリケーションによってイベント・ディレクトリーにコピーされているファイルをアダプタ

一から処理できるため、エラーが発生するおそれがあります。Java には、ファイルが書き込み中であるかどうかを確認するプラットフォーム固有の方法は存在しません。

この状態を発生させないためには、先にイベント・ファイルをステージング・ディレクトリーにコピーしてから、移動コマンドを使用してイベント・ディレクトリーに移動させます。UNIX スクリプトのサンプルが、アダプターの一部としていくつか用意されています。アダプター・インストーラーの `Unix-script-file` フォルダーから、`CheckIfFileIsOpen.sh` というスクリプト・ファイルを入手できます。

ルール・ベースのイベントのフィルター処理

アダプターでは、Inbound 処理についてオプションのルール・ベースのイベント・フィルター処理をサポートしています。イベントのフィルター処理は、複数のルールに基づいて実行できます。こうしたルールを組み合わせで定義し、ブール論理でそれらをグループ化し、以下のメタデータを使用してイベントをフィルター処理することができます。

- `FileName`
- `File Size`
- `Last Modified`

例えば、「`FileName "MatchesFilePattern" *.txt`」の形を使用できます。`FileName` はプロパティー・タイプ、「`MatchesFilePattern`」は演算子、「`*.txt`」が値です。

ルールの使用はオプションで、イベント・ファイル・マスクの指定は必須ですが、ルールとイベント・ファイル・マスクの両方が指定された場合は、イベント・ファイル・マスクよりもルールの方が優先順位は上になります。イベント・ファイル・マスクが有効になるのは、ルールが指定されていない場合に限られます。デフォルトでは、イベント・ファイル・マスクには、デフォルト値として、「`*.*`」が設定されます。

ルール・ベースのフィルター処理では、複数ルール間の論理「OR」演算子値はサポートされません。

注: EIS が MVS プラットフォーム上にある場合、アダプターではルール・ベースのフィルター処理をサポートしません。

表 31. メタデータのフィルター・プロパティー

プロパティー	有効な演算子	値	前提条件
FileName	Matches_File_Pattern	例: *.txt	なし
	Matches_RegExp	Java 正規表現	
FileSize	Greater than (より大か等しい)、Less than (より小)、Greater than or equal to (より大か等しい)、Less than or equal to (より小か等しい)、Equal to (等しい)、Not equal to (等しくない)。	バイト単位の数値。例: 10000	なし

表 31. メタデータのフィルター・プロパティ (続き)

プロパティ	有効な演算子	値	前提条件
LastModified	Greater than (より大か等しい)、Less than (より小)、Greater than or equal to (より大か等しい)、Less than or equal to (より小か等しい)、Equal to (等しい)、Not equal to (等しくない)。 注: 曜日を選択する際には、「Equal to」演算子を選択します。	曜日または時刻。例: MONDAY または 20:41:10	なし
END-OF-RULE	END-OF-RULE	END-OF-RULE	なし

デプロイメント・プロパティおよびランタイム・プロパティの設定

外部サービス・ウィザードが FTP サーバーの接続に使用するデプロイメント・プロパティとランタイム・プロパティを指定します。

始める前に

このセクションでプロパティを設定するには、事前にアダプター・モジュールを作成しておく必要があります。これは、WebSphere Integration Developer のアダプター・プロジェクトの下に表示されています。

このタスクについて

デプロイメントおよびランタイム・プロパティを設定するには、以下の手順に従って操作してください。このトピックのプロパティについては、トピック 167 ページの『管理 (J2C) 接続ファクトリー・プロパティ』を参照してください。

手順

1. 「処理方向」ウィンドウで「**Outbound**」を選択し、「次へ」をクリックします。
2. 「コネクタ・プロジェクトのデプロイ」フィールドで、モジュールにアダプター・ファイルを組み込むかどうかを指定します。次のいずれかのオプションを選択します。
 - 「単一アプリケーションが使用するモジュールで (With module for use by single application)」

アダプター・ファイルをモジュール内に組み込むと、モジュールをすべてのアプリケーション・サーバーにデプロイすることができます。単一のモジュールによってアダプターを使用する場合、または複数のモジュールを使ってさまざまなバージョンのアダプターを実行する必要がある場合には、組み込みアダプターを使用します。組み込みアダプターを使用すると、単一のモジュールのアダプターのみをアップグレードすることができるため、その他のモジュールのアダプター・バージョンが変更されて動作が不安定になることはありません。

- 「複数アプリケーションが使用するサーバー上 (On server for use by multiple applications)」

モジュール内にアダプター・ファイルを組み込まない場合は、このモジュールを実行させるアプリケーション・サーバーごとに、アダプター・ファイルをスタンドアロン・アダプターとしてインストールする必要があります。複数のモジュールで同じバージョンのアダプターを使用できる場合に、中央の場所でアダプターを管理するには、スタンドアロン・アダプターを使用します。スタンドアロン・アダプターの場合も、複数のモジュールに対して単一のアダプター・インスタンスを実行することにより、必要なリソースが軽減されます。

3. ご使用のモジュールについて、以下の FTP システム接続情報を定義します。詳しくは、トピック 167 ページの『管理 (J2C) 接続ファクトリー・プロパティー』を参照してください。

- 「ホスト名」 - FTP サーバーのホスト名を指定。
- 「ディレクトリー」 - FTP サーバー上の出力ディレクトリーを指定。ディレクトリーフィールドの値が <HOME_DIR> に設定されている場合、アダプターは、ユーザーのホーム・ディレクトリー内で Outbound 操作を実行します。
- 「プロトコル」 - FTP サーバーへの接続に使用するプロトコルを指定します。以下のプロトコルも指定することができます。
 - FTP - ファイル転送プロトコル
 - FTP over SSL - Secure Sockets Layer を介したファイル転送プロトコル
 - FTP over TLS - トランスポート層セキュリティーを介したファイル転送プロトコル
 - SFTP - SSH File Transfer Protocol
- 「ポート番号」 - FTP サーバーのポート番号を指定。

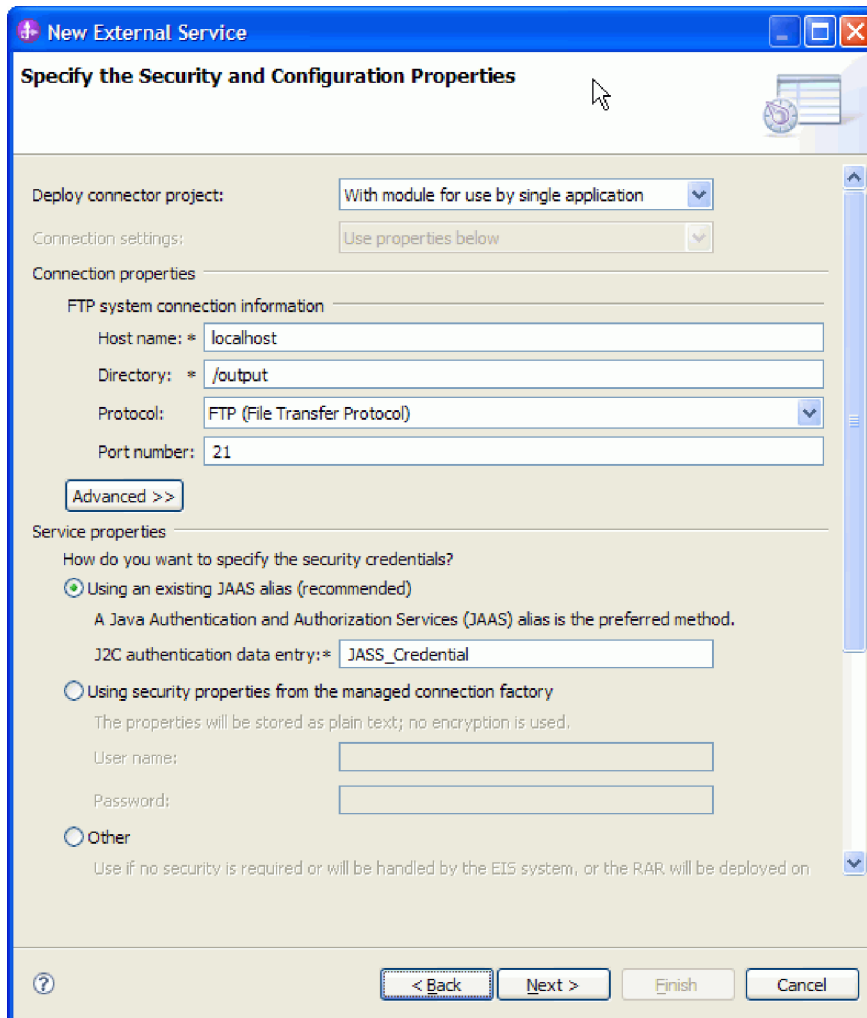


図 6. 「セキュリティーおよび構成プロパティーの指定」ウィンドウ

4. 「**拡張**」をクリックして、追加プロパティー、サービス・プロパティー、データ・フォーマット・オプションのほか、2 次 FTP サーバーの処理、BiDi フォーマットの設定、ステーキング・ディレクトリー、ロギングとトレース、セキュア接続、およびシーケンス・ファイルの選択を制御するプロパティーを指定します。詳しくは、トピック 167 ページの『管理 (J2C) 接続ファクトリー・プロパティー』を参照してください。
5. 以下のように、「**サービス・プロパティー**」エリアに、必要なセキュリティー資格情報を指定します。
 - J2C 認証別名を使用するには、「**既存の JAAS 別名を使用する (推奨)**」フィールドを選択し、「**J2C 認証データ入力**」フィールドに別名の名前を指定します。モジュールをデプロイする前であればいつでも、既存の認証別名を指定するか新しく認証別名を作成することができます。この名前は大/小文字を区別します。またこの名前にはノード名が含まれます。
 - 管理接続プロパティーを使用するには、「**管理接続ファクトリーのセキュリティー・プロパティーを使用 (Using security properties from managed connection factory)**」フィールドを選択し、「**ユーザー名**」フィールドと「**パスワード**」フィールドに値を入力します。

- 「**ユーザー名**」 - FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーの名前を指定します。詳しくは、93 ページの『「ユーザー名」プロパティ (UserName)』を参照してください。
 - 「**パスワード**」 - FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーのパスワードを指定します。詳しくは、81 ページの『「パスワード」プロパティ (Password)』を参照してください。
 - 他の機構からのユーザー名とパスワードを管理する場合は、「**その他**」を選択します。
6. アダプターのインスタンスが複数ある場合、「**ロギングおよびトレース**」を展開し、**アダプター ID** に、このインスタンスに固有の値を設定します。このプロパティについて詳しくは、http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/rbp_ftp_resource_adapter_props.htmlを参照してください。
 7. オプション: ウィンドウの「サービス・プロパティ」セクションで、アダプターの実行時に使用する Java Authentication and Authorization Service (JAAS) 別名を指定します。これは、FTP サーバー上にセットアップする認証別名です。名前は大文字小文字が区別されます。詳しくは、『認証別名の作成』を参照してください。
 8. 「**データ・フォーマット・オプション**」フィールドで、以下のいずれかを選択します。
 - **すべての操作にデフォルトのデータ・バインディング 'FTPFileBaseDataBinding' を使用**
 サービスで使用されるすべての操作に関して、構成されていないデータ・バインディングを使用します。
 - **すべての操作にデータ・バインディング構成を使用**
 サービスで使用されるすべての操作に関して、構成済みのデータ・バインディングを使用します。
 - **操作ごとにデータ・バインディングを指定**
 デフォルトのバインディングは指定されません。サービスで使用される操作ごとに、特定のデータ・バインディングを選択できます。
 9. オプション: ログ・ファイル出力の場所を指定したり、このモジュールのロギング・レベルを定義したりする場合は、「**ウィザードのロギング・プロパティを変更します**」チェック・ボックスを選択します。ロギング・レベルについての情報は、『トラブルシューティングおよびサポート』トピックの『ロギング・プロパティの構成』セクションを参照してください。

タスクの結果

外部サービス・ウィザードは、FTP サーバーへの接続に必要な情報を保有します。

次のタスク

「**データ・フォーマット・オプション**」で「**すべての操作にデフォルトのデータ・バインディング 'FTPFileBaseDataBinding' を使用**」または「**操作ごとにデータ・バインディングを指定**」のいずれかを選択した場合は、「**次へ**」をクリックして、ウィ

ガードでの作業を続行し、モジュールのデータ・タイプを選択してそのデータ・タイプに関連付けられる操作に名前を付けます。

「データ・フォーマット・オプション」で「すべての操作にデータ・バインディング構成を使用」を選択した場合は、『データ・バインディングおよびデータ・ハンドラーの構成』に進んでください。

対話仕様プロパティの設定およびサービスの生成

対話仕様プロパティは、オプションです。設定すると、指定した値が、外部サービス・ウィザードによって生成されるすべての親 FTP ビジネス・オブジェクトのデフォルトとして表示されます。対話仕様プロパティは、操作の対話を制御します。アダプターは、モジュールの成果物を作成するときにインポート・ファイルを生成します。インポート・ファイルには、トップレベル・ビジネス・オブジェクトの操作が含まれます。

このタスクについて

対話仕様プロパティを設定して成果物を生成するには、以下の手順を実行します。詳しくは、『Wrapper および対話仕様プロパティ』のトピックを参照してください。

手順

1. オプション: 対話仕様プロパティを設定するには、「操作」ウィンドウにフィールドを取り込みます。「**拡張**」をクリックして、追加のプロパティ詳細を追加することもできます。
 - a. デフォルトとして設定するフィールドすべてに、値を入力します。
 - b. 「**次へ**」をクリックします。

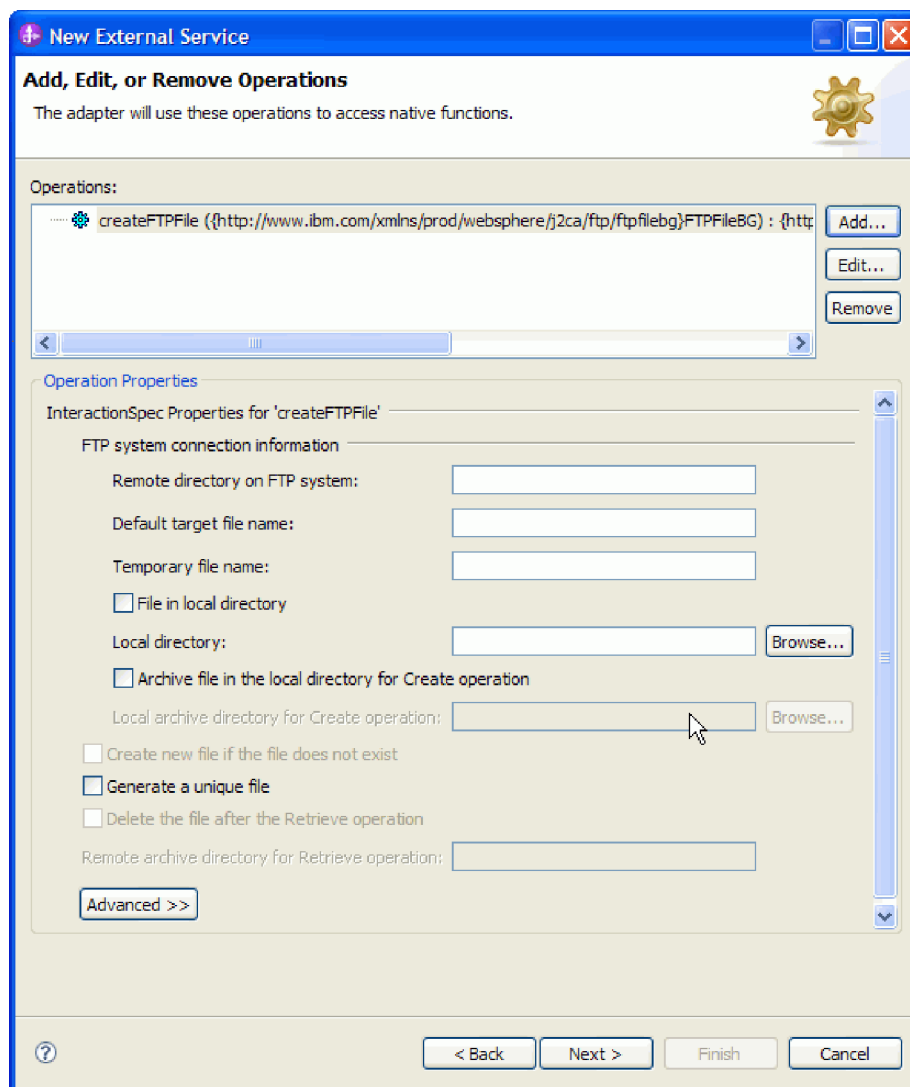


図7. 対話仕様プロパティ

2. 「サービスの生成」ウィンドウで、インターフェースの名前を指定します。これは、WebSphere Integration Developer アセンブリー・ダイアグラムに表示される名前です。

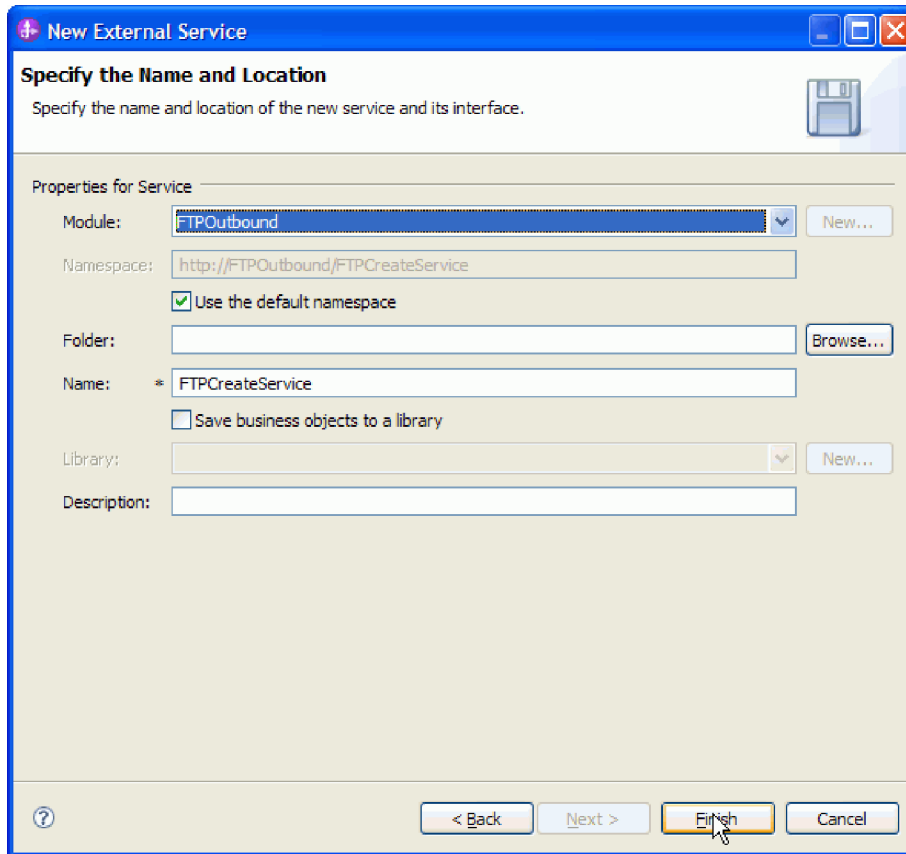


図8. 「名前およびロケーションの指定」ウィンドウ

3. 「終了」をクリックします。 WebSphere Integration Developer アセンブリー・ダイアグラムが開き、作成したインターフェースが表示されます。

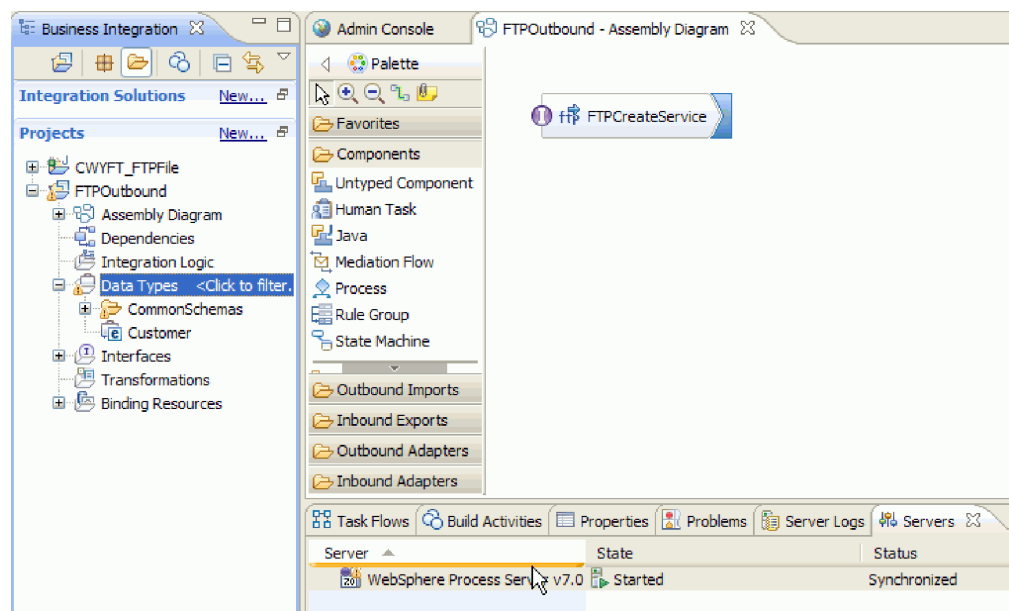


図9. WebSphere Integration Developer のインターフェース

4. オプション: 上記の手順を繰り返して、バインディング、データ・ハンドラー、対話仕様などの、必要な操作をすべて追加します。

タスクの結果

WebSphere Integration Developer によって、成果物およびインポートが生成されます。作成された Outbound の成果物は、WebSphere Integration Developer Project Explorer 内のモジュールの下に表示されます。

次のタスク

モジュールをサーバーにデプロイします。

デプロイメント・プロパティおよびランタイム・プロパティの設定

外部サービス・ウィザードが FTP サーバーの接続に使用するデプロイメント・プロパティとランタイム・プロパティを指定します。

始める前に

このセクションでプロパティを設定するには、事前にアダプター・モジュールを作成する必要があります。これは、WebSphere Integration Developer のアダプター・プロジェクトの下に表示されています。

このタスクについて

デプロイメントおよびランタイム・プロパティを設定するには、以下の手順に従って操作してください。このトピックのプロパティについて詳しくは、トピック 63 ページの『活動化仕様プロパティ』を参照してください。

手順

1. 「処理方向」ウィンドウで「**Inbound**」を選択し、「次へ」をクリックします。
2. 「コネクタ・プロジェクトのデプロイ」フィールドで、モジュールにアダプター・ファイルを組み込むかどうかを指定します。次のいずれかのオプションを選択します。

- 「**単一アプリケーションが使用するモジュールで (With module for use by single application)**」

アダプター・ファイルをモジュール内に組み込むと、モジュールをすべてのアプリケーション・サーバーにデプロイすることができます。単一のモジュールによってアダプターを使用する場合、または複数のモジュールを使ってさまざまなバージョンのアダプターを実行する必要がある場合には、組み込みアダプターを使用します。組み込みアダプターを使用すると、単一のモジュールのアダプターのみをアップグレードすることができるため、その他のモジュールのアダプター・バージョンが変更されて動作が不安定になることはありません。

- 「**複数アプリケーションが使用するサーバー上 (On server for use by multiple applications)**」

モジュール内にアダプター・ファイルを組み込まない場合は、このモジュールを実行させるアプリケーション・サーバーごとに、アダプター・ファイルをス

スタンドアロン・アダプターとしてインストールする必要があります。複数のモジュールで同じバージョンのアダプターを使用できる場合に、中央の場所でアダプターを管理するには、スタンドアロン・アダプターを使用します。スタンドアロン・アダプターの場合も、複数のモジュールに対して単一のアダプター・インスタンスを実行することにより、必要なリソースが軽減されます。

3. ご使用のモジュールについて、以下の FTP システム接続情報を定義します。詳しくは、トピック 63 ページの『活動化仕様プロパティ』を参照してください。

- 「**ホスト名**」 - FTP サーバーのホスト名を指定。
- 「**リモート・ディレクトリー**」 - アダプターがポーリングしてファイルを取り出す先となる、FTP サーバー上のディレクトリーを指定。リモート・ディレクトリーが <HOME_DIR> に設定されている場合、アダプターは、ホーム・ディレクトリー内のイベント・ファイルをポーリングします。
- 「**ローカル・ディレクトリー**」 - イベント・ファイルを FTP サーバーからダウンロードする先となる、アダプター・ワークステーション上のディレクトリーを指定。
- 「**プロトコル**」 - FTP サーバーへの接続に使用するプロトコルを指定します。以下のプロトコルも指定することができます。
 - FTP - ファイル転送プロトコル
 - FTP over SSL - Secure Sockets Layer を介したファイル転送プロトコル
 - FTP over TLS - トランスポート層セキュリティを介したファイル転送プロトコル
 - SFTP - SSH File Transfer Protocol
- 「**ポート番号**」 - FTP サーバーのポート番号を指定。

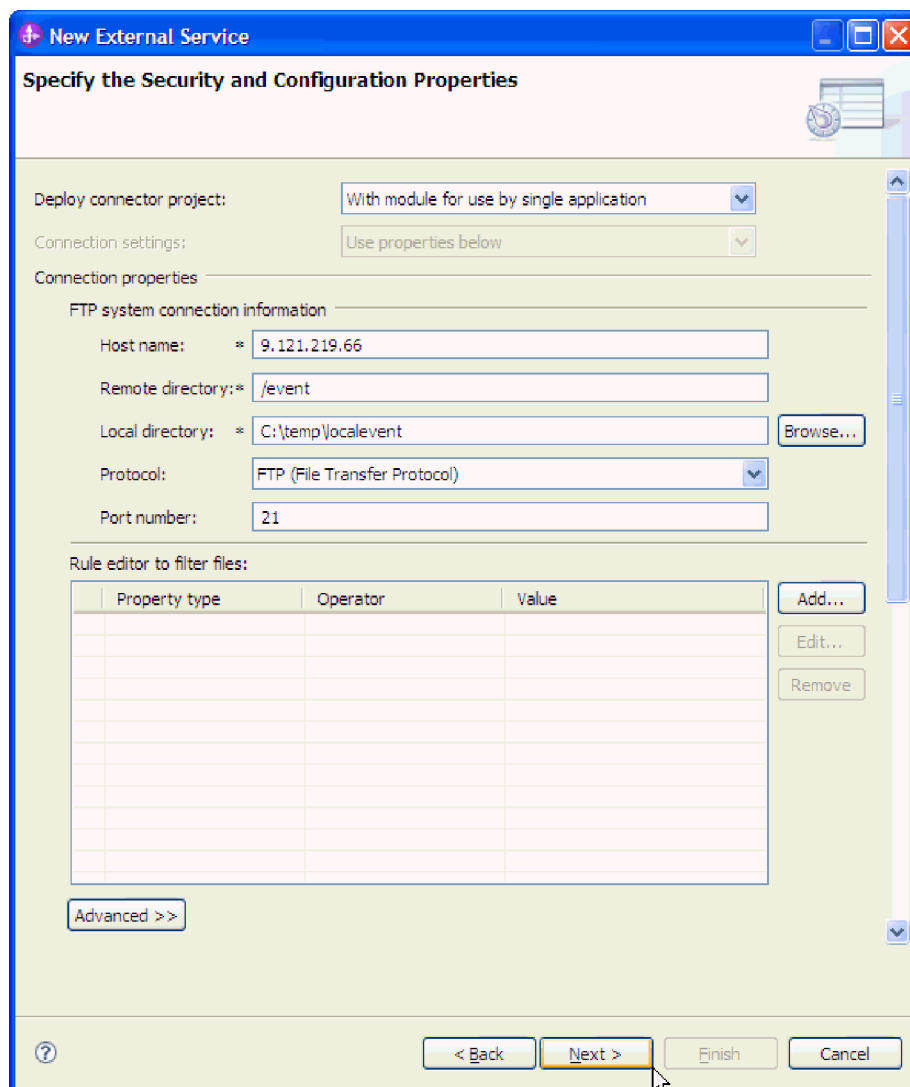


図 10. 「セキュリティおよび構成プロパティの指定」ウィンドウ

4. ルールを構成して Inbound イベント・ファイルをフィルター処理するには、「ルール・エディター」テーブルで、「追加」または「編集」をクリックします。ルールは、「プロパティ・タイプ」、「演算子」、および「値」という名前の 3 つのパラメーターで構成されます。

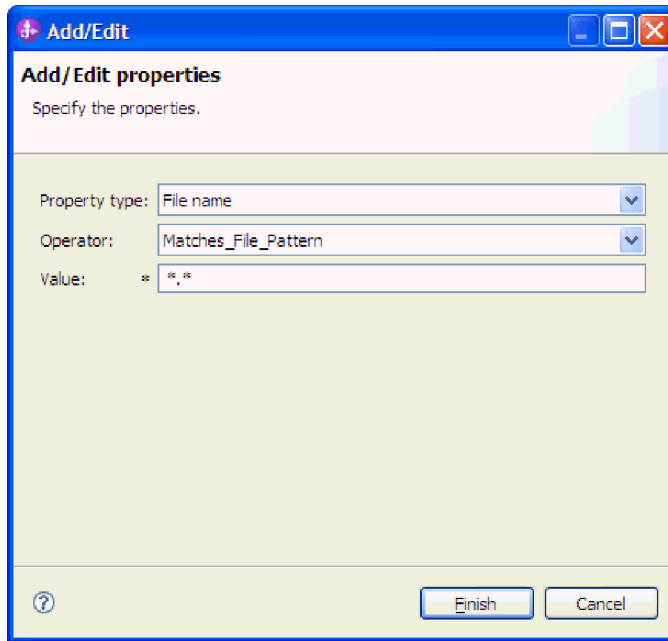


図 11. ルールの追加または編集

- a. 「プロパティ・タイプ」リストから、以下の任意のメタデータのフィルター・プロパティ・タイプを選択します。
 - FileName
 - FileSize
 - LastModified
- b. 「演算子」リストから、プロパティ・タイプに使用する演算子を選択します。各プロパティ・タイプ・メタデータごとに独自の演算子があります。
 - 1) FileName には以下の演算子があります。
 - Matches_File_Pattern (パターンに一致)
 - Matches_RegExp (正規表現に一致)
 - 2) FileSize メタデータには、以下の演算子があります。
 - Greater than
 - Less than
 - Greater than or equal to
 - Less than or equal to
 - Equal to
 - Not equal to
 - 3) LastModified メタデータには、以下の演算子があります。
 - Greater than
 - Less than
 - Greater than or equal to
 - Less than or equal to
 - Equal to
 - Not equal to

- c. イベント・ファイルをフィルター処理するための値を、「値」列に入力します。Matches_RegExp 演算子の値には、有効な Java 正規表現を入力する必要があります。

複数のルールを構成する場合は、「プロパティ・タイプ」リストの各ルールに対して「END-OF-RULE」オプションを選択してください。

注: ルールは、プロパティ・フィールドで「END-OF-RULE」が選択されている場合を除き、論理 OR 演算子を使用してグループ化されます。式 (単一のルール、または OR 演算子によってグループ化された複数のルールを式にできます) の間で「END-OF-RULE」が選択されている場合は、論理 AND 演算子を使用してグループ化されます。例えば、ルール A (FileName) とルール B (FileSize) を論理 OR 演算子を使用してグループ化し、「END-OF-RULE」オプションを選択した場合、この式は、AND 演算子を使用して別のルール C (LastModified) とグループ化されます。これは、((A) OR (B)) AND (C) のように表すことができます。

詳しくは、94 ページの『ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター』を参照してください。

5. オプション: 「拡張」をクリックして拡張プロパティを指定します。拡張セクションをそれぞれ展開して、プロパティを確認します。

- イベント・ポーリング構成
- イベント送達構成
- イベント・パーシスタンス構成
- 追加構成
- FTP アーカイブ構成
- Socks プロキシ・サーバー接続情報
- セキュア構成
- BiDi プロパティ
- ロギングおよびトレースのプロパティ

次のセクションでは、これらの拡張プロパティ・グループで使用可能なオプションについて説明しています。

- イベント・ポーリング構成
 - a. 「ポーリング期間の間隔」フィールドに、アダプターがポーリング期間から次のポーリング期間まで待機する時間 (ミリ秒) を指定します。詳しくは、82 ページの『ポーリング期間の間隔 (ポーリング間隔)』を参照してください。
 - b. 「ポーリング期間内の最大イベント数」フィールドに、各ポーリング期間にアダプターが送達する必要のあるイベント数を指定します。詳しくは、82 ページの『ポーリング期間内の最大イベント数 (ポーリング数量)』を参照してください。
 - c. 「接続が失敗した場合の再試行間隔」フィールドに、ポーリング中に接続が失敗してから接続を再試行するまでのアダプターの待機時間 (ミリ秒) を指定します。詳しくは、88 ページの『接続が失敗した場合の再試行間隔 (RetryInterval)』を参照してください。

- d. 「システム接続を再試行する回数」フィールドに、接続を再試行する回数を入力します。再試行がこの回数を超えると、ポーリング・エラーが報告されます。詳しくは、88 ページの『システム接続を再試行する回数 (RetryLimit)』を参照してください。
 - e. ポーリング・エラーが発生したらアダプターを停止するにしたい場合は、「ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する」を選択します。このオプションを選択しない場合、アダプターは例外をログに記録しますが、稼働し続けます。詳しくは、93 ページの『ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する (StopPollingOnError)』を参照してください。
 - f. 開始時に、アダプターが、失敗した接続を再試行するようにする場合は、「開始時に EIS 接続を再試行する」を選択します。詳しくは、87 ページの『開始時に EIS 接続を再試行する (RetryConnectionOnStartup)』を参照してください。
 - g. 「未変更ファイルのポーリング時間間隔 (Time interval for polling unchanged files)」フィールドで、ポーリングの前に内容が更新されているかどうかを調べるために、アダプターがファイルをモニターする必要のある時間間隔を指定します。アダプターは、指定された時間間隔内に変更されなかったファイルをポーリングします。詳しくは、76 ページの『未変更ファイルのポーリング時間間隔 (fileUnchangedTimeInterval)』を参照してください。
- イベント送達構成
 - a. 「送達のタイプ」フィールドで、送達方法を選択します。この方式については、71 ページの『送達タイプ (DeliveryType)』で説明します。
 - b. イベントの送達は一回のみで、かつ 1 つのエクスポートにのみ送達されるようにする場合は、「送達は 1 回のみ」を選択します。このオプションはパフォーマンスを低下させる可能性があります。イベント送達が重複したり欠落したりすることはありません。詳しくは、68 ページの『イベントを一度のみ送達する (AssuredOnceDelivery)』を参照してください。
 - c. 「失敗したイベントの再試行制限」フィールドに、アダプターがイベントに失敗としてマークを付けるまでにイベントの再送達の試行を行う回数を指定します。詳しくは、78 ページの『失敗したイベントの再試行制限 (FailedEventRetryLimit)』を参照してください。
 - イベント・パーシスタンス構成
 - a. アダプターがイベント・パーシスタンス・テーブルを作成するようにする場合は、「自動作成イベント・テーブル」を選択します。詳しくは、69 ページの『「自動作成イベント・テーブル」プロパティ (EP_CreateTable)』を参照してください。
 - b. 「イベント・リカバリー・テーブル名」フィールドに、アダプターがイベント・パーシスタンスに使用するテーブルの名前を指定します。詳しくは、72 ページの『「イベント・リカバリー・テーブル名」プロパティ (EP_EventTableName)』を参照してください。
 - c. 「イベント・リカバリー DataSource (JNDI) 名」フィールドに、イベント・パーシスタンスが JDBC データベースへ接続するために使用するデータ・ソースの JNDI 名を指定します。詳しくは、72 ページの『「イベン

ト・リカバリー DataSource (JNDI) 名」プロパティー (EP_DataSource_JNDIName)』を参照してください。

- d. 「イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名」フィールドに、イベント・パーシスタンスがデータ・ソースからデータベースへ接続するために使用するユーザー名を指定します。詳しくは、94 ページの『「イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名」プロパティー (EP_UserName)』を参照してください。
 - e. 「イベント DataSource に接続するのに使用されるパスワード」フィールドに、イベント・パーシスタンスがデータ・ソースからデータベースへ接続するために使用するパスワードを指定します。詳しくは、82 ページの『「イベント DataSource に接続するのに使用されるパスワード」プロパティー (EP_Password)』を参照してください。
 - f. 「データベース・スキーマ名」フィールドに、イベント・パーシスタンスで使用されるデータベースのスキーマ名を指定します。詳しくは、70 ページの『「データベース・スキーマ名」プロパティー (EP_SchemaName)』を参照してください。
- **追加構成**
- a. 「このパターンを持つファイルの取得」フィールドに、イベント・ファイルのフィルターを指定します。詳しくは、86 ページの『「このパターンを持つファイルの取得」プロパティー (EventFileMask)』を参照してください。
 - b. 「ソート・イベント・ファイル」フィールドに、ポーリングされるイベント・ファイルのソート順を指定します。詳しくは、90 ページの『「ソート・イベント・ファイル」プロパティー (SortEventFiles)』を参照してください。
 - c. 「リモート検証を有効にする」チェック・ボックスを選択して、リモート検証を使用可能に設定します。このプロパティーでは、制御とデータ接続が同じホスト (通常は FTP サーバーへの接続の確立元であるマシン) で確立されたかどうかを検査します。制御とデータ接続が確立されていなければ、接続は失敗します。デフォルトでは、「リモート検証を有効にする」チェック・ボックスは選択されています。

注: このプロパティーは、FTP プロトコルおよび FTPS プロトコルのみに適用可能です。

詳しくは、86 ページの『リモート検証有効プロパティー (enableRemoteVerification)』を参照してください。

- d. 「FTP サーバーで使用されるエンコード」フィールドに、FTP サーバーのエンコードを指定します。詳しくは、71 ページの『「FTP サーバーで使用されるエンコード」プロパティー (EISEncoding)』を参照してください。
- e. 「ファイル内容のエンコード」フィールドに、イベント・ファイルの読み取りに使用するエンコードを指定します。詳しくは、73 ページの『「ファイル内容のエンコード」プロパティー (FileContentEncoding)』を参照してください。

- f. 「**FTP サーバー接続モード**」フィールドに、ファイル転送の間に FTP サーバーが使用するデータ接続モードを指定します。詳しくは、72 ページの『「**FTP サーバー接続モード**」プロパティ (DataConnectionMode)』を参照してください。
- g. 「**ファイル転送タイプ**」フィールドに、Inbound 処理時に使用されるファイル転送タイプを指定します。詳しくは、77 ページの『「**ファイル転送タイプ**」プロパティ (FileTransferType)』を参照してください。
- h. 「**一度に取得するファイル数**」フィールドに、リモート FTP URL から取得するファイルの数を指定します。詳しくは、77 ページの『「**一度に取得するファイル数**」プロパティ (FTPGetQuantity)』を参照してください。
- i. 「**各ダウンロード間のポーリング期間の数**」フィールドに、アダプターが FTP サーバーをポーリングする頻度を指定します。詳しくは、77 ページの『「**各ダウンロード間のポーリング期間の数**」プロパティ (FTPPollFrequency)』を参照してください。
- j. 「**カスタム・パーサー・クラス名**」フィールドに、ls の出力を解析するために使用されるカスタム・パーサーの完全修飾クラス名を指定します。詳しくは、69 ページの『「**カスタム・パーサー・クラス名**」プロパティ (CustomParserClassName)』を参照してください。
- k. 「**内容ではなくファイル名およびディレクトリーのための受け渡し**」を選択して、イベント・ファイルのファイル内容をエクスポートに送信しないことを指定します。詳しくは、77 ページの『「**内容ではなくファイル名およびディレクトリーのための受け渡し**」プロパティ (FilePassByReference)』を参照してください。
- l. 後の処理用にビジネス・オブジェクトの内容と一緒に区切り文字を送信する場合は、「**ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む**」を選択します。詳しくは、79 ページの『「**ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む**」プロパティ (IncludeEndBODelimiter)』を参照してください。
- m. ファイル内容の分割にサイズ (バイト単位) または区切り文字を使用する場合は、「**サイズ (バイト単位) または区切り文字に基づくファイル内容の分割**」を選択します。詳しくは、92 ページの『「**分割関数クラス名**」プロパティ』を参照してください。
- n. 「**ファイル内容を分割するための基準の指定**」フィールドに、SplittingFunctionClassName プロパティの値に基づいて、異なる値が使用されることを指定します。詳しくは、91 ページの『「**ファイル内容を分割するための基準の指定**」プロパティ (SplitCriteria)』を参照してください。
- o. 「**関数クラス名の分割**」フィールドに、ファイル分割を有効にするために使用するクラス・ファイルの完全修飾クラス名を指定します。詳しくは、92 ページの『「**分割関数クラス名**」プロパティ』を参照してください。
- p. 「**ファイルのダウンロード前に実行する FTP スクリプト・ファイル**」フィールドに、FTP サーバーからファイルがダウンロードされる前に実行されるスクリプト・ファイルのパスを指定します。詳しくは、79 ページの『「**ファイルのダウンロード前に実行する FTP スクリプト・ファイル**」プロパティ (FTPScriptFileExecutedBeforeInbound)』を参照してください。

- q. 「ファイルのダウンロード後に実行する FTP スクリプト・ファイル」フィールドに、FTP サーバーからファイルがダウンロードされた後に実行されるスクリプト・ファイルのパスを指定します。詳しくは、78 ページの『「ファイルのダウンロード後に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedAfterInbound)』を参照してください。
- **FTP アーカイブ構成**
 - a. 「ローカル・アーカイブ・ディレクトリー」フィールドに、ローカル・アーカイブ・ディレクトリーの絶対パスを指定します。詳しくは、79 ページの『「ローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (LocalArchiveDirectory)』を参照してください。
 - b. 「ローカル・アーカイブ用のファイル拡張子」フィールドに、オリジナル・イベント・ファイルをアーカイブするために使用されるファイル拡張子を指定します。詳しくは、81 ページの『「ローカル・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティ (OriginalArchiveExt)』を参照してください。
 - c. 「ローカル・アーカイブ用の成功ファイル拡張子」フィールドに、正常に処理されたすべてのビジネス・オブジェクトをアーカイブするために使用されるファイル拡張子を指定します。詳しくは、93 ページの『「ローカル・アーカイブ用の成功ファイル拡張子」プロパティ (SuccessArchiveExt)』を参照してください。
 - d. 「ローカル・アーカイブ用の障害ファイル拡張子」フィールドに、正常に処理されなかったイベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトをアーカイブするために使用されるファイル拡張子を指定します。詳しくは、73 ページの『「ローカル・アーカイブ用の障害ファイル拡張子」プロパティ (FailedArchiveExt)』を参照してください。
 - e. 「リモート・アーカイブ・ディレクトリー」フィールドに、ディレクトリーを指定します。詳しくは、84 ページの『「リモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (FTPArchiveDirectory)』を参照してください。
 - f. 「リモート・アーカイブ用のファイル拡張子」フィールドに、アダプターがリモート FTP ファイルの名前変更に使用するファイル拡張子またはサフィックスを指定します。詳しくは、74 ページの『「リモート・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティ (FTPRenameExt)』を参照してください。
 - **Socks プロキシ・サーバー接続情報**
 - a. 「ホスト名」フィールドに、アダプターの要求を FTP サーバーに送信する際に経由するプロキシ・サーバーとして使用されるマシンのホスト名を指定します。詳しくは、89 ページの『「ホスト名」プロパティ (SocksProxyHost)』を参照してください。
 - b. 「ポート番号」フィールドに、アダプターの要求を FTP サーバーに送信する際に経由するプロキシ・サーバーのポート番号を指定します。詳しくは、90 ページの『「ポート番号」プロパティ (SocksProxyPort)』を参照してください。
 - c. 「ユーザー名」フィールドに、プロキシ・サーバーの認証のためのユーザー名を指定します。詳しくは、90 ページの『「ユーザー名」プロパティ (SocksProxyUserName)』を参照してください。

- d. 「パスワード」に、プロキシ・サーバーの認証のためのパスワードを指定します。詳しくは、90 ページの『「パスワード」プロパティ (SocksProxyPassword)』を参照してください。
- **セキュア構成**
 - a. SFTP サーバーのホスト鍵と、アダプターに既知のホスト鍵とを比較する場合は、次のようにします。
 - 1) 「**SFTP プロトコルのリモート・サーバー認証を有効にする**」チェック・ボックスを選択します。SFTP サーバーに対する最初の接続が試行される前に、ホスト鍵ファイルがトラステッド・サーバーのホスト鍵で使用可能でなければなりません。詳しくは、「サーバー検査を使用可能にする」プロパティ (EnableServerVerification) を参照してください。
 - 2) 「**ホスト鍵ファイル**」フィールドに、ホスト鍵ファイルへの絶対ファイル・パスを指定します。ホスト鍵ファイルは、管理者によって作成され、すべてのトラステッド・サーバーのホスト鍵を格納します。ホスト鍵ファイル・プロパティは、アダプター・ワークステーション上のファイルを指します。詳しくは、ホスト鍵ファイル・プロパティ (HostKeyFile) を参照してください。
 - b. 公開鍵認証を使用可能にする場合は、以下のプロパティを指定します。
 - 1) 「**秘密鍵ファイル**」フィールドに、セキュア・シェル・サーバーに認証させるために使用される秘密鍵を指定します。詳しくは、83 ページの『秘密鍵ファイル・プロパティ (PrivateKeyFilePath)』を参照してください。
 - 2) 「**パスフレーズ**」フィールドに、秘密鍵を暗号化して、拡張セキュリティのために使用される句を指定します。詳しくは、パスフレーズ・プロパティ (Passphrase) を参照してください。
 - c. FTPS プロトコルの場合は、以下のプロパティを指定します。
 - 1) FTPS をプロトコルとして選択した場合は、「**FTPS 接続モード**」フィールドに、FTPS サーバーへ接続するための接続モード (Implicit または Explicit) を指定します。詳しくは、FTPS 接続モード・プロパティ (ftpsConnectionMode) を参照してください。
 - 2) 「**データ・チャネル保護レベル**」フィールドで、以下のように、使用する必要のあるデータ・チャネル保護のレベルを選択します。
 - アダプターと FTPS サーバーとの間のデータ転送を暗号化フォームで行う必要がある場合は、「**プライベート**」を選択します。
 - アダプターと FTPS サーバーとの間のデータ転送を平文フォームで行う必要がある場合は、「**クリア**」を選択します。

詳しくは、172 ページの『データ・チャネル保護レベル (dataProtectionLevel)』を参照してください。
 - 3) 「**鍵ストアのタイプ**」フィールドに、鍵ストアのタイプを指定します。詳しくは、鍵ストア・タイプ プロパティ (keyStoreType) を参照してください。
 - 4) 「**トラストストア・ファイル**」フィールドに、アダプターによって信頼されているサーバーの証明書が保管されているトラストストア・ファイ

ルのパスを指定します。詳しくは、トラストストア・ファイル プロパティ (trustStorePath)を参照してください。

- 5) 「トラストストアのパスワード」フィールドに、トラストストア・ファイルのパスワードを指定します。このパスワードは、トラストストア・データの保全性のチェックに使用されます。この値が指定されていない場合、保全性チェックは実行されません。詳しくは、トラストストア・パスワード プロパティ (trustStorePassword)を参照してください。
- 6) 「鍵ストア・ファイル」フィールドに、鍵ストア・ファイルのパスを指定します。鍵ストア・ファイルには、FTPS クライアントの秘密鍵項目が含まれ、対応する秘密鍵の証明書チェーンも含まれます。詳しくは、鍵ストア・ファイル プロパティ (keyStorePath)を参照してください。

注: 鍵ストア・ファイル・プロパティとトラストストア・ファイル・プロパティの両方で、鍵ストア・タイプのプロパティを共有します。

- 7) 「鍵ストアのパスワード」フィールドに、鍵ストアのパスワードを指定します。このパスワードは、鍵ストア・データの保全性のチェックに使用されます。この値が指定されていない場合、保全性チェックは実行されません。詳しくは、鍵ストア・パスワード プロパティ (keyStorePassword)を参照してください。
- 8) 「鍵パスワード」フィールドに、鍵ストアから鍵をリカバリーするために使用される鍵のパスワードを指定します。詳しくは、鍵パスワード プロパティ (keyPassword)を参照してください。

- **BiDi** プロパティ

- **ロギングおよびトレース**

- a. アダプターのインスタンスが複数ある場合、展開して、アダプター ID に、このインスタンスに固有の値を設定します。このプロパティについて詳しくは、http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/rbp_ftp_resource_adapter_props.htmlを参照してください。
 - b. ログ・ファイルとトレース・ファイルに重要なユーザー・データが書き込まれないようにする場合は、「**ログ・ファイルおよびトレース・ファイルで、ユーザー・データを「XXX」と記述する**」を選択します。詳しくは、ログ・ファイルおよびトレース・ファイルで、ユーザー・データを「XXX」と記述する (HideConfidentialTrace)を参照してください。
6. 以下のように、「サービス・プロパティ」エリアに、必要なセキュリティー資格情報を指定します。
- J2C 認証別名を使用するには、「**既存の JAAS 別名を使用する (推奨)**」フィールドを選択し、「**J2C 認証データ入力**」フィールドに別名の名前を指定します。モジュールをデプロイする前であればいつでも、既存の認証別名を指定するか新しく認証別名を作成することができます。この名前は大/小文字を区別します。またこの名前にはノード名が含まれます。
 - 活動化仕様プロパティを使用するには、「**活動化仕様のセキュリティー・プロパティを使用**」フィールドを選択し、「**ユーザー名**」フィールドと「**パスワード**」フィールドに値を入力します。

- 「**ユーザー名**」 - FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーの名前を指定します。詳しくは、93 ページの『「ユーザー名」プロパティ (UserName)』を参照してください。
 - 「**パスワード**」 - FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーのパスワードを指定します。詳しくは、81 ページの『「パスワード」プロパティ (Password)』を参照してください。
 - 他の機構からのユーザー名とパスワードを管理する場合は、「**その他**」を選択します。
7. 「**関数セレクト**」フィールドから、以下のうちのいずれか 1 つのオプションを選択します。関数セレクトは、着信したメッセージまたは要求を、サービス内の適切な操作に割り当てます。
- **関数セレクト・オプション**

例えば、「**関数セレクト構成を使用します**」を選択します。このオプションの使用を選択した場合は、「**次へ**」をクリックします。
 - **関数セレクト**

このオプションを選択した場合は、以下の手順を実行します。
 - a. 「**関数セレクト**」フィールドの横にある「**選択**」をクリックします。

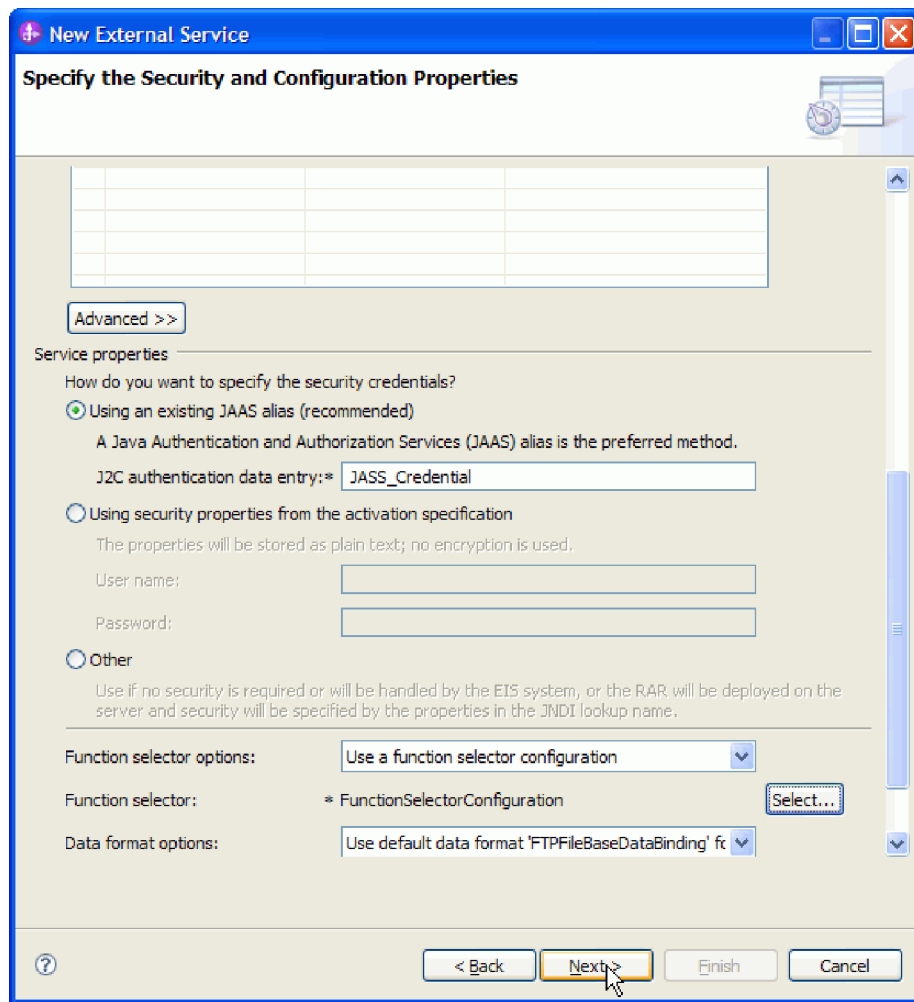


図 12. 「セキュリティーおよび構成プロパティの指定」ウィンドウ

- b. 「関数セレクターの選択」ウィンドウで、オプション「リストにある既存の関数セレクターを使用」を選択します。使用可能なセレクターのリストが表示されます。関数セレクターを選択します（この例では、FilenameFunctionSelector プロパティを使用します）。「次へ」をクリックします。

注: 外部サービス・ウィザードでは、EIS 関数名は選択できません。デフォルト以外で、アダプターが生成した値を指定したい場合は、アセンブリ・エディターを使用して編集できます。

8. 「新規関数セレクターの構成」ウィンドウで「終了」をクリックします。
9. 「サービス構成プロパティ」ウィンドウで「次へ」をクリックします。

タスクの結果

外部サービス・ウィザードは、FTP サーバーへの接続に必要な情報を保有します。

次のタスク

「データ・フォーマット・オプション」で「すべての操作にデフォルトのデータ・バインディング 'FTPFileBaseDataBinding' を使用」または「操作ごとにデータ・バインディングを指定」のいずれかを選択した場合は、「次へ」をクリックして、ウィザードでの作業を続行し、モジュールのデータ・タイプを選択してそのデータ・タイプに関連付けられる操作に名前を付けます。

「データ・フォーマット・オプション」で「すべての操作にデータ・バインディング構成を使用」を選択した場合は、『データ・バインディングおよびデータ・ハンドラーの構成』に進んでください。

Wrapper および対話仕様プロパティ

Wrapper プロパティは Wrapper ビジネス・オブジェクトの属性で、Wrapper ビジネス・オブジェクトによって、アプリケーション・プログラマーはラッパーの中のビジネス・オブジェクトの操作を制御できます。対話仕様プロパティは、全体のアダプターの操作の対話を制御します。

アダプターの構成時には、外部サービス・ウィザードによって対話仕様プロパティを設定します。これらのプロパティには、変更可能なものもありますが、すべてを変更することはできません。ただし、Outbound 操作の一部のプロパティは変更できます。アセンブリー・エディターを使用して、インポートのメソッド・バインディングに存在するこれらのプロパティを変更します。Wrapper プロパティは、WebSphere Integration Developer テスト・クライアントを使用して設定するか、実行時にプログラムで設定します。

以下の表は、Wrapper および対話仕様プロパティをリストしています。各プロパティの完全な説明は、表に続くセクションで説明します。これ以降のセクションのプロパティの詳細表を読む方法については、『プロパティ詳細についてのガイド』を参照してください。

表 32. 対話仕様プロパティ

プロパティ名		説明
ウィザード内	ラッパー・ビジネス・オブジェクト内	
Retrieve 操作のリモート・アーカイブ・ディレクトリー	ArchiveDirectoryForRetrieve	アダプターは、ファイルを Retrieve 操作中に削除される前に、このフォルダーにオプションでアーカイブする。
ファイルが存在しない場合に新規ファイルを作成する	CreateFileIfNotExists	ファイルが FTP サーバーに存在しない場合、Append および Overwrite 操作中にこのプロパティが true に設定されていると、アダプターはファイルを作成する。
FTP サーバー接続モード	DataConnectionMode	FTP サーバーがファイル転送時に使用するデータ接続モード。
retrieve 操作後のファイルの削除	DeleteOnRetrieve	このプロパティが true に設定されている場合、アダプターは、ファイルを取得した後、FTP サーバーからファイルを削除する。
FTP システム上のリモート・ディレクトリー	DirectoryPath	Outbound 操作を実行する必要がある FTP サーバー上のディレクトリーの絶対パス。

表 32. 対話仕様プロパティ (続き)

54 ページの『データ・チャネル保護レベル (dataProtectionLevel)』	dataProtectionLevel	FTPS プロトコルの場合、データ・チャネルの保護レベルを指定します。
ファイル内容のエンコード	FileContentEncoding	ファイルへの書き込み中に使用されるエンコード。
ローカル・ディレクトリー内のファイル	FileInLocalDirectory	Create 操作時に true に設定されている場合、アダプター・ワークステーションのローカル・ディレクトリー・パスからファイル内容が取り出される。
デフォルト・ターゲット・ファイル名	Filename	DirectoryPath プロパティで指定されたディレクトリー内のファイルの名前。
ファイル転送タイプ	FileTransferType	Outbound 操作時に使用されるファイル転送タイプ。
固有ファイルの生成	GenerateUniqueFile	アダプターは、このプロパティが true に設定されている場合、固有ファイル名を作成する。
ホスト名プロパティ	SecondServerHostName	2 次 FTP サーバーのホスト名。
「ファイル内のビジネス・オブジェクト間の区切り文字」プロパティ	IncludeEndBODelimiter	この値がファイルの内容に付加される。
Create 操作のローカル・アーカイブ・ディレクトリー	LocalArchiveDirForCreate	Create 操作時に LocalArchivingEnabledForCreate が true に設定されている場合、このディレクトリーのローカル・ワークステーションにファイルが保存される。
Create 操作のローカル・ディレクトリーへのファイルのアーカイブ	LocalArchivingEnabledForCreate	true に設定されている場合、ファイルは Create 操作時にローカル・ワークステーションに保存される。
ローカル・ディレクトリー	LocalDirectoryPath	このディレクトリーからファイルが取り出される。
(なし)	ResumeFailedTransfer	作成操作時にこのプロパティが true に設定されていると、アダプターは、接続エラーのためにファイル転送が中断された位置からファイル転送を再開します。
ポート番号	SecondServerPortNumber	2 次 FTP サーバーのポート番号。
プロトコル	SecondServerProtocol	2 次サーバーへの接続に使用されるプロトコルを指定します。
スクリプト・ファイル・パラメーター	ScriptFileParameters	FTP スクリプト・ファイルに必要なパラメーター。
ディレクトリー	SecondServerDirectory	ServerToServerFileTransfer 操作時の 2 次 FTP サーバーのディレクトリー・パス。
パスワード	SecondServerPassword	ServerToServerFileTransfer 操作時の 2 次 FTP サーバーのパスワード。
ユーザー名	SecondServerUsername	ServerToServerFileTransfer 操作時の 2 次 FTP サーバーのユーザー名。
ファイル内容を分割するための基準の指定	SplitCriteria	イベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトを分割する区切り文字。

表 32. 対話仕様プロパティ (続き)

関数クラス名の分割	SplittingFunctionClassName	ファイル分割を有効にするために使用するクラス・ファイルの完全修飾クラス名。
ステージング・ディレクトリー	StagingDirectory	ファイルはこのディレクトリーに最初に作成される。
一時ファイル名	TemporaryFilename	作成操作のための一時ファイル名を指定します。

「Create 操作のローカル・ディレクトリーへのファイルのアーカイブ」プロパティ (LocalArchivingEnabledForCreate)

Outbound の create 操作時に、ファイルの内容が、J2EE アプリケーションからビジネス・オブジェクトの一部として提供され、このプロパティが true に設定されている場合は、ファイルはローカル・ワークステーションの LocalArchiveDirForCreate ディレクトリーに保存されてから、Outbound 操作が実行されます。

表 33. 「create 操作のローカル・ディレクトリーへのファイルのアーカイブ」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「ファイルが存在しない場合に新規ファイルを作成する」プロパティ (CreateFileIfNotExists)

Outbound Append および Overwrite 操作中に、ファイルが FTP サーバーに存在しない場合、このプロパティが true に設定されていると、アダプターはファイルを作成します。このプロパティが false でファイルが存在しない場合、アダプターはエラーを送信します。

表 34. 「ファイルが存在しない場合に新規ファイルを作成する」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

データ・チャネル保護レベル (dataProtectionLevel)

このプロパティでは、データ・チャネルを介したデータ転送の保護レベルを指定します。FTP アダプターとそのサーバーが使用するデータ・チャネル保護のタイプを指定します。

データ・チャネルを開く前に、保護バッファー・サイズ (PBSZ) コマンドおよびデータ・チャネル保護レベル (PROT) コマンドが FTP アダプターによって発行され、そのデータ・チャネルの保護レベルが指定されます。デフォルトでは、アダプターは PROT コマンドを発行する前に「PBSZ 0」コマンドを発行します。

表 35. データ・チャンネル保護レベル プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	Private - データは暗号化形式で転送されます Clear - データは平文として転送されます
デフォルト	Private - データは暗号化形式で転送されます
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティは、データ・チャンネルの保護レベルを選択するために使用します。以下は、保護レベルの値です。 <ul style="list-style-type: none"> • Private - データ転送の健全性および機密性が保護されることを示します。 • Clear - セキュリティ対策を取らずに、データ・チャンネルで、FTP アダプターとサーバーとの間のファイル転送用に生データが伝送されることを示します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

retrieve 操作後のファイルの削除 (DeleteOnRetrieve)

Outbound Retrieve 操作時に、このプロパティが true に設定されている場合、アダプターは、ファイルを取得した後、FTP サーバーからファイルを削除します。

表 36. 「retrieve 操作後のファイルの削除」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティ (Filename)

Outbound 操作時に使用するファイル名。

表 37. 「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイル内のビジネス・オブジェクト間の区切り文字」プロパティ (IncludeEndBODelimiter)

この値がファイルの内容に付加される。Outbound の create、append、および overwrite 操作時に使用されます。

表 38. 「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ特性

必須	いいえ
----	-----

表 38. 「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ特性 (続き)

デフォルト	<p>Create および Overwrite 操作の場合、デフォルト値は設定されていません。</p> <p>Append 操作の場合、デフォルト値は <EndB0> です。</p> <p>Append 操作の場合、次の規則が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネス・オブジェクト・ラッパーで区切り文字が null に設定されている場合、ビジネス・オブジェクトの分離に区切り文字は使用されません。 ビジネス・オブジェクト・ラッパーに IncludeEndBODelimiter プロパティが設定されておらず、対話仕様の中の値も null である場合、デフォルトは <EndB0> です。 ビジネス・オブジェクト・ラッパーに特定の区切り文字の値が指定されていれば、指定されている値が付加されます。 ビジネス・オブジェクト・ラッパーと対話仕様の両方に値が指定されていれば、ビジネス・オブジェクト・ラッパー値が優先されます。
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ディレクトリー」プロパティ (SecondServerDirectory)

サーバー間のファイル転送の Outbound 操作の実行対象の 2 次 FTP サーバーのディレクトリー。これは、ファイルの転送先のリモート・イベント・ディレクトリーです。

表 39. 「ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	<p>対話仕様プロパティの場合、FTP サーバーにあって Outbound 操作で使用されるディレクトリーは、FTP ディレクトリーの絶対パスを表します。例えば、/home/usr/output です。これにはホスト名または URL 情報は含まれません。</p> <p>wrapper ビジネス・オブジェクト・プロパティの場合、Outbound 操作 ServerToServerFileTransfer の実行対象となる 2 次サーバーの URL。例えば、FTP URL を指定する場合の構文は ftp://[UserId:password@]FTPserver[:port]/DirectoryForSecondServer です。</p>
グローバル化	はい

「ファイル内容のエンコード」プロパティ (FileContentEncoding)

ファイルへの書き込み中に使用されるエンコード。このプロパティを指定しない場合、アダプターは特定のエンコードを使用せずに読み取りを行おうとします。Java がサポートする任意のエンコード・セットを指定できます。

表 40. 「ファイル内容のエンコード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「ローカル・ディレクトリー内のファイル」プロパティー (FileInLocalDirectory)

Outbound の create 操作時に、このプロパティーが true に設定されていると、ファイルの内容はビジネス・オブジェクト内で使用できません。ファイルは、アダプター・ワークステーションのローカル・ディレクトリーから取り出されます。

Outbound の retrieve 操作時に、このプロパティーが true に設定されていると、ファイルの内容はビジネス・オブジェクトの一部として J2EE アプリケーションに送信されません。ファイルは、アダプター・ワークステーションのローカル・ディレクトリーに保存されます。

表 41. 「ローカル・ディレクトリー内のファイル」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティー・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「ファイル転送タイプ」プロパティー (FileTransferType)

Outbound 操作時に使用されるファイル転送タイプ。ASCII または binary のいずれかの設定値を指定します。

表 42. 「ファイル転送タイプ」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	binary
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「FTP サーバー接続モード」プロパティー (DataConnectionMode)

FTP サーバーがファイル転送時に使用するデータ接続モード。active または passive のいずれかの設定値を指定します。この値は、ファイル転送が行われる場合にのみ使用されます。このプロパティーは、サーバー間のファイル転送の Outbound 操作の実行時は使用されません。

表 43. 「FTP サーバー接続モード」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	active
プロパティー・タイプ	String
使用可能な値	active または passive
グローバル化	いいえ

固有ファイルの生成 (GenerateUniqueFile)

このプロパティが true に設定されていると、Outbound Create 操作の実行中、アダプターは固有ファイル名を作成します。このプロパティが true に設定されている場合、アダプターは、Filename プロパティに設定されているあらゆる値を無視します。

注: アダプターは、GenerateUniqueFile と StagingDirectory の両方のオプションを同時にはサポートしません。

表 44. 「固有ファイルの生成」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ
制約事項	この機能を使用するには、FTP サーバーが RFC1123 をサポートしている必要があります。

「ホスト名」プロパティ (SecondServerHostName)

Outbound 操作時に接続の確立先となる 2 次 FTP サーバーのホスト名。

表 45. 「ホスト名」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「create 操作のローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (LocalArchiveDirForCreate)

Outbound の create 操作時に、ファイルの内容が、ビジネス・オブジェクトの一部として提供され、LocalArchivingEnabledForCreate が true に設定されている場合は、ファイルはローカル・ワークステーションのこのディレクトリーに保存されます。

表 46. 「create 操作のローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、LocalArchiveDirForCreate ディレクトリーを手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

「ローカル・ディレクトリー」プロパティ (LocalDirectoryPath)

Outbound の create 操作時に、FileInLocalDirectory プロパティが true に設定されていると、ファイルの内容はビジネス・オブジェクト内で使用できません。その代わりに、このディレクトリーからファイルが取り出されます。Outbound の retrieve 操作時に、FileInLocalDirectory プロパティが true に設定されていると、ファイルの内容はビジネス・オブジェクトの一部として送信できません。ファイルはこのディレクトリーに保存されます。

表 47. 「ローカル・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、LocalDirectoryPath ディレクトリーを手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

「ポート番号」プロパティ (SecondServerPortNumber)

Outbound 操作時に接続の確立先となる 2 次 FTP サーバーのポート番号。

表 48. 「ポート番号」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	FTP は 21、FTPS は 990
プロパティ・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

「プロトコル」プロパティ (SecondServerProtocol)

2 次サーバーへの接続を確立するために使用されるプロトコル。この FTP プロトコルは、接続の確立に使用されます。

表 49. 「プロトコル」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	FTP
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「パスワード」プロパティ (SecondServerPassword)

サーバー間のファイル転送の Outbound 操作時にファイルの転送先となる 2 次 FTP サーバーのパスワード。

表 50. 「パスワード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし

表 50. 「パスワード」プロパティ特性 (続き)

プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「retrieve 操作のリモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (ArchiveDirectoryForRetrieve)

Outbound Retrieve 操作時に、アダプターはファイルが削除される前に、このフォルダーにオプションでファイルをアーカイブします。アーカイブ・ディレクトリーが存在する必要があります。

表 51. 「retrieve 操作のリモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「FTP システム上のリモート・ディレクトリー」プロパティ (DirectoryPath)

ExecuteFTPScript 以外のすべての操作に Outbound 操作を実行する必要がある FTP サーバー上のディレクトリーの絶対パス、または ExecuteFTPScript 操作のみのローカル・アダプター・ワークステーション上のディレクトリー・パス。ディレクトリーが存在している必要があります。

注: DirectoryPath として 値 <HOME_DIR> が指定されている場合、Outbound 操作はユーザーのホーム・ディレクトリーで実行されます。

表 52. 「FTP システム上のリモート・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、DirectoryPath ディレクトリーを手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

ResumeFailedTransfer

このプロパティは FTP サーバーへの接続エラーのために中断されたファイル転送の再開をサポートします。

注: このプロパティは、Outbound 処理のみに適用可能です。

表 53. 「ResumeFailedTransfer」プロパティ特性

必須	いいえ
----	-----

表 53. 「ResumeFailedTransfer」 プロパティ特性 (続き)

デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	作成操作時に、このプロパティが true に設定されていると、接続時のエラーが原因でファイル転送が中断された位置から、アダプターはファイル転送を再開します。
グローバル化	いいえ

「スクリプト・ファイル・パラメーター (Script File Parameters)」 プロパティ (ScriptFileParameters)

Outbound ExecuteFTPScript 操作時に、FTP スクリプト・ファイルに必要なパラメーターがこのプロパティに設定されます。ランタイム時に、アダプターはパラメーターをこれらの値で置換します。

表 54. 「スクリプト・ファイル・パラメーター (Script File Parameters)」 プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイル内容を分割するための基準の指定」 プロパティ (SplitCriteria)

このプロパティは、SplittingFunctionClassName プロパティの値に基づいた各種の値を受け入れます。

- SplittingFunctionClassName プロパティで、区切り文字に基づいてファイルを分割することを指定する場合、SplitCriteria にはイベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトを分割する区切り文字を指定します。
- SplittingFunctionClassName をサイズに基づいた分割を行う値に設定する場合、SplitCriteria プロパティには、バイト単位のサイズを表す有効な数値を指定します。
 - イベント・ファイルのサイズがこの値より大きい場合、アダプターはファイルをこのサイズのチャンクに分割し、各チャンクが送られます。
 - イベント・ファイルのサイズがこの値より小さい場合、イベント・ファイル全体が送られます。SplitCriteria=0 の場合、チャンクへの分割は無効です。

表 55. 「ファイル内容を分割するための基準の指定」 プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	0
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「分割関数クラス名」プロパティ (SplittingFunction ClassName)

ファイル分割を有効にするために使用するクラス・ファイルの完全修飾クラス名を指定する。以下の 2 つの値が必要です。

- 区切り文字に基づいてイベント・ファイルを分割する
com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitByDelimiter クラス。
- イベント・ファイル・サイズに基づいてイベント・ファイルを分割する
com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize クラス。

区切り文字またはファイル・サイズは、SplitCriteria プロパティで指定します。

表 56. 「分割関数クラス名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「ステージング・ディレクトリー」プロパティ (StagingDirectory)

Outbound の create 操作時に、ファイルは最初にこのディレクトリー内に作成されます。ファイルの作成が完了したら、ファイルは DirectoryPath プロパティで指定されたディレクトリーにコピーされます。このステージング・ディレクトリーは、Append 操作および Overwrite 操作でも使用されます。ここでは、指定されたファイルは StagingDirectory (存在する場合) にコピーされます。付加された内容または上書きされた内容は、この後、元の指定されたディレクトリーに戻されます。StagingDirectory が指定されていない場合、操作は実際の必要なディレクトリー内で実行されます。

注: アダプターでは、StagingDirectory と GenerateUniqueFile の両方のオプションを同時にはサポートしていません。

表 57. 「ステージング・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、StagingDirectory ディレクトリーを手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

「一時ファイル名」プロパティ (TemporaryFilename)

このプロパティは、作成操作のための一時ファイル名を指定します。ファイルが正常に作成されると、そのファイルは、「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティで指定された値に名前変更されます。

表 58. 「一時ファイル名」 プロパティ特性

必須	いいえ
使用可能な値	すべての有効なファイル名
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティは作成操作で使用されます。一時ファイル名が指定された場合、ファイルはその一時ファイル名を付けて作成されます。ファイルが正常に作成されると、そのファイルは、「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティで指定された値に名前変更されます。
例	xyz.tmp
グローバル化	いいえ

「ユーザー名」 プロパティ (SecondServerUsername)

サーバー間のファイル転送の Outbound 操作時にファイルの転送先となる 2 次 FTP サーバーのユーザー名。

表 59. 「ユーザー名」 プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

活動化仕様プロパティ

活動化仕様プロパティは、メッセージ・エンドポイント用の Inbound イベント処理の構成情報を保持するプロパティです。

活動化仕様プロパティは、エンドポイント活動化の際にアダプターに適格なイベント・リスナーを通知するために使用されます。Inbound 処理中に、アダプターはこれらのイベント・リスナーを使用して、エンドポイントに転送する前にイベントを受信します (メッセージ・ドリブン Bean)。

活動化仕様プロパティを設定するには、外部サービス・ウィザードを使用します。変更する場合には、WebSphere Integration Developer のアセンブリー・エディターを使用することもできますし、デプロイメント後に 管理コンソール を通じて行うこともできます。

以下の表は、活動化仕様プロパティをリストしています。各プロパティの完全な説明は、表に続くセクションで説明します。これ以降のセクションのプロパティの詳細表を読む方法については、『プロパティ詳細についてのガイド』を参照してください。

表 60. 活動化仕様プロパティ

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	

表 60. 活動化仕様プロパティ (続き)

68 ページの『イベントを一度のみ送達する (AssuredOnceDelivery)』	AssuredOnceDelivery	アダプターにより、1 回のイベント送達を確保する機能が提供されるかどうかを指定します。
69 ページの『「自動作成イベント・テーブル」プロパティ (EP_CreateTable)』	EP_CreateTable	イベント・パーシスタンス・テーブルを作成するかどうかをアダプターに通知する
69 ページの『「テーブル作成」プロパティ (CreateTable)』	CreateTable	true に設定すると、イベント・テーブルおよび関連した索引が作成される
69 ページの『「カスタム・パーサー・クラス名」プロパティ (CustomParserClassName)』	CustomParserClassName	ls -l の出力を解析するために使用されるカスタム・パーサーの完全修飾クラス名
69 ページの『データ・チャンネル保護レベル (dataProtectionLevel)』	dataProtectionLevel	FTPS プロトコルの場合、データ・チャンネルの保護レベルを指定します。
70 ページの『「データベース・パスワード」プロパティ (DatabasePassword)』	DatabasePassword	データ・ソースから JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するパスワード
70 ページの『「データベース・スキーマ名」プロパティ (EP_SchemaName)』	EP_SchemaName	イベント・パーシスタンスによって使用されるデータベースのスキーマ名
70 ページの『「データベース・ユーザー名 (Database Username)」プロパティ (DatabaseUsername)』	DatabaseUsername	データ・ソースから JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するユーザー名
72 ページの『「FTP サーバー接続モード」プロパティ (DataConnectionMode)』	DataConnectionMode	FTP サーバーがファイル転送時に使用するデータ接続モード
72 ページの『FTPS 接続モード・プロパティ (ftpsConnectionMode)』	ftpsConnectionMode	FTPS サーバーへの接続を設定するために使用される FTPS 接続モードを指定します。
(なし)	DefaultObjectName	前のバージョンとの互換性を維持するためにサポートされている
71 ページの『送達タイプ (DeliveryType)』	DeliveryType	イベントがアダプターによってエクスポートに配信される順序を指定します。
71 ページの『「FTP サーバーで 사용되는エンコード」プロパティ (EISEncoding)』	EISEncoding	FTP サーバーのエンコード
(なし)	EventContentType	前のバージョンとの互換性を維持するためにサポートされている
72 ページの『「イベント・リカバリー DataSource (JNDI) 名」プロパティ (EP_DataSource_JNDIName)』	EP_DataSource_JNDIName	JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスで使用されるデータ・ソースの JNDI 名

表 60. 活動化仕様プロパティ (続き)

72 ページの『「イベント・リカバリ ー・テーブル名」プロパティ (EP_EventTableName)』	EP_TableName	アダプターがイベント・パーシス タンスのために使用するテーブルの名 前
73 ページの『「ローカル・アーカイブ 用の障害ファイル拡張子」プロパティ (FailedArchiveExt)』	FailedArchiveExt	正常に処理されなかったイベント・ ファイル内のビジネス・オブジェク トをアーカイブするために使用され るファイル拡張子
73 ページの『「ファイル内容のエンコ ード」プロパティ (FileContentEncoding)』	FileContentEncoding	イベント・ファイルを読み取るため に使用されるエンコード
74 ページの『「リモート・アーカイブ 用のファイル拡張子」プロパティ (FTPRenameExt)』	ftpRenameExt	アダプターがリモート FTP ファイル の名前変更に使用するファイル拡 張子またはサフィックス
74 ページの『鍵ストア・ファイル プ ロパティ (keyStorePath)』	keyStorePath	秘密鍵項目を含む鍵ストアのパスを 指定します。
74 ページの『鍵ストア・パスワード プロパティ (keyStorePassword)』	keyStorePassword	鍵ストアの暗号化に使用されるパス ワードを指定します。
75 ページの『鍵パスワード プロパテ ィー (keyPassword)』	keyPassword	鍵の暗号化に使用されるパスワード を指定します。
75 ページの『鍵ストア・タイプ プロ パティ (keyStoreType)』	keyStoreType	鍵ストアのタイプを指定します。
77 ページの『「内容ではなくファイル 名およびディレクトリーのみの受け渡 し」プロパティ (FilePassByReference)』	FilePassByReference	イベント・ファイルのファイル内容 をエクスポートに送信しないことを 指定する
77 ページの『「ファイル転送タイプ」 プロパティ (FileTransferType)』	FileTransferType	Inbound 処理時に使用されるファ イル転送タイプ
77 ページの『「一度に取得するファ イル数」プロパティ (FTPGetQuantity)』	ftpGetQuantity	リモート FTP URL から取得するフ ァイルの数を決定する
77 ページの『「各ダウンロード間のポー リング期間の数」プロパティ (FTPPollFrequency)』	ftpPollFrequency	アダプターが FTP サーバーをポー リングする頻度を決定する
失敗したイベントの再試行制限	FailedEventRetryLimit	アダプターの再送信の試行回数で、 この回数に達すると失敗とマークさ れます。
78 ページの『「ファイルのダウンロード 後に実行する FTP スクリプト・フ ァイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedAfterInbound)』	ftpScriptFileExecutedAfterInbound	FTP サーバーからのファイルのダウ ンロード後に実行されるスクリプ ト・ファイルのパスを指定します。
79 ページの『「ファイルのダウンロード 前に実行する FTP スクリプト・フ ァイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedBeforeInbound)』	ftpScriptFileExecutedBeforeInbound	FTP サーバーからのファイルのダウ ンロード前に実行されるスクリプ ト・ファイルのパスを指定します。
79 ページの『「ホスト名」プロパティ (HostName)』	HostName	接続の確立先となる FTP サーバー のホスト名

表 60. 活動化仕様プロパティ (続き)

79 ページの『「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ (IncludeEndBODelimiter)』	IncludeEndBODelimiter	true に設定する場合、さらに処理を行うため、ビジネス・オブジェクトの内容と一緒に区切り文字が送信される
79 ページの『「ローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (LocalArchiveDirectory)』	LocalArchiveDirectory	ローカル・アーカイブ・ディレクトリーの絶対パス
80 ページの『「ローカル・ディレクトリー」プロパティ (LocalEventDirectory)』	LocalEventDirectory	アダプターが FTP サイトからダウンロードしたイベント・ファイルを格納するローカル・システム・ディレクトリー
80 ページの『最大接続数 (Maximum connections) (MaximumConnections)』	MaximumConnections	アダプターが Inbound イベント送達に使用できる接続の最大数
81 ページの『最小接続数 (Minimum connections) (MinimumConnections)』	MinimumConnections	アダプターが Inbound イベント送達に使用できる接続の最小数
81 ページの『「ローカル・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティ (OriginalArchiveExt)』	OriginalArchiveExt	オリジナル・イベント・ファイルをアーカイブするために使用されるファイル拡張子
パズフレーズ・プロパティ	passPhrase	秘密鍵を暗号化して、拡張セキュリティのために使用されます
81 ページの『「パスワード」プロパティ (Password)』	Password	FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーのパスワード
82 ページの『「イベント DataSource に接続するのに使用されるパスワード」プロパティ (EP_Password)』	EP_Password	イベント・パーシスタンス時に使用されるパスワード
82 ページの『ポーリング期間の間隔 (ポーリング間隔)』	ポーリング間隔	ポーリング期間中にアダプターが待機する時間の長さ
82 ページの『ポーリング期間内の最大イベント数 (ポーリング数量)』	ポーリング数量	各ポーリング期間中にアダプターがエクスポートに配信するイベント数
83 ページの『「ポート番号」プロパティ (PortNumber)』	PortNumber	FTP サーバーのポート番号
83 ページの『秘密鍵ファイル・プロパティ (PrivateKeyFilePath)』	PrivateKeyFilePath	セキュア・シェル・サーバーに認証させるために使用される秘密鍵
84 ページの『「プロトコル」プロパティ (Protocol)』	Protocol	FTP サーバーへの接続を通常の FTP またはセキュア FTP のいずれにするのかを指定します。
86 ページの『「このパターンを持つファイルの取得」プロパティ (EventFileMask)』	EventFileMask	イベント・ファイル用のフィルター
開始時に EIS 接続を再試行する	RetryConnectionOnStartup	アダプターが始動時に FTP サーバーに接続できない場合に、接続を再試行するかどうかを指定します。

表 60. 活動化仕様プロパティ (続き)

システム接続に失敗した場合の再試行 間隔 (ミリ秒)	RetryInterval	Inbound 操作時にエラー発生後、新 規接続を確立しようとする試行と次 の試行の間にアダプターが待機する 時間の長さ
システム接続に失敗した場合の最大再 試行回数	RetryLimit	エラーの発生後に、アダプターが Inbound 接続の再確立を試行する回 数。
84 ページの『「リモート・アーカイ ブ・ディレクトリー」プロパティ (FTPArchiveDirectory)』	ftpArchiveDirectory	FTP サーバー上のアーカイブ・ディ レクトリーの相対パス
85 ページの『「リモート・ディレクト リー」プロパティ (EventDirectory)』	EventDirectory	Inbound 処理のためにイベント・フ ァイルが取り出される FTP サーバ ーのリモート・ディレクトリー
サーバー検査を使用可能にする	EnableServerVerification	SFTP プロトコルのリモート・サー バー検査を使用可能にする
ホスト鍵ファイル	HostKeyFile	トラステッド・サーバーのホスト鍵 を含むホスト鍵ファイルの絶対パス
89 ページの『「ホスト名」プロパティ (SocksProxyHost)』	SocksProxyHost	プロキシー・サーバーとして使用さ れるマシンのホスト名
90 ページの『「パスワード」プロパテ ィー (SocksProxyPassword)』	SocksProxyPassword	プロキシー・サーバーを認証するた めのパスワード
90 ページの『「ポート番号」プロパテ ィー (SocksProxyPort)』	SocksProxyPort	プロキシー・サーバーのポート番号
90 ページの『「ユーザー名」プロパテ ィー (SocksProxyUserName)』	SocksProxyUserName	プロキシー・サーバーを認証するた めのユーザー名
90 ページの『「ソート・イベント・フ ァイル」プロパティ (SortEventFiles)』	SortEventFiles	ポーリングされるイベント・ファイ ルのソート順を決定する
91 ページの『「ファイル内容を分割す るための基準の指定」プロパティ (SplitCriteria)』	SplitCriteria	SplittingFunctionClassName プロパテ ィーの値に基づいた各種の値を指定 する
92 ページの『「分割関数クラス名」プ ロパティ』	SplittingFunctionClassName	ファイル分割を有効にするために使 用するクラス・ファイルの完全修飾 クラス名を指定する
93 ページの『「ポーリング時にエラーが 検出された場合はアダプターを停止す る (StopPollingOnError)』	StopPollingOnError	ポーリング時にアダプターがエラー を検出した場合、アダプターがイベ ントのポーリングを停止するかどうかを指定します。
93 ページの『「ローカル・アーカイブ 用の成功ファイル拡張子」プロパティ (SuccessArchiveExt)』	SuccessArchiveExt	正常に処理されたビジネス・オブジ ェクトすべてをアーカイブするため に使用されるファイル拡張子
75 ページの『「トラストストア・ファイ ル」プロパティ (trustStorePath)』	trustStorePath	アダプターによって信頼された FTPS サーバーの証明書を含むトラ ストストア・ファイルのパスを指定 します。

表 60. 活動化仕様プロパティ (続き)

76 ページの『トラストストア・パスワード プロパティ (trustStorePassword)』	trustStorePassword	トラストストアのパスワードを指定します。
76 ページの『未変更ファイルのポーリング時間間隔 (fileUnchangedTimeInterval)』	fileUnchangedTimeInterval	内容が更新されているかどうかを調べるために、アダプターがファイルをモニターする時間間隔を指定する
93 ページの『「ユーザー名」プロパティ (UserName)』	UserName	FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーの名前
94 ページの『「イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名」プロパティ (EP_UserName)』	EP_UserName	データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するユーザー名
ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター	ruleString	イベントのフィルター処理に使用されるルールのコレクション。
86 ページの『リモート検証有効プロパティ (enableRemoteVerification)』	enableRemoteVerification	FTP サーバーとの間のデータ転送を要求するホスト・システムが、アダプターを実行しているホスト・システムと同じであるかどうかを検証するために使用します。

イベントを一度のみ送達する (AssuredOnceDelivery)

このプロパティでは、Inbound イベントに対して、「イベントを一度のみ送達する」の機能を提供するかどうかを指定します。

表 61. 「イベントを一度のみ送達する」の詳細

必須	はい
使用可能な値	True False
デフォルト	True
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティを True に設定すると、アダプターにより、1 回のイベント送達を確保する機能が提供されます。つまり、各イベントは 1 回のみ配信されます。値を False にすると、1 回のイベント送達を確保する機能は提供されませんが、パフォーマンスは向上します。</p> <p>このプロパティを True に設定すると、アダプターにより、トランザクション (XID) 情報のイベント・ストアへの保管が試行されます。このプロパティを False に設定した場合は、アダプターではこの情報の保管は行われません。</p> <p>このプロパティは、エクスポート・コンポーネントがトランザクションの対象である場合のみ使用されます。そうでない場合は、このプロパティの値に関係なく、トランザクションを使用することはできません。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「自動作成イベント・テーブル」プロパティ (EP_CreateTable)

イベント・パーシスタンス・テーブルを作成するかどうかをアダプターに通知する。値が true でテーブルが存在しない場合、アダプターはテーブルを作成します。値が false の場合、アダプターはテーブルを作成しません。

表 62. 「自動作成イベント・テーブル」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	true
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「テーブル作成」プロパティ (CreateTable)

true に設定すると、イベント・テーブルおよび関連した索引が作成される。テーブル作成エラーをトラブルシューティングするには、このプロパティを false に設定します。その後、テーブルおよび索引を手動で作成できます。

表 63. 「テーブル作成」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	true
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「カスタム・パーサー・クラス名」プロパティ (CustomParserClassName)

ls -l の出力を解析するために使用されるカスタム・パーサーの完全修飾クラス名。ls -l の出力が標準出力から外れる場合にのみ使用されます。

表 64. 「カスタム・パーサー・クラス名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

データ・チャネル保護レベル (dataProtectionLevel)

このプロパティでは、データ・チャネルを介したデータ転送の保護レベルを指定します。FTP アダプターとそのサーバーが使用するデータ・チャネル保護のタイプを指定します。

データ・チャネルを開く前に、保護バッファ・サイズ (PBSZ) コマンドおよびデータ・チャネル保護レベル (PROT) コマンドが FTP アダプターによって発行され、そのデータ・チャネルの保護レベルが指定されます。デフォルトでは、アダプターは PROT コマンドを発行する前に「PBSZ 0」コマンドを発行します。

表 65. データ・チャンネル保護レベル プロパティーの特性

必須	いいえ
使用可能な値	Private - データは暗号化形式で転送されます Clear - データは平文として転送されます
デフォルト	Private - データは暗号化形式で転送されます
プロパティー・タイプ	String
使用法	このプロパティーは、データ・チャンネルの保護レベルを選択するために使用します。以下は、保護レベルの値です。 <ul style="list-style-type: none"> • Private - データ転送の保水性および機密性が保護されることを示します。 • Clear - セキュリティー対策を取らずに、データ・チャンネルで、FTP アダプターとサーバーとの間のファイル転送用に生データが伝送されることを示します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「データベース・パスワード」プロパティー (DatabasePassword)

データ・ソースから JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するパスワード。

表 66. 「データベース・パスワード」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	はい

「データベース・スキーマ名」プロパティー (EP_SchemaName)

イベント・パーシスタンスによって使用されるデータベースのスキーマ名。

表 67. 「データベース・スキーマ名」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	はい

「データベース・ユーザー名 (Database Username)」プロパティー (DatabaseUsername)

データ・ソースから JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するユーザー名。

表 68. 「データベース・ユーザー名 (Database Username)」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	はい

送達タイプ (DeliveryType)

このプロパティーでは、イベントがアダプターによってエクスポートに配信される順序を指定します。

表 69. 送達タイプの詳細

必須	いいえ
使用可能な値	ORDERED UNORDERED
デフォルト	ORDERED
プロパティー・タイプ	String
使用法	以下の値がサポートされています。 <ul style="list-style-type: none">• ORDERED: アダプターは、一度に 1 つのイベントをエクスポートに配信します。• UNORDERED: アダプターは、一度にすべてのイベントをエクスポートに配信します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「FTP サーバーで使用されるエンコード」プロパティー (EISEncoding)

FTP サーバーのエンコード。この値は、FTP サーバーとの制御接続のエンコードを設定する場合に使用します。

- アダプター・レベルの EISEncoding と活動化仕様レベルの EISEncoding の両方を設定しない場合 (両方とも null)、FTP サーバーとの通信中は制御接続で何も設定されません。
- アダプター・レベルの EISEncoding を設定し、活動化仕様レベルの EISEncoding を設定しない場合、アダプター・レベルの値は、FTP サーバーとの通信中に制御接続で設定されます。これは、複数の活動化仕様を使用するときに、同じエンコードが設定されている場合に便利です。この場合は、すべての接続で制御接続のエンコードが同じになるように、値をアダプター・レベルで設定します。
- アダプター・レベルの EISEncoding を設定しないで、活動化仕様レベルの EISEncoding を設定する場合、活動化仕様レベルの値は、FTP サーバーとの通信中に制御接続で設定されます。値は活動化仕様レベルであるため、これが適用されるのは、その活動化仕様のみです。
- アダプター・レベルの EISEncoding と活動化仕様レベルの EISEncoding の両方を設定する場合、活動化仕様レベルの値が優先されます。

この属性には、Java がサポートする任意のエンコードを指定できます。

表 70. 「FTP サーバーで使用されるエンコード」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String

表 70. 「FTP サーバーで使用されるエンコード」プロパティ特性 (続き)

グローバル化	はい
--------	----

「イベント・リカバリー DataSource (JNDI) 名」プロパティ (EP_DataSource_JNDIName)

JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスで使用されるデータ・ソースの JNDI 名。データ・ソースは、WebSphere Process Server 内に作成する必要があります。データ・ソースの作成中に指定されるデータベース名は、存在しているデータベースでなければなりません。

表 71. 「イベント・リカバリー DataSource (JNDI) 名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「イベント・リカバリー・テーブル名」プロパティ (EP_EventTableName)

アダプターがイベント・パーシスタンスのために使用するテーブルの名前。複数の活動化仕様を使用する場合、この値は活動化仕様ごとに固有でなければなりません。同じアダプター、または異なるアダプターのほかのインスタンスが同じテーブル名を使用することはできません。データベースにこのテーブルが存在しない場合は、アダプターがこのテーブルを作成します。

表 72. 「イベント・リカバリー・テーブル名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	FTPTABLE
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「FTP サーバー接続モード」プロパティ (DataConnectionMode)

FTP サーバーがファイル転送時に使用するデータ接続モード。active または passive のいずれかの設定値を受け入れます。

表 73. 「FTP サーバー接続モード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	active
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

FTPS 接続モード・プロパティ (ftpsConnectionMode)

このプロパティは、FTPS サーバーとの接続を確立するときの接続モードを指定するために使用されます。現在、WebSphere Adapter for FTP は、Implicit および

Explicit の両方の接続モードをサポートしています。このプロパティは、Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを介した FTP または Transport Layer Security (TLS) プロトコルを介した FTP のいずれかを選択するときを使用されます。

表 74. FTPS 接続モード・プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	Explicit Implicit
デフォルト	Explicit
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティは、FTPS サーバーへの接続に使用されるモードを表します。 このプロパティの設定内容によって、次のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> • Explicit 接続モードでは、最初、接続を通常の FTP 接続として確立します。パスワードなどの機密情報を送信するために、アダプターは、AUTH コマンドを発行してセキュア FTP 接続に切り替えます。 注: Explicit 接続モードのデフォルトのポートは、21 です。 • Implicit 接続モードでは、接続をセキュア FTP 接続として確立します。アダプターとサーバー間のすべての通信は、セキュア・モードで続きます。アダプターとサーバー間で平文情報の交換はありません。 注: Implicit 接続モードのデフォルトのポートは、990 です。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「ローカル・アーカイブ用の障害ファイル拡張子」プロパティ (FailedArchiveExt)

正常に処理されなかったイベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトをアーカイブするために使用されるファイル拡張子。このプロパティは、LocalArchiveDirectory が有効で存在する場合にのみ使用されます。

表 75. 「ローカル・アーカイブ用の障害ファイル拡張子」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	fail
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイル内容のエンコード」プロパティ (FileContentEncoding)

EndBODelimiter プロパティに基づいたイベント・ファイルの読み取りで使用するエンコード、およびストリングから byte[] への変換時に使用されるエンコード。指定しない場合、アダプターは特定のエンコードを使用せずに読み取りを行おうとします。Java がサポートする任意のエンコード・セットを指定できます。

表 76. 「ファイル内容のエンコード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし

表 76. 「ファイル内容のエンコード」プロパティ特性 (続き)

プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「リモート・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティ (FTPRenameExt)

コネクタがリモート FTP ファイルをポーリングした後、アダプターがリモート FTP ファイルの名前変更に使用するファイル拡張子またはサフィックス。ファイルの名前変更を行うと、コネクタが次のポーリング周期で同じファイルをポーリングしないように設定できます。アダプターを、処理済みのイベント・ファイルの名前を変更して、そのファイルをアーカイブ・ディレクトリーに移動するように構成することができます。

表 77. 「リモート・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

鍵ストア・ファイル プロパティ (keyStorePath)

このプロパティでは、秘密鍵項目を含む鍵ストアのパスを指定します。

表 78. 鍵ストア・ファイル プロパティの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、(アダプターが稼働中の) アダプター・マシン上の鍵ストア・ファイルの絶対パスを指定します。鍵ストア・ファイルには、FTPS クライアントの秘密鍵項目が含まれます。また、対応する公開鍵の証明書チェーンも一緒に保存されます。鍵ストア・データは、SSL 接続の確立中にクライアント ID を認証するために使用されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

鍵ストア・パスワード プロパティ (keyStorePassword)

このプロパティでは、鍵ストアの暗号化に使用されるパスワードを指定します。

表 79. 鍵ストア・パスワード プロパティの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String

表 79. 鍵ストア・パスワード プロパティの特性 (続き)

使用法	このプロパティでは、鍵ストアのパスワードを指定します。このパスワードは、鍵ストア・データの保全性のチェックに使用されます。値が指定されていない場合、保全性チェックは実行されません。このプロパティは、プロトコルの値が FTP over SSL または FTP over TLS に設定されている場合にのみ適用されます。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

鍵パスワード プロパティ (keyPassword)

このプロパティでは、鍵の暗号化に使用されるパスワードを指定します。

表 80. 鍵パスワード プロパティの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、鍵ストアから鍵をリカバリーするために使用される鍵のパスワードを指定します。このプロパティは、プロトコルの値が FTP over SSL または FTP over TLS に設定されている場合にのみ適用されます。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

鍵ストア・タイプ プロパティ (keyStoreType)

このプロパティでは、鍵ストアのタイプを指定します。

表 81. 鍵ストア・タイプ プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	JKS および PKCS12
デフォルト	JKS
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、鍵ストアのタイプを指定します。このプロパティは、プロトコルとして FTP over SSL または FTP over TLS を選択した場合にのみ適用されます。このプロパティは、トラストストアのタイプにも適用されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

トラストストア・ファイル プロパティ (trustStorePath)

このプロパティでは、アダプターによって信頼された FTPS サーバーの証明書を含むトラストストア・ファイルのパスを指定します。

表 82. トラストストア・ファイル プロパティの特性

必須	このプロパティは、プロトコルを FTP over SSL または FTP over TLS として設定した場合にのみ適用されます。
デフォルト	なし

表 82. トラストストア・ファイル プロパティの特性 (続き)

プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、(アダプターが稼働中の) アダプター・マシン上のトラストストア・ファイルの絶対パスを指定します。トラストストア・ファイルは、アダプターによって信頼される FTPS サーバーの証明書を含み、SSL 接続の確立中にサーバー ID を認証するために使用されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

トラストストア・パスワード プロパティ (trustStorePassword)

このプロパティでは、トラストストアのパスワードを指定します。

表 83. トラストストア・パスワード プロパティの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、トラストストアのパスワードを指定します。このパスワードは、トラストストア・データの保水性のチェックに使用されます。値が指定されていない場合、保水性チェックは実行されません。このプロパティは、プロトコルの値が FTP over SSL または FTP over TLS に設定されている場合にのみ適用されます。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

未変更ファイルのポーリング時間間隔 (fileUnchangedTimeInterval)

このプロパティは、内容が更新されているかどうかを調べるために、アダプターがファイルをモニターする時間間隔を指定します。アダプターは、指定された時間間隔内に変更されなかったファイルのみをポーリングします。

表 84. 未変更ファイルのポーリング時間間隔 (Time interval for polling unchanged file)

必須	いいえ
デフォルト	0
計測単位	ミリ秒
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	このプロパティは、アダプターが、指定された時間間隔の間にイベント・ディレクトリーで変更されていないファイルのみをポーリングできるようにします。このプロパティが選択されると、アダプターは、ポーリング周期中に未変更のファイルを取得します。アダプターは、現在編集集中のファイルもポーリングしますが、そのファイルを最後に保存したときに存在していたファイル内容のみを取得します。 値が「0」に設定されていると、アダプターはファイルをただちにポーリングし、ファイルが変更されているかどうかを検査しません。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「内容ではなくファイル名およびディレクトリーのための受け渡し」プロパティー (FilePassByReference)

イベント・ファイルのファイル内容をエクスポートに送信しないことを指定する。

true に設定する場合、ファイルにタイム・スタンプが付加され、LocalArchiveDirectory に送信されます。タイム・スタンプにより、同じ名前で別のファイルが受信される場合に起きる、エラーやファイルの上書きを回避できます。このプロパティーを true に設定できるのは、LocalArchiveDirectory プロパティーを設定する場合で、指定したディレクトリーが存在する場合のみです。このプロパティーは、PassThrough Inbound 処理でのみ使用されます。有効にすると、ファイルはチャンクに分割されません。

表 85. 「内容ではなくファイル名およびディレクトリーのための受け渡し」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティー・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「ファイル転送タイプ」プロパティー (FileTransferType)

Inbound 処理時に使用されるファイル転送タイプ。ASCII または binary のいずれかの設定値を受け入れます。

表 86. 「ファイル転送タイプ」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	binary
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	no

「一度に取得するファイル数」プロパティー (FTPGetQuantity)

リモートでのポーリングごとに、リモート FTP URL から取得するファイルの数を決定する。

表 87. 「一度に取得するファイル数」プロパティー特性

必須	はい
デフォルト	10
プロパティー・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

「各ダウンロード間のポーリング期間の数」プロパティー (FTPPollFrequency)

アダプターが FTP サーバーをポーリングする頻度 (標準のポーリング周期の数で測定される) を決定する。例えば、PollPeriod を 10000 に設定し、FTPPollFrequency を 6 に設定した場合、アダプターは LocalEventDirectory を 10 秒ごとにポーリングし、リモートの EventDirectory を 60 秒ごとにポーリングします。アダプターが

FTP のポーリングを行うのは、このプロパティに値を指定した場合のみです。PollPeriod が 0 の場合は、1 として計算します。計算により 0 と評価された場合、アダプターは FTP のポーリングを行いません。

表 88. 「各ダウンロード間のポーリング期間の数」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	5
プロパティ・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

失敗したイベントの再試行制限 (FailedEventRetryLimit)

このプロパティは、アダプターがイベントの再送信を試みる回数を指定します。この回数に達すると失敗とマークされます。

表 89. 「失敗したイベントの再試行制限」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	整数
デフォルト	5
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	<p>このプロパティは、この回数以上は失敗とマークする場合の、アダプターがイベントを送信する回数を指定する時に使用します。以下のいずれかの値を取ります。</p> <p>デフォルト このプロパティが設定されない場合、アダプターは、イベント送信失敗の後、さらに 5 回イベントの送信を試み、それでも送達できない場合にイベントを失敗とマーク付けします。</p> <p>0 アダプターは、回数無制限でイベントの送信を試行します。このプロパティが 0 に設定されると、イベントはイベント・ストアに残されたままになり、イベントが失敗とマークされることはなくなります。</p> <p>> 0 正の整数の場合、アダプターは、指定した回数再試行を行った後、イベントを失敗とマークします。</p> <p>< 0 負の整数の場合、アダプターは失敗したイベントの送信を再試行しません。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「ファイルのダウンロード後に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedAfterInbound)

FTP サーバーからのファイルのダウンロード後に実行されるスクリプト・ファイルのパスを指定します。

表 90. 「ファイルのダウンロード後に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ特性

必須	いいえ
----	-----

表 90. 「ファイルのダウンロード後に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ特性 (続き)

デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイルのダウンロード前に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedBeforeInbound)

FTP サーバーからのファイルのダウンロード前に実行されるスクリプト・ファイルのパスを指定します。

表 91. 「ファイルのダウンロード前に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ホスト名」プロパティ (HostName)

Inbound 処理時に接続の確立先となる FTP サーバーのホスト名。

表 92. 「テーブル作成」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ (IncludeEndBODelimiter)

true に設定する場合、さらに処理を行うため、ビジネス・オブジェクトの内容と一緒に区切り文字が送信されます。このプロパティは、区切り文字に基づいてイベント・ファイルを分割する場合にのみ有効です。

表 93. 「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「ローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (LocalArchiveDirectory)

ローカル・アーカイブ・ディレクトリーの絶対パス。ディレクトリーは、有効で、存在している必要があります。

表 94. 「ローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	<p>WebSphere Application Server 環境変数を使用して、ローカル・アーカイブ・ディレクトリーを表すことができます。\$ 記号の後に、環境変数の名前を中括弧で囲んで指定します。例えば、\${LOCALARCHIVE_DIRECTORY} です。この資料のhttp://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/tbp_ftp_defineenvironvars.htmlについてのトピックを参照してください。</p> <p>注: アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、LocalArchiveDirectory を手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。</p>
グローバル化	はい

「ローカル・ディレクトリー」プロパティー (LocalEventDirectory)

アダプターが FTP サイトからダウンロードしたイベント・ファイルを格納するローカル・システム・ディレクトリー。アダプターがイベントを処理できるようにするために、このプロパティーに値を指定する必要があります。

表 95. 「ローカル・ディレクトリー」プロパティー特性

必須	はい
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	<p>WebSphere Application Server 環境変数を使用して、ローカル・イベント・ディレクトリーを表すことができます。\$ 記号の後に、環境変数の名前を中括弧で囲んで指定します。例えば、\${LOCAL_DIRECTORY} です。この資料のhttp://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/tbp_ftp_defineenvironvars.htmlについてのトピックを参照してください。</p> <p>注: アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、LocalEventDirectory を手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。</p>
グローバル化	はい

最大接続数 (Maximum connections) (MaximumConnections)

このプロパティーでは、アダプターが Inbound イベント送達に使用できる接続の最大数を指定します。

表 96. 「最大接続数 (Maximum connections)」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	1
プロパティー・タイプ	Integer

表 96. 「最大接続数 (Maximum connections)」の詳細 (続き)

使用法	正の値のみが有効です。アダプターは、1 より小さい正の入力値を 1 であるとみなします。このプロパティーに対して負の値を入力すると、ランタイム・エラーが発生することがあります。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

最小接続数 (Minimum connections) (MinimumConnections)

このプロパティーでは、アダプターが Inbound イベント送達に使用できる接続の最小数を指定します。

表 97. 「最小接続数 (Minimum connections)」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	1
プロパティー・タイプ	Integer
使用法	正の値のみが有効です。1 より小さい値は、アダプターによって 1 として処理されます。このプロパティーに対して負の値または 1 を入力すると、実行時エラーが発生することがあります。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「ローカル・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティー (OriginalArchiveExt)

オリジナル・イベント・ファイルをアーカイブするために使用されるファイル拡張子。このファイルには、ビジネス・オブジェクトのいずれかが失敗した場合の参照用にイベント・ファイル全体が保存されます。このプロパティーは、LocalArchiveDirectory が有効で存在する場合にのみ使用されます。

表 98. 「ローカル・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	original
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	はい

「パスワード」プロパティー (Password)

FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーのパスワード。EventDirectory プロパティーで指定した URL にパスワードが含まれている場合は、このプロパティーに値を指定する必要はありません。

表 99. 「パスワード」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	なし

表 99. 「パスワード」プロパティ特性 (続き)

プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「イベント DataSource に接続するのに使用されるパスワード」プロパティ (EP_Password)

データ・ソースからデータベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスで使用されるパスワード。

表 100. 「イベント DataSource に接続するのに使用されるパスワード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

ポーリング期間の間隔 (ポーリング間隔)

このプロパティでは、ポーリング期間中にアダプターが待機する時間の長さを指定します。

表 101. 「ポーリング期間の間隔」の詳細

必須	はい
使用可能な値	0 以上の整数
デフォルト	2000
計測単位	ミリ秒
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	ポーリング期間は一定の割合で確立されます。つまり、ポーリング周期の実行が何らかの理由で遅延すると (例えば、前のポーリング周期が完了するまでに予想より時間がかかった場合)、遅延によって失った時間を取り戻すために次のポーリング周期がすぐに開始されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ポーリング期間内の最大イベント数 (ポーリング数量)

このプロパティでは、各ポーリング期間中にアダプターがエクスポートに配信するイベント数を指定します。

表 102. 「ポーリング期間内の最大イベント数」の詳細

必須	はい
デフォルト	10
プロパティ・タイプ	Integer

表 102. 「ポーリング期間内の最大イベント数」の詳細 (続き)

使用法	値は 0 より大きくする必要があります。この値を大きくすると、ポーリング期間ごとに処理されるイベントの数が増加し、アダプターのパフォーマンス効率が低下する場合があります。この値を小さくすると、ポーリング期間ごとに処理されるイベントの数が減少し、アダプターのパフォーマンスが若干向上することがあります。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

パズフレーズ・プロパティ (passPhrase)

このプロパティは、秘密鍵を暗号化して、拡張セキュリティのために使用されます。

表 103. パズフレーズ・プロパティ プロパティの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	拡張セキュリティに使用されます。これは、SFTP 構成の中で秘密鍵を暗号化することによって、秘密鍵を保護します。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

「ポート番号」プロパティ (PortNumber)

Inbound 処理時に接続の確立先となる FTP サーバーのポート番号。

表 104. 「ポート番号」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	Explicit モードの FTP および FTPS の場合は 21、Implicit モードの FTPS の場合は 990、SFTP の場合は 22 です。
プロパティ・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

秘密鍵ファイル・プロパティ (PrivateKeyFilePath)

このプロパティによって、秘密鍵を参照して選択することができます。その秘密鍵は、セキュア・シェル・サーバーに対する認証に使用されます。

表 105. 「秘密鍵」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	秘密鍵を格納するファイルの絶対パス。ユーザーをセキュア・シェル・サーバーに認証させるために使用されます。
例	c:\temp\key.ppk

表 105. 「秘密鍵」プロパティ特性 (続き)

グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

「プロトコル」プロパティ (Protocol)

確立する接続が通常の FTP 接続か、またはセキュア FTP 接続かを定めるプロトコル。

例:

通常接続: FTP

FTP over SSL 接続: FTPS_SSL

FTP over TLS 接続: FTPS_TLS

FTP over SSH 接続: SFTP

表 106. 「プロトコル」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	FTP
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「リモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (FTPArchiveDirectory)

FTP サーバー上のアーカイブ・ディレクトリーの相対パス。ディレクトリーが存在している必要があります。このプロパティを使用してアーカイブを指定する場合には、いくつかのオプションがあります。

- このプロパティに値を指定したが、FTPRenameExt プロパティに値を指定しない場合、アダプターは、イベント・ファイル名にタイム・スタンプを付加し、ファイルをこのプロパティに指定された FTP サーバーのアーカイブ・ディレクトリーに移動します。
- このプロパティと FTPRenameExt プロパティの両方に値を指定した場合、アダプターは、処理済みのイベント・ファイルの名前をタイム・スタンプと FTPRenameExt に指定された値で変更し、ファイルをこのプロパティに指定された FTP サーバーのアーカイブ・ディレクトリーに移動します。
- このプロパティにも FTPRenameExt プロパティにも値を指定しない場合、アダプターは、処理済みのイベント・ファイルをアーカイブせずに削除します。
- このプロパティには値を指定せずに、FTPRenameExt プロパティに値を指定した場合、アダプターは処理済みのイベント・ファイルの名前を変更し、タイム・スタンプと FTPRenameExt に指定された値を追加します。

リモート・アーカイブ・ディレクトリー・プロパティーの値は、ディレクトリーの絶対パスと相対パスの両方を受け入れます。値がスラッシュで始まらない場合、アダプターは、パスがユーザーのホーム・ディレクトリーを基準とする相対パスであると見なします。

表 107. 「リモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	<p>WebSphere Application Server 環境変数を使用して、リモート・アーカイブ・ディレクトリーを表すことができます。\$ 記号の後に、環境変数の名前を中括弧で囲んで指定します。例えば、\${REMOTEARCHIVE_DIRECTORY} です。この資料のhttp://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/tbp_ftp_defineenvironvars.htmlについてのトピックを参照してください。</p> <p>FTP サーバーにあり、Inbound 構成で使用されるアーカイブ・ディレクトリーは、アーカイブ・ディレクトリーの絶対パスを表します。これにはホスト名または URL 情報は含まれません。このディレクトリーは、イベント・ディレクトリーが存在するのと同じ FTP サーバーにあります。例えば、/home/archive です。</p> <p>注: アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、FTPArchiveDirectory を手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。</p>
グローバル化	はい

「リモート・ディレクトリー」プロパティー (EventDirectory)

Inbound 処理のためにイベント・ファイルが取り出される FTP サーバーのリモート・ディレクトリー。リモート・ディレクトリーの値が <HOME_DIR> に設定されている場合、アダプターは、ユーザーのホーム・ディレクトリー内のイベント・ファイルをポーリングします。

イベント・ディレクトリー・プロパティーの値は、ディレクトリーの絶対パスと相対パスの両方を受け入れます。値がスラッシュで始まらない場合、アダプターは、パスがユーザーのホーム・ディレクトリーを基準とする相対パスであると見なします。

表 108. 「リモート・ディレクトリー」プロパティー特性

必須	はい
デフォルト	<HOME_DIR>
プロパティー・タイプ	String

表 108. 「リモート・ディレクトリー」プロパティー特性 (続き)

使用法	<p>WebSphere Application Server 環境変数を使用して、リモート・ディレクトリーを表すことができます。\$ 記号の後に、環境変数の名前を中括弧で囲んで指定します。例えば、<code>\${REMOTE_DIRECTORY}</code> です。この資料のhttp://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/tbp_ftp_defineenvironvars.html についてのトピックを参照してください。</p> <p>注: アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、EventDirectory を手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。</p>
グローバル化	はい

「このパターンを持つファイルの取得」プロパティー (EventFileMask)

イベント・ファイル用のフィルター。ファイルのフィルターは、英数字と * および ? のワイルドカードから成る適切な修飾の表現です。

表 109. 「このパターンを持つファイルの取得」プロパティー特性

必須	はい
デフォルト	*.*
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	はい

リモート検証有効プロパティー (enableRemoteVerification)

クライアントが FTP サーバーに接続するときは、2 種類の接続またはチャンネル、つまり、コマンド接続 (制御接続としても知られる) とデータ接続が確立されます。コマンド接続とは、クライアントが FTP コマンドをサーバーに送信し、またそれらのコマンドへの応答をサーバーから受信する接続で、データ接続とは、クライアントとサーバーの間でデータ転送が実行されるチャンネルのことです。

このプロパティーは、FTP サーバーとの間のデータ転送を要求するホスト・システムが、アダプターを実行しているホスト・システムと同じであるかどうかを検証するために使用されます。

この検証は、データ接続を確立し、データ転送を実行する間に行われます。

注: このプロパティーは、FTP プロトコルおよび FTPS プロトコルのみに適用可能です。

表 110. リモート検証有効プロパティーの特性

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	True
プロパティー・タイプ	Boolean

表 110. リモート検証有効プロパティの特性 (続き)

使用法	<p>このプロパティでは、データ接続と制御接続が同じホスト・システムから行われているかどうかを検証します。リモート検証プロパティは、デフォルトでは、FTP サーバーによって true に設定されています。</p> <p>このプロパティの設定内容によって、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true に設定されていると、実行時にアダプターは、データ接続が制御接続と同じホストで確立されているかどうかを検査します。データ接続が、制御接続とは別のホストから確立されていると、例外がスローされ、接続は失敗します。 • false に設定されていると、リモート検証は実行されません。 <p>注: リモート検証が使用不可に設定されると、セキュリティのレベルが低くなります。リモート検証を使用不可にする前にセキュリティの予防措置を取る必要があります。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

開始時に EIS 接続を再試行する (RetryConnectionOnStartup)

このプロパティは、アダプターが始動時に FTP サーバー に接続できない場合に、再度接続を試みるかどうかを指定します。

表 111. 「開始時に EIS 接続を再試行する」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティは、アダプターの始動時に、FTP サーバー に接続できない場合に、接続を再試行するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アダプターが、FTP サーバー に対する接続を確立できたかどうかに関するフィードバックを直ちに必要とする場合、例えば、アダプターからのイベントを受信するアプリケーションを作成し、テストしている場合は、このプロパティを False に設定します。アダプターが接続できない場合、アダプターは、ログおよびトレース情報を書き込んで、停止します。管理コンソールは、アプリケーション状況を Stopped と表示します。この場合、接続の問題を解決後、手動でアダプターを始動してください。 • 接続に関するフィードバックをすぐに必要としない場合は、このプロパティは True に設定します。アダプターが始動時に接続できない場合、アダプターはログおよびトレース情報を書き込んでから、RetryInterval プロパティで再試行の頻度を判別して再接続を試み、RetryLimit プロパティの値で指定された値に達するまで、再試行を複数回行います。管理コンソールは、アプリケーション状況を Started と表示します。
グローバル化	いいえ

表 111. 「開始時に EIS 接続を再試行する」の詳細 (続き)

BIDI 対応	いいえ
---------	-----

接続が失敗した場合の再試行間隔 (RetryInterval)

このプロパティーでは、アダプターが Inbound 接続に関連したエラーを検出した場合に、アダプターが新規接続を確立しようとするまで待機する時間の長さを指定します。

表 112. 再試行間隔の詳細

必須	はい
デフォルト	2000
計測単位	ミリ秒
プロパティー・タイプ	Integer
使用法	正の値のみが有効です。このプロパティーでは、アダプターが Inbound 接続に関連したエラーを検出した場合に、アダプターが新規接続を確立しようとするまで待機する時間の長さを指定します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

システム接続を再試行する回数 (RetryLimit)

このプロパティーでは、アダプターが Inbound 接続の再確立を試行する回数を指定します。

表 113. 「システム接続を再試行する回数」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	0 および正の整数
デフォルト	0
プロパティー・タイプ	Integer
使用法	このプロパティーは、アダプターが FTP サーバー に接続して Inbound 処理を実行できない場合に、接続を再試行する回数を指定します。値が 0 の場合は、再試行回数が無制限になることを指定します。 アダプターの当初始動時に、FTP サーバー に接続できない場合、アダプターが再試行するかどうかを制御するには、RetryConnectionOnStartup プロパティーを使用します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

サーバー検査を使用可能にする プロパティー (EnableServerVerification)

このプロパティーは、SFTP プロトコルのリモート・サーバー検査を使用可能にするために使用されます。

表 114. サーバー検査を使用可能にする プロパティの詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	このプロパティの設定内容によって、次のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> • True に設定されると、サーバー認証は使用可能です。 • False に設定されると、サーバー認証は使用不可です。 アダプターは、トラステッド・サーバーのホスト鍵を含むファイルのパス内の HostKeyFile プロパティを検査します。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

ホスト鍵ファイル プロパティ (HostKeyFile)

このプロパティでは、トラステッド・サーバーのホスト鍵を含むホスト鍵ファイルの絶対パスを指定します。

表 115. ホスト鍵ファイル プロパティの特性

必須	EnableServerVerification が使用可能の場合、このプロパティを指定する必要があります。
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	これは、このファイルに指定されているトラステッド・サーバーのホスト鍵でリモート・サーバーのホスト鍵を検査するために、アダプターが使用します。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

「ホスト名」プロパティ (SocksProxyHost)

アダプターの要求を FTP サーバーに送信する際に経由するプロキシー・サーバーとして使用されるマシンのホスト名。

表 116. 「ホスト名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「パスワード」プロパティ (SocksProxyPassword)

プロキシ・サーバーを認証するためのパスワード。

表 117. 「パスワード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ポート番号」プロパティ (SocksProxyPort)

アダプターの要求を FTP サーバーに送信する際に経由するプロキシ・サーバーのポート番号。

表 118. 「ポート番号」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	1080
プロパティ・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

「ユーザー名」プロパティ (SocksProxyUserName)

プロキシ・サーバーを認証するためのユーザー名。

表 119. 「ユーザー名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ソート・イベント・ファイル」プロパティ (SortEventFiles)

ポーリングされるイベント・ファイルのソート順を決定する。以下をサポートしています。

- ファイル名順 – ファイル名を基準に昇順にソート
- 日時順 – 最終変更日時のタイム・スタンプを基準に昇順でソート
- ソートなし – ソートされません

イベントを送信するためのイベント・ファイルの順序付けは、活動化仕様の `DeliveryType` プロパティが `ORDERED` に設定されている場合にのみ有効です。ファイル名のソートは、FTP サーバーのロケールに基づいて行われます。ロケールおよびそれに対応する規則の追跡には、`ICU4J` パッケージが使用されます。

表 120. 「ソート・イベント・ファイル」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	ソートなし (= ソートされません)

表 120. 「ソート・イベント・ファイル」プロパティ特性 (続き)

プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「ファイル内容を分割するための基準の指定」プロパティ (SplitCriteria)

このプロパティには、SplittingFunctionClassName プロパティの値に基づいた各種の値を指定する。例: 5 KB ごとにファイルを分割するように指定するには、SplitCriteria プロパティを 5000 に設定します。

- SplittingFunctionClassName プロパティで、区切り文字に基づいてファイルを分割することを指定する場合、SplitCriteria にはイベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトを分割する区切り文字を指定します。
- SplittingFunctionClassName をサイズに基づいた分割を行う値に設定する場合、SplitCriteria プロパティには、バイト単位のサイズを表す有効な数値を指定します。
 - イベント・ファイルのサイズがこの値より大きい場合、アダプターはファイルをこのサイズのチャンクに分割し、各チャンクが送られます。
 - イベント・ファイルのサイズがこの値より小さい場合、イベント・ファイル全体が送られます。SplitCriteria=0 の場合、チャンクへの分割は無効です。

Inbound PassThrough 時に FilePassByReference を有効にすると、イベント・ファイルは分割されません。

注: 複数の COBOL コピーブック・レコードを含む入力ファイルの場合、サイズによってファイル分割ができるように、それぞれのレコードの正しい長さを指定する必要があります。それぞれのレコードのサイズを判別するには、次のいずれかの方式を使用します。

1. テキスト・エディターでビジネス・オブジェクトを開きます。
 - a. 例:

```
<element name="CustomerNumber">
  <annotation>
    <appinfo source="http://www.ibm.com/cam/2005/typedescriptor">
      <td:typeDescriptorElement>
        <td:initialValue kind="SPACE"/>
        <td:simpleInstanceTD accessor="readWrite" attributeInBit="false"
          contentSize="5" offset="0" size="5">
          <td:sharedType>
            <td:stringTD addrUnit="byte" alignment="byte" characterSize="1"
              lengthEncoding="fixedLength" paddingCharacter=" "
              prefixLength="0" width="5"/>
            </td:sharedType>
          </td:simpleInstanceTD>
        </td:typeDescriptorElement>
      </appinfo>
    </annotation>
  <simpleType>
    <restriction base="string">
      <maxLength value="5"/>
    </restriction>
  </simpleType>
</element>
```

ビジネス・オブジェクト内の各エレメントには、対応する <element> エレメントがあります。

- b. 各エレメント・タグの制限タグを見つけます (COBOL データ・バインディングには固定長のデータ・ハンドラーが必要です)。
 - c. 各エレメントの maxLength 属性値を加算します。この例では、値は 5 です。maxLength 値の合計は、タイプが DFHCOMMAREA の各レコードのサイズです。
2. テキスト・エディターでビジネス・オブジェクトを開きます。
 - a. 名前属性にビジネス・オブジェクト名の値を持つ複合タイプ・タグを見つけます。次の例では、ビジネス・オブジェクト名は DFHCOMMAREA です。
 - b. 名前空間が追加された、aggregateInstanceTD という名前のタグを見つけ、属性 contentSize の値を使用します。この例では、値は 117 です。これは、タイプ DFHCOMMAREA のそれぞれのレコードのサイズです。

```
<complexType name="DFHCOMMAREA">
  <annotation>
  <appinfo source="http://www.ibm.com/cam/2005/typedescriptor">
  <td:typeDescriptorCT>
  <td:aggregateInstanceTD accessor="readWrite" attributeInBit="false"
  contentSize="117" offset="0" size="117">
```

表 121. 「ファイル内容を分割するための基準の指定」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	0
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「分割関数クラス名」プロパティ

この値には、ファイル分割を有効にするために使用するクラス・ファイルの完全修飾クラス名を指定する。以下の 2 つの値が必要です。

- 区切り文字に基づいてイベント・ファイルを分割する
com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitByDelimiter クラス。
- イベント・ファイル・サイズに基づいてイベント・ファイルを分割する
com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize クラス。

オプションで、カスタムのファイル分割クラスを指定し、そのクラス名を SplittingFunctionClassName プロパティに入力することによって使用することができます。

区切り文字またはファイル・サイズは、SplitCriteria プロパティで指定します。EventContentType プロパティが null に設定されている場合、ファイル・サイズに基づいて分割を実行するクラス名に自動的に設定されます。

表 122. 「分割関数クラス名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する (StopPollingOnError)

このプロパティーでは、ポーリング時にアダプターがエラーを検出した場合、アダプターがイベントのポーリングを停止するかどうかを指定します。

表 123. 「ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティー・タイプ	Boolean
使用法	このプロパティーを True に設定した場合、アダプターはエラーを検出するとポーリングを停止します。 このプロパティーを False に設定した場合、アダプターはポーリング時にエラーを検出すると例外をログに記録し、ポーリングを続行します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「ローカル・アーカイブ用の成功ファイル拡張子」プロパティー (SuccessArchiveExt)

正常に処理されたビジネス・オブジェクトすべてをアーカイブするために使用されるファイル拡張子。このプロパティーは、LocalArchiveDirectory が有効で存在する場合にのみ使用されます。例: 12345.order > 12345.order.success

表 124. 「ローカル・アーカイブ用の成功ファイル拡張子」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	success
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	はい

「ユーザー名」プロパティー (UserName)

FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーの名前。EventDirectory プロパティーで指定した URL にユーザー名が含まれている場合は、このプロパティーに値を指定する必要はありません。

表 125. 「ユーザー名」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	はい

「イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名」プロパティ (EP_UserName)

データ・ソースからデータベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するユーザー名。

表 126. 「イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター

このプロパティは、一定のルール・セットに基づいてイベント・ファイルをフィルター処理する場合に使用されます。

表 127. ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター

必須	任意指定
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	Inbound 処理時に、ルール・テーブルの値が指定されている場合、指定されたルールに基づいてフィルター処理後、イベント・ファイルを取り出してから、これらのイベント・ファイルのポーリングを行います。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

FTP または FTPS サーバーへの再接続時にファイル転送を再開する

WebSphere Adapter for FTP は FTP サーバーへの接続エラーのために中断されたファイル転送の再開をサポートします。接続が再確立したときに、前の転送中に中断した位置からファイル転送を再開できます。この機能は、大規模なファイルのダウンロードまたはアップロードを行うときに便利です。

作成操作中に、FTP サーバーへの接続が切断されると、アダプターによって `FTPFileTransferInterruptedException` が返されます。ファイルの転送を再開するには、要求が FTP アダプターに再実行依頼される必要があります。ラッパー・オブジェクト内で `ResumeFailedTransfer` プロパティを `true` に設定し、ファイルの転送を再開するようにアダプターに指示します。アダプターは、FTP サーバーへの接続が再確立されると、FTP サーバーで作成されているファイルの転送を再開します。

注: `ResumeFailedTransfer` プロパティは `Outbound` 処理にのみ適用できます。ファイル転送再開のサポートは `Outbound` 作成操作でのみ提供されます。

同様に、`Inbound` 操作の場合、アダプターは、部分的にダウンロードされたファイルを追跡し、接続が再確立された後でファイルのダウンロードを再開します。アダプターは、ファイルをローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードしてい

る間、「.partial」という拡張子を付けてそのファイルを保存し、ファイルがローカル・イベント・ディレクトリーに完全に取得されると、そのファイルを元のファイルの名前に変更します。

接続エラーが原因で転送が中断したファイルは、FTP サーバーに完全に転送されるまでは変更しないでください。また、アダプターによって作成された、部分的にアップロードまたはダウンロードされたファイルは、完全に転送されるまでは変更しないでください。

注:

1. FTP または FTPS サーバーは、ファイルの転送を再開するための REST FTP コマンドをサポートします。
2. ファイルの転送を再開する機能は、SFTP プロトコルではサポートされません。

詳しくは、12 ページの『Wrapper および対話仕様プロパティー』内の ResumeFailedTransfer プロパティーの詳細を参照してください。

Outbound データ変換

Outbound 通信時のデータ変換とは、アダプターがビジネス・オブジェクトをネイティブ・フォーマットで作成されたイベント・レコード (バイトまたはストリングなど) に変換するために使用するプロセスを指します。アダプターは、アダプター固有のデータ・バインディングおよびデータ・ハンドラーを使用してこの変換を行います。

データ変換によって、外部アプリケーションは、容易に理解および処理できる形式でデータを送受信できます。アダプターがビジネス・オブジェクト内の対応する属性からイベント・レコードを作成するために使用するデータ・バインディングおよびデータ・ハンドラーは、WebSphere Integration Developer の外部サービス・ウィザードを使用して構成されます。

データ・バインディング

データ・バインディングとは、基本的にはビジネス・オブジェクトのフォーマット設定方法を定義したマップです。データ・バインディングは、ビジネス・オブジェクトのフィールドを読み取って、イベント・レコード内の対応するフィールドに書き込む役割があります。各データ・バインディングは、ビジネス・オブジェクトのフォーマット設定方法を定義したマップです。Adapter for FTPは、Outbound 通信時に FTPFileBaseDataBinding データ・バインディングを使用します。

Outbound 通信時に、データ・バインディングはビジネス・オブジェクト内の以下のフィールドを使用して、イベント・レコード内の相当するフィールドに値を取り込みます。

- DirectoryPath
- Filename
- TemporaryFilename
- DataConnectionMode
- FileTransferType
- DataProtectionLevel

- SecondServerDirectory
- SecondServerUsername
- SecondServerPassword
- IncludeEndBODElimiter
- ResumeFailedTransfer
- FileInLocalDirectory
- LocalDirectoryPath
- LocalArchivingEnabledForCreate
- LocalArchiveDirForCreate
- StagingDirectory
- GenerateUniqueFile
- SplittingFunctionClassName
- SplitCriteria
- DeleteOnRetrieve
- ArchiveDirectoryForRetrieve
- FileContentEncoding

変換する必要のないデータの場合、データは変更されずにシステムを通過するため、アダプターはパススルー処理を実行します。

データ・ハンドラー

データ変換では、データ・バインディングのほかにデータ・ハンドラーも使用する必要があります。データ・ハンドラーは、ビジネス・オブジェクトとネイティブ・フォーマットの間の変換を実行します。バージョン 6.2 以降の WebSphere Adapter for FTP では、以下のデータ・ハンドラーが提供されます。

- 区切り形式
- 固定幅
- XML

Inbound 処理

Adapter for FTP では、イベントの Inbound 処理をサポートしています。アダプターは、イベントに対して指定された間隔で、FTP サーバーに関連付けられたファイル・システムをポーリングします。ファイルがイベント・ディレクトリーに作成されるたびに、アダプターはこれをイベントとして追跡します。アダプターは、イベントを検出すると、ファイルのコピーを要求し、ファイル・データをビジネス・オブジェクトに変換して、利用するサービスに送信します。

以下の図は、WebSphere Adapter for FTP の Inbound 処理フローを示しています。

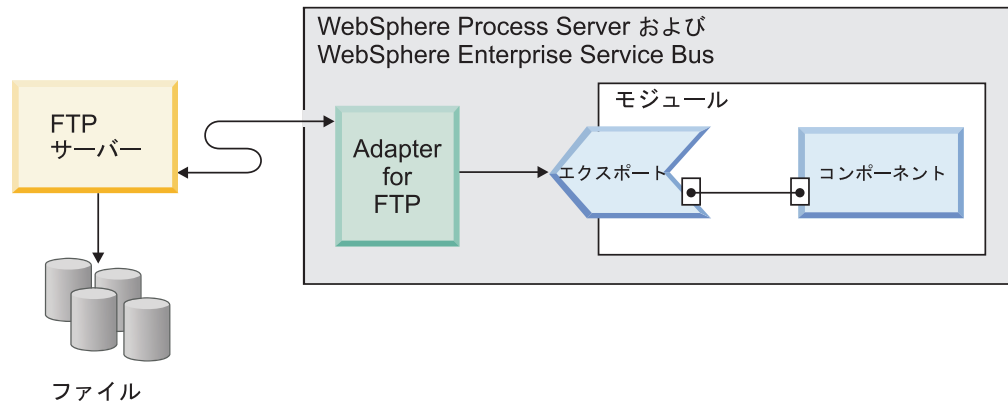


図 13. Inbound 処理フロー

アダプターは、FTPPollFrequency プロパティに基づいて定期的に、FTP サーバーのイベント・ディレクトリーのファイルをポーリングします。ファイルがイベント・ディレクトリーに到達すると、アダプターは、ファイル全体を読み取って、このファイルをアダプター・ワークステーション上のローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードします。アダプターは、ファイルを一度に 1 つずつ順番に FTP サーバーからダウンロードします。すべてのファイルを同時にダウンロードすることはできません。ファイルがダウンロードされた後、アダプターは、FTPArchiveDirectory プロパティで指定された FTP サーバーのアーカイブ・ディレクトリーにファイルをアーカイブするか、またはユーザー構成に基づいてファイルを削除します。イベント・ディレクトリー、アーカイブ・ディレクトリー、ポーリング頻度、およびポーリング数量 (1 回のポーリング周期でポーリングするファイルの数) は、すべて構成可能なプロパティです。

注: リモート・ディレクトリーの値が <HOME_DIR> に設定されている場合、アダプターは、ユーザーのホーム・ディレクトリー内のイベント・ファイルをポーリングします。

注: イベント・ディレクトリー・プロパティの値は、ディレクトリーの絶対パスと相対パスの両方を受け入れます。値がスラッシュ (/) で始まらない場合、アダプターは、パスがユーザーのホーム・ディレクトリーを基準とする相対パスであると見なします。

例えば、リモート・ディレクトリー・プロパティの値が「ftpuser/event」に設定されている場合、アダプターは、その値がユーザーのホーム・ディレクトリーを基準とする相対パスであると見なします。ホーム・ディレクトリーが「/usr/ftp」に設定されている場合、アダプターはイベント・ファイル用にディレクトリー「/usr/ftp/ftpuser/event」をポーリングします。

ビジネス・オブジェクトが正常にエクスポートに通知された後、ローカル・ステージング・ディレクトリーのイベントは、ローカル・ファイル・システム上のアーカイブ・ディレクトリー内にアーカイブされるか、または構成に基づいて削除されます。アダプターは、イベントをアーカイブするか削除する必要があります。そうしないと、イベントは再びポーリングされます。

Inbound イベント処理は、次のステップで構成されます。

1. FTP サーバーが、ファイルのフォーマットでイベントを生成します。

2. Adapter for FTP が、イベント・ディレクトリーをポーリングします。
3. ファイルがアダプターにダウンロードされます。
4. `SplittingFunctionClassName` プロパティーおよび `SplitCriteria` プロパティーに基づいて、ファイルが分割されます。イベント・ファイルは数個のチャンクに分割され、それぞれのチャンクはエクスポートに対して別々に通知されます。これにより、イベント処理時のメモリー・ロードを削減します。
 - 区切り文字に基づいて分割を行う場合は、この機能を実行するクラスおよび分割基準が提供されます。
 - ファイル・サイズに基づいて分割を行う場合は、この機能を実行するクラス名が提供されます。
 - 他の基準に基づいて分割を行う場合は、専用のファイル分割クラスを提供する必要があります。
5. アダプターは、関数セクターを介して、ポーリングされた文書の場所およびファイルの取得先であるマシンのホスト名を含むデータを、エクスポートに送信します。関数セクターでは、構成済みのデータ・バインディングを呼び出して、テキスト・レコードをビジネス・オブジェクトに変換します。

FTP スクリプトを使用したファイルの処理

WebSphere Adapter for FTP は、ポーリング中にイベント・ディレクトリーからダウンロードされたファイルを処理するほかに、FTP スクリプトを使用してダウンロードされたファイルを処理するためにも使用できます。

プロパティー 79 ページの『「ファイルのダウンロード前に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティー (`FTPScriptFileExecutedBeforeInbound`)』 および 78 ページの『「ファイルのダウンロード後に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティー (`FTPScriptFileExecutedAfterInbound`)』 を使用して、イベント・ディレクトリーをポーリングする前または後に FTP スクリプトを実行するように指定できます。スクリプト・ファイルには、FTP サーバー上のリモート・ディレクトリーから、アダプターがインストールされているマシンのローカル・イベント・ディレクトリーにファイルをダウンロードするために `mget` や `get` などの FTP コマンドを組み込むことができます。WebSphere Adapter for FTP は、活動化仕様プロパティーで構成されたローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードされるファイルを処理し、処理済みのビジネス・オブジェクトをコンシューム側サービスに送信します。

次にスクリプトの例を示します。

```
!cd C:%FTPAdapter%localevent
cd /ftpDir1
mget *.txt
cd /ftpDir2
get abc.xml
```

`C:%FTPAdapter%localevent` は WebSphere Adapter for FTP のローカル・イベント・ディレクトリーであり、`ftpDir1` および `ftpDir2` は FTP サーバーにあるディレクトリーです。アダプターはスクリプトを実行し、ファイルをローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードします。その後でアダプターはファイルを処理し、コンシューム側サービスにそれを送信します。

注:

1. このスクリプトを使用してダウンロードされたファイルは、アダプターで処理できるように、構成済みのローカル・イベント・ディレクトリーに置く必要があります。スクリプトを使用して何らかのファイルをダウンロードする前に、FTP コマンド `lcd` を使用して、ローカル作業ディレクトリーを `localEventDirectory` に変更しておく必要があります。
2. `mget` または `get` コマンドを使用してローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードされたファイルは、ダウンロード後に FTP アダプターによって FTP サーバーから削除されます。これは、次のポーリング周期中にファイルが再度ダウンロードされないようにするためです。
3. このスクリプト・ファイルは、リモート・ディレクトリーからのファイルのダウンロードのみに使用し、FTP アダプターのイベント・ディレクトリーからのダウンロードには使用しないでください。

サポートされる Inbound 操作

アダプターでは、`emitFTPFile` 操作をサポートしています。これは、Inbound 構成時のデフォルト操作として実行されます。

イベント・ファイル・ロック

ファイル・ロック動作は、オペレーティング・システムによって異なります。Windows では、アダプターによってイベント・ディレクトリーからポーリングされているファイルのいずれかが、別のアプリケーションによって使用されていて、イベント・ディレクトリーへのコピー中である場合、それらのファイルをアダプターで処理することはできません。

しかし、AIX などの UNIX 環境には、書き込み中のファイルにアプリケーションがアクセスできないようにするファイル・ロック機構はありません。別のアプリケーションによってイベント・ディレクトリーにコピーされているファイルをアダプターから処理できるため、エラーが発生するおそれがあります。Java には、ファイルが書き込み中であるかどうかを確認するプラットフォーム固有の方法は存在しません。

この状態を発生させないためには、先にイベント・ファイルをステージング・ディレクトリーにコピーしてから、移動コマンドを使用してイベント・ディレクトリーに移動させます。UNIX スクリプトのサンプルが、アダプターの一部としていくつか用意されています。アダプター・インストーラーの `Unix-script-file` フォルダーから、`CheckIfFileIsOpen.sh` というスクリプト・ファイルを入手できます。

ルール・ベースのイベントのフィルター処理

アダプターでは、Inbound 処理についてオプションのルール・ベースのイベント・フィルター処理をサポートしています。イベントのフィルター処理は、複数のルールに基づいて実行できます。こうしたルールを組み合わせで定義し、ブール論理でそれらをグループ化し、以下のメタデータを使用してイベントをフィルター処理することができます。

- `FileName`
- `File Size`

- Last Modified

例えば、「*FileName* "MatchesFilePattern" *.txt」の形を使用できます。*FileName* はプロパティ・タイプ、「MatchesFilePattern」は演算子、「*.txt」が値です。

ルールの使用はオプションで、イベント・ファイル・マスクの指定は必須ですが、ルールとイベント・ファイル・マスクの両方が指定された場合は、イベント・ファイル・マスクよりもルールの方が優先順位は上になります。イベント・ファイル・マスクが有効になるのは、ルールが指定されていない場合に限られます。デフォルトでは、イベント・ファイル・マスクには、デフォルト値として、「*.*」が設定されます。

ルール・ベースのフィルター処理では、複数ルール間の論理「OR」演算子値はサポートされません。

注: EIS が MVS プラットフォーム上にある場合、アダプターではルール・ベースのフィルター処理をサポートしません。

表 128. メタデータのフィルター・プロパティ

プロパティ	有効な演算子	値	前提条件
FileName	Matches_File_Pattern	例: *.txt	なし
	Matches_RegExp	Java 正規表現	
FileSize	Greater than (より大か等しい)、Less than (より小)、Greater than or equal to (より大か等しい)、Less than or equal to (より小か等しい)、Equal to (等しい)、Not equal to (等しくない)。	バイト単位の数値。例: 10000	なし
LastModified	Greater than (より大か等しい)、Less than (より小)、Greater than or equal to (より大か等しい)、Less than or equal to (より小か等しい)、Equal to (等しい)、Not equal to (等しくない)。 注: 曜日を選択する際には、「Equal to」演算子を選択します。	曜日または時刻。例: MONDAY または 20:41:10	なし
END-OF-RULE	END-OF-RULE	END-OF-RULE	なし

Wrapper および対話仕様プロパティ

Wrapper プロパティは Wrapper ビジネス・オブジェクトの属性で、Wrapper ビジネス・オブジェクトによって、アプリケーション・プログラマーはラッパーの中のビジネス・オブジェクトの操作を制御できます。対話仕様プロパティは、全体のアダプターの操作の対話を制御します。

アダプターの構成時には、外部サービス・ウィザードによって対話仕様プロパティを設定します。これらのプロパティには、変更可能なものもありますが、すべてを変更することはできません。ただし、Outbound 操作の一部のプロパティは変更できます。アセンブリー・エディターを使用して、インポートのメソッド・バイ

ンディングに存在するこれらのプロパティーを変更します。Wrapper プロパティーは、WebSphere Integration Developer テスト・クライアントを使用して設定するか、実行時にプログラムで設定します。

以下の表は、Wrapper および対話仕様プロパティーをリストしています。各プロパティーの完全な説明は、表に続くセクションで説明します。これ以降のセクションのプロパティーの詳細表を読む方法については、『プロパティー詳細についてのガイド』を参照してください。

表 129. 対話仕様プロパティー

プロパティー名		説明
ウィザード内	ラッパー・ビジネス・オブジェクト内	
Retrieve 操作のリモート・アーカイブ・ディレクトリー	ArchiveDirectoryForRetrieve	アダプターは、ファイルを Retrieve 操作中に削除される前に、このフォルダーにオプションでアーカイブする。
ファイルが存在しない場合に新規ファイルを作成する	CreateFileIfNotExists	ファイルが FTP サーバーに存在しない場合、Append および Overwrite 操作中にこのプロパティーが true に設定されていると、アダプターはファイルを作成する。
FTP サーバー接続モード	DataConnectionMode	FTP サーバーがファイル転送時に使用するデータ接続モード。
retrieve 操作後のファイルの削除	DeleteOnRetrieve	このプロパティーが true に設定されている場合、アダプターは、ファイルを取得した後、FTP サーバーからファイルを削除する。
FTP システム上のリモート・ディレクトリー	DirectoryPath	Outbound 操作を実行する必要がある FTP サーバー上のディレクトリーの絶対パス。
103 ページの『データ・チャネル保護レベル (dataProtectionLevel)』	dataProtectionLevel	FTPS プロトコルの場合、データ・チャネルの保護レベルを指定します。
ファイル内容のエンコード	FileContentEncoding	ファイルへの書き込み中に使用されるエンコード。
ローカル・ディレクトリー内のファイル	FileInLocalDirectory	Create 操作時に true に設定されている場合、アダプター・ワークステーションのローカル・ディレクトリー・パスからファイル内容が取り出される。
デフォルト・ターゲット・ファイル名	Filename	DirectoryPath プロパティーで指定されたディレクトリー内のファイルの名前。
ファイル転送タイプ	FileTransferType	Outbound 操作時に使用されるファイル転送タイプ。
固有ファイルの生成	GenerateUniqueFile	アダプターは、このプロパティーが true に設定されている場合、固有ファイル名を作成する。
ホスト名プロパティー	SecondServerHostName	2 次 FTP サーバーのホスト名。
「ファイル内のビジネス・オブジェクト間の区切り文字」プロパティー	IncludeEndBODelimiter	この値がファイルの内容に付加される。

表 129. 対話仕様プロパティ (続き)

Create 操作のローカル・アーカイブ・ディレクトリー	LocalArchiveDirForCreate	Create 操作時に LocalArchivingEnabledForCreate が true に設定されている場合、このディレクトリーのローカル・ワークステーションにファイルが保存される。
Create 操作のローカル・ディレクトリーへのファイルのアーカイブ	LocalArchivingEnabledForCreate	true に設定されている場合、ファイルは Create 操作時にローカル・ワークステーションに保存される。
ローカル・ディレクトリー	LocalDirectoryPath	このディレクトリーからファイルが取り出される。
(なし)	ResumeFailedTransfer	作成操作時にこのプロパティが true に設定されていると、アダプターは、接続エラーのためにファイル転送が中断された位置からファイル転送を再開します。
ポート番号	SecondServerPortNumber	2 次 FTP サーバーのポート番号。
プロトコル	SecondServerProtocol	2 次サーバーへの接続に使用されるプロトコルを指定します。
スクリプト・ファイル・パラメーター	ScriptFileParameters	FTP スクリプト・ファイルに必要なパラメーター。
ディレクトリー	SecondServerDirectory	ServerToServerFileTransfer 操作時の 2 次 FTP サーバーのディレクトリー・パス。
パスワード	SecondServerPassword	ServerToServerFileTransfer 操作時の 2 次 FTP サーバーのパスワード。
ユーザー名	SecondServerUsername	ServerToServerFileTransfer 操作時の 2 次 FTP サーバーのユーザー名。
ファイル内容を分割するための基準の指定	SplitCriteria	イベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトを分割する区切り文字。
関数クラス名の分割	SplittingFunctionClassName	ファイル分割を有効にするために使用するクラス・ファイルの完全修飾クラス名。
ステージング・ディレクトリー	StagingDirectory	ファイルはこのディレクトリーに最初に作成される。
一時ファイル名	TemporaryFilename	作成操作のための一時ファイル名を指定します。

「Create 操作のローカル・ディレクトリーへのファイルのアーカイブ」プロパティ (LocalArchivingEnabledForCreate)

Outbound の create 操作時に、ファイルの内容が、J2EE アプリケーションからビジネス・オブジェクトの一部として提供され、このプロパティが true に設定されている場合は、ファイルはローカル・ワークステーションの LocalArchiveDirForCreate ディレクトリーに保存されてから、Outbound 操作が実行されます。

表 130. 「create 操作のローカル・ディレクトリーへのファイルのアーカイブ」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean

表 130. 「create 操作のローカル・ディレクトリーへのファイルのアーカイブ」プロパティー特性 (続き)

グローバル化	いいえ
--------	-----

「ファイルが存在しない場合に新規ファイルを作成する」プロパティー (CreateFileIfNotExists)

Outbound Append および Overwrite 操作中に、ファイルが FTP サーバーに存在しない場合、このプロパティーが true に設定されていると、アダプターはファイルを作成します。このプロパティーが false でファイルが存在しない場合、アダプターはエラーを送信します。

表 131. 「ファイルが存在しない場合に新規ファイルを作成する」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティー・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

データ・チャネル保護レベル (dataProtectionLevel)

このプロパティーでは、データ・チャネルを介したデータ転送の保護レベルを指定します。FTP アダプターとそのサーバーが使用するデータ・チャネル保護のタイプを指定します。

データ・チャネルを開く前に、保護バッファー・サイズ (PBSZ) コマンドおよびデータ・チャネル保護レベル (PROT) コマンドが FTP アダプターによって発行され、そのデータ・チャネルの保護レベルが指定されます。デフォルトでは、アダプターは PROT コマンドを発行する前に「PBSZ 0」コマンドを発行します。

表 132. データ・チャネル保護レベル プロパティーの特性

必須	いいえ
使用可能な値	Private - データは暗号化形式で転送されます Clear - データは平文として転送されます
デフォルト	Private - データは暗号化形式で転送されます
プロパティー・タイプ	String
使用法	このプロパティーは、データ・チャネルの保護レベルを選択するために使用します。以下は、保護レベルの値です。 <ul style="list-style-type: none"> • Private - データ転送の保全性および機密性が保護されることを示します。 • Clear - セキュリティー対策を取らずに、データ・チャネルで、FTP アダプターとサーバーとの間のファイル転送用に生データが伝送されることを示します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

retrieve 操作後のファイルの削除 (DeleteOnRetrieve)

Outbound Retrieve 操作時に、このプロパティーが true に設定されている場合、アダプターは、ファイルを取得した後、FTP サーバーからファイルを削除します。

表 133. 「retrieve 操作後のファイルの削除」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティ (Filename)

Outbound 操作時に使用するファイル名。

表 134. 「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイル内のビジネス・オブジェクト間の区切り文字」プロパティ (IncludeEndBODelimiter)

この値がファイルの内容に付加される。Outbound の create、append、および overwrite 操作時に使用されます。

表 135. 「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	<p>Create および Overwrite 操作の場合、デフォルト値は設定されていません。</p> <p>Append 操作の場合、デフォルト値は <EndB0> です。</p> <p>Append 操作の場合、次の規則が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネス・オブジェクト・ラッパーで区切り文字が null に設定されている場合、ビジネス・オブジェクトの分離に区切り文字は使用されません。 ビジネス・オブジェクト・ラッパーに IncludeEndBODelimiter プロパティが設定されておらず、対話仕様の中の値も null である場合、デフォルトは <EndB0> です。 ビジネス・オブジェクト・ラッパーに特定の区切り文字の値が指定されていれば、指定されている値が付加されます。 ビジネス・オブジェクト・ラッパーと対話仕様の両方に値が指定されていれば、ビジネス・オブジェクト・ラッパー値が優先されます。
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ディレクトリー」プロパティ (SecondServerDirectory)

サーバー間のファイル転送の Outbound 操作の実行対象の 2 次 FTP サーバーのディレクトリー。これは、ファイルの転送先のリモート・イベント・ディレクトリーです。

表 136. 「ディレクトリー」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	<p>対話仕様プロパティーの場合、FTP サーバーにあって Outbound 操作で使用されるディレクトリーは、FTP ディレクトリーの絶対パスを表します。例えば、/home/usr/output です。これにはホスト名または URL 情報は含まれません。</p> <p>wrapper ビジネス・オブジェクト・プロパティーの場合、Outbound 操作 ServerToServerFileTransfer の実行対象となる 2 次サーバーの URL。例えば、FTP URL を指定する場合の構文は ftp://[UserId:password@]FTPserver[:port]/DirectoryForSecondServer です。</p>
グローバル化	はい

「ファイル内容のエンコード」プロパティー (FileContentEncoding)

ファイルへの書き込み中に使用されるエンコード。このプロパティーを指定しない場合、アダプターは特定のエンコードを使用せずに読み取りを行おうとします。Java がサポートする任意のエンコード・セットを指定できます。

表 137. 「ファイル内容のエンコード」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「ローカル・ディレクトリー内のファイル」プロパティー (FileInLocalDirectory)

Outbound の create 操作時に、このプロパティーが true に設定されていると、ファイルの内容はビジネス・オブジェクト内で使用できません。ファイルは、アダプター・ワークステーションのローカル・ディレクトリーから取り出されます。

Outbound の retrieve 操作時に、このプロパティーが true に設定されていると、ファイルの内容はビジネス・オブジェクトの一部として J2EE アプリケーションに送信されません。ファイルは、アダプター・ワークステーションのローカル・ディレクトリーに保存されます。

表 138. 「ローカル・ディレクトリー内のファイル」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティー・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「ファイル転送タイプ」プロパティー (FileTransferType)

Outbound 操作時に使用されるファイル転送タイプ。ASCII または binary のいずれかの設定値を指定します。

表 139. 「ファイル転送タイプ」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	binary
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「FTP サーバー接続モード」プロパティ (DataConnectionMode)

FTP サーバーがファイル転送時に使用するデータ接続モード。active または passive のいずれかの設定値を指定します。この値は、ファイル転送が行われる場合にのみ使用されます。このプロパティは、サーバー間のファイル転送の Outbound 操作の実行時は使用されません。

表 140. 「FTP サーバー接続モード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	active
プロパティ・タイプ	String
使用可能な値	active または passive
グローバル化	いいえ

固有ファイルの生成 (GenerateUniqueFile)

このプロパティが true に設定されていると、Outbound Create 操作の実行中、アダプターは固有ファイル名を作成します。このプロパティが true に設定されている場合、アダプターは、Filename プロパティに設定されているあらゆる値を無視します。

注: アダプターは、GenerateUniqueFile と StagingDirectory の両方のオプションを同時にはサポートしません。

表 141. 「固有ファイルの生成」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ
制約事項	この機能を使用するには、FTP サーバーが RFC1123 をサポートしている必要があります。

「ホスト名」プロパティ (SecondServerHostName)

Outbound 操作時に接続の確立先となる 2 次 FTP サーバーのホスト名。

表 142. 「ホスト名」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String

表 142. 「ホスト名」プロパティ特性 (続き)

グローバル化	はい
--------	----

「create 操作のローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (LocalArchiveDirForCreate)

Outbound の create 操作時に、ファイルの内容が、ビジネス・オブジェクトの一部として提供され、LocalArchivingEnabledForCreate が true に設定されている場合は、ファイルはローカル・ワークステーションのこのディレクトリーに保存されます。

表 143. 「create 操作のローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、LocalArchiveDirForCreate ディレクトリーを手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

「ローカル・ディレクトリー」プロパティ (LocalDirectoryPath)

Outbound の create 操作時に、FileInLocalDirectory プロパティが true に設定されていると、ファイルの内容はビジネス・オブジェクト内で使用できません。その代わりに、このディレクトリーからファイルが取り出されます。Outbound の retrieve 操作時に、FileInLocalDirectory プロパティが true に設定されていると、ファイルの内容はビジネス・オブジェクトの一部として送信できません。ファイルはこのディレクトリーに保存されます。

表 144. 「ローカル・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、LocalDirectoryPath ディレクトリーを手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

「ポート番号」プロパティ (SecondServerPortNumber)

Outbound 操作時に接続の確立先となる 2 次 FTP サーバーのポート番号。

表 145. 「ポート番号」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	FTP は 21、FTPS は 990
プロパティ・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

「プロトコル」プロパティ (SecondServerProtocol)

2 次サーバーへの接続を確立するために使用されるプロトコル。この FTP プロトコルは、接続の確立に使用されます。

表 146. 「プロトコル」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	FTP
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「パスワード」プロパティ (SecondServerPassword)

サーバー間のファイル転送の Outbound 操作時にファイルの転送先となる 2 次 FTP サーバーのパスワード。

表 147. 「パスワード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「retrieve 操作のリモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (ArchiveDirectoryForRetrieve)

Outbound Retrieve 操作時に、アダプターはファイルが削除される前に、このフォルダーにオプションでファイルをアーカイブします。アーカイブ・ディレクトリーが存在する必要があります。

表 148. 「retrieve 操作のリモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「FTP システム上のリモート・ディレクトリー」プロパティ (DirectoryPath)

ExecuteFTPScript 以外のすべての操作に Outbound 操作を実行する必要がある FTP サーバー上のディレクトリーの絶対パス、または ExecuteFTPScript 操作のみのローカル・アダプター・ワークステーション上のディレクトリー・パス。ディレクトリーが存在している必要があります。

注: DirectoryPath として 値 <HOME_DIR> が指定されている場合、Outbound 操作はユーザーのホーム・ディレクトリーで実行されます。

表 149. 「FTP システム上のリモート・ディレクトリー」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、DirectoryPath ディレクトリーを手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

ResumeFailedTransfer

このプロパティーは FTP サーバーへの接続エラーのために中断されたファイル転送の再開をサポートします。

注: このプロパティーは、Outbound 処理のみに適用可能です。

表 150. 「ResumeFailedTransfer」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティー・タイプ	Boolean
使用法	作成操作時に、このプロパティーが true に設定されていると、接続時のエラーが原因でファイル転送が中断された位置から、アダプターはファイル転送を再開します。
グローバル化	いいえ

「スクリプト・ファイル・パラメーター (Script File Parameters)」プロパティー (ScriptFileParameters)

Outbound ExecuteFTPScript 操作時に、FTP スクリプト・ファイルに必要なパラメーターがこのプロパティーに設定されます。ランタイム時に、アダプターはパラメーターをこれらの値で置換します。

表 151. 「スクリプト・ファイル・パラメーター (Script File Parameters)」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイル内容を分割するための基準の指定」プロパティー (SplitCriteria)

このプロパティーは、SplittingFunctionClassName プロパティーの値に基づいた各種の値を受け入れます。

- SplittingFunctionClassName プロパティーで、区切り文字に基づいてファイルを分割することを指定する場合、SplitCriteria にはイベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトを分割する区切り文字を指定します。

- `SplittingFunctionClassName` をサイズに基づいた分割を行う値に設定する場合、`SplitCriteria` プロパティには、バイト単位のサイズを表す有効な数値を指定します。
 - イベント・ファイルのサイズがこの値より大きい場合、アダプターはファイルをこのサイズのチャンクに分割し、各チャンクが送られます。
 - イベント・ファイルのサイズがこの値より小さい場合、イベント・ファイル全体が送られます。`SplitCriteria=0` の場合、チャンクへの分割は無効です。

表 152. 「ファイル内容を分割するための基準の指定」 プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	0
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「分割関数クラス名」 プロパティ (SplittingFunctionClassName)

ファイル分割を有効にするために使用するクラス・ファイルの完全修飾クラス名を指定する。以下の 2 つの値が必要です。

- 区切り文字に基づいてイベント・ファイルを分割する
`com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitByDelimiter` クラス。
- イベント・ファイル・サイズに基づいてイベント・ファイルを分割する
`com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize` クラス。

区切り文字またはファイル・サイズは、`SplitCriteria` プロパティで指定します。

表 153. 「分割関数クラス名」 プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	<code>com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize</code>
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「ステージング・ディレクトリー」 プロパティ (StagingDirectory)

Outbound の create 操作時に、ファイルは最初にこのディレクトリー内に作成されます。ファイルの作成が完了したら、ファイルは `DirectoryPath` プロパティで指定されたディレクトリーにコピーされます。このステージング・ディレクトリーは、Append 操作および Overwrite 操作でも使用されます。ここでは、指定されたファイルは `StagingDirectory` (存在する場合) にコピーされます。付加された内容または上書きされた内容は、この後、元の指定されたディレクトリーに戻されます。`StagingDirectory` が指定されていない場合、操作は実際の必要なディレクトリー内で実行されます。

注: アダプターでは、`StagingDirectory` と `GenerateUniqueFile` の両方のオプションを同時にはサポートしていません。

表 154. 「ステージング・ディレクトリー」 プロパティ特性

必須	いいえ
----	-----

表 154. 「ステー징・ディレクトリー」プロパティー特性 (続き)

デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、StagingDirectory ディレクトリーを手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

「一時ファイル名」プロパティー (TemporaryFilename)

このプロパティーは、作成操作のための一時ファイル名を指定します。ファイルが正常に作成されると、そのファイルは、「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティーで指定された値に名前変更されます。

表 155. 「一時ファイル名」プロパティー特性

必須	いいえ
使用可能な値	すべての有効なファイル名
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	このプロパティーは作成操作で使用されます。一時ファイル名が指定された場合、ファイルはその一時ファイル名を付けて作成されます。ファイルが正常に作成されると、そのファイルは、「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティーで指定された値に名前変更されます。
例	xyz.tmp
グローバル化	いいえ

「ユーザー名」プロパティー (SecondServerUsername)

サーバー間のファイル転送の Outbound 操作時にファイルの転送先となる 2 次 FTP サーバーのユーザー名。

表 156. 「ユーザー名」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	はい

トラブルシューティングおよびサポート

共通のトラブルシューティング手法とセルフ・ヘルプ情報は、問題を迅速に識別して解決するのに役立ちます。

関連概念

『ファイル転送の再開』

ファイル転送の再開

問題:

ファイルの転送中に FTP サーバーとの接続が切断された場合、転送は中断した位置から再開できます。 Outbound 作成操作に関するファイル転送の進行中にネットワーク関連の問題が発生した場合、FTP サーバーのいくつかがサーバー側で接続への参照を保持していて、接続が切断されたときにそれらの参照を閉じないという状態になっています。ファイルの転送を再開するために Outbound 要求が再送されたときに、これによってエラーが発生します。 Outbound 作成要求が再送されると、FTP サーバーは応答コード「550 Can't access file (ファイルにアクセスできません)」を返します。これは、以前に失敗したファイル転送要求時に FTP サーバーで作成された接続参照が保持している、ターゲット・ファイルでのファイル・ロックが原因です。

解決策:

Outbound 要求がファイルの転送を再開できるように、無効な接続ハンドルを手動で FTP サーバーから消去する必要があります。FTP サーバーで「接続タイムアウト」または「転送なしタイムアウト」が設定されている場合、タイムアウト間隔を超えたときに無効な接続ハンドルが自動的に消去され、ファイル転送を再開するための後続の Outbound 要求が成功するようになります。

関連タスク

111 ページの『トラブルシューティングおよびサポート』
共通のトラブルシューティング手法とセルフ・ヘルプ情報は、問題を迅速に識別して解決するのに役立ちます。

接続パラメーターを動的に渡すことによる FTP サーバーへの認証

WebSphere® Adapter for FTP は、管理接続ファクトリー・プロパティまたは Java 認証・承認サービス (JAAS) 別名を介して接続プロパティを使用します。

WebSphere Process Server 管理コンソールを使用して接続プロパティを変更し、J2EE アプリケーションを再始動するか、または JAAS セキュリティー設定を変更することができます。

ConnectionSpec プロパティは、接続要求固有のプロパティを渡すためにアプリケーション・コンポーネントによって使用されます。

接続仕様プロパティを使用した認証

WebSphere Adapter for FTP は、管理接続ファクトリー・プロパティまたは Java 認証・承認サービス (JAAS) 別名を介して接続プロパティを使用します。これらの認証方式のいずれかで認証するために使用される接続プロパティを変更したい場合には、WebSphere Process Server 管理コンソールを使用して接続プロパティを変更し、J2EE アプリケーションを再始動するか、または JAAS セキュリティー設定を変更することができます。

上記の方式の他に、ConnectionSpec プロパティを使用して接続パラメーターを指定することもできます。ConnectionSpec プロパティは、接続固有のプロパティを渡すために、アプリケーション・コンポーネントによって使用されます。

管理接続ファクトリーで使用されるプロトコルに基づいて、Outbound 要求用の関連 ConnectionSpec プロパティを指定できます。ConnectionSpec プロパティと管理接続ファクトリー・プロパティの両方を使用すると、実行時にアダプターは、

ConnectionSpec プロパティで指定された値を使用して接続を作成し、管理接続ファクトリー・プロパティの値を無視します。

ConnectionSpec プロパティには、以下のものが含まれます。

FTP 用:

- userName
- password

FTPS 用:

- userName
- password
- trustStorePath
- trustStorePassword
- keyStorePath
- keyStorePassword
- keyPassword
- keyStoreType

SFTP 用:

- userName
- password
- privateKeyFilePath
- passphrase
- hostKeyFile

接続パラメーターを動的に渡して FTP サーバーへの接続を作成するようにアダプターを構成するには、『114 ページの『Outbound 処理時の接続パラメーターの動的引き渡し』』を参照してください。

関連タスク

『Outbound 処理時の接続パラメーターの動的引き渡し』

Outbound 要求の一環として接続関連プロパティを動的に渡すためには、接続仕様クラス名を構成し、ビジネス・グラフで接続プロパティを設定する必要があります。

新規インターフェースの作成

Outbound 処理時に、接続パラメーターの引き渡しと構成が終わったら、機能をテストするために、接続パラメーターとともに Outbound 要求を送信するアプリケーション・コンポーネントを作成します。

Java コンポーネントの作成

新規インターフェースを作成してテストを行ってから、プロパティ・エレメントの値を設定するために Java コンポーネントを作成します。

Outbound 処理時の接続パラメーターの動的引き渡し

Outbound 要求の一環として接続関連プロパティを動的に渡すためには、接続仕様クラス名を構成し、ビジネス・グラフで接続プロパティを設定する必要があります。

始める前に

1. 外部サービス・ウィザードを実行して、必要な Outbound 操作のための FTP アダプター・インポート・インターフェース (例えば、FTPImport など) を作成する必要があります。
2. 各 Outbound 操作の入力データ・タイプは、ビジネス・オブジェクトのビジネス・グラフを使用するように構成する必要があります。例えば、これらの操作の入力データ・タイプは FTPFileBG または CustomerWrapperBG にすることができます。

ビジネス・グラフ実装には、ビジネス・グラフ・スキーマ定義内のエレメントとして定義された、「properties」という子ビジネス・オブジェクトがあります。接続プロパティは、ビジネス・グラフのデータ・オブジェクト「properties」で設定する必要があります。

このタスクについて

Outbound 要求の一環として接続関連プロパティを動的に渡すためには、以下の手順に従ってください。

手順

1. 作成された FTP インポート内で ConnectionSpec クラス名を構成します。
 - a. アセンブリ・ダイアグラムの FTP アダプター・インポートを右クリックし「表示 (Show in) → 「プロパティ・ビュー (Properties view)」 と選択します。
 - b. 「プロパティ」タブで、「バインディング」 → 「エンドポイント構成 (End-point Configuration)」を選択します。
 - c. 「接続仕様プロパティ (Connection Spec properties)」タブで、ConnectionSpec クラス名として com.ibm.j2ca.ftp.FTPFileConnectionSpec を選択します。

2. 「セキュリティー属性 (Security Attributes)」内の「リソース認証 (Resource authentication)」フィールドを「アプリケーション (Application)」に設定します。
 - a. 「バインディング・プロパティー (Binding properties)」から「セキュリティー属性 (Security Attributes)」を選択します。
 - b. 「拡張プロパティー」から「リソース認証 (Resource authentication)」プロパティーを「アプリケーション (Application)」に設定します。デフォルト値は「コンテナ (Container)」です。

「リソース認証 (Resource authentication)」プロパティーが「アプリケーション (Application)」に設定されると、J2EE コンポーネントが FTP サーバーへのプログラマチック・サインオンを実行します。アプリケーション・コンポーネントは、ConnectionSpec インスタンスを介してユーザー名およびパスワードなどのセキュリティー情報を渡します。

3. プロパティー子ビジネス・オブジェクト内の BusinessGraph で「接続プロパティー」を設定します。

Outbound 要求中にアダプターが接続パラメーターを動的に受け入れるためには、アプリケーション・コンポーネントは、ビジネス・オブジェクトのビジネス・グラフ・データ・オブジェクトで接続パラメーターを設定する必要があります。

ビジネス・グラフで設定された接続プロパティーには、ConnectionSpec プロパティーとして識別できるように接頭部「CS」が付きます。例えば、BusinessGraph のプロパティー・エレメントでユーザー名とパスワードを「CSuserName」および「CSpassword」に設定して、接続プロパティーの値を設定することができます。

注: ConnectionSpec プロパティーを介した場合、ホスト名、プロトコル、またはポート番号の値は受け入れられません。アダプターは、Outbound 要求時に動的に渡される、ユーザー名、パスワード、およびトラストストアなどの、ユーザーの認証関連プロパティーのみを受け取ります。

タスクの結果

接続パラメーターが構成されます。

次のタスク

新規インターフェースと Java コンポーネントを作成して、アプリケーションを WebSphere Process Server にデプロイします。

関連概念

112 ページの『接続仕様プロパティーを使用した認証』

WebSphere Adapter for FTP は、管理接続ファクトリー・プロパティーまたは Java 認証・承認サービス (JAAS) 別名を介して接続プロパティーを使用します。これらの認証方式のいずれかで認証するために使用される接続プロパティーを変更したい場合には、WebSphere Process Server 管理コンソールを使用して接続プロパティーを変更し、J2EE アプリケーションを再始動するか、または JAAS セキュリティー設定を変更することができます。

新規インターフェースの作成:

Outbound 処理時に、接続パラメーターの引き渡しと構成が終わったら、機能をテストするために、接続パラメーターとともに Outbound 要求を送信するアプリケーション・コンポーネントを作成します。

始める前に

外部サービス・ウィザードを実行して、Outbound インターフェースを作成しておきます。新しい FTPImport インターフェースには、接続プロパティを渡すための入力プロパティが複数備わっています。

このタスクについて

接続プロパティを使用して Outbound 要求を送信するためのアプリケーション・コンポーネントを作成します。新しい FTPImport インターフェースには、接続プロパティを渡すための入力プロパティが複数備わっています。機能をテストするための新規インターフェースを作成するには、以下の手順を使用します。

手順

1. 「Business Integration」ビューから、「ファイル (File)」 → 「新規 (New)」 → 「インターフェース (Interface)」とクリックします。新規インターフェース・ウィザードが表示されます。
2. 新規インターフェースの名前として FTPDynamicConnectionInterface などを入力し、「完了 (Finish)」をクリックします。
3. 「要求応答」操作を追加します。これは、接続プロパティの追加入力パラメーターを備えた FTPOutboundInterface 内の操作と一致します。Outbound 操作の入力パラメーターには、BusinessGraph オブジェクトと、BusinessGraph で値が設定される接続プロパティのセットが含まれます。

タスクの結果

新規インターフェースが作成されます。

次のタスク

Java コンポーネントを作成します。詳しくは、『Java コンポーネントの作成』を参照してください。

関連概念

112 ページの『接続仕様プロパティを使用した認証』

WebSphere Adapter for FTP は、管理接続ファクトリー・プロパティまたは Java 認証・承認サービス (JAAS) 別名を介して接続プロパティを使用します。これらの認証方式のいずれかで認証するために使用される接続プロパティを変更したい場合には、WebSphere Process Server 管理コンソールを使用して接続プロパティを変更し、J2EE アプリケーションを再始動するか、または JAAS セキュリティー設定を変更することができます。

Java コンポーネントの作成:

新規インターフェースを作成してテストを行ってから、プロパティ・エレメントの値を設定するために Java コンポーネントを作成します。

始める前に

接続プロパティを渡すための入力プロパティを複数備えた、新しいインターフェースを作成しておきます。

このタスクについて

Java コンポーネントを作成し、このコンポーネントをビジネス・グラフ・オブジェクトのインターフェースに対する入力として渡すよう接続関連プロパティを設定する必要があります。Java Java コンポーネントを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アセンブリ・ダイアグラム内で Java コンポーネントを作成します。
2. Java コンポーネントを FTPOutboundInterface インポートにワイヤリングします。Java コンポーネント・インターフェースの FTPDynamicConnectionInterface が作成されます。Java コンポーネントを作成するには、「**Java コンポーネント**」をクリックします。「インターフェースの追加」アイコンをクリックして、FTPDynamicConnectionInterface インターフェースを選択します。
3. 接続関連のプロパティを設定します。これらのプロパティは、Java コンポーネントを実装するために、BusinessGraph オブジェクトのインターフェースに入力として送信されます。

下記のサンプル・コードは、BusinessGraph のプロパティ・ビジネス・オブジェクトで接続パラメーターを設定する、J2EE コンポーネント実装です。

```
public DataObject createFTPFile(DataObject createFTPFileWrapperBG,String
userName,
    String password, String privateKeyFilePath,
    String passphrase) {

    DataObject prop = createFTPFileWrapperBG.getDataObject("properties");

    // check if they already created this child object or not
    if(prop == null) {
        // Create the "properties" business object
        prop = createFTPFileWrapperBG.createDataObject("properties");
    }

    // Setting the property 'userName' to connectionSpec
    // Note that the username property is prefixed by CS
    prop.setString("CSuserName", userName);

    // Setting the property 'password' to connectionSpec
    // Note that the password property is prefixed by CS
    prop.setString("CSpassword", password);

    //Setting the property 'privateKeyFilePath' which is used for SFTP protocol
    to connection spec
    prop.setString("CSprivateKeyFilePath", privateKeyFilePath);

    //Setting the property 'passphrase' which is used for SFTP protocol to
    connection spec
    prop.setString("CSpassphrase", passphrase);

    // invoke the Adapter
    Service serv= locateService_SFTPImportPartner();
    Object boReturn= serv.invoke(
```

```

        "create",
        createFTPFileWrapperBG);

// return the result BO that we got back from the FTP Adapter
return ((DataObject)boReturn).get(0);

}

```

実行時に、接続プロパティ値を Java コンポーネントの入力パラメーターで設定します。これは、上記のコードによって、BusinessGraph のデータ・オブジェクトの「プロパティ」に設定されます。その後で、EIS バインディングが、データ・オブジェクトの「プロパティ」で設定された接続プロパティを ConnectionSpec Bean で取り込むことによって、アダプターに渡します。アダプターは、ConnectionSpec プロパティを使用して EIS への接続を取得します。

EIS バインディングについて詳しくは、http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.websphere.wesb.doc/doc/cadm_dynamicheader.html を参照してください。動的認証の構成方法については、http://www.ibm.com/developerworks/websphere/library/techarticles/0608_martinez/0608_martinez.htmlを参照してください。

タスクの結果

Java コンポーネントが作成されます。

次のタスク

アプリケーションを WebSphere Process Server にデプロイし、Outbound 要求を送信します。これには、WebSphere Integration Developer テスト・クライアントを使用する接続パラメーターが含まれます。この結果、アダプターは要求から得られた接続パラメーターを使用して、接続を作成します。管理接続ファクトリー・プロパティで指定された値はすべて、アダプターによって無視されます。

関連概念

112 ページの『接続仕様プロパティを使用した認証』

WebSphere Adapter for FTP は、管理接続ファクトリー・プロパティまたは Java 認証・承認サービス (JAAS) 別名を介して接続プロパティを使用します。これらの認証方式のいずれかで認証するために使用される接続プロパティを変更したい場合には、WebSphere Process Server 管理コンソールを使用して接続プロパティを変更し、J2EE アプリケーションを再始動するか、または JAAS セキュリティー設定を変更することができます。

未変更ファイルのポーリングのサポート

Inbound 処理中に、未変更ファイルをポーリングするための時間間隔プロパティを使用してファイルを取得できます。このプロパティは、ポーリングの前に内容が更新されているかどうかを調べるために、アダプターがファイルをモニターする必要がある時間間隔を指定します。アダプターは、指定された時間間隔内に変更されなかったファイルをポーリングします。

ファイル取得

Inbound 処理中に、未変更ファイルのポーリング時間間隔 (Time interval for polling unchanged files) プロパティを使用してファイルの取得を管理できます。このプロパティを使用すると、指定された時間間隔内に変更されなかったファイルのみを取得できます。最終変更日時のタイム・スタンプと現在のシステム時刻との時差が、FileUnchangedTimeInterval で設定された値を超えた場合に、このようなファイルがポーリングされます。

時間間隔に基づくファイル取得

未変更ファイルのポーリング時間間隔 (Time interval for polling unchanged files) プロパティは、指定された時間間隔にわたって、イベント・ディレクトリー内のファイルに対する変更をモニターします。このプロパティを構成した場合、アダプターは、その時間間隔内にまったく変更されなかったファイルをポーリングします。アダプターは現在編集しているファイルもポーリングしますが、保存されていない内容についてはイベントの処理時に処理されません。この構成により、誤った結果が発生しないようになります。

アダプターはイベント・ディレクトリーをポーリングするときに、このプロパティを使用して、指定された時間間隔内にファイルが変更されたかどうかを検査します。アダプターはファイルの lastModifiedtimestamp 値を使用して、時間間隔中にファイルが変更されたかどうかを判別します。

アダプターは、現在の状態の未変更ファイルと、最後に保存された状態から変更されたファイルを取得します。詳しくは、未変更ファイルのポーリング時間間隔 (Time interval for polling unchanged files) プロパティの詳細を参照してください。

デプロイメント・プロパティおよびランタイム・プロパティの設定

外部サービス・ウィザードが FTP サーバーの接続に使用するデプロイメント・プロパティとランタイム・プロパティを指定します。

始める前に

このセクションでプロパティを設定するには、事前にアダプター・モジュールを作成する必要があります。これは、WebSphere Integration Developer のアダプター・プロジェクトの下に表示されています。

このタスクについて

デプロイメントおよびランタイム・プロパティを設定するには、以下の手順に従って操作してください。このトピックのプロパティについて詳しくは、トピック 63 ページの『活動化仕様プロパティ』を参照してください。

手順

1. 「処理方向」ウィンドウで「Inbound」を選択し、「次へ」をクリックします。

2. 「コネクタ・プロジェクトのデプロイ」フィールドで、モジュールにアダプター・ファイルを組み込むかどうかを指定します。次のいずれかのオプションを選択します。

- 「単一アプリケーションが使用するモジュールで (With module for use by single application)」

アダプター・ファイルをモジュール内に組み込むと、モジュールをすべてのアプリケーション・サーバーにデプロイすることができます。単一のモジュールによってアダプターを使用する場合、または複数のモジュールを使ってさまざまなバージョンのアダプターを実行する必要がある場合には、組み込みアダプターを使用します。組み込みアダプターを使用すると、単一のモジュールのアダプターのみをアップグレードすることができるため、その他のモジュールのアダプター・バージョンが変更されて動作が不安定になることはありません。

- 「複数アプリケーションが使用するサーバー上 (On server for use by multiple applications)」

モジュール内にアダプター・ファイルを組み込まない場合は、このモジュールを実行させるアプリケーション・サーバーごとに、アダプター・ファイルをスタンドアロン・アダプターとしてインストールする必要があります。複数のモジュールで同じバージョンのアダプターを使用できる場合に、中央の場所でアダプターを管理するには、スタンドアロン・アダプターを使用します。スタンドアロン・アダプターの場合も、複数のモジュールに対して単一のアダプター・インスタンスを実行することにより、必要なリソースが軽減されます。

3. ご使用のモジュールについて、以下の FTP システム接続情報を定義します。詳しくは、トピック 63 ページの『活動化仕様プロパティ』を参照してください。

- 「ホスト名」 - FTP サーバーのホスト名を指定。
- 「リモート・ディレクトリー」 - アダプターがポーリングしてファイルを取り出す先となる、FTP サーバー上のディレクトリーを指定。リモート・ディレクトリーが <HOME_DIR> に設定されている場合、アダプターは、ホーム・ディレクトリー内のイベント・ファイルをポーリングします。
- 「ローカル・ディレクトリー」 - イベント・ファイルを FTP サーバーからダウンロードする先となる、アダプター・ワークステーション上のディレクトリーを指定。
- 「プロトコル」 - FTP サーバーへの接続に使用するプロトコルを指定します。以下のプロトコルも指定することができます。
 - FTP - ファイル転送プロトコル
 - FTP over SSL - Secure Sockets Layer を介したファイル転送プロトコル
 - FTP over TLS - トランスポート層セキュリティを介したファイル転送プロトコル
 - SFTP - SSH File Transfer Protocol
- 「ポート番号」 - FTP サーバーのポート番号を指定。

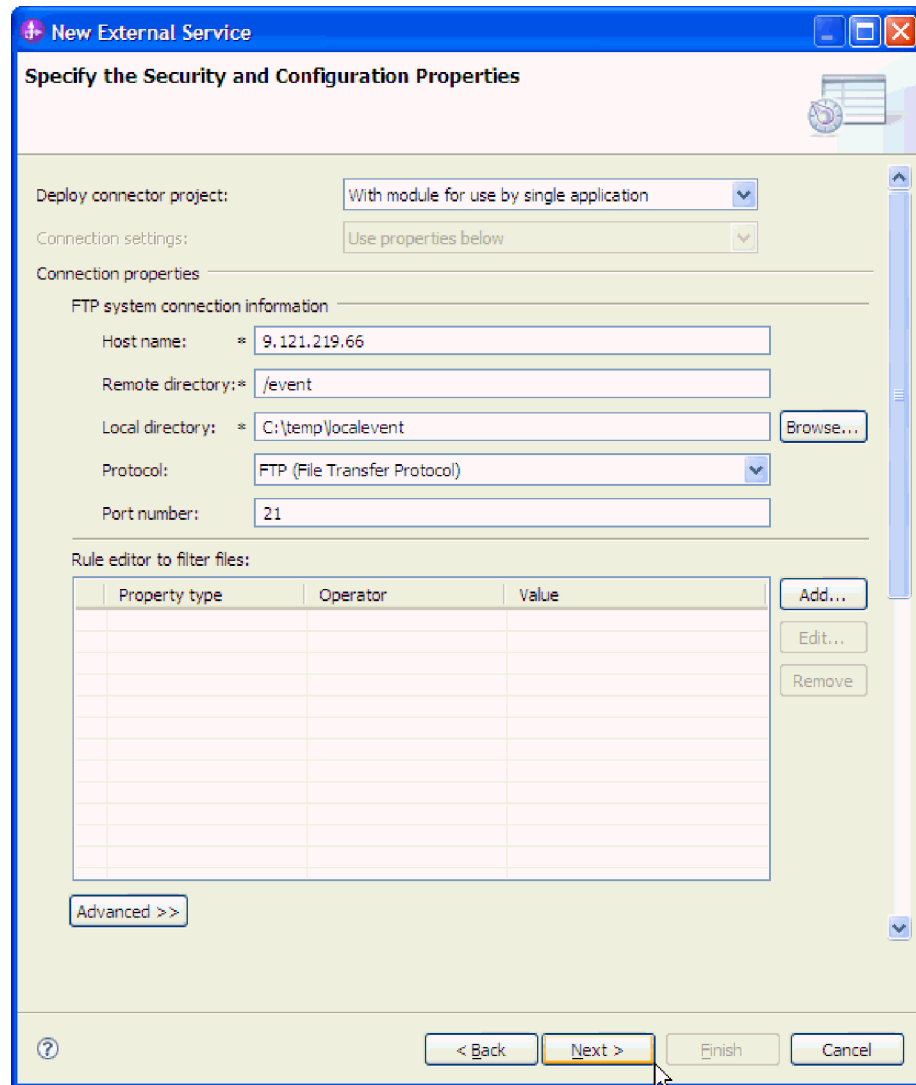


図 14. 「セキュリティーおよび構成プロパティの指定」ウィンドウ

4. ルールを構成して Inbound イベント・ファイルをフィルター処理するには、「ルール・エディター」テーブルで、「追加」または「編集」をクリックします。ルールは、「プロパティ・タイプ」、「演算子」、および「値」という名前の 3 つのパラメーターで構成されます。

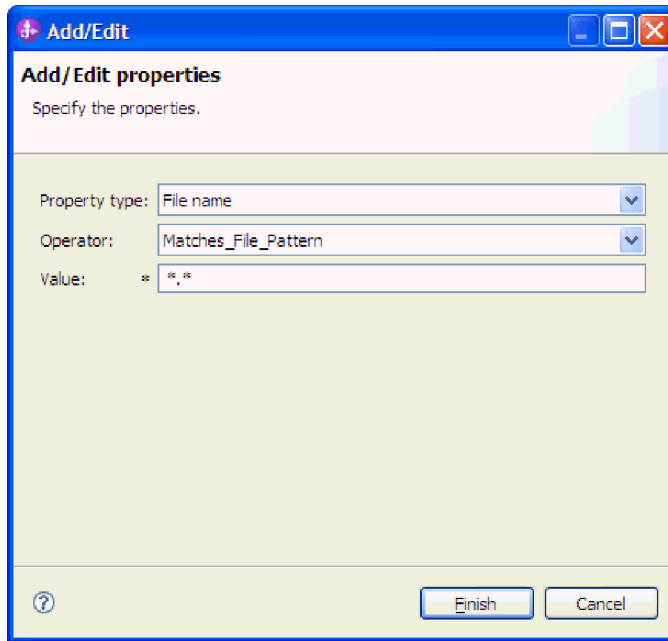


図 15. ルールの追加または編集

- a. 「プロパティ・タイプ」リストから、以下の任意のメタデータのフィルター・プロパティ・タイプを選択します。
 - FileName
 - FileSize
 - LastModified
- b. 「演算子」リストから、プロパティ・タイプに使用する演算子を選択します。各プロパティ・タイプ・メタデータごとに独自の演算子があります。
 - 1) FileName には以下の演算子があります。
 - Matches_File_Pattern (パターンに一致)
 - Matches_RegExp (正規表現に一致)
 - 2) FileSize メタデータには、以下の演算子があります。
 - Greater than
 - Less than
 - Greater than or equal to
 - Less than or equal to
 - Equal to
 - Not equal to
 - 3) LastModified メタデータには、以下の演算子があります。
 - Greater than
 - Less than
 - Greater than or equal to
 - Less than or equal to
 - Equal to
 - Not equal to

- c. イベント・ファイルをフィルター処理するための値を、「値」列に入力します。Matches_RegExp 演算子の値には、有効な Java 正規表現を入力する必要があります。

複数のルールを構成する場合は、「プロパティ・タイプ」リストの各ルールに対して「END-OF-RULE」オプションを選択してください。

注: ルールは、プロパティ・フィールドで「END-OF-RULE」が選択されている場合を除き、論理 OR 演算子を使用してグループ化されます。式 (単一のルール、または OR 演算子によってグループ化された複数のルールを式にできます) の間で「END-OF-RULE」が選択されている場合は、論理 AND 演算子を使用してグループ化されます。例えば、ルール A (FileName) とルール B (FileSize) を論理 OR 演算子を使用してグループ化し、「END-OF-RULE」オプションを選択した場合、この式は、AND 演算子を使用して別のルール C (LastModified) とグループ化されます。これは、((A) OR (B)) AND (C) のように表すことができます。

詳しくは、94 ページの『ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター』を参照してください。

5. オプション: 「拡張」をクリックして拡張プロパティを指定します。拡張セクションをそれぞれ展開して、プロパティを確認します。

- イベント・ポーリング構成
- イベント送達構成
- イベント・パーシスタンス構成
- 追加構成
- FTP アーカイブ構成
- Socks プロキシ・サーバー接続情報
- セキュア構成
- BiDi プロパティ
- ロギングおよびトレースのプロパティ

次のセクションでは、これらの拡張プロパティ・グループで使用可能なオプションについて説明しています。

- イベント・ポーリング構成
 - a. 「ポーリング期間の間隔」フィールドに、アダプターがポーリング期間から次のポーリング期間まで待機する時間 (ミリ秒) を指定します。詳しくは、82 ページの『ポーリング期間の間隔 (ポーリング間隔)』を参照してください。
 - b. 「ポーリング期間内の最大イベント数」フィールドに、各ポーリング期間にアダプターが送達する必要のあるイベント数を指定します。詳しくは、82 ページの『ポーリング期間内の最大イベント数 (ポーリング数量)』を参照してください。
 - c. 「接続が失敗した場合の再試行間隔」フィールドに、ポーリング中に接続が失敗してから接続を再試行するまでのアダプターの待機時間 (ミリ秒) を指定します。詳しくは、88 ページの『接続が失敗した場合の再試行間隔 (RetryInterval)』を参照してください。

- d. 「システム接続を再試行する回数」フィールドに、接続を再試行する回数を入力します。再試行がこの回数を超えると、ポーリング・エラーが報告されます。詳しくは、88 ページの『システム接続を再試行する回数 (RetryLimit)』を参照してください。
 - e. ポーリング・エラーが発生したらアダプターを停止するにしたい場合は、「ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する」を選択します。このオプションを選択しない場合、アダプターは例外をログに記録しますが、稼働し続けます。詳しくは、93 ページの『ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する (StopPollingOnError)』を参照してください。
 - f. 開始時に、アダプターが、失敗した接続を再試行するようにする場合は、「開始時に EIS 接続を再試行する」を選択します。詳しくは、87 ページの『開始時に EIS 接続を再試行する (RetryConnectionOnStartup)』を参照してください。
 - g. 「未変更ファイルのポーリング時間間隔 (Time interval for polling unchanged files)」フィールドで、ポーリングの前に内容が更新されているかどうかを調べるために、アダプターがファイルをモニターする必要がある時間間隔を指定します。アダプターは、指定された時間間隔内に変更されなかったファイルをポーリングします。詳しくは、76 ページの『未変更ファイルのポーリング時間間隔 (fileUnchangedTimeInterval)』を参照してください。
- イベント送達構成
 - a. 「送達のタイプ」フィールドで、送達方法を選択します。この方式については、71 ページの『送達タイプ (DeliveryType)』で説明します。
 - b. イベントの送達は一回のみで、かつ 1 つのエクスポートにのみ送達されるようにする場合は、「送達は 1 回のみ」を選択します。このオプションはパフォーマンスを低下させる可能性があります。イベント送達が重複したり欠落したりすることはありません。詳しくは、68 ページの『イベントを一度のみ送達する (AssuredOnceDelivery)』を参照してください。
 - c. 「失敗したイベントの再試行制限」フィールドに、アダプターがイベントに失敗としてマークを付けるまでにイベントの再送達の試行を行う回数を指定します。詳しくは、78 ページの『失敗したイベントの再試行制限 (FailedEventRetryLimit)』を参照してください。
 - イベント・パーシスタンス構成
 - a. アダプターがイベント・パーシスタンス・テーブルを作成するようにする場合は、「自動作成イベント・テーブル」を選択します。詳しくは、69 ページの『「自動作成イベント・テーブル」プロパティ (EP_CreateTable)』を参照してください。
 - b. 「イベント・リカバリー・テーブル名」フィールドに、アダプターがイベント・パーシスタンスに使用するテーブルの名前を指定します。詳しくは、72 ページの『「イベント・リカバリー・テーブル名」プロパティ (EP_EventTableName)』を参照してください。
 - c. 「イベント・リカバリー DataSource (JNDI) 名」フィールドに、イベント・パーシスタンスが JDBC データベースへ接続するために使用するデータ・ソースの JNDI 名を指定します。詳しくは、72 ページの『「イベン

ト・リカバリー DataSource (JNDI) 名」プロパティー (EP_DataSource_JNDIName)』を参照してください。

- d. 「イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名」フィールドに、イベント・パーシスタンスがデータ・ソースからデータベースへ接続するために使用するユーザー名を指定します。詳しくは、94 ページの『「イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名」プロパティー (EP_UserName)』を参照してください。
 - e. 「イベント DataSource に接続するのに使用されるパスワード」フィールドに、イベント・パーシスタンスがデータ・ソースからデータベースへ接続するために使用するパスワードを指定します。詳しくは、82 ページの『「イベント DataSource に接続するのに使用されるパスワード」プロパティー (EP_Password)』を参照してください。
 - f. 「データベース・スキーマ名」フィールドに、イベント・パーシスタンスで使用されるデータベースのスキーマ名を指定します。詳しくは、70 ページの『「データベース・スキーマ名」プロパティー (EP_SchemaName)』を参照してください。
- **追加構成**
- a. 「このパターンを持つファイルの取得」フィールドに、イベント・ファイルのフィルターを指定します。詳しくは、86 ページの『「このパターンを持つファイルの取得」プロパティー (EventFileMask)』を参照してください。
 - b. 「ソート・イベント・ファイル」フィールドに、ポーリングされるイベント・ファイルのソート順を指定します。詳しくは、90 ページの『「ソート・イベント・ファイル」プロパティー (SortEventFiles)』を参照してください。
 - c. 「リモート検証を有効にする」チェック・ボックスを選択して、リモート検証を使用可能に設定します。このプロパティーでは、制御とデータ接続が同じホスト (通常は FTP サーバーへの接続の確立元であるマシン) で確立されたかどうかを検査します。制御とデータ接続が確立されていなければ、接続は失敗します。デフォルトでは、「リモート検証を有効にする」チェック・ボックスは選択されています。

注: このプロパティーは、FTP プロトコルおよび FTPS プロトコルのみに適用可能です。

詳しくは、86 ページの『リモート検証有効プロパティー (enableRemoteVerification)』を参照してください。

- d. 「FTP サーバーで使用されるエンコード」フィールドに、FTP サーバーのエンコードを指定します。詳しくは、71 ページの『「FTP サーバーで使用されるエンコード」プロパティー (EISEncoding)』を参照してください。
- e. 「ファイル内容のエンコード」フィールドに、イベント・ファイルの読み取りに使用するエンコードを指定します。詳しくは、73 ページの『「ファイル内容のエンコード」プロパティー (FileContentEncoding)』を参照してください。

- f. 「FTP サーバー接続モード」フィールドに、ファイル転送の間に FTP サーバーが使用するデータ接続モードを指定します。詳しくは、72 ページの『「FTP サーバー接続モード」プロパティ (DataConnectionMode)』を参照してください。
- g. 「ファイル転送タイプ」フィールドに、Inbound 処理時に使用されるファイル転送タイプを指定します。詳しくは、77 ページの『「ファイル転送タイプ」プロパティ (FileTransferType)』を参照してください。
- h. 「一度に取得するファイル数」フィールドに、リモート FTP URL から取得するファイルの数を指定します。詳しくは、77 ページの『「一度に取得するファイル数」プロパティ (FTPGetQuantity)』を参照してください。
- i. 「各ダウンロード間のポーリング期間の数」フィールドに、アダプターが FTP サーバーをポーリングする頻度を指定します。詳しくは、77 ページの『「各ダウンロード間のポーリング期間の数」プロパティ (FTPPollFrequency)』を参照してください。
- j. 「カスタム・パーサー・クラス名」フィールドに、ls の出力を解析するために使用されるカスタム・パーサーの完全修飾クラス名を指定します。詳しくは、69 ページの『「カスタム・パーサー・クラス名」プロパティ (CustomParserClassName)』を参照してください。
- k. 「内容ではなくファイル名およびディレクトリーのための受け渡し」を選択して、イベント・ファイルのファイル内容をエクスポートに送信しないことを指定します。詳しくは、77 ページの『「内容ではなくファイル名およびディレクトリーのための受け渡し」プロパティ (FilePassByReference)』を参照してください。
- l. 後の処理用にビジネス・オブジェクトの内容と一緒に区切り文字を送信する場合は、「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」を選択します。詳しくは、79 ページの『「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ (IncludeEndBODelimiter)』を参照してください。
- m. ファイル内容の分割にサイズ (バイト単位) または区切り文字を使用する場合は、「サイズ (バイト単位) または区切り文字に基づくファイル内容の分割」を選択します。詳しくは、92 ページの『「分割関数クラス名」プロパティ』を参照してください。
- n. 「ファイル内容を分割するための基準の指定」フィールドに、SplittingFunctionClassName プロパティの値に基づいて、異なる値が使用されることを指定します。詳しくは、91 ページの『「ファイル内容を分割するための基準の指定」プロパティ (SplitCriteria)』を参照してください。
- o. 「関数クラス名の分割」フィールドに、ファイル分割を有効にするために使用するクラス・ファイルの完全修飾クラス名を指定します。詳しくは、92 ページの『「分割関数クラス名」プロパティ』を参照してください。
- p. 「ファイルのダウンロード前に実行する FTP スクリプト・ファイル」フィールドに、FTP サーバーからファイルがダウンロードされる前に実行されるスクリプト・ファイルのパスを指定します。詳しくは、79 ページの『「ファイルのダウンロード前に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedBeforeInbound)』を参照してください。

- q. 「ファイルのダウンロード後に実行する FTP スクリプト・ファイル」フィールドに、FTP サーバーからファイルがダウンロードされた後に実行されるスクリプト・ファイルのパスを指定します。詳しくは、78 ページの『「ファイルのダウンロード後に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedAfterInbound)』を参照してください。
- **FTP アーカイブ構成**
 - a. 「ローカル・アーカイブ・ディレクトリー」フィールドに、ローカル・アーカイブ・ディレクトリーの絶対パスを指定します。詳しくは、79 ページの『「ローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (LocalArchiveDirectory)』を参照してください。
 - b. 「ローカル・アーカイブ用のファイル拡張子」フィールドに、オリジナル・イベント・ファイルをアーカイブするために使用されるファイル拡張子を指定します。詳しくは、81 ページの『「ローカル・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティ (OriginalArchiveExt)』を参照してください。
 - c. 「ローカル・アーカイブ用の成功ファイル拡張子」フィールドに、正常に処理されたすべてのビジネス・オブジェクトをアーカイブするために使用されるファイル拡張子を指定します。詳しくは、93 ページの『「ローカル・アーカイブ用の成功ファイル拡張子」プロパティ (SuccessArchiveExt)』を参照してください。
 - d. 「ローカル・アーカイブ用の障害ファイル拡張子」フィールドに、正常に処理されなかったイベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトをアーカイブするために使用されるファイル拡張子を指定します。詳しくは、73 ページの『「ローカル・アーカイブ用の障害ファイル拡張子」プロパティ (FailedArchiveExt)』を参照してください。
 - e. 「リモート・アーカイブ・ディレクトリー」フィールドに、ディレクトリーを指定します。詳しくは、84 ページの『「リモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (FTPArchiveDirectory)』を参照してください。
 - f. 「リモート・アーカイブ用のファイル拡張子」フィールドに、アダプターがリモート FTP ファイルの名前変更に使用するファイル拡張子またはサフィックスを指定します。詳しくは、74 ページの『「リモート・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティ (FTPRenameExt)』を参照してください。
 - **Socks プロキシ・サーバー接続情報**
 - a. 「ホスト名」フィールドに、アダプターの要求を FTP サーバーに送信する際に経由するプロキシ・サーバーとして使用されるマシンのホスト名を指定します。詳しくは、89 ページの『「ホスト名」プロパティ (SocksProxyHost)』を参照してください。
 - b. 「ポート番号」フィールドに、アダプターの要求を FTP サーバーに送信する際に経由するプロキシ・サーバーのポート番号を指定します。詳しくは、90 ページの『「ポート番号」プロパティ (SocksProxyPort)』を参照してください。
 - c. 「ユーザー名」フィールドに、プロキシ・サーバーの認証のためのユーザー名を指定します。詳しくは、90 ページの『「ユーザー名」プロパティ (SocksProxyUserName)』を参照してください。

- d. 「パスワード」に、プロキシ・サーバーの認証のためのパスワードを指定します。詳しくは、90 ページの『「パスワード」プロパティ (SocksProxyPassword)』を参照してください。
- **セキュア構成**
 - a. SFTP サーバーのホスト鍵と、アダプターに既知のホスト鍵とを比較する場合は、次のようにします。
 - 1) 「**SFTP プロトコルのリモート・サーバー認証を有効にする**」チェック・ボックスを選択します。SFTP サーバーに対する最初の接続が試行される前に、ホスト鍵ファイルがトラステッド・サーバーのホスト鍵で使用可能でなければなりません。詳しくは、「サーバー検査を使用可能にする」プロパティ (EnableServerVerification) を参照してください。
 - 2) 「**ホスト鍵ファイル**」フィールドに、ホスト鍵ファイルへの絶対ファイル・パスを指定します。ホスト鍵ファイルは、管理者によって作成され、すべてのトラステッド・サーバーのホスト鍵を格納します。ホスト鍵ファイル・プロパティは、アダプター・ワークステーション上のファイルを指します。詳しくは、ホスト鍵ファイル・プロパティ (HostKeyFile) を参照してください。
 - b. 公開鍵認証を使用可能にする場合は、以下のプロパティを指定します。
 - 1) 「**秘密鍵ファイル**」フィールドに、セキュア・シェル・サーバーに認証させるために使用される秘密鍵を指定します。詳しくは、83 ページの『秘密鍵ファイル・プロパティ (PrivateKeyFilePath)』を参照してください。
 - 2) 「**パスフレーズ**」フィールドに、秘密鍵を暗号化して、拡張セキュリティのために使用される句を指定します。詳しくは、パスフレーズ・プロパティ (Passphrase) を参照してください。
 - c. FTPS プロトコルの場合は、以下のプロパティを指定します。
 - 1) FTPS をプロトコルとして選択した場合は、「**FTPS 接続モード**」フィールドに、FTPS サーバーへ接続するための接続モード (Implicit または Explicit) を指定します。詳しくは、FTPS 接続モード・プロパティ (ftpsConnectionMode) を参照してください。
 - 2) 「**データ・チャネル保護レベル**」フィールドで、以下のように、使用する必要のあるデータ・チャネル保護のレベルを選択します。
 - アダプターと FTPS サーバーとの間のデータ転送を暗号化フォームで行う必要がある場合は、「**プライベート**」を選択します。
 - アダプターと FTPS サーバーとの間のデータ転送を平文フォームで行う必要がある場合は、「**クリア**」を選択します。

詳しくは、172 ページの『データ・チャネル保護レベル (dataProtectionLevel)』を参照してください。
 - 3) 「**鍵ストアのタイプ**」フィールドに、鍵ストアのタイプを指定します。詳しくは、鍵ストア・タイプ プロパティ (keyStoreType) を参照してください。
 - 4) 「**トラストストア・ファイル**」フィールドに、アダプターによって信頼されているサーバーの証明書が保管されているトラストストア・ファイ

ルのパスを指定します。詳しくは、トラストストア・ファイル プロパティ (trustStorePath)を参照してください。

- 5) 「**トラストストアのパスワード**」フィールドに、トラストストア・ファイルのパスワードを指定します。このパスワードは、トラストストア・データの保全性のチェックに使用されます。この値が指定されていない場合、保全性チェックは実行されません。詳しくは、トラストストア・パスワード プロパティ (trustStorePassword)を参照してください。
- 6) 「**鍵ストア・ファイル**」フィールドに、鍵ストア・ファイルのパスを指定します。鍵ストア・ファイルには、FTPS クライアントの秘密鍵項目が含まれ、対応する秘密鍵の証明書チェーンも含まれます。詳しくは、鍵ストア・ファイル プロパティ (keyStorePath)を参照してください。

注: 鍵ストア・ファイル・プロパティとトラストストア・ファイル・プロパティの両方で、鍵ストア・タイプのプロパティを共有します。

- 7) 「**鍵ストアのパスワード**」フィールドに、鍵ストアのパスワードを指定します。このパスワードは、鍵ストア・データの保全性のチェックに使用されます。この値が指定されていない場合、保全性チェックは実行されません。詳しくは、鍵ストア・パスワード プロパティ (keyStorePassword)を参照してください。
- 8) 「**鍵パスワード**」フィールドに、鍵ストアから鍵をリカバリーするために使用される鍵のパスワードを指定します。詳しくは、鍵パスワード プロパティ (keyPassword)を参照してください。

- **BiDi** プロパティ

- **ロギングおよびトレース**

- a. アダプターのインスタンスが複数ある場合、展開して、アダプター ID に、このインスタンスに固有の値を設定します。このプロパティについて詳しくは、http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/rbp_ftp_resource_adapter_props.htmlを参照してください。
 - b. ログ・ファイルとトレース・ファイルに重要なユーザー・データが書き込まれないようにする場合は、「**ログ・ファイルおよびトレース・ファイルで、ユーザー・データを「XXX」と記述する**」を選択します。詳しくは、ログ・ファイルおよびトレース・ファイルで、ユーザー・データを「XXX」と記述する (HideConfidentialTrace)を参照してください。
6. 以下のように、「**サービス・プロパティ**」エリアに、必要なセキュリティー資格情報を指定します。
- J2C 認証別名を使用するには、「**既存の JAAS 別名を使用する (推奨)**」フィールドを選択し、「**J2C 認証データ入力**」フィールドに別名の名前を指定します。モジュールをデプロイする前であればいつでも、既存の認証別名を指定するか新しく認証別名を作成することができます。この名前は大/小文字を区別します。またこの名前にはノード名が含まれます。
 - 活動化仕様プロパティを使用するには、「**活動化仕様のセキュリティー・プロパティを使用**」フィールドを選択し、「**ユーザー名**」フィールドと「**パスワード**」フィールドに値を入力します。

- 「**ユーザー名**」 - FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーの名前を指定します。詳しくは、93 ページの『「ユーザー名」プロパティ (UserName)』を参照してください。
 - 「**パスワード**」 - FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーのパスワードを指定します。詳しくは、81 ページの『「パスワード」プロパティ (Password)』を参照してください。
 - 他の機構からのユーザー名とパスワードを管理する場合は、「**その他**」を選択します。
7. 「**関数セレクト**」フィールドから、以下のうちのいずれか 1 つのオプションを選択します。関数セレクトは、着信したメッセージまたは要求を、サービス内の適切な操作に割り当てます。
- **関数セレクト・オプション**

例えば、「**関数セレクト構成を使用します**」を選択します。このオプションの使用を選択した場合は、「**次へ**」をクリックします。
 - **関数セレクト**

このオプションを選択した場合は、以下の手順を実行します。
 - a. 「**関数セレクト**」フィールドの横にある「**選択**」をクリックします。

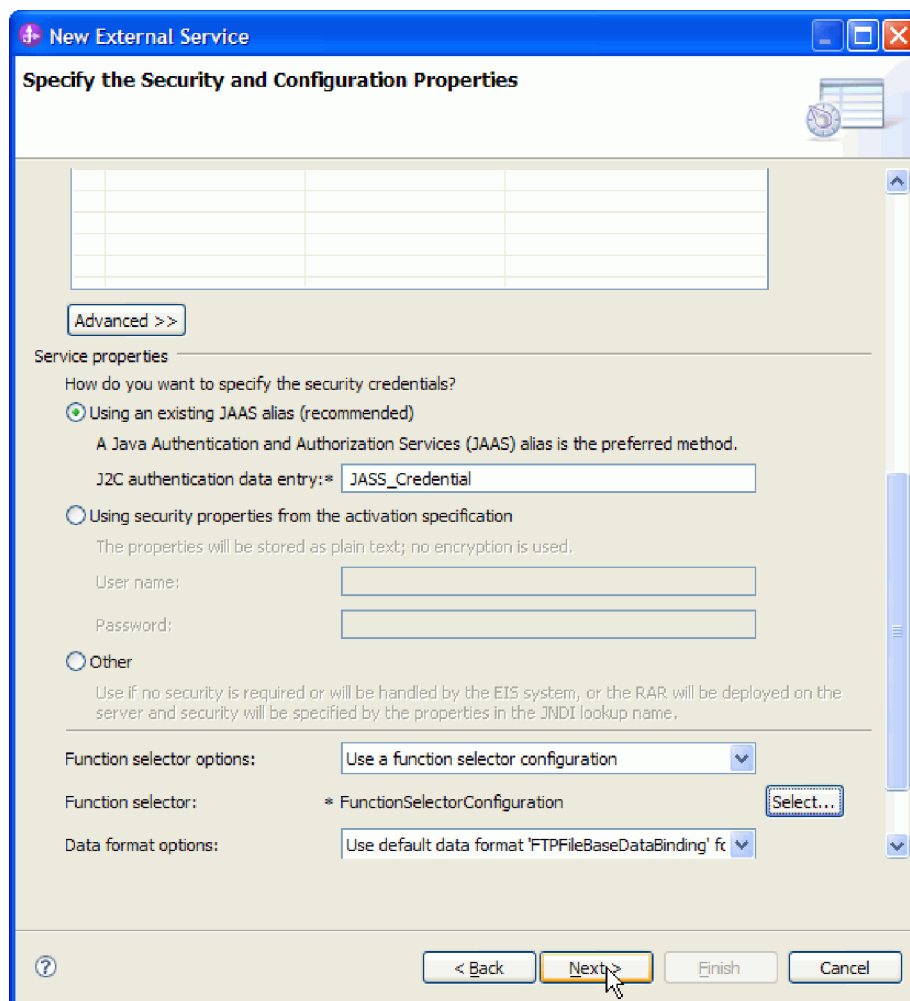


図 16. 「セキュリティーおよび構成プロパティの指定」ウィンドウ

- b. 「関数セレクターの選択」ウィンドウで、オプション「リストにある既存の関数セレクターを使用」を選択します。使用可能なセレクターのリストが表示されます。関数セレクターを選択します (この例では、FilenameFunctionSelector プロパティを使用します)。「次へ」をクリックします。

注: 外部サービス・ウィザードでは、EIS 関数名は選択できません。デフォルト以外で、アダプターが生成した値を指定したい場合は、アセンブリ・エディターを使用して編集できます。

8. 「新規関数セレクターの構成」ウィンドウで「終了」をクリックします。
9. 「サービス構成プロパティ」ウィンドウで「次へ」をクリックします。

タスクの結果

外部サービス・ウィザードは、FTP サーバーへの接続に必要な情報を保有します。

次のタスク

「データ・フォーマット・オプション」で「すべての操作にデフォルトのデータ・バインディング 'FTPFileBaseDataBinding' を使用」または「操作ごとにデータ・バインディングを指定」のいずれかを選択した場合は、「次へ」をクリックして、ウィザードでの作業を続行し、モジュールのデータ・タイプを選択してそのデータ・タイプに関連付けられる操作に名前を付けます。

「データ・フォーマット・オプション」で「すべての操作にデータ・バインディング構成を使用」を選択した場合は、『データ・バインディングおよびデータ・ハンドラーの構成』に進んでください。

活動化仕様プロパティ

活動化仕様プロパティは、メッセージ・エンドポイント用の Inbound イベント処理の構成情報を保持するプロパティです。

活動化仕様プロパティは、エンドポイント活動化の際にアダプターに適格なイベント・リスナーを通知するために使用されます。Inbound 処理中に、アダプターはこれらのイベント・リスナーを使用して、エンドポイントに転送する前にイベントを受信します (メッセージ・ドリブン Bean)。

活動化仕様プロパティを設定するには、外部サービス・ウィザードを使用します。変更する場合には、WebSphere Integration Developer のアセンブリー・エディターを使用することもできますし、デプロイメント後に 管理コンソール を通じて行うこともできます。

以下の表は、活動化仕様プロパティをリストしています。各プロパティの完全な説明は、表に続くセクションで説明します。これ以降のセクションのプロパティの詳細表を読む方法については、『プロパティ詳細についてのガイド』を参照してください。

表 157. 活動化仕様プロパティ

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	
137 ページの『イベントを一度のみ送達する (AssuredOnceDelivery)』	AssuredOnceDelivery	アダプターにより、1 回のイベント送達を確保する機能が提供されるかどうかを指定します。
137 ページの『「自動作成イベント・テーブル」プロパティ (EP_CreateTable)』	EP_CreateTable	イベント・パーシスタンス・テーブルを作成するかどうかをアダプターに通知する
137 ページの『「テーブル作成」プロパティ (CreateTable)』	CreateTable	true に設定すると、イベント・テーブルおよび関連した索引が作成される
138 ページの『「カスタム・パーサー・クラス名」プロパティ (CustomParserClassName)』	CustomParserClassName	ls -l の出力を解析するために使用されるカスタム・パーサーの完全修飾クラス名
138 ページの『データ・チャンネル保護レベル (dataProtectionLevel)』	dataProtectionLevel	FTPS プロトコルの場合、データ・チャンネルの保護レベルを指定します。

表 157. 活動化仕様プロパティ (続き)

139 ページの『「データベース・パスワード」プロパティ (DatabasePassword)』	DatabasePassword	データ・ソースから JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するパスワード
139 ページの『「データベース・スキーマ名」プロパティ (EP_SchemaName)』	EP_SchemaName	イベント・パーシスタンスによって使用されるデータベースのスキーマ名
139 ページの『「データベース・ユーザー名 (Database Username)」プロパティ (DatabaseUsername)』	DatabaseUsername	データ・ソースから JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するユーザー名
141 ページの『「FTP サーバー接続モード」プロパティ (DataConnectionMode)』	DataConnectionMode	FTP サーバーがファイル転送時に使用するデータ接続モード
141 ページの『FTPS 接続モード・プロパティ (ftpsConnectionMode)』	ftpsConnectionMode	FTPS サーバーへの接続を設定するために使用される FTPS 接続モードを指定します。
(なし)	DefaultObjectName	前のバージョンとの互換性を維持するためにサポートされている
139 ページの『送達タイプ (DeliveryType)』	DeliveryType	イベントがアダプターによってエクスポートに配信される順序を指定します。
140 ページの『「FTP サーバーで使用するエンコード」プロパティ (EISEncoding)』	EISEncoding	FTP サーバーのエンコード
(なし)	EventContentType	前のバージョンとの互換性を維持するためにサポートされている
140 ページの『「イベント・リカバリ DataSource (JNDI) 名」プロパティ (EP_DataSource_JNDIName)』	EP_DataSource_JNDIName	JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスで使用されるデータ・ソースの JNDI 名
141 ページの『「イベント・リカバリ・テーブル名」プロパティ (EP_EventTableName)』	EP_TableName	アダプターがイベント・パーシスタンスのために使用するテーブルの名前
142 ページの『「ローカル・アーカイブ用の障害ファイル拡張子」プロパティ (FailedArchiveExt)』	FailedArchiveExt	正常に処理されなかったイベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトをアーカイブするために使用されるファイル拡張子
142 ページの『「ファイル内容のエンコード」プロパティ (FileContentEncoding)』	FileContentEncoding	イベント・ファイルを読み取るために使用されるエンコード
142 ページの『「リモート・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティ (FTPRenameExt)』	ftpRenameExt	アダプターがリモート FTP ファイルの名前変更に使用するファイル拡張子またはサフィックス
143 ページの『鍵ストア・ファイル プロパティ (keyStorePath)』	keyStorePath	秘密鍵項目を含む鍵ストアのパスを指定します。

表 157. 活動化仕様プロパティ (続き)

143 ページの『鍵ストア・パスワードプロパティ (keyStorePassword)』	keyStorePassword	鍵ストアの暗号化に使用されるパスワードを指定します。
143 ページの『鍵パスワード プロパティ (keyPassword)』	keyPassword	鍵の暗号化に使用されるパスワードを指定します。
144 ページの『鍵ストア・タイプ プロパティ (keyStoreType)』	keyStoreType	鍵ストアのタイプを指定します。
145 ページの『「内容ではなくファイル名およびディレクトリーのための受け渡し」プロパティ (FilePassByReference)』	FilePassByReference	イベント・ファイルのファイル内容をエクスポートに送信しないことを指定する
146 ページの『「ファイル転送タイプ」プロパティ (FileTransferType)』	FileTransferType	Inbound 処理時に使用されるファイル転送タイプ
146 ページの『「一度に取得するファイル数」プロパティ (FTPGetQuantity)』	ftpGetQuantity	リモート FTP URL から取得するファイルの数を決定する
146 ページの『「各ダウンロード間のポーリング期間の数」プロパティ (FTPPollFrequency)』	ftpPollFrequency	アダプターが FTP サーバーをポーリングする頻度を決定する
失敗したイベントの再試行制限	FailedEventRetryLimit	アダプターの再送信の試行回数で、この回数に達すると失敗とマークされます。
147 ページの『「ファイルのダウンロード後に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedAfterInbound)』	ftpScriptFileExecutedAfterInbound	FTP サーバーからのファイルのダウンロード後に実行されるスクリプト・ファイルのパスを指定します。
148 ページの『「ファイルのダウンロード前に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedBeforeInbound)』	ftpScriptFileExecutedBeforeInbound	FTP サーバーからのファイルのダウンロード前に実行されるスクリプト・ファイルのパスを指定します。
148 ページの『「ホスト名」プロパティ (HostName)』	HostName	接続の確立先となる FTP サーバーのホスト名
148 ページの『「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ (IncludeEndBODelimiter)』	IncludeEndBODelimiter	true に設定する場合、さらに処理を行うため、ビジネス・オブジェクトの内容と一緒に区切り文字が送信される
148 ページの『「ローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (LocalArchiveDirectory)』	LocalArchiveDirectory	ローカル・アーカイブ・ディレクトリーの絶対パス
149 ページの『「ローカル・ディレクトリー」プロパティ (LocalEventDirectory)』	LocalEventDirectory	アダプターが FTP サイトからダウンロードしたイベント・ファイルを格納するローカル・システム・ディレクトリー
149 ページの『最大接続数 (Maximum connections) (MaximumConnections)』	MaximumConnections	アダプターが Inbound イベント送達に使用できる接続の最大数
150 ページの『最小接続数 (Minimum connections) (MinimumConnections)』	MinimumConnections	アダプターが Inbound イベント送達に使用できる接続の最小数

表 157. 活動化仕様プロパティ (続き)

150 ページの『「ローカル・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティ (OriginalArchiveExt)』	OriginalArchiveExt	オリジナル・イベント・ファイルをアーカイブするために使用されるファイル拡張子
パスフレーズ・プロパティ	passPhrase	秘密鍵を暗号化して、拡張セキュリティのために使用されます
150 ページの『「パスワード」プロパティ (Password)』	Password	FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーのパスワード
150 ページの『「イベント DataSource に接続するのに使用されるパスワード」プロパティ (EP_Password)』	EP_Password	イベント・パーシスタンス時に使用されるパスワード
151 ページの『「ポーリング期間の間隔 (ポーリング間隔)』	ポーリング間隔	ポーリング期間中にアダプターが待機する時間の長さ
151 ページの『「ポーリング期間内の最大イベント数 (ポーリング数量)』	ポーリング数量	各ポーリング期間中にアダプターがエクスポートに配信するイベント数
152 ページの『「ポート番号」プロパティ (PortNumber)』	PortNumber	FTP サーバーのポート番号
152 ページの『「秘密鍵ファイル・プロパティ (PrivateKeyFilePath)』	PrivateKeyFilePath	セキュア・シェル・サーバーに認証させるために使用される秘密鍵
152 ページの『「プロトコル」プロパティ (Protocol)』	Protocol	FTP サーバーへの接続を通常の FTP またはセキュア FTP のいずれにするのかを指定します。
154 ページの『「このパターンを持つファイルの取得」プロパティ (EventFileMask)』	EventFileMask	イベント・ファイル用のフィルター
開始時に EIS 接続を再試行する	RetryConnectionOnStartup	アダプターが始動時に FTP サーバーに接続できない場合に、接続を再試行するかどうかを指定します。
システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒)	RetryInterval	Inbound 操作時にエラー発生後、新規接続を確立しようとする試行と次の試行の間にアダプターが待機する時間の長さ
システム接続に失敗した場合の最大再試行回数	RetryLimit	エラーの発生後に、アダプターが Inbound 接続の再確立を試行する回数。
153 ページの『「リモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (FTPArchiveDirectory)』	ftpArchiveDirectory	FTP サーバー上のアーカイブ・ディレクトリーの相対パス
154 ページの『「リモート・ディレクトリー」プロパティ (EventDirectory)』	EventDirectory	Inbound 処理のためにイベント・ファイルが取り出される FTP サーバーのリモート・ディレクトリー
サーバー検査を使用可能にする	EnableServerVerification	SFTP プロトコルのリモート・サーバー検査を使用可能にする
ホスト鍵ファイル	HostKeyFile	トラステッド・サーバーのホスト鍵を含むホスト鍵ファイルの絶対パス

表 157. 活動化仕様プロパティ (続き)

158 ページの『「ホスト名」プロパティ (SocksProxyHost)』	SocksProxyHost	プロキシー・サーバーとして使用されるマシンのホスト名
158 ページの『「パスワード」プロパティ (SocksProxyPassword)』	SocksProxyPassword	プロキシー・サーバーを認証するためのパスワード
158 ページの『「ポート番号」プロパティ (SocksProxyPort)』	SocksProxyPort	プロキシー・サーバーのポート番号
159 ページの『「ユーザー名」プロパティ (SocksProxyUserName)』	SocksProxyUserName	プロキシー・サーバーを認証するためのユーザー名
159 ページの『「ソート・イベント・ファイル」プロパティ (SortEventFiles)』	SortEventFiles	ポーリングされるイベント・ファイルのソート順を決定する
159 ページの『「ファイル内容を分割するための基準の指定」プロパティ (SplitCriteria)』	SplitCriteria	SplittingFunctionClassName プロパティの値に基づいた各種の値を指定する
161 ページの『「分割関数クラス名」プロパティ』	SplittingFunctionClassName	ファイル分割を有効にするために使用するクラス・ファイルの完全修飾クラス名を指定する
161 ページの『ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する (StopPollingOnError)』	StopPollingOnError	ポーリング時にアダプターがエラーを検出した場合、アダプターがイベントのポーリングを停止するかどうかを指定します。
162 ページの『「ローカル・アーカイブ用の成功ファイル拡張子」プロパティ (SuccessArchiveExt)』	SuccessArchiveExt	正常に処理されたビジネス・オブジェクトすべてをアーカイブするために使用されるファイル拡張子
144 ページの『「トラストストア・ファイル」プロパティ (trustStorePath)』	trustStorePath	アダプターによって信頼された FTPS サーバーの証明書を含むトラストストア・ファイルのパスを指定します。
145 ページの『「トラストストア・パスワード」プロパティ (trustStorePassword)』	trustStorePassword	トラストストアのパスワードを指定します。
145 ページの『「未変更ファイルのポーリング時間間隔」 (fileUnchangedTimeInterval)』	fileUnchangedTimeInterval	内容が更新されているかどうかを調べるために、アダプターがファイルをモニターする時間間隔を指定する
162 ページの『「ユーザー名」プロパティ (UserName)』	UserName	FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーの名前
162 ページの『「イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名」プロパティ (EP_UserName)』	EP_UserName	データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するユーザー名
ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター	ruleString	イベントのフィルター処理に使用されるルールのコレクション。
155 ページの『リモート検証有効プロパティ (enableRemoteVerification)』	enableRemoteVerification	FTP サーバーとの間のデータ転送を要求するホスト・システムが、アダプターを実行しているホスト・システムと同じであるかどうかを検証するために使用します。

イベントを一度のみ送達する (AssuredOnceDelivery)

このプロパティでは、Inbound イベントに対して、「イベントを一度のみ送達する」の機能を提供するかどうかを指定します。

表 158. 「イベントを一度のみ送達する」の詳細

必須	はい
使用可能な値	True False
デフォルト	True
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティを True に設定すると、アダプターにより、1回のイベント送達を確保する機能が提供されます。つまり、各イベントは 1 回のみ配信されます。値を False にすると、1回のイベント送達を確保する機能は提供されませんが、パフォーマンスは向上します。</p> <p>このプロパティを True に設定すると、アダプターにより、トランザクション (XID) 情報のイベント・ストアへの保管が試行されます。このプロパティを False に設定した場合は、アダプターではこの情報の保管は行われません。</p> <p>このプロパティは、エクスポート・コンポーネントがトランザクションの対象である場合에만使用されます。そうでない場合は、このプロパティの値に関係なく、トランザクションを使用することはできません。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「自動作成イベント・テーブル」プロパティ (EP_CreateTable)

イベント・パーシスタンス・テーブルを作成するかどうかをアダプターに通知する。値が true でテーブルが存在しない場合、アダプターはテーブルを作成します。値が false の場合、アダプターはテーブルを作成しません。

表 159. 「自動作成イベント・テーブル」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	true
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「テーブル作成」プロパティ (CreateTable)

true に設定すると、イベント・テーブルおよび関連した索引が作成される。テーブル作成エラーをトラブルシューティングするには、このプロパティを false に設定します。その後、テーブルおよび索引を手動で作成できます。

表 160. 「テーブル作成」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	true
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「カスタム・パーサー・クラス名」プロパティ (CustomParserClassName)

ls -l の出力を解析するために使用されるカスタム・パーサーの完全修飾クラス名。ls -l の出力が標準出力から外れる場合にのみ使用されます。

表 161. 「カスタム・パーサー・クラス名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

データ・チャネル保護レベル (dataProtectionLevel)

このプロパティでは、データ・チャネルを介したデータ転送の保護レベルを指定します。FTP アダプターとそのサーバーが使用するデータ・チャネル保護のタイプを指定します。

データ・チャネルを開く前に、保護バッファ・サイズ (PBSZ) コマンドおよびデータ・チャネル保護レベル (PROT) コマンドが FTP アダプターによって発行され、そのデータ・チャネルの保護レベルが指定されます。デフォルトでは、アダプターは PROT コマンドを発行する前に「PBSZ 0」コマンドを発行します。

表 162. データ・チャネル保護レベル プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	Private - データは暗号化形式で転送されます Clear - データは平文として転送されます
デフォルト	Private - データは暗号化形式で転送されます
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティは、データ・チャネルの保護レベルを選択するために使用します。以下は、保護レベルの値です。 <ul style="list-style-type: none"> • Private - データ転送の健全性および機密性が保護されることを示します。 • Clear - セキュリティ対策を取らずに、データ・チャネルで、FTP アダプターとサーバーとの間のファイル転送用に生データが伝送されることを示します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「データベース・パスワード」プロパティ (DatabasePassword)

データ・ソースから JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するパスワード。

表 163. 「データベース・パスワード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「データベース・スキーマ名」プロパティ (EP_SchemaName)

イベント・パーシスタンスによって使用されるデータベースのスキーマ名。

表 164. 「データベース・スキーマ名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「データベース・ユーザー名 (Database Username)」プロパティ (DatabaseUsername)

データ・ソースから JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するユーザー名。

表 165. 「データベース・ユーザー名 (Database Username)」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

送達タイプ (DeliveryType)

このプロパティでは、イベントがアダプターによってエクスポートに配信される順序を指定します。

表 166. 送達タイプの詳細

必須	いいえ
使用可能な値	ORDERED UNORDERED
デフォルト	ORDERED
プロパティ・タイプ	String

表 166. 送達タイプの詳細 (続き)

使用法	以下の値がサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • ORDERED: アダプターは、一度に 1 つのイベントをエクスポートに配信します。 • UNORDERED: アダプターは、一度にすべてのイベントをエクスポートに配信します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「FTP サーバーで使用されるエンコード」プロパティ (EISEncoding)

FTP サーバーのエンコード。この値は、FTP サーバーとの制御接続のエンコードを設定する場合に使用します。

- アダプター・レベルの EISEncoding と活動化仕様レベルの EISEncoding の両方を設定しない場合 (両方とも null)、FTP サーバーとの通信中は制御接続で何も設定されません。
- アダプター・レベルの EISEncoding を設定し、活動化仕様レベルの EISEncoding を設定しない場合、アダプター・レベルの値は、FTP サーバーとの通信中に制御接続で設定されます。これは、複数の活動化仕様を使用するときに、同じエンコードが設定されている場合に便利です。この場合は、すべての接続で制御接続のエンコードが同じになるように、値をアダプター・レベルで設定します。
- アダプター・レベルの EISEncoding を設定しないで、活動化仕様レベルの EISEncoding を設定する場合、活動化仕様レベルの値は、FTP サーバーとの通信中に制御接続で設定されます。値は活動化仕様レベルであるため、これが適用されるのは、その活動化仕様のみです。
- アダプター・レベルの EISEncoding と活動化仕様レベルの EISEncoding の両方を設定する場合、活動化仕様レベルの値が優先されます。

この属性には、Java がサポートする任意のエンコードを指定できます。

表 167. 「FTP サーバーで使用されるエンコード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「イベント・リカバリー DataSource (JNDI) 名」プロパティ (EP_DataSource_JNDIName)

JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスで使用されるデータ・ソースの JNDI 名。データ・ソースは、WebSphere Process Server 内に作成する必要があります。データ・ソースの作成中に指定されるデータベース名は、存在しているデータベースでなければなりません。

表 168. 「イベント・リカバリー DataSource (JNDI) 名」プロパティ特性

必須	いいえ
----	-----

表 168. 「イベント・リカバリー DataSource (JNDI) 名」プロパティ特性 (続き)

デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「イベント・リカバリー・テーブル名」プロパティ (EP_EventTableName)

アダプターがイベント・パーシスタンスのために使用するテーブルの名前。複数の活動化仕様を使用する場合、この値は活動化仕様ごとに固有でなければなりません。同じアダプター、または異なるアダプターのほかのインスタンスが同じテーブル名を使用することはできません。データベースにこのテーブルが存在しない場合は、アダプターがこのテーブルを作成します。

表 169. 「イベント・リカバリー・テーブル名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	FTPTABLE
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「FTP サーバー接続モード」プロパティ (DataConnectionMode)

FTP サーバーがファイル転送時に使用するデータ接続モード。active または passive のいずれかの設定値を受け入れます。

表 170. 「FTP サーバー接続モード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	active
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

FTPS 接続モード・プロパティ (ftpsConnectionMode)

このプロパティは、FTPS サーバーとの接続を確立するときの接続モードを指定するために使用されます。現在、WebSphere Adapter for FTP は、Implicit および Explicit の両方の接続モードをサポートしています。このプロパティは、Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを介した FTP または Transport Layer Security (TLS) プロトコルを介した FTP のいずれかを選択するときを使用されます。

表 171. FTPS 接続モード・プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	Explicit Implicit
デフォルト	Explicit
プロパティ・タイプ	String

表 171. FTPS 接続モード・プロパティの特性 (続き)

使用法	<p>このプロパティは、FTPS サーバーへの接続に使用されるモードを表します。</p> <p>このプロパティの設定内容によって、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Explicit 接続モードでは、最初、接続を通常の FTP 接続として確立します。パスワードなどの機密情報を送信するために、アダプターは、AUTH コマンドを発行してセキュア FTP 接続に切り替えます。 注: Explicit 接続モードのデフォルトのポートは、21 です。 • Implicit 接続モードでは、接続をセキュア FTP 接続として確立します。アダプターとサーバー間のすべての通信は、セキュア・モードで続きます。アダプターとサーバー間で平文情報の交換はありません。 注: Implicit 接続モードのデフォルトのポートは、990 です。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「ローカル・アーカイブ用の障害ファイル拡張子」プロパティ (FailedArchiveExt)

正常に処理されなかったイベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトをアーカイブするために使用されるファイル拡張子。このプロパティは、LocalArchiveDirectory が有効で存在する場合にのみ使用されます。

表 172. 「ローカル・アーカイブ用の障害ファイル拡張子」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	fail
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイル内容のエンコード」プロパティ (FileContentEncoding)

EndBODelimiter プロパティに基づいたイベント・ファイルの読み取りで使用するエンコード、およびストリングから byte[] への変換時に使用されるエンコード。指定しない場合、アダプターは特定のエンコードを使用せずに読み取りを行おうとします。Java がサポートする任意のエンコード・セットを指定できます。

表 173. 「ファイル内容のエンコード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「リモート・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティ (FTPRenameExt)

コネクターがリモート FTP ファイルをポーリングした後、アダプターがリモート FTP ファイルの名前変更に使用するファイル拡張子またはサフィックス。ファイルの名前変更を行うと、コネクターが次のポーリング周期で同じファイルをポーリン

グしないように設定できます。アダプターを、処理済みのイベント・ファイルの名前を変更して、そのファイルをアーカイブ・ディレクトリーに移動するように構成することができます。

表 174. 「リモート・アーカイブ用のファイル拡張子」 プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	はい

鍵ストア・ファイル プロパティー (keyStorePath)

このプロパティーでは、秘密鍵項目を含む鍵ストアのパスを指定します。

表 175. 鍵ストア・ファイル プロパティーの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	このプロパティーでは、(アダプターが稼働中の) アダプター・マシン上の鍵ストア・ファイルの絶対パスを指定します。鍵ストア・ファイルには、FTPS クライアントの秘密鍵項目が含まれます。また、対応する公開鍵の証明書チェーンも一緒に保存されます。鍵ストア・データは、SSL 接続の確立中にクライアント ID を認証するために使用されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

鍵ストア・パスワード プロパティー (keyStorePassword)

このプロパティーでは、鍵ストアの暗号化に使用されるパスワードを指定します。

表 176. 鍵ストア・パスワード プロパティーの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	このプロパティーでは、鍵ストアのパスワードを指定します。このパスワードは、鍵ストア・データの保全性のチェックに使用されます。値が指定されていない場合、保全性チェックは実行されません。このプロパティーは、プロトコルの値が FTP over SSL または FTP over TLS に設定されている場合にのみ適用されます。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

鍵パスワード プロパティー (keyPassword)

このプロパティーでは、鍵の暗号化に使用されるパスワードを指定します。

表 177. 鍵パスワード プロパティーの特性

必須	いいえ
----	-----

表 177. 鍵パスワード プロパティの特性 (続き)

デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、鍵ストアから鍵をリカバリーするために使用される鍵のパスワードを指定します。このプロパティは、プロトコルの値が FTP over SSL または FTP over TLS に設定されている場合にのみ適用されます。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

鍵ストア・タイプ プロパティ (keyStoreType)

このプロパティでは、鍵ストアのタイプを指定します。

表 178. 鍵ストア・タイプ プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	JKS および PKCS12
デフォルト	JKS
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、鍵ストアのタイプを指定します。このプロパティは、プロトコルとして FTP over SSL または FTP over TLS を選択した場合にのみ適用されます。このプロパティは、トラストストアのタイプにも適用されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

トラストストア・ファイル プロパティ (trustStorePath)

このプロパティでは、アダプターによって信頼された FTPS サーバーの証明書を含むトラストストア・ファイルのパスを指定します。

表 179. トラストストア・ファイル プロパティの特性

必須	このプロパティは、プロトコルを FTP over SSL または FTP over TLS として設定した場合にのみ適用されます。
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、(アダプターが稼働中の) アダプター・マシン上のトラストストア・ファイルの絶対パスを指定します。トラストストア・ファイルは、アダプターによって信頼される FTPS サーバーの証明書を含み、SSL 接続の確立中にサーバー ID を認証するために使用されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

トラストストア・パスワード プロパティ (trustStorePassword)

このプロパティでは、トラストストアのパスワードを指定します。

表 180. トラストストア・パスワード プロパティの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、トラストストアのパスワードを指定します。このパスワードは、トラストストア・データの安全性のチェックに使用されます。値が指定されていない場合、安全性チェックは実行されません。このプロパティは、プロトコルの値が FTP over SSL または FTP over TLS に設定されている場合にのみ適用されます。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

未変更ファイルのポーリング時間間隔 (fileUnchangedTimeInterval)

このプロパティは、内容が更新されているかどうかを調べるために、アダプターがファイルをモニターする時間間隔を指定します。アダプターは、指定された時間間隔内に変更されなかったファイルのみをポーリングします。

表 181. 未変更ファイルのポーリング時間間隔 (Time interval for polling unchanged file)

必須	いいえ
デフォルト	0
計測単位	ミリ秒
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	このプロパティは、アダプターが、指定された時間間隔の間にイベント・ディレクトリーで変更されていないファイルのみをポーリングできるようにします。このプロパティが選択されると、アダプターは、ポーリング周期中に未変更のファイルを取得します。アダプターは、現在編集集中のファイルもポーリングしますが、そのファイルを最後に保存したときに存在していたファイル内容のみを取得します。 値が「0」に設定されていると、アダプターはファイルをただちにポーリングし、ファイルが変更されているかどうかを検査しません。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「内容ではなくファイル名およびディレクトリーのための受け渡し」プロパティ (FilePassByReference)

イベント・ファイルのファイル内容をエクスポートに送信しないことを指定する。

true に設定する場合、ファイルにタイム・スタンプが付加され、LocalArchiveDirectory に送信されます。タイム・スタンプにより、同じ名前での別のファイルが受信される場合に起きる、エラーやファイルの上書きを回避できます。このプロパティを true に設定できるのは、LocalArchiveDirectory プロパティ

を設定する場合で、指定したディレクトリーが存在する場合のみです。このプロパティーは、PassThrough Inbound 処理でのみ使用されます。有効にすると、ファイルはチャンクに分割されません。

表 182. 「内容ではなくファイル名およびディレクトリーのみの受け渡し」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティー・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「ファイル転送タイプ」プロパティー (FileTransferType)

Inbound 処理時に使用されるファイル転送タイプ。ASCII または binary のいずれかの設定値を受け入れます。

表 183. 「ファイル転送タイプ」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	binary
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	no

「一度に取得するファイル数」プロパティー (FTPGetQuantity)

リモートでのポーリングごとに、リモート FTP URL から取得するファイルの数を決定する。

表 184. 「一度に取得するファイル数」プロパティー特性

必須	はい
デフォルト	10
プロパティー・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

「各ダウンロード間のポーリング期間の数」プロパティー (FTPPollFrequency)

アダプターが FTP サーバーをポーリングする頻度 (標準のポーリング周期の数で測定される) を決定する。例えば、PollPeriod を 10000 に設定し、FTPPollFrequency を 6 に設定した場合、アダプターは LocalEventDirectory を 10 秒ごとにポーリングし、リモートの EventDirectory を 60 秒ごとにポーリングします。アダプターが FTP のポーリングを行うのは、このプロパティーに値を指定した場合のみです。PollPeriod が 0 の場合は、1 として計算します。計算により 0 と評価された場合、アダプターは FTP のポーリングを行いません。

表 185. 「各ダウンロード間のポーリング期間の数」プロパティー特性

必須	はい
デフォルト	5
プロパティー・タイプ	Integer

表 185. 「各ダウンロード間のポーリング期間の数」プロパティ特性 (続き)

グローバル化	いいえ
--------	-----

失敗したイベントの再試行制限 (FailedEventRetryLimit)

このプロパティは、アダプターがイベントの再送信を試みる回数を指定します。この回数に達すると失敗とマークされます。

表 186. 「失敗したイベントの再試行制限」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	整数
デフォルト	5
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	<p>このプロパティは、この回数以上は失敗とマークする場合の、アダプターがイベントを送信する回数を指定する時に使用します。以下のいずれかの値を取ります。</p> <p>デフォルト このプロパティが設定されない場合、アダプターは、イベント送信失敗の後、さらに 5 回イベントの送信を試み、それでも送達できない場合にイベントを失敗とマーク付けします。</p> <p>0 アダプターは、回数無制限でイベントの送信を試行します。このプロパティが 0 に設定されると、イベントはイベント・ストアに残されたままになり、イベントが失敗とマークされることはなくなります。</p> <p>> 0 正の整数の場合、アダプターは、指定した回数再試行を行った後、イベントを失敗とマークします。</p> <p>< 0 負の整数の場合、アダプターは失敗したイベントの送信を再試行しません。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「ファイルのダウンロード後に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedAfterInbound)

FTP サーバーからのファイルのダウンロード後に実行されるスクリプト・ファイルのパスを指定します。

表 187. 「ファイルのダウンロード後に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイルのダウンロード前に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedBeforeInbound)

FTP サーバーからのファイルのダウンロード前に実行されるスクリプト・ファイルのパスを指定します。

表 188. 「ファイルのダウンロード前に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ホスト名」プロパティ (HostName)

Inbound 処理時に接続の確立先となる FTP サーバーのホスト名。

表 189. 「テーブル作成」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ (IncludeEndBODelimiter)

true に設定する場合、さらに処理を行うため、ビジネス・オブジェクトの内容と一緒に区切り文字が送信されます。このプロパティは、区切り文字に基づいてイベント・ファイルを分割する場合にのみ有効です。

表 190. 「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「ローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (LocalArchiveDirectory)

ローカル・アーカイブ・ディレクトリーの絶対パス。ディレクトリーは、有効で、存在している必要があります。

表 191. 「ローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String

表 191. 「ローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティー特性 (続き)

使用法	<p>WebSphere Application Server 環境変数を使用して、ローカル・アーカイブ・ディレクトリーを表すことができます。\$ 記号の後に、環境変数の名前を中括弧で囲んで指定します。例えば、\${LOCALARCHIVE_DIRECTORY} です。この資料のhttp://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/tbp_ftp_defineenvironvars.htmlについてのトピックを参照してください。</p> <p>注: アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、LocalArchiveDirectory を手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。</p>
グローバル化	はい

「ローカル・ディレクトリー」プロパティー (LocalEventDirectory)

アダプターが FTP サイトからダウンロードしたイベント・ファイルを格納するローカル・システム・ディレクトリー。アダプターがイベントを処理できるようにするために、このプロパティーに値を指定する必要があります。

表 192. 「ローカル・ディレクトリー」プロパティー特性

必須	はい
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	<p>WebSphere Application Server 環境変数を使用して、ローカル・イベント・ディレクトリーを表すことができます。\$ 記号の後に、環境変数の名前を中括弧で囲んで指定します。例えば、\${LOCAL_DIRECTORY} です。この資料のhttp://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/tbp_ftp_defineenvironvars.htmlについてのトピックを参照してください。</p> <p>注: アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、LocalEventDirectory を手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。</p>
グローバル化	はい

最大接続数 (Maximum connections) (MaximumConnections)

このプロパティーでは、アダプターが Inbound イベント送達に使用できる接続の最大数を指定します。

表 193. 「最大接続数 (Maximum connections)」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	1
プロパティー・タイプ	Integer
使用法	<p>正の値のみが有効です。アダプターは、1 より小さい正の入力値を 1 であるとみなします。このプロパティーに対して負の値を入力すると、ランタイム・エラーが発生することがあります。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

最小接続数 (Minimum connections) (MinimumConnections)

このプロパティーでは、アダプターが Inbound イベント送達に使用できる接続の最小数を指定します。

表 194. 「最小接続数 (Minimum connections)」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	1
プロパティー・タイプ	Integer
使用法	正の値のみが有効です。1 より小さい値は、アダプターによって 1 として処理されます。このプロパティーに対して負の値または 1 を入力すると、実行時エラーが発生することがあります。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「ローカル・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティー (OriginalArchiveExt)

オリジナル・イベント・ファイルをアーカイブするために使用されるファイル拡張子。このファイルには、ビジネス・オブジェクトのいずれかが失敗した場合の参照用にイベント・ファイル全体が保存されます。このプロパティーは、LocalArchiveDirectory が有効で存在する場合にのみ使用されます。

表 195. 「ローカル・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	original
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	はい

「パスワード」プロパティー (Password)

FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーのパスワード。EventDirectory プロパティーで指定した URL にパスワードが含まれている場合は、このプロパティーに値を指定する必要はありません。

表 196. 「パスワード」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	はい

「イベント DataSource に接続するのに使用されるパスワード」プロパティー (EP_Password)

データ・ソースからデータベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスで使用されるパスワード。

表 197. 「イベント DataSource に接続するのに使用されるパスワード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

ポーリング期間の間隔 (ポーリング間隔)

このプロパティでは、ポーリング期間中にアダプターが待機する時間の長さを指定します。

表 198. 「ポーリング期間の間隔」の詳細

必須	はい
使用可能な値	0 以上の整数
デフォルト	2000
計測単位	ミリ秒
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	ポーリング期間は一定の割合で確立されます。つまり、ポーリング周期の実行が何らかの理由で遅延すると (例えば、前のポーリング周期が完了するまでに予想より時間がかかった場合)、遅延によって失った時間を取り戻すために次のポーリング周期がすぐに開始されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ポーリング期間内の最大イベント数 (ポーリング数量)

このプロパティでは、各ポーリング期間中にアダプターがエクスポートに配信するイベント数を指定します。

表 199. 「ポーリング期間内の最大イベント数」の詳細

必須	はい
デフォルト	10
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	値は 0 より大きくする必要があります。この値を大きくすると、ポーリング期間ごとに処理されるイベントの数が増加し、アダプターのパフォーマンス効率が低下する場合があります。この値を小さくすると、ポーリング期間ごとに処理されるイベントの数が増減し、アダプターのパフォーマンスが若干向上することがあります。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

パズフレーズ・プロパティ (passPhrase)

このプロパティは、秘密鍵を暗号化して、拡張セキュリティのために使用されます。

表 200. パズフレーズ・プロパティ プロパティの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	拡張セキュリティに使用されます。これは、SFTP 構成の中で秘密鍵を暗号化することによって、秘密鍵を保護します。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

「ポート番号」プロパティ (PortNumber)

Inbound 処理時に接続の確立先となる FTP サーバーのポート番号。

表 201. 「ポート番号」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	Explicit モードの FTP および FTPS の場合は 21、Implicit モードの FTPS の場合は 990、SFTP の場合は 22 です。
プロパティ・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

秘密鍵ファイル・プロパティ (PrivateKeyFilePath)

このプロパティによって、秘密鍵を参照して選択することができます。その秘密鍵は、セキュア・シェル・サーバーに対する認証に使用されます。

表 202. 「秘密鍵」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	秘密鍵を格納するファイルの絶対パス。ユーザーをセキュア・シェル・サーバーに認証させるために使用されます。
例	c:%temp%key.ppk
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

「プロトコル」プロパティ (Protocol)

確立する接続が通常の FTP 接続か、またはセキュア FTP 接続かを定めるプロトコル。

例:

通常接続: FTP

FTP over SSL 接続: FTPS_SSL

FTP over TLS 接続: FTPS_TLS

FTP over SSH 接続: SFTP

表 203. 「プロトコル」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	FTP
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「リモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (FTPArchiveDirectory)

FTP サーバー上のアーカイブ・ディレクトリーの相対パス。ディレクトリーが存在している必要があります。このプロパティを使用してアーカイブを指定する場合には、いくつかのオプションがあります。

- このプロパティに値を指定したが、FTPRenameExt プロパティに値を指定しない場合、アダプターは、イベント・ファイル名にタイム・スタンプを付加し、ファイルをこのプロパティに指定された FTP サーバーのアーカイブ・ディレクトリーに移動します。
- このプロパティと FTPRenameExt プロパティの両方に値を指定した場合、アダプターは、処理済みのイベント・ファイルの名前をタイム・スタンプと FTPRenameExt に指定された値で変更し、ファイルをこのプロパティに指定された FTP サーバーのアーカイブ・ディレクトリーに移動します。
- このプロパティにも FTPRenameExt プロパティにも値を指定しない場合、アダプターは、処理済みのイベント・ファイルをアーカイブせずに削除します。
- このプロパティには値を指定せずに、FTPRenameExt プロパティに値を指定した場合、アダプターは処理済みのイベント・ファイルの名前を変更し、タイム・スタンプと FTPRenameExt に指定された値を追加します。

リモート・アーカイブ・ディレクトリー・プロパティの値は、ディレクトリーの絶対パスと相対パスの両方を受け入れます。値がスラッシュで始まらない場合、アダプターは、パスがユーザーのホーム・ディレクトリーを基準とする相対パスであると見なします。

表 204. 「リモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String

表 204. 「リモート・アーカイブ・ディレクトリー」 プロパティー特性 (続き)

<p>使用法</p>	<p>WebSphere Application Server 環境変数を使用して、リモート・アーカイブ・ディレクトリーを表すことができます。\$ 記号の後に、環境変数の名前を中括弧で囲んで指定します。例えば、<code>\${REMOTEARCHIVE_DIRECTORY}</code> です。この資料のhttp://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/tbp_ftp_defineenvironvars.htmlについてのトピックを参照してください。</p> <p>FTP サーバーにあり、Inbound 構成で使用されるアーカイブ・ディレクトリーは、アーカイブ・ディレクトリーの絶対パスを表します。これにはホスト名または URL 情報は含まれません。このディレクトリーは、イベント・ディレクトリーが存在するのと同じ FTP サーバーにあります。例えば、<code>/home/archive</code> です。</p> <p>注: アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、FTPArchiveDirectory を手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。</p>
<p>グローバル化</p>	<p>はい</p>

「リモート・ディレクトリー」 プロパティー (EventDirectory)

Inbound 処理のためにイベント・ファイルが取り出される FTP サーバーのリモート・ディレクトリー。リモート・ディレクトリーの値が `<HOME_DIR>` に設定されている場合、アダプターは、ユーザーのホーム・ディレクトリー内のイベント・ファイルをポーリングします。

イベント・ディレクトリー・プロパティーの値は、ディレクトリーの絶対パスと相対パスの両方を受け入れます。値がスラッシュで始まらない場合、アダプターは、パスがユーザーのホーム・ディレクトリーを基準とする相対パスであると見なします。

表 205. 「リモート・ディレクトリー」 プロパティー特性

<p>必須</p>	<p>はい</p>
<p>デフォルト</p>	<p><code><HOME_DIR></code></p>
<p>プロパティー・タイプ</p>	<p>String</p>
<p>使用法</p>	<p>WebSphere Application Server 環境変数を使用して、リモート・ディレクトリーを表すことができます。\$ 記号の後に、環境変数の名前を中括弧で囲んで指定します。例えば、<code>\${REMOTE_DIRECTORY}</code> です。この資料のhttp://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/tbp_ftp_defineenvironvars.htmlについてのトピックを参照してください。</p> <p>注: アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、EventDirectory を手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。</p>
<p>グローバル化</p>	<p>はい</p>

「このパターンを持つファイルの取得」 プロパティー (EventFileMask)

イベント・ファイル用のフィルター。ファイルのフィルターは、英数字と * および ? のワイルドカードから成る適切な修飾の表現です。

表 206. 「このパターンを持つファイルの取得」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	*.*
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

リモート検証有効プロパティ (enableRemoteVerification)

クライアントが FTP サーバーに接続するときは、2 種類の接続またはチャネル、つまり、コマンド接続 (制御接続としても知られる) とデータ接続が確立されます。コマンド接続とは、クライアントが FTP コマンドをサーバーに送信し、またそれらのコマンドへの応答をサーバーから受信する接続で、データ接続とは、クライアントとサーバーの間でデータ転送が実行されるチャネルのことです。

このプロパティは、FTP サーバーとの間のデータ転送を要求するホスト・システムが、アダプターを実行しているホスト・システムと同じであるかどうかを検証するために使用されます。

この検証は、データ接続を確立し、データ転送を実行する間に行われます。

注: このプロパティは、FTP プロトコルおよび FTPS プロトコルのみに適用可能です。

表 207. リモート検証有効プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	True
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティでは、データ接続と制御接続が同じホスト・システムから行われているかどうかを検証します。リモート検証プロパティは、デフォルトでは、FTP サーバーによって true に設定されています。</p> <p>このプロパティの設定内容によって、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true に設定されていると、実行時にアダプターは、データ接続が制御接続と同じホストで確立されているかどうかを検査します。データ接続が、制御接続とは別のホストから確立されていると、例外がスローされ、接続は失敗します。 • false に設定されていると、リモート検証は実行されません。 <p>注: リモート検証が使用不可に設定されると、セキュリティのレベルが低くなります。リモート検証を使用不可にする前にセキュリティの予防措置を取る必要があります。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

開始時に EIS 接続を再試行する (RetryConnectionOnStartup)

このプロパティは、アダプターが始動時に FTP サーバー に接続できない場合に、再度接続を試みるかどうかを指定します。

表 208. 「開始時に EIS 接続を再試行する」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティは、アダプターの始動時に、FTP サーバーに接続できない場合に、接続を再試行するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> アダプターが、FTP サーバー に対する接続を確立できたかどうかに関するフィードバックを直ちに必要とする場合、例えば、アダプターからのイベントを受信するアプリケーションを作成し、テストしている場合は、このプロパティを False に設定します。アダプターが接続できない場合、アダプターは、ログおよびトレース情報を書き込んで、停止します。管理コンソールは、アプリケーション状況を Stopped と表示します。この場合、接続の問題を解決後、手動でアダプターを始動してください。 接続に関するフィードバックをすぐに必要としない場合は、このプロパティは True に設定します。アダプターが始動時に接続できない場合、アダプターはログおよびトレース情報を書き込んでから、RetryInterval プロパティで再試行の頻度を判別して再接続を試み、RetryLimit プロパティの値で指定された値に達するまで、再試行を複数回行います。管理コンソールは、アプリケーション状況を Started と表示します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

接続が失敗した場合の再試行間隔 (RetryInterval)

このプロパティでは、アダプターが Inbound 接続に関連したエラーを検出した場合に、アダプターが新規接続を確立しようとするまで待機する時間の長さを指定します。

表 209. 再試行間隔の詳細

必須	はい
デフォルト	2000
計測単位	ミリ秒
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	<p>正の値のみが有効です。このプロパティでは、アダプターが Inbound 接続に関連したエラーを検出した場合に、アダプターが新規接続を確立しようとするまで待機する時間の長さを指定します。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

システム接続を再試行する回数 (RetryLimit)

このプロパティでは、アダプターが Inbound 接続の再確立を試行する回数を指定します。

表 210. 「システム接続を再試行する回数」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	0 および正の整数
デフォルト	0
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	<p>このプロパティは、アダプターが FTP サーバー に接続して Inbound 処理を実行できない場合に、接続を再試行する回数を指定します。値が 0 の場合は、再試行回数が無制限になることを指定します。</p> <p>アダプターの当初始動時に、FTP サーバー に接続できない場合、アダプターが再試行するかどうかを制御するには、RetryConnectionOnStartup プロパティを使用します。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

サーバー検査を使用可能にする プロパティ (EnableServerVerification)

このプロパティは、SFTP プロトコルのリモート・サーバー検査を使用可能にするために使用されます。

表 211. サーバー検査を使用可能にする プロパティの詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティの設定内容によって、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none">• True に設定されると、サーバー認証は使用可能です。• False に設定されると、サーバー認証は使用不可です。 <p>アダプターは、トラステッド・サーバーのホスト鍵を含むファイルのパス内の HostKeyFile プロパティを検査します。</p>
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

ホスト鍵ファイル プロパティ (HostKeyFile)

このプロパティでは、トラステッド・サーバーのホスト鍵を含むホスト鍵ファイルの絶対パスを指定します。

表 212. ホスト鍵ファイル プロパティの特性

必須	EnableServerVerification が使用可能の場合、このプロパティを指定する必要があります。
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	これは、このファイルに指定されているトラステッド・サーバーのホスト鍵でリモート・サーバーのホスト鍵を検査するために、アダプターが使用します。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

「ホスト名」プロパティ (SocksProxyHost)

アダプターの要求を FTP サーバーに送信する際に経由するプロキシ・サーバーとして使用されるマシンのホスト名。

表 213. 「ホスト名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「パスワード」プロパティ (SocksProxyPassword)

プロキシ・サーバーを認証するためのパスワード。

表 214. 「パスワード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ポート番号」プロパティ (SocksProxyPort)

アダプターの要求を FTP サーバーに送信する際に経由するプロキシ・サーバーのポート番号。

表 215. 「ポート番号」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	1080
プロパティ・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

「ユーザー名」プロパティ (SocksProxyUserName)

プロキシ・サーバーを認証するためのユーザー名。

表 216. 「ユーザー名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ソート・イベント・ファイル」プロパティ (SortEventFiles)

ポーリングされるイベント・ファイルのソート順を決定する。以下をサポートしています。

- ファイル名順 – ファイル名を基準に昇順にソート
- 日時順 – 最終変更日時のタイム・スタンプを基準に昇順でソート
- ソートなし – ソートされません

イベントを送信するためのイベント・ファイルの順序付けは、活動化仕様の `DeliveryType` プロパティが `ORDERED` に設定されている場合にのみ有効です。ファイル名のソートは、FTP サーバーのロケールに基づいて行われます。ロケールおよびそれに対応する規則の追跡には、`ICU4J` パッケージが使用されます。

表 217. 「ソート・イベント・ファイル」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	ソートなし (= ソートされません)
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「ファイル内容を分割するための基準の指定」プロパティ (SplitCriteria)

このプロパティには、`SplittingFunctionClassName` プロパティの値に基づいた各種の値を指定する。例: 5 KB ごとにファイルを分割するように指定するには、`SplitCriteria` プロパティを 5000 に設定します。

- `SplittingFunctionClassName` プロパティで、区切り文字に基づいてファイルを分割することを指定する場合、`SplitCriteria` にはイベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトを分割する区切り文字を指定します。
- `SplittingFunctionClassName` をサイズに基づいた分割を行う値に設定する場合、`SplitCriteria` プロパティには、バイト単位のサイズを表す有効な数値を指定します。
 - イベント・ファイルのサイズがこの値より大きい場合、アダプターはファイルをこのサイズのチャンクに分割し、各チャンクが送られます。
 - イベント・ファイルのサイズがこの値より小さい場合、イベント・ファイル全体が送られます。`SplitCriteria=0` の場合、チャンクへの分割は無効です。

Inbound PassThrough 時に `FilePassByReference` を有効にすると、イベント・ファイルは分割されません。

注: 複数の COBOL コピーブック・レコードを含む入力ファイルの場合、サイズによってファイル分割ができるように、それぞれのレコードの正しい長さを指定する必要があります。それぞれのレコードのサイズを判別するには、次のいずれかの方式を使用します。

1. テキスト・エディターでビジネス・オブジェクトを開きます。

a. 例:

```
<element name="CustomerNumber">
  <annotation>
    <appinfo source="http://www.ibm.com/cam/2005/typedescriptor">
      <td:typeDescriptorElement>
        <td:initialValue kind="SPACE"/>
        <td:simpleInstanceTD accessor="readWrite" attributeInBit="false"
          contentType="5" offset="0" size="5">
          <td:sharedType>
            <td:stringTD addrUnit="byte" alignment="byte" characterSize="1"
              lengthEncoding="fixedLength" paddingCharacter=" "
              prefixLength="0" width="5"/>
            </td:sharedType>
          </td:simpleInstanceTD>
        </td:typeDescriptorElement>
      </appinfo>
    </annotation>
  <simpleType>
    <restriction base="string">
      <maxLength value="5"/>
    </restriction>
  </simpleType>
</element>
```

ビジネス・オブジェクト内の各エレメントには、対応する <element> エレメントがあります。

- b. 各エレメント・タグの制限タグを見つけます (COBOL データ・バインディングには固定長のデータ・ハンドラーが必要です)。
- c. 各エレメントの maxLength 属性値を加算します。この例では、値は 5 です。maxLength 値の合計は、タイプが DFHCOMMAREA の各レコードのサイズです。

2. テキスト・エディターでビジネス・オブジェクトを開きます。

- a. 名前属性にビジネス・オブジェクト名の値を持つ複合タイプ・タグを見つけます。次の例では、ビジネス・オブジェクト名は DFHCOMMAREA です。
- b. 名前空間が追加された、aggregateInstanceTD という名前のタグを見つけて、属性 contentType の値を使用します。この例では、値は 117 です。これは、タイプ DFHCOMMAREA のそれぞれのレコードのサイズです。

```
<complexType name="DFHCOMMAREA">
  <annotation>
    <appinfo source="http://www.ibm.com/cam/2005/typedescriptor">
      <td:typeDescriptorCT>
        <td:aggregateInstanceTD accessor="readWrite" attributeInBit="false"
          contentType="117" offset="0" size="117">

```

表 218. 「ファイル内容を分割するための基準の指定」 プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	0
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	はい

「分割関数クラス名」プロパティ

この値には、ファイル分割を有効にするために使用するクラス・ファイルの完全修飾クラス名を指定する。以下の 2 つの値が必要です。

- 区切り文字に基づいてイベント・ファイルを分割する
`com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitByDelimiter` クラス。
- イベント・ファイル・サイズに基づいてイベント・ファイルを分割する
`com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize` クラス。

オプションで、カスタムのファイル分割クラスを指定し、そのクラス名を `SplittingFunctionClassName` プロパティに入力することによって使用することができます。

区切り文字またはファイル・サイズは、`SplitCriteria` プロパティで指定します。
`EventContentType` プロパティが `null` に設定されている場合、ファイル・サイズに基づいて分割を実行するクラス名に自動的に設定されます。

表 219. 「分割関数クラス名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	<code>com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize</code>
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する (StopPollingOnError)

このプロパティでは、ポーリング時にアダプターがエラーを検出した場合、アダプターがイベントのポーリングを停止するかどうかを指定します。

表 220. 「ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	このプロパティを True に設定した場合、アダプターはエラーを検出するとポーリングを停止します。 このプロパティを False に設定した場合、アダプターはポーリング時にエラーを検出すると例外をログに記録し、ポーリングを続行します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「ローカル・アーカイブ用の成功ファイル拡張子」プロパティ (SuccessArchiveExt)

正常に処理されたビジネス・オブジェクトすべてをアーカイブするために使用されるファイル拡張子。このプロパティは、LocalArchiveDirectory が有効で存在する場合にのみ使用されます。例: 12345.order > 12345.order.success

表 221. 「ローカル・アーカイブ用の成功ファイル拡張子」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	success
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ユーザー名」プロパティ (UserName)

FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーの名前。EventDirectory プロパティで指定した URL にユーザー名が含まれている場合は、このプロパティに値を指定する必要はありません。

表 222. 「ユーザー名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名」プロパティ (EP_UserName)

データ・ソースからデータベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するユーザー名。

表 223. 「イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター

このプロパティは、一定のルール・セットに基づいてイベント・ファイルをフィルター処理する場合に使用されます。

表 224. ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター

必須	任意指定
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String

表 224. ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター (続き)

使用法	Inbound 処理時に、ルール・テーブルの値が指定されている場合、指定されたルールに基づいてフィルター処理後、イベント・ファイルを取り出してから、これらのイベント・ファイルのポーリングを行います。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

リモート・ディレクトリー内の相対パスに関するサポート

相対パスは、出力ディレクトリー、イベント・ディレクトリー、アーカイブ・ディレクトリー、ステージング・ディレクトリーなどのさまざまなリモート・ディレクトリーでサポートされます。

Inbound 処理

Adapter for FTP では、イベントの Inbound 処理をサポートしています。アダプターは、イベントに対して指定された間隔で、FTP サーバーに関連付けられたファイル・システムをポーリングします。ファイルがイベント・ディレクトリーに作成されるたびに、アダプターはこれをイベントとして追跡します。アダプターは、イベントを検出すると、ファイルのコピーを要求し、ファイル・データをビジネス・オブジェクトに変換して、利用するサービスに送信します。

以下の図は、WebSphere Adapter for FTP の Inbound 処理フローを示しています。

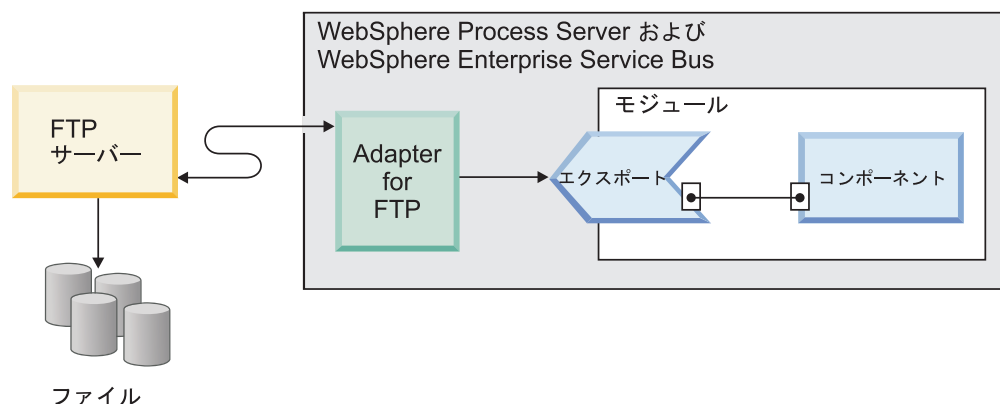


図 17. Inbound 処理フロー

アダプターは、FTPPollFrequency プロパティーに基づいて定期的に、FTP サーバーのイベント・ディレクトリーのファイルをポーリングします。ファイルがイベント・ディレクトリーに到達すると、アダプターは、ファイル全体を読み取って、このファイルをアダプター・ワークステーション上のローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードします。アダプターは、ファイルを一度に 1 つずつ順番に FTP サーバーからダウンロードします。すべてのファイルを同時にダウンロードすることはできません。ファイルがダウンロードされた後、アダプターは、FTPArchiveDirectory プロパティーで指定された FTP サーバーのアーカイブ・ディレクトリーにファイルをアーカイブするか、またはユーザー構成に基づいてファイルを削除します。イベント・ディレクトリー、アーカイブ・ディレクトリー、ポー

リング頻度、およびポーリング数量 (1 回のポーリング周期でポーリングするファイルの数) は、すべて構成可能なプロパティです。

注: リモート・ディレクトリーの値が <HOME_DIR> に設定されている場合、アダプターは、ユーザーのホーム・ディレクトリー内のイベント・ファイルをポーリングします。

注: イベント・ディレクトリー・プロパティの値は、ディレクトリーの絶対パスと相対パスの両方を受け入れます。値がスラッシュ (/) で始まらない場合、アダプターは、パスがユーザーのホーム・ディレクトリーを基準とする相対パスであると見なします。

例えば、リモート・ディレクトリー・プロパティの値が「ftpuser/event」に設定されている場合、アダプターは、その値がユーザーのホーム・ディレクトリーを基準とする相対パスであると見なします。ホーム・ディレクトリーが「/usr/ftp」に設定されている場合、アダプターはイベント・ファイル用にディレクトリー「/usr/ftp/ftpuser/event」をポーリングします。

ビジネス・オブジェクトが正常にエクスポートに通知された後、ローカル・ステージング・ディレクトリーのイベントは、ローカル・ファイル・システム上のアーカイブ・ディレクトリー内にアーカイブされるか、または構成に基づいて削除されます。アダプターは、イベントをアーカイブするか削除する必要があります。そうしないと、イベントは再びポーリングされます。

Inbound イベント処理は、次のステップで構成されます。

1. FTP サーバーが、ファイルのフォーマットでイベントを生成します。
2. Adapter for FTP が、イベント・ディレクトリーをポーリングします。
3. ファイルがアダプターにダウンロードされます。
4. SplittingFunctionClassName プロパティおよび SplitCriteria プロパティに基づいて、ファイルが分割されます。イベント・ファイルは数個のチャンクに分割され、それぞれのチャンクはエクスポートに対して別々に通知されます。これにより、イベント処理時のメモリー・ロードを削減します。
 - 区切り文字に基づいて分割を行う場合は、この機能を実行するクラスおよび分割基準が提供されます。
 - ファイル・サイズに基づいて分割を行う場合は、この機能を実行するクラス名が提供されます。
 - 他の基準に基づいて分割を行う場合は、専用のファイル分割クラスを提供する必要があります。
5. アダプターは、関数セレクターを介して、ポーリングされた文書の場所およびファイルの取得先であるマシンのホスト名を含むデータを、エクスポートに送信します。関数セレクターでは、構成済みのデータ・バイndィングを呼び出して、テキスト・レコードをビジネス・オブジェクトに変換します。

FTP スクリプトを使用したファイルの処理

WebSphere Adapter for FTP は、ポーリング中にイベント・ディレクトリーからダウンロードされたファイルを処理するほかに、FTP スクリプトを使用してダウンロードされたファイルを処理するためにも使用できます。

プロパティ 79 ページの『「ファイルのダウンロード前に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedBeforeInbound)』 および 78 ページの『「ファイルのダウンロード後に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedAfterInbound)』 を使用して、イベント・ディレクトリーをポーリングする前または後に FTP スクリプトを実行するように指定できます。スクリプト・ファイルには、FTP サーバー上のリモート・ディレクトリーから、アダプターがインストールされているマシンのローカル・イベント・ディレクトリーにファイルをダウンロードするために `mget` や `get` などの FTP コマンドを組み込むことができます。WebSphere Adapter for FTP は、活動化仕様プロパティで構成されたローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードされるファイルを処理し、処理済みのビジネス・オブジェクトをコンシューム側サービスに送信します。

次にスクリプトの例を示します。

```
lcd C:%FTPAdapter%localevent
cd /ftpDir1
mget *.txt
cd /ftpDir2
get abc.xml
```

`C:%FTPAdapter%localevent` は WebSphere Adapter for FTP のローカル・イベント・ディレクトリーであり、`ftpDir1` および `ftpDir2` は FTP サーバーにあるディレクトリーです。アダプターはスクリプトを実行し、ファイルをローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードします。その後でアダプターはファイルを処理し、コンシューム側サービスにそれを送信します。

注:

1. このスクリプトを使用してダウンロードされたファイルは、アダプターで処理できるように、構成済みのローカル・イベント・ディレクトリーに置く必要があります。スクリプトを使用して何らかのファイルをダウンロードする前に、FTP コマンド `lcd` を使用して、ローカル作業ディレクトリーを `localEventDirectory` に変更しておく必要があります。
2. `mget` または `get` コマンドを使用してローカル・イベント・ディレクトリーにダウンロードされたファイルは、ダウンロード後に FTP アダプターによって FTP サーバーから削除されます。これは、次のポーリング周期中にファイルが再度ダウンロードされないようにするためです。
3. このスクリプト・ファイルは、リモート・ディレクトリーからのファイルのダウンロードのみに使用し、FTP アダプターのイベント・ディレクトリーからのダウンロードには使用しないでください。

サポートされる Inbound 操作

アダプターでは、`emitFTPFile` 操作をサポートしています。これは、Inbound 構成時のデフォルト操作として実行されます。

イベント・ファイル・ロック

ファイル・ロック動作は、オペレーティング・システムによって異なります。Windows では、アダプターによってイベント・ディレクトリーからポーリングされ

ているファイルのいずれかが、別のアプリケーションによって使用されていて、イベント・ディレクトリーへのコピー中である場合、それらのファイルをアダプターで処理することはできません。

しかし、AIX などの UNIX 環境には、書き込み中のファイルにアプリケーションがアクセスできないようにするファイル・ロック機構はありません。別のアプリケーションによってイベント・ディレクトリーにコピーされているファイルをアダプターから処理できるため、エラーが発生するおそれがあります。Java には、ファイルが書き込み中であるかどうかを確認するプラットフォーム固有の方法は存在しません。

この状態を発生させないためには、先にイベント・ファイルをステージング・ディレクトリーにコピーしてから、移動コマンドを使用してイベント・ディレクトリーに移動させます。UNIX スクリプトのサンプルが、アダプターの一部としていくつか用意されています。アダプター・インストーラーの `Unix-script-file` フォルダーから、`CheckIfFileIsOpen.sh` というスクリプト・ファイルを入手できます。

ルール・ベースのイベントのフィルター処理

アダプターでは、Inbound 処理についてオプションのルール・ベースのイベント・フィルター処理をサポートしています。イベントのフィルター処理は、複数のルールに基づいて実行できます。こうしたルールを組み合わせで定義し、ブール論理でそれらをグループ化し、以下のメタデータを使用してイベントをフィルター処理することができます。

- `FileName`
- `File Size`
- `Last Modified`

例えば、「`FileName "MatchesFilePattern" *.txt`」の形を使用できます。`FileName` はプロパティー・タイプ、「`MatchesFilePattern`」は演算子、「`*.txt`」が値です。

ルールの使用はオプションで、イベント・ファイル・マスクの指定は必須ですが、ルールとイベント・ファイル・マスクの両方が指定された場合は、イベント・ファイル・マスクよりもルールの方が優先順位は上になります。イベント・ファイル・マスクが有効になるのは、ルールが指定されていない場合に限られます。デフォルトでは、イベント・ファイル・マスクには、デフォルト値として、「`*.*`」が設定されます。

ルール・ベースのフィルター処理では、複数ルール間の論理「OR」演算子値はサポートされません。

注: EIS が MVS プラットフォーム上にある場合、アダプターではルール・ベースのフィルター処理をサポートしません。

表 225. メタデータのフィルター・プロパティー

プロパティー	有効な演算子	値	前提条件
FileName	Matches_File_Pattern	例: *.txt	なし
	Matches_RegExp	Java 正規表現	

表 225. メタデータのフィルター・プロパティ (続き)

プロパティ	有効な演算子	値	前提条件
FileSize	Greater than (より大か等しい)、Less than (より小)、Greater than or equal to (より大か等しい)、Less than or equal to (より小か等しい)、Equal to (等しい)、Not equal to (等しくない)。	バイト単位の数値。例: 10000	なし
LastModified	Greater than (より大か等しい)、Less than (より小)、Greater than or equal to (より大か等しい)、Less than or equal to (より小か等しい)、Equal to (等しい)、Not equal to (等しくない)。 注: 曜日を選択する際には、「Equal to」演算子を選択します。	曜日または時刻。例: MONDAY または 20:41:10	なし
END-OF-RULE	END-OF-RULE	END-OF-RULE	なし

管理 (J2C) 接続ファクトリー・プロパティ

管理接続ファクトリー・プロパティは、FTP サーバーとの Outbound 接続インスタンスを作成するために、アダプターがランタイムに使用します。

外部サービス・ウィザードを使用して、管理接続ファクトリー・プロパティを設定できます。これらのプロパティは、WebSphere Integration Developer のアセンブリ・エディターを使用して変更することができます。または、デプロイメント後に WebSphere Process Server 管理コンソールを通じて変更することもできます。

以下の表は、管理接続ファクトリー・プロパティをリストしています。各プロパティの完全な説明は、表に続くセクションで説明します。これ以降のセクションのプロパティの詳細表を読む方法については、『プロパティ詳細についてのガイド』を参照してください。

注: 外部サービス・ウィザードは、これらのプロパティを管理接続ファクトリー・プロパティとして参照し、WebSphere Process Server 管理コンソールは、(j2C) 接続ファクトリー・プロパティとして参照します。

表 226. 管理接続ファクトリー・プロパティ

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	
アダプター ID	AdapterID	PMI イベントのアダプター・インスタンス、ロギングおよびトレースのアダプター・インスタンスを識別する場合に使用します。
172 ページの『「カスタム・パーサー・クラス名」プロパティ (CustomParserClassName)』	CustomParserClassName	ls -l の出力を解析するために使用されるカスタム・パーサーの完全修飾クラス名を指定します。

表 226. 管理接続ファクトリー・プロパティ (続き)

172 ページの『データ・チャネル保護レベル (dataProtectionLevel)』	dataProtectionLevel	FTPS プロトコルの場合、データ・チャネルの保護レベルを指定します。
172 ページの『「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティ (Filename)』	Filename	Outbound 操作時に使用するファイル名を指定します。
177 ページの『接続失敗時の最大試行回数 (connectionRetryLimit)』	connectionRetryLimit	アダプターが FTP サーバーに接続して、その接続の再確立を試行する回数を指定します。
173 ページの『「ディレクトリー」プロパティ (OutputDirectory)』	OutputDirectory	FTP サーバーの出力ディレクトリーを指定します。
173 ページの『ログ・ファイルおよびトレース・ファイルで、ユーザー・データを「XXX」と記述する (HideConfidentialTrace)』	HideConfidentialTrace	ログおよびトレース・ファイルにユーザー・データではなく X スtringを書き込み、潜在的な機密情報を隠すようにするかどうかを指定します。
サーバー検査を使用可能にする	EnableServerVerification	SFTP プロトコルのリモート・サーバー検査を使用可能にする
174 ページの『「FTP サーバーで使用されるエンコード」プロパティ (EISEncoding)』	EISEncoding	FTP サーバーのエンコードを指定します。
176 ページの『FTPS 接続モード・プロパティ (ftpsConnectionMode)』	ftpsConnectionMode	FTPS サーバーへの接続を設定するために使用される FTPS 接続モードを指定します。
ホスト鍵ファイル	HostKeyFile	トラステッド・サーバーのホスト鍵を含むホスト鍵ファイルの絶対パス
177 ページの『「ホスト名」プロパティ (HostName)』	HostName	FTP サーバーのホスト名を指定します。
178 ページの『「ホスト名」プロパティ (SecondServerHostName)』	secondServerHostName	2 次 FTP サーバーのホスト名を指定します。
178 ページの『「ホスト名」プロパティ (SocksProxyHost)』	SocksProxyHost	プロキシー・サーバーとして使用されるワークステーションの名前を指定します。
179 ページの『鍵ストア・ファイル プロパティ (keyStorePath)』	keyStorePath	秘密鍵項目を含む鍵ストアのパスを指定します。
179 ページの『鍵ストア・パスワード プロパティ (keyStorePassword)』	keyStorePassword	鍵ストアの暗号化に使用されるパスワードを指定します。
179 ページの『鍵パスワード プロパティ (keyPassword)』	keyPassword	鍵の暗号化に使用されるパスワードを指定します。

表 226. 管理接続ファクトリー・プロパティ (続き)

180 ページの『鍵ストア・タイプ プロパティ (keyStoreType)』	keyStoreType	鍵ストアのタイプを指定します。
パスフレーズ・プロパティ	passPhrase	秘密鍵を暗号化して、拡張セキュリティーのために使用されます
181 ページの『「パスワード」プロパティ (Password)』	Password	FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つパスワードを指定します。
181 ページの『「パスワード」プロパティ (SecondServerPassword)』	SecondServerPassword	サーバー間のファイル転送の Outbound 操作時にファイルの転送先となる 2 次 FTP サーバーのパスワードを指定します。
181 ページの『「パスワード」プロパティ (SocksProxyPassword)』	SocksProxyPassword	プロキシ・サーバーを認証するためのパスワードを指定します。
182 ページの『「ポート番号」プロパティ (PortNumber)』	PortNumber	FTP サーバーのポート番号を指定します。
182 ページの『「ポート番号」プロパティ (SecondServerPortNumber)』	SecondServerPortNumber	2 次 FTP サーバーのポート番号を指定します。
182 ページの『「ポート番号」プロパティ (SocksProxyPort)』	SocksProxyPort	プロキシ・サーバーのポート番号を指定します。
182 ページの『秘密鍵ファイル・プロパティ (PrivateKeyFilePath)』	PrivateKeyFilePath	セキュア・シェル・サーバーに認証させるために使用される秘密鍵。
183 ページの『「プロトコル」プロパティ (Protocol)』	Protocol	FTP サーバーへの接続を通常の FTP またはセキュア FTP のいずれにするのかを指定します。
183 ページの『「プロトコル」プロパティ (SecondServerProtocol)』	SecondServerProtocol	2 次サーバーへの接続に使用するプロトコルを指定します。
183 ページの『接続の再試行間隔 (ミリ秒単位) (connectionRetryInterval)』	connectionRetryInterval	接続が失敗した場合に FTP サーバーへの再接続を試行する時間間隔を指定します。
184 ページの『「2 次サーバー・ディレクトリー」プロパティ (SecondServerDirectory)』	SecondServerDirectory	Outbound の ServerToServerFileTransfer 操作の実行対象となる、2 次 FTP サーバーのディレクトリー・パスを指定します。
184 ページの『「シーケンス・ファイル」プロパティ (FileSequenceLog)』	FileSequenceLog	Outbound の Create 処理用のシーケンス番号が保管されているファイルの絶対パスを指定します。
185 ページの『「ステージング・ディレクトリー」プロパティ (StagingDirectory)』	StagingDirectory	ファイルが最初に作成される先のディレクトリーを指定します。

表 226. 管理接続ファクトリー・プロパティ (続き)

180 ページの『トラストストア・ファイル プロパティ (trustStorePath)』	trustStorePath	アダプターによって信頼された FTPS サーバーの証明書を含むトラストストア・ファイルのパスを指定します。
180 ページの『トラストストア・パスワード プロパティ (trustStorePassword)』	trustStorePassword	トラストストアのパスワードを指定します。
185 ページの『「ユーザー名」 プロパティ (SecondServerUserName)』	SecondServerUserName	サーバー間のファイル転送の Outbound 操作時にファイルの転送先となる 2 次 FTP サーバーのユーザー名を指定します。
186 ページの『「ユーザー名」 プロパティ (SocksProxyUserName)』	SocksProxyUserName	プロキシ・サーバーに対して認証を行うために使用するユーザー名を指定します。
186 ページの『「ユーザー名」 プロパティ (UserName)』	Username	ユーザーの名前を指定します。
175 ページの『リモート検証有効プロパティ (enableRemoteVerification)』	enableRemoteVerification	FTP サーバーとの間のデータ転送を要求するホスト・システムが、アダプターを実行しているホスト・システムと同じであるかどうかを検証するために使用します。

アダプター ID (AdapterID)

このプロパティは、アダプターの特定のデプロイメントまたはインスタンスを識別します。

表 227. 「アダプター ID」の詳細

必須	はい
デフォルト	001
プロパティ・タイプ	String

表 227. 「アダプター ID」の詳細 (続き)

<p>使用法</p>	<p>このプロパティーは、ログおよびトレース・ファイル内のアダプター・インスタンスを識別します。また、アダプターのモニター時にアダプター・インスタンスを識別する場合に役立ちます。アダプター ID は、アダプター固有の ID、FTPRA と共に使用され、Log and Trace Analyzer ツールによって使用されるコンポーネント名を構成します。例えば、アダプター ID プロパティーが、001 に設定されている場合、コンポーネント ID は、FTPRA001 となります。</p> <p>同一のアダプターのインスタンスを複数実行する場合、アダプター ID プロパティーの最初の 8 文字はインスタンスごとに固有で、ログおよびトレース情報と特定のアダプター・インスタンスを相互に関連付けられるようになっています。アダプター ID プロパティーの最初の 7 文字を固有のものにすることにより、そのアダプターの複数インスタンスのコンポーネント ID も固有のものになり、アダプターの特定インスタンスにログおよびトレース情報を相互に関連付けることができるようになります。</p> <p>例えば、WebSphere Adapter for FTP の 2 つのインスタンスのアダプター ID プロパティーを 001 および 002 に設定するとします。これらのインスタンスのコンポーネント ID、FTPRA001 および FTPRA002 は、短いので固有性を保つことができ、別のアダプター・インスタンスとして区別することができます。しかし、もっと長いアダプター ID プロパティーのインスタンスの場合、互いを区別できなくなります。2 つのインスタンスのアダプター ID プロパティーを Instance01 と Instance02 に設定した場合、各アダプター・インスタンスのログおよびトレース情報を調べることはできなくなります。これは、両方のインスタンスのコンポーネント ID が FTPRAInstance に切り捨てられるためです。</p> <p>Inbound 処理の場合、このプロパティーの値は、リソース・アダプター・レベルで設定されます。Outbound 処理の場合、この値は、リソース・アダプター・レベルと管理接続ファクトリー・レベルの両方で設定できます。外部サービス・ウィザードを使用してアダプターを Outbound 処理用に構成した後、リソース・アダプター・プロパティーおよび管理接続ファクトリー・プロパティーを個別に設定できます。WebSphere Integration Developer アセンブリー・エディターまたは管理コンソールを使用してこれらのプロパティーを再設定する場合は、ログおよびトレース・エントリーのマーキングが不整合にならないように、矛盾がない設定になっていることを確認してください。</p>
<p>グローバル化</p>	<p>はい</p>
<p>BIDI 対応</p>	<p>いいえ</p>

「カスタム・パーサー・クラス名」プロパティ (CustomParserClassName)

ls -l の出力を解析するために使用されるカスタム・パーサーの完全修飾クラス名。ls -l の出力が標準出力から外れる場合にのみ使用されます。

表 228. 「カスタム・パーサー・クラス名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

データ・チャネル保護レベル (dataProtectionLevel)

このプロパティでは、データ・チャネルを介したデータ転送の保護レベルを指定します。FTP アダプターとそのサーバーが使用するデータ・チャネル保護のタイプを指定します。

データ・チャネルを開く前に、保護バッファ・サイズ (PBSZ) コマンドおよびデータ・チャネル保護レベル (PROT) コマンドが FTP アダプターによって発行され、そのデータ・チャネルの保護レベルが指定されます。デフォルトでは、アダプターは PROT コマンドを発行する前に「PBSZ 0」コマンドを発行します。

表 229. データ・チャネル保護レベル プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	Private - データは暗号化形式で転送されます Clear - データは平文として転送されます
デフォルト	Private - データは暗号化形式で転送されます
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティは、データ・チャネルの保護レベルを選択するために使用します。以下は、保護レベルの値です。 <ul style="list-style-type: none">• Private - データ転送の健全性および機密性が保護されることを示します。• Clear - セキュリティ対策を取らずに、データ・チャネルで、FTP アダプターとサーバーとの間のファイル転送用に生データが伝送されることを示します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティ (Filename)

Outbound 操作時に使用するファイルの名前を指定します。

表 230. 「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	はい
プロパティ・タイプ	String

表 230. 「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティ特性 (続き)

使用法	WebSphere Application Server 環境変数を使用して、ファイル名ディレクトリーを表します。\$ 記号の後に、環境変数の名前を中括弧で囲んで指定します。例えば、 \${FILENAME} です。詳しくは、この資料の http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/tbp_ftp_defineenvironvars.html についてのトピックを参照してください。
グローバル化	いいえ

「ディレクトリー」プロパティ (OutputDirectory)

これは、Outbound 操作が実行される FTP サーバーの出力ディレクトリーです。ディレクトリーの値が <HOME_DIR> に設定されている場合、アダプターは、ホーム・ディレクトリー内で Outbound 操作を実行します。

出力ディレクトリー・プロパティの値は、ディレクトリーの絶対パスと相対パスの両方を受け入れます。値がスラッシュで始まらない場合、アダプターは、パスがユーザーのホーム・ディレクトリーを基準とする相対パスであると見なします。

表 231. 「ディレクトリー」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	<HOME_DIR>
プロパティ・タイプ	String
使用法	WebSphere Application Server 環境変数を使用して、出力ディレクトリーを表すことができます。\$ 記号の後に、環境変数の名前を中括弧で囲んで指定します。例えば、 \${OUTPUT_DIRECTORY} です。詳しくは、この資料の http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/tbp_ftp_defineenvironvars.html についてのトピックを参照してください。
グローバル化	はい

ログ・ファイルおよびトレース・ファイルで、ユーザー・データを「XXX」と記述する (HideConfidentialTrace)

このプロパティは、ログおよびトレース・ファイル中のユーザー・データを「X」のストリングに置換し、潜在的な機密データが許可なく外部に漏れないようにします。

表 232. ログ・ファイルおよびトレース・ファイルで、ユーザー・データを「XXX」と記述するの詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False

表 232. ログ・ファイルおよびトレース・ファイルで、ユーザー・データを「XXX」と記述するの詳細 (続き)

プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティを True に設定すると、アダプターでは、ログおよびトレース・ファイルに書き込む時に、ユーザー・データを「X」のストリングに置換します。</p> <p>Inbound 処理の場合、このプロパティの値は、リソース・アダプター・レベルで設定されます。Outbound 処理の場合、この値は、リソース・アダプター・レベルと管理接続ファクトリー・レベルの両方で設定できます。外部サービス・ウィザードを使用してアダプターを Outbound 処理用に構成した後、リソース・アダプター・プロパティおよび管理接続ファクトリー・プロパティを個別に設定できます。WebSphere Integration Developer アセンブリー・エディターまたは管理コンソールを使用してこれらのプロパティを再設定する場合は、ログおよびトレース・エントリーのマーキングが不整合にならないように、矛盾がない設定になっていることを確認してください。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「FTP サーバーで使用されるエンコード」プロパティ (EISEncoding)

FTP サーバーのエンコード。この値は、FTP サーバーとの制御接続のエンコードを設定する場合に使用します。

- アダプター・レベルの EISEncoding と MCF レベルの EISEncoding の両方を設定しない場合 (両方とも null)、FTP サーバーとの通信中は制御接続で何も設定されません。
- アダプター・レベルの EISEncoding を設定し、MCF レベルの EISEncoding を設定しない場合、アダプター・レベルの値は、FTP サーバーとの通信中に制御接続で設定されます。これは複数の MCF を使用する場合、同じエンコード値が使用されるために便利です。この場合は、すべての接続で制御接続のエンコード値が同じになるように、値をアダプター・レベルで設定します。
- アダプター・レベルの EISEncoding を設定しないで、MCF レベルの EISEncoding を設定する場合、MCF レベルの値は、FTP サーバーとの通信中に制御接続で設定されます。値は MCF レベルで設定されるため、これが適用されるのは、その MCF に対してのみです。
- アダプター・レベルの EISEncoding と MCF レベルの EISEncoding の両方を設定する場合、MCF レベルの値が優先されます。

この属性には、Java がサポートする任意のエンコードを指定できます。

表 233. 「FTP サーバーで使用されるエンコード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String

表 233. 「FTP サーバーで使用されるエンコード」 プロパティ特性 (続き)

グローバル化	いいえ
--------	-----

サーバー検査を使用可能にする プロパティ (EnableServerVerification)

このプロパティは、SFTP プロトコルのリモート・サーバー検査を使用可能にするために使用されます。

表 234. サーバー検査を使用可能にする プロパティの詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	このプロパティの設定内容によって、次のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> • True に設定されると、サーバー認証は使用可能です。 • False に設定されると、サーバー認証は使用不可です。 アダプターは、トラステッド・サーバーのホスト鍵を含むファイルのパス内の HostKeyFile プロパティを検査します。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

リモート検証有効プロパティ (enableRemoteVerification)

クライアントが FTP サーバーに接続するときは、2 種類の接続またはチャネル、つまり、コマンド接続 (制御接続としても知られる) とデータ接続が確立されます。コマンド接続とは、クライアントが FTP コマンドをサーバーに送信し、またそれらのコマンドへの応答をサーバーから受信する接続で、データ接続とは、クライアントとサーバーの間でデータ転送が実行されるチャネルのことです。

このプロパティは、FTP サーバーとの間のデータ転送を要求するホスト・システムが、アダプターを実行しているホスト・システムと同じであるかどうかを検証するために使用されます。

この検証は、データ接続を確立し、データ転送を実行する間に行われます。

注: このプロパティは、FTP プロトコルおよび FTPS プロトコルのみに適用可能です。

表 235. リモート検証有効プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	True
プロパティ・タイプ	Boolean

表 235. リモート検証有効プロパティの特性 (続き)

使用法	<p>このプロパティでは、データ接続と制御接続が同じホスト・システムから行われているかどうかを検証します。リモート検証プロパティは、デフォルトでは、FTP サーバーによって true に設定されています。</p> <p>このプロパティの設定内容によって、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true に設定されていると、実行時にアダプターは、データ接続が制御接続と同じホストで確立されているかどうかを検査します。データ接続が、制御接続とは別のホストから確立されていると、例外がスローされ、接続は失敗します。 • false に設定されていると、リモート検証は実行されません。 <p>注: リモート検証が使用不可に設定されると、セキュリティのレベルが低くなります。リモート検証を使用不可にする前にセキュリティの予防措置を取る必要があります。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

FTPS 接続モード・プロパティ (ftpsConnectionMode)

このプロパティは、FTPS サーバーとの接続を確立するときの接続モードを指定するために使用されます。現在、WebSphere Adapter for FTP は、Implicit および Explicit の両方の接続モードをサポートしています。このプロパティは、Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを介した FTP または Transport Layer Security (TLS) プロトコルを介した FTP のいずれかを選択するとき使用されます。

表 236. FTPS 接続モード・プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	Explicit Implicit
デフォルト	Explicit
プロパティ・タイプ	String
使用法	<p>このプロパティは、FTPS サーバーへの接続に使用されるモードを表します。</p> <p>このプロパティの設定内容によって、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Explicit 接続モードでは、最初、接続を通常の FTP 接続として確立します。パスワードなどの機密情報を送信するために、アダプターは、AUTH コマンドを発行してセキュア FTP 接続に切り替えます。 注: Explicit 接続モードのデフォルトのポートは、21 です。 • Implicit 接続モードでは、接続をセキュア FTP 接続として確立します。アダプターとサーバー間のすべての通信は、セキュア・モードで続きます。アダプターとサーバー間で平文情報の交換はありません。 注: Implicit 接続モードのデフォルトのポートは、990 です。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ホスト鍵ファイル プロパティ (HostKeyFile)

このプロパティでは、トラステッド・サーバーのホスト鍵を含むホスト鍵ファイルの絶対パスを指定します。

表 237. ホスト鍵ファイル プロパティの特性

必須	EnableServerVerification が使用可能の場合、このプロパティを指定する必要があります。
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	これは、このファイルに指定されているトラステッド・サーバーのホスト鍵でリモート・サーバーのホスト鍵を検査するために、アダプターが使用します。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

「ホスト名」プロパティ (HostName)

Outbound 操作時に接続の確立先となる FTP サーバーのホスト名。

表 238. 「ホスト名」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

接続失敗時の最大試行回数 (connectionRetryLimit)

このプロパティでは、アダプターが、Outbound 接続に関連したエラーの発生時に、FTP サーバーへの接続の再確立を試行する回数を指定します。

注: 接続タイムアウトが FTP サーバーで構成されている場合は、connectionRetryLimit および connectionRetryInterval の適切な値を設定する必要があります。タイムアウトが原因で何らかの接続エラーが発生した場合に、FTP アダプターが Outbound 要求を自動的に再試行するように、プロパティの値を設定してください。

表 239. 接続失敗時の最大試行回数 プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	0 以上の整数
デフォルト	0
プロパティ・タイプ	Integer

表 239. 接続失敗時の最大試行回数 プロパティの特性 (続き)

使用法	<p>このプロパティの設定内容によって、次のようになります。</p> <p>0</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 始動時または接続の確立中にエラーが発生した場合、アダプターは FTP サーバーへの再接続を試行しません。 ・ アダプターは、実行時に Outbound 要求があるときに、FTP サーバーへの接続が有効であるかどうかを検証しません。 <p>> 0</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 始動時または接続の確立中にエラーが発生した場合、アダプターは FTP サーバーへの再接続を、指定された回数、試行します。 ・ アダプターは、実行時に Outbound 要求があるときに、FTP サーバーへの接続が有効であるかどうかを検証します。接続が無効である場合、その接続は終了し、要求を処理するために新しい接続が作成されます。 <p>アダプターが、指定された回数試行した後に接続を確立できなかった場合、接続エラーが生成されます。</p> <p>アダプターが接続の再確立に成功した場合は、Outbound 操作が完了します。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「ホスト名」プロパティ (SecondServerHostName)

Outbound 操作時に接続の確立先となる 2 次 FTP サーバーのホスト名。

表 240. 「ホスト名」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	FTP サーバーのホスト名または IP アドレス (例えば 9.20.13.159) が入ります
グローバル化	はい

「ホスト名」プロパティ (SocksProxyHost)

アダプターの要求を FTP サーバーに送信する際に経由するプロキシ・サーバーとして使用されるワークステーションのホスト名。

表 241. 「ホスト名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

鍵ストア・ファイル プロパティ (keyStorePath)

このプロパティでは、秘密鍵項目を含む鍵ストアのパスを指定します。

表 242. 鍵ストア・ファイル プロパティの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、(アダプターが稼働中の) アダプター・マシン上の鍵ストア・ファイルの絶対パスを指定します。鍵ストア・ファイルには、FTPS クライアントの秘密鍵項目が含まれます。また、対応する公開鍵の証明書チェーンも一緒に保存されます。鍵ストア・データは、SSL 接続の確立中にクライアント ID を認証するために使用されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

鍵ストア・パスワード プロパティ (keyStorePassword)

このプロパティでは、鍵ストアの暗号化に使用されるパスワードを指定します。

表 243. 鍵ストア・パスワード プロパティの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、鍵ストアのパスワードを指定します。このパスワードは、鍵ストア・データの保全性のチェックに使用されます。値が指定されていない場合、保全性チェックは実行されません。このプロパティは、プロトコルの値が FTP over SSL または FTP over TLS に設定されている場合にのみ適用されます。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

鍵パスワード プロパティ (keyPassword)

このプロパティでは、鍵の暗号化に使用されるパスワードを指定します。

表 244. 鍵パスワード プロパティの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、鍵ストアから鍵をリカバリーするために使用される鍵のパスワードを指定します。このプロパティは、プロトコルの値が FTP over SSL または FTP over TLS に設定されている場合にのみ適用されます。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

鍵ストア・タイプ プロパティ (keyStoreType)

このプロパティでは、鍵ストアのタイプを指定します。

表 245. 鍵ストア・タイプ プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	JKS および PKCS12
デフォルト	JKS
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、鍵ストアのタイプを指定します。このプロパティは、プロトコルとして FTP over SSL または FTP over TLS を選択した場合にのみ適用されます。このプロパティは、トラストストアのタイプにも適用されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

トラストストア・ファイル プロパティ (trustStorePath)

このプロパティでは、アダプターによって信頼された FTPS サーバーの証明書を含むトラストストア・ファイルのパスを指定します。

表 246. トラストストア・ファイル プロパティの特性

必須	このプロパティは、プロトコルを FTP over SSL または FTP over TLS として設定した場合にのみ適用されます。
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、(アダプターが稼働中の) アダプター・マシン上のトラストストア・ファイルの絶対パスを指定します。トラストストア・ファイルは、アダプターによって信頼される FTPS サーバーの証明書を含み、SSL 接続の確立中にサーバー ID を認証するために使用されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

トラストストア・パスワード プロパティ (trustStorePassword)

このプロパティでは、トラストストアのパスワードを指定します。

表 247. トラストストア・パスワード プロパティの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、トラストストアのパスワードを指定します。このパスワードは、トラストストア・データの保全性のチェックに使用されます。値が指定されていない場合、保全性チェックは実行されません。このプロパティは、プロトコルの値が FTP over SSL または FTP over TLS に設定されている場合にのみ適用されます。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

パスフレーズ・プロパティ (passPhrase)

このプロパティは、秘密鍵を暗号化して、拡張セキュリティのために使用されます。

表 248. パスフレーズ・プロパティ プロパティの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	拡張セキュリティに使用されます。これは、SFTP 構成の中で秘密鍵を暗号化することによって、秘密鍵を保護します。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

「パスワード」プロパティ (Password)

FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーのパスワードを指定します。

表 249. 「パスワード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「パスワード」プロパティ (SecondServerPassword)

サーバー間のファイル転送の Outbound 操作時にファイルの転送先となる 2 次 FTP サーバーのパスワードを指定します。

表 250. 「パスワード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「パスワード」プロパティ (SocksProxyPassword)

プロキシ・サーバーを認証するためのパスワードを指定します。

表 251. 「パスワード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ポート番号」プロパティ (PortNumber)

Outbound 操作時に接続を確立する際に経由する FTP サーバーのポート番号を指定します。

表 252. 「ポート番号」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	Explicit モードの FTP および FTPS の場合は 21、Implicit モードの FTPS の場合は 990、SFTP の場合は 22 です。
プロパティ・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

「ポート番号」プロパティ (SecondServerPortNumber)

Outbound 操作時に接続を確立する際に経由する 2 次 FTP サーバーのポート番号を指定します。

表 253. 「ポート番号」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	FTP は 21、FTPS は 990。
プロパティ・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

「ポート番号」プロパティ (SocksProxyPort)

アダプターの要求を FTP サーバーに送信する際に経由するプロキシ・サーバーのポート番号を指定します。

表 254. 「ポート番号」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	1080
プロパティ・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

秘密鍵ファイル・プロパティ (PrivateKeyFilePath)

このプロパティによって、秘密鍵を参照して選択することができます。その秘密鍵は、セキュア・シェル・サーバーに対する認証に使用されます。

表 255. 「秘密鍵」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	秘密鍵を格納するファイルの絶対パス。ユーザーをセキュア・シェル・サーバーに認証させるために使用されます。
例	c:¥temp¥key.ppk

表 255. 「秘密鍵」プロパティ特性 (続き)

グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

「プロトコル」プロパティ (Protocol)

確立する接続が通常の FTP 接続か、またはセキュア FTP 接続かを定めるプロトコルを指定します。

例:

通常接続: FTP

FTP over SSL 接続: FTPS_SSL

FTP over TLS 接続: FTPS_TLS

FTP over SSH 接続: SFTP

表 256. 「プロトコル」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	FTP
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「プロトコル」プロパティ (SecondServerProtocol)

2 次サーバーへの接続を確立するために使用されるプロトコルを指定します。この FTP プロトコルは、接続の確立に使用されます。

表 257. 「プロトコル」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	FTP
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

接続の再試行間隔 (ミリ秒単位) (connectionRetryInterval)

このプロパティでは、接続が失敗した場合に FTP サーバーへの再接続を試行する時間間隔を指定します。

表 258. 接続の再試行間隔 (ミリ秒単位) プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	0 以上の整数
デフォルト	60000
計測単位	ミリ秒
プロパティ・タイプ	Integer

表 258. 接続の再試行間隔 (ミリ秒単位) プロパティの特性 (続き)

使用法	このプロパティは、「接続失敗時の最大試行回数」プロパティの値が 0 より大きい値に設定されている場合にのみ適用されます。 このプロパティでは、アダプターで FTP サーバーへの接続の確立中にエラーが発生したときに接続の再確立を試行するまでにアダプターが待機する時間間隔を指定します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「2 次サーバー・ディレクトリー」プロパティ (SecondServerDirectory)

Outbound の ServerToServerFileTransfer 操作の実行対象となる、2 次 FTP サーバーのディレクトリーを指定します。これは、ファイルの転送先のリモート・イベント・ディレクトリーです。

表 259. 「2 次サーバー・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	FTP サーバーにあり、Outbound 操作で使用されるディレクトリーは、FTP ディレクトリーの絶対パスを表します。これにはホスト名または URL 情報は含まれません。例えば、/home/usr/output です。
グローバル化	はい

「シーケンス・ファイル」プロパティ (FileSequenceLog)

Outbound の Create 処理用のシーケンス番号が保管されるファイルの絶対パスを指定します。

FileSequenceLog プロパティが指定された場合、アダプターは固有のシーケンス番号を生成して、Create 操作の処理時にファイル名に挿入します。

シーケンス番号は、複数のアダプターが再始動するたびに増え続けます。

シーケンス番号は、以下の形式でファイル名に挿入されます。

`filename.number.extension`

例: `Customer.3.txt`

FileSequenceLog プロパティが指定されないか、無効な値を含む場合、シーケンス番号は生成されません。

表 260. 「シーケンス・ファイル」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし

表 260. 「シーケンス・ファイル」プロパティ特性 (続き)

プロパティ・タイプ	String
使用法	重要: 同時に要求が出されるとバッチ要求の処理で遅延の原因となるため、2つのアダプター・インスタンスがクラスターの一部でない限り、2つのアダプター・インスタンスを同じシーケンス・ファイルにアクセスすることはお勧めできません。
グローバル化	いいえ

「ステージング・ディレクトリー」プロパティ (StagingDirectory)

Outbound の Create 操作時に、ファイルはまずステージング・ディレクトリーに作成されてから、DirectoryPath プロパティで指定されたディレクトリーに移動されます。ステージング・ディレクトリーは、Append 操作および Overwrite 操作でも使用されます。その場合、指定されたファイルはまず StagingDirectory (存在する場合) にコピーされ、内容が付加または上書きされてから、元の指定されたディレクトリーに戻されます。StagingDirectory が存在しない場合、この操作は実際の必要なディレクトリー内で実行されます。ステージング・ディレクトリーで作業すると、ファイルの書き込み競合を避けることができます。この競合は、複数のユーザーがファイルを読み取っているとき、または Append および Update の操作時にファイルが上書きされている間に発生する可能性があります。

ステージング・ディレクトリー・プロパティの値は、ディレクトリーの絶対パスと相対パスの両方を受け入れます。値がスラッシュで始まらない場合、アダプターは、パスがユーザーのホーム・ディレクトリーを基準とする相対パスであると見なします。

表 261. 「ステージング・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	WebSphere Application Server 環境変数を使用して、ステージング・ディレクトリーを表すことができます。\$ 記号の後に、環境変数の名前を中括弧で囲んで指定します。例えば、\${STAGING_DIRECTORY} です。詳しくは、この資料の http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/tbp_ftp_defineenvironvars.html についてのトピックを参照してください。
グローバル化	はい

「ユーザー名」プロパティ (SecondServerUserName)

サーバー間のファイル転送の Outbound 操作時にファイルの転送先となる 2 次 FTP サーバーのユーザー名を指定します。

表 262. 「ユーザー名」プロパティ特性

必須	いいえ
----	-----

表 262. 「ユーザー名」プロパティ特性 (続き)

デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ユーザー名」プロパティ (SocksProxyUserName)

プロキシ・サーバーを認証するために使用するユーザー名を指定します。

表 263. 「ユーザー名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ユーザー名」プロパティ (UserName)

FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーの名前を指定します。FtpUrl プロパティで指定した URL にユーザー名が含まれている場合は、この属性に値を指定する必要はありません。

表 264. 「ユーザー名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

活動化仕様プロパティ

活動化仕様プロパティは、メッセージ・エンドポイント用の Inbound イベント処理の構成情報を保持するプロパティです。

活動化仕様プロパティは、エンドポイント活動化の際にアダプターに適格なイベント・リスナーを通知するために使用されます。Inbound 処理中に、アダプターはこれらのイベント・リスナーを使用して、エンドポイントに転送する前にイベントを受信します (メッセージ・ドリブン Bean)。

活動化仕様プロパティを設定するには、外部サービス・ウィザードを使用します。変更する場合には、WebSphere Integration Developer のアセンブリー・エディターを使用することもできますし、デプロイメント後に 管理コンソール を通じて行うこともできます。

以下の表は、活動化仕様プロパティをリストしています。各プロパティの完全な説明は、表に続くセクションで説明します。これ以降のセクションのプロパティの詳細表を読む方法については、『プロパティ詳細についてのガイド』を参照してください。

表 265. 活動化仕様プロパティ

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	
191 ページの『イベントを一度のみ送達する (AssuredOnceDelivery)』	AssuredOnceDelivery	アダプターにより、1 回のイベント送達を確保する機能が提供されるかどうかを指定します。
192 ページの『「自動作成イベント・テーブル」プロパティ (EP_CreateTable)』	EP_CreateTable	イベント・パーシスタンス・テーブルを作成するかどうかをアダプターに通知する
192 ページの『「テーブル作成」プロパティ (CreateTable)』	CreateTable	true に設定すると、イベント・テーブルおよび関連した索引が作成される
192 ページの『「カスタム・パーサー・クラス名」プロパティ (CustomParserClassName)』	CustomParserClassName	ls -l の出力を解析するために使用されるカスタム・パーサーの完全修飾クラス名
193 ページの『データ・チャンネル保護レベル (dataProtectionLevel)』	dataProtectionLevel	FTPS プロトコルの場合、データ・チャンネルの保護レベルを指定します。
193 ページの『「データベース・パスワード」プロパティ (DatabasePassword)』	DatabasePassword	データ・ソースから JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するパスワード
194 ページの『「データベース・スキーマ名」プロパティ (EP_SchemaName)』	EP_SchemaName	イベント・パーシスタンスによって使用されるデータベースのスキーマ名
194 ページの『「データベース・ユーザー名 (Database Username)」プロパティ (DatabaseUsername)』	DatabaseUsername	データ・ソースから JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するユーザー名
196 ページの『「FTP サーバー接続モード」プロパティ (DataConnectionMode)』	DataConnectionMode	FTP サーバーがファイル転送時に使用するデータ接続モード
196 ページの『FTPS 接続モード・プロパティ (ftpsConnectionMode)』	ftpsConnectionMode	FTPS サーバーへの接続を設定するために使用される FTPS 接続モードを指定します。
(なし)	DefaultObjectName	前のバージョンとの互換性を維持するためにサポートされている
194 ページの『送達タイプ (DeliveryType)』	DeliveryType	イベントがアダプターによってエクスポートに配信される順序を指定します。
194 ページの『「FTP サーバーで 사용되는エンコード」プロパティ (EISEncoding)』	EISEncoding	FTP サーバーのエンコード
(なし)	EventContentType	前のバージョンとの互換性を維持するためにサポートされている

表 265. 活動化仕様プロパティ (続き)

195 ページの『「イベント・リカバリ ー DataSource (JNDI) 名」プロパティ ー (EP_DataSource_JNDIName)』	EP_DataSource_JNDIName	JDBC データベース接続を取得する ためにイベント・パーシスタンスで 使用されるデータ・ソースの JNDI 名
195 ページの『「イベント・リカバリ ー・テーブル名」プロパティ (EP_EventTableName)』	EP_TableName	アダプターがイベント・パーシスタ ンスのために使用するテーブルの名 前
197 ページの『「ローカル・アーカイ ブ用の障害ファイル拡張子」プロパテ ィー (FailedArchiveExt)』	FailedArchiveExt	正常に処理されなかったイベント・ ファイル内のビジネス・オブジェク トをアーカイブするために使用され るファイル拡張子
197 ページの『「ファイル内容のエン コード」プロパティ (FileContentEncoding)』	FileContentEncoding	イベント・ファイルを読み取るため に使用されるエンコード
197 ページの『「リモート・アーカイ ブ用のファイル拡張子」プロパティ (FTPRenameExt)』	ftpRenameExt	アダプターがリモート FTP ファイル の名前変更に使用するファイル拡 張子またはサフィックス
197 ページの『鍵ストア・ファイル プ ロパティ (keyStorePath)』	keyStorePath	秘密鍵項目を含む鍵ストアのパスを 指定します。
198 ページの『鍵ストア・パスワード プロパティ (keyStorePassword)』	keyStorePassword	鍵ストアの暗号化に使用されるパス ワードを指定します。
198 ページの『鍵パスワード プロパテ ィー (keyPassword)』	keyPassword	鍵の暗号化に使用されるパスワード を指定します。
198 ページの『鍵ストア・タイプ プロ パティ (keyStoreType)』	keyStoreType	鍵ストアのタイプを指定します。
200 ページの『「内容ではなくファイ ル名およびディレクトリーのみの受け 渡し」プロパティ (FilePassByReference)』	FilePassByReference	イベント・ファイルのファイル内容 をエクスポートに送信しないことを 指定する
200 ページの『「ファイル転送タイ プ」プロパティ (FileTransferType)』	FileTransferType	Inbound 処理時に使用されるファイ ル転送タイプ
201 ページの『「一度に取得するファ イル数」プロパティ (FTPGetQuantity)』	ftpGetQuantity	リモート FTP URL から取得するフ ァイルの数を決定する
201 ページの『「各ダウンロード間の ポーリング期間の数」プロパティ (FTPPollFrequency)』	ftpPollFrequency	アダプターが FTP サーバーをポー リングする頻度を決定する
失敗したイベントの再試行制限	FailedEventRetryLimit	アダプターの再送信の試行回数で、 この回数に達すると失敗とマークさ れます。
202 ページの『「ファイルのダウンロ ード後に実行する FTP スクリプト・ ファイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedAfterInbound)』	ftpScriptFileExecutedAfterInbound	FTP サーバーからのファイルのダウ ンロード後に実行されるスクリプ ト・ファイルのパスを指定します。

表 265. 活動化仕様プロパティ (続き)

202 ページの『「ファイルのダウンロード前に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedBeforeInbound)』	ftpScriptFileExecutedBeforeInbound	FTP サーバーからのファイルのダウンロード前に実行されるスクリプト・ファイルのパスを指定します。
203 ページの『「ホスト名」プロパティ (HostName)』	HostName	接続の確立先となる FTP サーバーのホスト名
203 ページの『「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ (IncludeEndBODelimiter)』	IncludeEndBODelimiter	true に設定する場合、さらに処理を行うため、ビジネス・オブジェクトの内容と一緒に区切り文字が送信される
203 ページの『「ローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (LocalArchiveDirectory)』	LocalArchiveDirectory	ローカル・アーカイブ・ディレクトリーの絶対パス
204 ページの『「ローカル・ディレクトリー」プロパティ (LocalEventDirectory)』	LocalEventDirectory	アダプターが FTP サイトからダウンロードしたイベント・ファイルを格納するローカル・システム・ディレクトリー
204 ページの『最大接続数 (Maximum connections) (MaximumConnections)』	MaximumConnections	アダプターが Inbound イベント送達に使用できる接続の最大数
204 ページの『最小接続数 (Minimum connections) (MinimumConnections)』	MinimumConnections	アダプターが Inbound イベント送達に使用できる接続の最小数
205 ページの『「ローカル・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティ (OriginalArchiveExt)』	OriginalArchiveExt	オリジナル・イベント・ファイルをアーカイブするために使用されるファイル拡張子
パスフレーズ・プロパティ	passPhrase	秘密鍵を暗号化して、拡張セキュリティのために使用されます
205 ページの『「パスワード」プロパティ (Password)』	Password	FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーのパスワード
205 ページの『「イベント DataSource に接続するのに使用されるパスワード」プロパティ (EP_Password)』	EP_Password	イベント・パーシスタンス時に使用されるパスワード
206 ページの『ポーリング期間の間隔 (ポーリング間隔)』	ポーリング間隔	ポーリング期間中にアダプターが待機する時間の長さ
206 ページの『ポーリング期間内の最大イベント数 (ポーリング数量)』	ポーリング数量	各ポーリング期間中にアダプターがエクスポートに配信するイベント数
207 ページの『「ポート番号」プロパティ (PortNumber)』	PortNumber	FTP サーバーのポート番号
207 ページの『秘密鍵ファイル・プロパティ (PrivateKeyFilePath)』	PrivateKeyFilePath	セキュア・シェル・サーバーに認証させるために使用される秘密鍵
207 ページの『「プロトコル」プロパティ (Protocol)』	Protocol	FTP サーバーへの接続を通常の FTP またはセキュア FTP のいずれにするのかを指定します。
209 ページの『「このパターンを持つファイルの取得」プロパティ (EventFileMask)』	EventFileMask	イベント・ファイル用のフィルター

表 265. 活動化仕様プロパティ (続き)

開始時に EIS 接続を再試行する	RetryConnectionOnStartup	アダプターが始動時に FTP サーバーに接続できない場合に、接続を再試行するかどうかを指定します。
システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒)	RetryInterval	Inbound 操作時にエラー発生後、新規接続を確立しようとする試行と次の試行の間にアダプターが待機する時間の長さ
システム接続に失敗した場合の最大再試行回数	RetryLimit	エラーの発生後に、アダプターが Inbound 接続の再確立を試行する回数。
208 ページの『「リモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (FTPArchiveDirectory)』	ftpArchiveDirectory	FTP サーバー上のアーカイブ・ディレクトリーの相対パス
209 ページの『「リモート・ディレクトリー」プロパティ (EventDirectory)』	EventDirectory	Inbound 処理のためにイベント・ファイルが取り出される FTP サーバーのリモート・ディレクトリー
サーバー検査を使用可能にする	EnableServerVerification	SFTP プロトコルのリモート・サーバー検査を使用可能にする
ホスト鍵ファイル	HostKeyFile	トラステッド・サーバーのホスト鍵を含むホスト鍵ファイルの絶対パス
213 ページの『「ホスト名」プロパティ (SocksProxyHost)』	SocksProxyHost	プロキシ・サーバーとして使用されるマシンのホスト名
213 ページの『「パスワード」プロパティ (SocksProxyPassword)』	SocksProxyPassword	プロキシ・サーバーを認証するためのパスワード
213 ページの『「ポート番号」プロパティ (SocksProxyPort)』	SocksProxyPort	プロキシ・サーバーのポート番号
214 ページの『「ユーザー名」プロパティ (SocksProxyUserName)』	SocksProxyUserName	プロキシ・サーバーを認証するためのユーザー名
214 ページの『「ソート・イベント・ファイル」プロパティ (SortEventFiles)』	SortEventFiles	ポーリングされるイベント・ファイルのソート順を決定する
214 ページの『「ファイル内容を分割するための基準の指定」プロパティ (SplitCriteria)』	SplitCriteria	SplittingFunctionClassName プロパティの値に基づいた各種の値を指定する
216 ページの『「分割関数クラス名」プロパティ』	SplittingFunctionClassName	ファイル分割を有効にするために使用するクラス・ファイルの完全修飾クラス名を指定する
216 ページの『「ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する (StopPollingOnError)』	StopPollingOnError	ポーリング時にアダプターがエラーを検出した場合、アダプターがイベントのポーリングを停止するかどうかを指定します。
217 ページの『「ローカル・アーカイブ用の成功ファイル拡張子」プロパティ (SuccessArchiveExt)』	SuccessArchiveExt	正常に処理されたビジネス・オブジェクトすべてをアーカイブするために使用されるファイル拡張子

表 265. 活動化仕様プロパティ (続き)

199 ページの『トラストストア・ファイル プロパティ (trustStorePath)』	trustStorePath	アダプターによって信頼された FTPS サーバーの証明書を含むトラストストア・ファイルのパスを指定します。
199 ページの『トラストストア・パスワード プロパティ (trustStorePassword)』	trustStorePassword	トラストストアのパスワードを指定します。
199 ページの『未変更ファイルのポーリング時間間隔 (fileUnchangedTimeInterval)』	fileUnchangedTimeInterval	内容が更新されているかどうかを調べるために、アダプターがファイルをモニターする時間間隔を指定する
217 ページの『「ユーザー名」 プロパティ (UserName)』	UserName	FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーの名前
217 ページの『「イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名」 プロパティ (EP_UserName)』	EP_UserName	データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するユーザー名
ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター	ruleString	イベントのフィルター処理に使用されるルールのコレクション。
210 ページの『リモート検証有効プロパティ (enableRemoteVerification)』	enableRemoteVerification	FTP サーバーとの間のデータ転送を要求するホスト・システムが、アダプターを実行しているホスト・システムと同じであるかどうかを検証するために使用します。

イベントを一度のみ送達する (AssuredOnceDelivery)

このプロパティでは、Inbound イベントに対して、「イベントを一度のみ送達する」の機能を提供するかどうかを指定します。

表 266. 「イベントを一度のみ送達する」の詳細

必須	はい
使用可能な値	True False
デフォルト	True
プロパティ・タイプ	Boolean

表 266. 「イベントを一度のみ送達する」の詳細 (続き)

使用法	<p>このプロパティを True に設定すると、アダプターにより、1回のイベント送達を確保する機能が提供されます。つまり、各イベントは 1 回のみ配信されます。値を False にすると、1回のイベント送達を確保する機能は提供されませんが、パフォーマンスは向上します。</p> <p>このプロパティを True に設定すると、アダプターにより、トランザクション (XID) 情報のイベント・ストアへの保管が試行されます。このプロパティを False に設定した場合は、アダプターではこの情報の保管は行われません。</p> <p>このプロパティは、エクスポート・コンポーネントがトランザクションの対象である場合にのみ使用されます。そうでない場合は、このプロパティの値に関係なく、トランザクションを使用することはできません。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「自動作成イベント・テーブル」プロパティ (EP_CreateTable)

イベント・パーシスタンス・テーブルを作成するかどうかをアダプターに通知する。値が true でテーブルが存在しない場合、アダプターはテーブルを作成します。値が false の場合、アダプターはテーブルを作成しません。

表 267. 「自動作成イベント・テーブル」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	true
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「テーブル作成」プロパティ (CreateTable)

true に設定すると、イベント・テーブルおよび関連した索引が作成される。テーブル作成エラーをトラブルシューティングするには、このプロパティを false に設定します。その後、テーブルおよび索引を手動で作成できます。

表 268. 「テーブル作成」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	true
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「カスタム・パーサー・クラス名」プロパティ (CustomParserClassName)

ls -l の出力を解析するために使用されるカスタム・パーサーの完全修飾クラス名。ls -l の出力が標準出力から外れる場合にのみ使用されます。

表 269. 「カスタム・パーサー・クラス名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

データ・チャネル保護レベル (dataProtectionLevel)

このプロパティでは、データ・チャネルを介したデータ転送の保護レベルを指定します。FTP アダプターとそのサーバーが使用するデータ・チャネル保護のタイプを指定します。

データ・チャネルを開く前に、保護バッファ・サイズ (PBSZ) コマンドおよびデータ・チャネル保護レベル (PROT) コマンドが FTP アダプターによって発行され、そのデータ・チャネルの保護レベルが指定されます。デフォルトでは、アダプターは PROT コマンドを発行する前に「PBSZ 0」コマンドを発行します。

表 270. データ・チャネル保護レベル プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	Private - データは暗号化形式で転送されます Clear - データは平文として転送されます
デフォルト	Private - データは暗号化形式で転送されます
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティは、データ・チャネルの保護レベルを選択するために使用します。以下は、保護レベルの値です。 <ul style="list-style-type: none"> • Private - データ転送の安全性および機密性が保護されることを示します。 • Clear - セキュリティ対策を取らずに、データ・チャネルで、FTP アダプターとサーバーとの間のファイル転送用に生データが伝送されることを示します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「データベース・パスワード」プロパティ (DatabasePassword)

データ・ソースから JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するパスワード。

表 271. 「データベース・パスワード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「データベース・スキーマ名」プロパティ (EP_SchemaName)

イベント・パーシスタンスによって使用されるデータベースのスキーマ名。

表 272. 「データベース・スキーマ名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「データベース・ユーザー名 (Database Username)」プロパティ (DatabaseUsername)

データ・ソースから JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するユーザー名。

表 273. 「データベース・ユーザー名 (Database Username)」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

送達タイプ (DeliveryType)

このプロパティでは、イベントがアダプターによってエクスポートに配信される順序を指定します。

表 274. 送達タイプの詳細

必須	いいえ
使用可能な値	ORDERED UNORDERED
デフォルト	ORDERED
プロパティ・タイプ	String
使用法	以下の値がサポートされています。 <ul style="list-style-type: none">• ORDERED: アダプターは、一度に 1 つのイベントをエクスポートに配信します。• UNORDERED: アダプターは、一度にすべてのイベントをエクスポートに配信します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「FTP サーバーで使用されるエンコード」プロパティ (EISEncoding)

FTP サーバーのエンコード。この値は、FTP サーバーとの制御接続のエンコードを設定する場合に使用します。

- アダプター・レベルの EISEncoding と活動化仕様レベルの EISEncoding の両方を設定しない場合 (両方とも null)、FTP サーバーとの通信中は制御接続で何も設定されません。
- アダプター・レベルの EISEncoding を設定し、活動化仕様レベルの EISEncoding を設定しない場合、アダプター・レベルの値は、FTP サーバーとの通信中に制御接続で設定されます。これは、複数の活動化仕様を使用するときに、同じエンコードが設定されている場合に便利です。この場合は、すべての接続で制御接続のエンコードが同じになるように、値をアダプター・レベルで設定します。
- アダプター・レベルの EISEncoding を設定しないで、活動化仕様レベルの EISEncoding を設定する場合、活動化仕様レベルの値は、FTP サーバーとの通信中に制御接続で設定されます。値は活動化仕様レベルであるため、これが適用されるのは、その活動化仕様のみです。
- アダプター・レベルの EISEncoding と活動化仕様レベルの EISEncoding の両方を設定する場合、活動化仕様レベルの値が優先されます。

この属性には、Java がサポートする任意のエンコードを指定できます。

表 275. 「FTP サーバーで使用されるエンコード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「イベント・リカバリー DataSource (JNDI) 名」プロパティ (EP_DataSource_JNDIName)

JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスで使用されるデータ・ソースの JNDI 名。データ・ソースは、WebSphere Process Server 内に作成する必要があります。データ・ソースの作成中に指定されるデータベース名は、存在しているデータベースでなければなりません。

表 276. 「イベント・リカバリー DataSource (JNDI) 名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「イベント・リカバリー・テーブル名」プロパティ (EP_EventTableName)

アダプターがイベント・パーシスタンスのために使用するテーブルの名前。複数の活動化仕様を使用する場合、この値は活動化仕様ごとに固有でなければなりません。同じアダプター、または異なるアダプターのほかのインスタンスが同じテーブル名を使用することはできません。データベースにこのテーブルが存在しない場合は、アダプターがこのテーブルを作成します。

表 277. 「イベント・リカバリー・テーブル名」プロパティ特性

必須	いいえ
----	-----

表 277. 「イベント・リカバリー・テーブル名」プロパティ特性 (続き)

デフォルト	FTPTABLE
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「FTP サーバー接続モード」プロパティ (DataConnectionMode)

FTP サーバーがファイル転送時に使用するデータ接続モード。active または passive のいずれかの設定値を受け入れます。

表 278. 「FTP サーバー接続モード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	active
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

FTPS 接続モード・プロパティ (ftpsConnectionMode)

このプロパティは、FTPS サーバーとの接続を確立するときの接続モードを指定するために使用されます。現在、WebSphere Adapter for FTP は、Implicit および Explicit の両方の接続モードをサポートしています。このプロパティは、Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを介した FTP または Transport Layer Security (TLS) プロトコルを介した FTP のいずれかを選択するときに使用されます。

表 279. FTPS 接続モード・プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	Explicit Implicit
デフォルト	Explicit
プロパティ・タイプ	String
使用法	<p>このプロパティは、FTPS サーバーへの接続に使用されるモードを表します。</p> <p>このプロパティの設定内容によって、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Explicit 接続モードでは、最初、接続を通常の FTP 接続として確立します。パスワードなどの機密情報を送信するために、アダプターは、AUTH コマンドを発行してセキュア FTP 接続に切り替えます。 注: Explicit 接続モードのデフォルトのポートは、21 です。 • Implicit 接続モードでは、接続をセキュア FTP 接続として確立します。アダプターとサーバー間のすべての通信は、セキュア・モードで続きます。アダプターとサーバー間で平文情報の交換はありません。 注: Implicit 接続モードのデフォルトのポートは、990 です。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「ローカル・アーカイブ用の障害ファイル拡張子」プロパティ (FailedArchiveExt)

正常に処理されなかったイベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトをアーカイブするために使用されるファイル拡張子。このプロパティは、LocalArchiveDirectory が有効で存在する場合にのみ使用されます。

表 280. 「ローカル・アーカイブ用の障害ファイル拡張子」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	fail
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイル内容のエンコード」プロパティ (FileContentEncoding)

EndBODelimiter プロパティに基づいたイベント・ファイルの読み取りで使用するエンコード、およびストリングから byte[] への変換時に使用されるエンコード。指定しない場合、アダプターは特定のエンコードを使用せずに読み取りを行おうとします。Java がサポートする任意のエンコード・セットを指定できます。

表 281. 「ファイル内容のエンコード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「リモート・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティ (FTPRenameExt)

コネクタがリモート FTP ファイルをポーリングした後、アダプターがリモート FTP ファイルの名前変更に使用するファイル拡張子またはサフィックス。ファイルの名前変更を行うと、コネクタが次のポーリング周期で同じファイルをポーリングしないように設定できます。アダプターを、処理済みのイベント・ファイルの名前を変更して、そのファイルをアーカイブ・ディレクトリーに移動するように構成することができます。

表 282. 「リモート・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

鍵ストア・ファイル プロパティ (keyStorePath)

このプロパティでは、秘密鍵項目を含む鍵ストアのパスを指定します。

表 283. 鍵ストア・ファイル プロパティの特性

必須	いいえ
----	-----

表 283. 鍵ストア・ファイル プロパティの特性 (続き)

デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、(アダプターが稼働中の) アダプター・マシン上の鍵ストア・ファイルの絶対パスを指定します。鍵ストア・ファイルには、FTPS クライアントの秘密鍵項目が含まれます。また、対応する公開鍵の証明書チェーンも一緒に保存されます。鍵ストア・データは、SSL 接続の確立中にクライアント ID を認証するために使用されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

鍵ストア・パスワード プロパティ (keyStorePassword)

このプロパティでは、鍵ストアの暗号化に使用されるパスワードを指定します。

表 284. 鍵ストア・パスワード プロパティの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、鍵ストアのパスワードを指定します。このパスワードは、鍵ストア・データの安全性のチェックに使用されます。値が指定されていない場合、安全性チェックは実行されません。このプロパティは、プロトコルの値が FTP over SSL または FTP over TLS に設定されている場合にのみ適用されます。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

鍵パスワード プロパティ (keyPassword)

このプロパティでは、鍵の暗号化に使用されるパスワードを指定します。

表 285. 鍵パスワード プロパティの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、鍵ストアから鍵をリカバリーするために使用される鍵のパスワードを指定します。このプロパティは、プロトコルの値が FTP over SSL または FTP over TLS に設定されている場合にのみ適用されます。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

鍵ストア・タイプ プロパティ (keyStoreType)

このプロパティでは、鍵ストアのタイプを指定します。

表 286. 鍵ストア・タイプ プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	JKS および PKCS12

表 286. 鍵ストア・タイプ プロパティの特性 (続き)

デフォルト	JKS
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、鍵ストアのタイプを指定します。このプロパティは、プロトコルとして FTP over SSL または FTP over TLS を選択した場合にのみ適用されます。このプロパティは、トラストストアのタイプにも適用されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

トラストストア・ファイル プロパティ (trustStorePath)

このプロパティでは、アダプターによって信頼された FTPS サーバーの証明書を含むトラストストア・ファイルのパスを指定します。

表 287. トラストストア・ファイル プロパティの特性

必須	このプロパティは、プロトコルを FTP over SSL または FTP over TLS として設定した場合にのみ適用されます。
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、(アダプターが稼働中の) アダプター・マシン上のトラストストア・ファイルの絶対パスを指定します。トラストストア・ファイルは、アダプターによって信頼される FTPS サーバーの証明書を含み、SSL 接続の確立中にサーバー ID を認証するために使用されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

トラストストア・パスワード プロパティ (trustStorePassword)

このプロパティでは、トラストストアのパスワードを指定します。

表 288. トラストストア・パスワード プロパティの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、トラストストアのパスワードを指定します。このパスワードは、トラストストア・データの保全性のチェックに使用されます。値が指定されていない場合、保全性チェックは実行されません。このプロパティは、プロトコルの値が FTP over SSL または FTP over TLS に設定されている場合にのみ適用されます。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

未変更ファイルのポーリング時間間隔 (fileUnchangedTimeInterval)

このプロパティは、内容が更新されているかどうかを調べるために、アダプターがファイルをモニターする時間間隔を指定します。アダプターは、指定された時間間隔内に変更されなかったファイルのみをポーリングします。

表 289. 未変更ファイルのポーリング時間間隔 (Time interval for polling unchanged file)

必須	いいえ
デフォルト	0
計測単位	ミリ秒
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	このプロパティは、アダプターが、指定された時間間隔の間にイベント・ディレクトリーで変更されていないファイルのみをポーリングできるようにします。このプロパティが選択されると、アダプターは、ポーリング周期中に未変更のファイルを取得します。アダプターは、現在編集集中のファイルもポーリングしますが、そのファイルを最後に保存したときに存在していたファイル内容のみを取得します。 値が「0」に設定されていると、アダプターはファイルをただちにポーリングし、ファイルが変更されているかどうかを検査しません。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「内容ではなくファイル名およびディレクトリーのための受け渡し」プロパティ (FilePassByReference)

イベント・ファイルのファイル内容をエクスポートに送信しないことを指定する。

true に設定する場合、ファイルにタイム・スタンプが付加され、LocalArchiveDirectory に送信されます。タイム・スタンプにより、同じ名前での別のファイルが受信される場合に起きる、エラーやファイルの上書きを回避できます。このプロパティを true に設定できるのは、LocalArchiveDirectory プロパティを設定する場合で、指定したディレクトリーが存在する場合のみです。このプロパティは、PassThrough Inbound 処理でのみ使用されます。有効にすると、ファイルはチャンクに分割されません。

表 290. 「内容ではなくファイル名およびディレクトリーのための受け渡し」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「ファイル転送タイプ」プロパティ (FileTransferType)

Inbound 処理時に使用されるファイル転送タイプ。ASCII または binary のいずれかの設定値を受け入れます。

表 291. 「ファイル転送タイプ」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	binary
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	no

「一度に取得するファイル数」プロパティ (FTPGetQuantity)

リモートでのポーリングごとに、リモート FTP URL から取得するファイルの数を決定する。

表 292. 「一度に取得するファイル数」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	10
プロパティ・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

「各ダウンロード間のポーリング期間の数」プロパティ (FTPPollFrequency)

アダプターが FTP サーバーをポーリングする頻度 (標準のポーリング周期の数で測定される) を決定する。例えば、PollPeriod を 10000 に設定し、FTPPollFrequency を 6 に設定した場合、アダプターは LocalEventDirectory を 10 秒ごとにポーリングし、リモートの EventDirectory を 60 秒ごとにポーリングします。アダプターが FTP のポーリングを行うのは、このプロパティに値を指定した場合のみです。PollPeriod が 0 の場合は、1 として計算します。計算により 0 と評価された場合、アダプターは FTP のポーリングを行いません。

表 293. 「各ダウンロード間のポーリング期間の数」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	5
プロパティ・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

失敗したイベントの再試行制限 (FailedEventRetryLimit)

このプロパティは、アダプターがイベントの再送信を試みる回数を指定します。この回数に達すると失敗とマークされます。

表 294. 「失敗したイベントの再試行制限」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	整数
デフォルト	5
プロパティ・タイプ	Integer

表 294. 「失敗したイベントの再試行制限」の詳細 (続き)

使用法	<p>このプロパティは、この回数以上は失敗とマークする場合の、アダプターがイベントを送信する回数を指定する時に使用します。以下のいずれかの値を取ります。</p> <p>デフォルト</p> <p>このプロパティが設定されない場合、アダプターは、イベント送信失敗の後、さらに 5 回イベントの送信を試み、それでも送達できない場合にイベントを失敗とマーク付けします。</p> <p>0 アダプターは、回数無制限でイベントの送信を試行します。このプロパティが 0 に設定されると、イベントはイベント・ストアに残されたままになり、イベントが失敗とマークされることはなくなります。</p> <p>> 0 正の整数の場合、アダプターは、指定した回数再試行を行った後、イベントを失敗とマークします。</p> <p>< 0 負の整数の場合、アダプターは失敗したイベントの送信を再試行しません。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「ファイルのダウンロード後に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedAfterInbound)

FTP サーバーからのファイルのダウンロード後に実行されるスクリプト・ファイルのパスを指定します。

表 295. 「ファイルのダウンロード後に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイルのダウンロード前に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ (FTPScriptFileExecutedBeforeInbound)

FTP サーバーからのファイルのダウンロード前に実行されるスクリプト・ファイルのパスを指定します。

表 296. 「ファイルのダウンロード前に実行する FTP スクリプト・ファイル」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ホスト名」プロパティ (HostName)

Inbound 処理時に接続の確立先となる FTP サーバーのホスト名。

表 297. 「テーブル作成」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ (IncludeEndBODelimiter)

true に設定する場合、さらに処理を行うため、ビジネス・オブジェクトの内容と一緒に区切り文字が送信されます。このプロパティは、区切り文字に基づいてイベント・ファイルを分割する場合にのみ有効です。

表 298. 「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「ローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (LocalArchiveDirectory)

ローカル・アーカイブ・ディレクトリーの絶対パス。ディレクトリーは、有効で、存在している必要があります。

表 299. 「ローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	<p>WebSphere Application Server 環境変数を使用して、ローカル・アーカイブ・ディレクトリーを表すことができます。\$ 記号の後に、環境変数の名前を中括弧で囲んで指定します。例えば、<code>\${LOCALARCHIVE_DIRECTORY}</code> です。この資料のhttp://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/tbp_ftp_defineenvrvars.htmlについてのトピックを参照してください。</p> <p>注: アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、LocalArchiveDirectory を手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。</p>
グローバル化	はい

「ローカル・ディレクトリー」プロパティー (LocalEventDirectory)

アダプターが FTP サイトからダウンロードしたイベント・ファイルを格納するローカル・システム・ディレクトリー。アダプターがイベントを処理できるようにするために、このプロパティーに値を指定する必要があります。

表 300. 「ローカル・ディレクトリー」プロパティー特性

必須	はい
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	WebSphere Application Server 環境変数を使用して、ローカル・イベント・ディレクトリーを表すことができます。\$ 記号の後に、環境変数の名前を中括弧で囲んで指定します。例えば、\${LOCAL_DIRECTORY} です。この資料の http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/tbp_ftp_defineenvironvars.html についてのトピックを参照してください。 注: アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、 LocalEventDirectory を手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

最大接続数 (Maximum connections) (MaximumConnections)

このプロパティーでは、アダプターが Inbound イベント送達に使用できる接続の最大数を指定します。

表 301. 「最大接続数 (Maximum connections)」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	1
プロパティー・タイプ	Integer
使用法	正の値のみが有効です。アダプターは、1 より小さい正の入力値を 1 であるとみなします。このプロパティーに対して負の値を入力すると、ランタイム・エラーが発生することがあります。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

最小接続数 (Minimum connections) (MinimumConnections)

このプロパティーでは、アダプターが Inbound イベント送達に使用できる接続の最小数を指定します。

表 302. 「最小接続数 (Minimum connections)」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	1
プロパティー・タイプ	Integer

表 302. 「最小接続数 (Minimum connections)」の詳細 (続き)

使用法	正の値のみが有効です。1 より小さい値は、アダプターによって 1 として処理されます。このプロパティに対して負の値または 1 を入力すると、実行時エラーが発生することがあります。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「ローカル・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティ (OriginalArchiveExt)

オリジナル・イベント・ファイルをアーカイブするために使用されるファイル拡張子。このファイルには、ビジネス・オブジェクトのいずれかが失敗した場合の参照用にイベント・ファイル全体が保存されます。このプロパティは、LocalArchiveDirectory が有効で存在する場合にのみ使用されます。

表 303. 「ローカル・アーカイブ用のファイル拡張子」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	original
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「パスワード」プロパティ (Password)

FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーのパスワード。EventDirectory プロパティで指定した URL にパスワードが含まれている場合は、このプロパティに値を指定する必要はありません。

表 304. 「パスワード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「イベント DataSource に接続するのに使用されるパスワード」プロパティ (EP_Password)

データ・ソースからデータベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスで使用されるパスワード。

表 305. 「イベント DataSource に接続するのに使用されるパスワード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

ポーリング期間の間隔 (ポーリング間隔)

このプロパティーでは、ポーリング期間中にアダプターが待機する時間の長さを指定します。

表 306. 「ポーリング期間の間隔」の詳細

必須	はい
使用可能な値	0 以上の整数
デフォルト	2000
計測単位	ミリ秒
プロパティー・タイプ	Integer
使用法	ポーリング期間は一定の割合で確立されます。つまり、ポーリング周期の実行が何らかの理由で遅延すると (例えば、前のポーリング周期が完了するまでに予想より時間がかかった場合)、遅延によって失った時間を取り戻すために次のポーリング周期がすぐに開始されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ポーリング期間内の最大イベント数 (ポーリング数量)

このプロパティーでは、各ポーリング期間中にアダプターがエクスポートに配信するイベント数を指定します。

表 307. 「ポーリング期間内の最大イベント数」の詳細

必須	はい
デフォルト	10
プロパティー・タイプ	Integer
使用法	値は 0 より大きくする必要があります。この値を大きくすると、ポーリング期間ごとに処理されるイベントの数が増加し、アダプターのパフォーマンス効率が低下する場合があります。この値を小さくすると、ポーリング期間ごとに処理されるイベントの数が増減し、アダプターのパフォーマンスが若干向上することがあります。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

パズフレーズ・プロパティー (passPhrase)

このプロパティーは、秘密鍵を暗号化して、拡張セキュリティのために使用されます。

表 308. パズフレーズ・プロパティー プロパティーの特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String

表 308. パスフレーズ・プロパティ プロパティの特性 (続き)

使用法	拡張セキュリティに使用されます。これは、SFTP 構成の中で秘密鍵を暗号化することによって、秘密鍵を保護します。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

「ポート番号」プロパティ (PortNumber)

Inbound 処理時に接続の確立先となる FTP サーバーのポート番号。

表 309. 「ポート番号」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	Explicit モードの FTP および FTPS の場合は 21、Implicit モードの FTPS の場合は 990、SFTP の場合は 22 です。
プロパティ・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

秘密鍵ファイル・プロパティ (PrivateKeyFilePath)

このプロパティによって、秘密鍵を参照して選択することができます。その秘密鍵は、セキュア・シェル・サーバーに対する認証に使用されます。

表 310. 「秘密鍵」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	秘密鍵を格納するファイルの絶対パス。ユーザーをセキュア・シェル・サーバーに認証させるために使用されます。
例	c:%temp%key.ppk
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

「プロトコル」プロパティ (Protocol)

確立する接続が通常の FTP 接続か、またはセキュア FTP 接続かを定めるプロトコル。

例:

通常接続: FTP

FTP over SSL 接続: FTPS_SSL

FTP over TLS 接続: FTPS_TLS

FTP over SSH 接続: SFTP

表 311. 「プロトコル」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	FTP
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「リモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (FTPArchiveDirectory)

FTP サーバー上のアーカイブ・ディレクトリーの相対パス。ディレクトリーが存在している必要があります。このプロパティを使用してアーカイブを指定する場合には、いくつかのオプションがあります。

- このプロパティに値を指定したが、FTPRenameExt プロパティに値を指定しない場合、アダプターは、イベント・ファイル名にタイム・スタンプを付加し、ファイルをこのプロパティに指定された FTP サーバーのアーカイブ・ディレクトリーに移動します。
- このプロパティと FTPRenameExt プロパティの両方に値を指定した場合、アダプターは、処理済みのイベント・ファイルの名前をタイム・スタンプと FTPRenameExt に指定された値で変更し、ファイルをこのプロパティに指定された FTP サーバーのアーカイブ・ディレクトリーに移動します。
- このプロパティにも FTPRenameExt プロパティにも値を指定しない場合、アダプターは、処理済みのイベント・ファイルをアーカイブせずに削除します。
- このプロパティには値を指定せずに、FTPRenameExt プロパティに値を指定した場合、アダプターは処理済みのイベント・ファイルの名前を変更し、タイム・スタンプと FTPRenameExt に指定された値を追加します。

リモート・アーカイブ・ディレクトリー・プロパティの値は、ディレクトリーの絶対パスと相対パスの両方を受け入れます。値がスラッシュで始まらない場合、アダプターは、パスがユーザーのホーム・ディレクトリーを基準とする相対パスであると見なします。

表 312. 「リモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String

表 312. 「リモート・アーカイブ・ディレクトリー」 プロパティー特性 (続き)

使用法	<p>WebSphere Application Server 環境変数を使用して、リモート・アーカイブ・ディレクトリーを表すことができます。\$ 記号の後に、環境変数の名前を中括弧で囲んで指定します。例えば、<code>\${REMOTEARCHIVE_DIRECTORY}</code> です。この資料のhttp://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/tbp_ftp_defineenvironvars.htmlについてのトピックを参照してください。</p> <p>FTP サーバーにあり、Inbound 構成で使用されるアーカイブ・ディレクトリーは、アーカイブ・ディレクトリーの絶対パスを表します。これにはホスト名または URL 情報は含まれません。このディレクトリーは、イベント・ディレクトリーが存在するのと同じ FTP サーバーにあります。例えば、<code>/home/archive</code> です。</p> <p>注: アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、FTPArchiveDirectory を手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。</p>
グローバル化	はい

「リモート・ディレクトリー」プロパティー (EventDirectory)

Inbound 処理のためにイベント・ファイルが取り出される FTP サーバーのリモート・ディレクトリー。リモート・ディレクトリーの値が `<HOME_DIR>` に設定されている場合、アダプターは、ユーザーのホーム・ディレクトリー内のイベント・ファイルをポーリングします。

イベント・ディレクトリー・プロパティーの値は、ディレクトリーの絶対パスと相対パスの両方を受け入れます。値がスラッシュで始まらない場合、アダプターは、パスがユーザーのホーム・ディレクトリーを基準とする相対パスであると見なします。

表 313. 「リモート・ディレクトリー」 プロパティー特性

必須	はい
デフォルト	<code><HOME_DIR></code>
プロパティー・タイプ	String
使用法	<p>WebSphere Application Server 環境変数を使用して、リモート・ディレクトリーを表すことができます。\$ 記号の後に、環境変数の名前を中括弧で囲んで指定します。例えば、<code>\${REMOTE_DIRECTORY}</code> です。この資料のhttp://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.ftp.doc/doc/tbp_ftp_defineenvironvars.htmlについてのトピックを参照してください。</p> <p>注: アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、EventDirectory を手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。</p>
グローバル化	はい

「このパターンを持つファイルの取得」プロパティー (EventFileMask)

イベント・ファイル用のフィルター。ファイルのフィルターは、英数字と * および ? のワイルドカードから成る適切な修飾の表現です。

表 314. 「このパターンを持つファイルの取得」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	*.*
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

リモート検証有効プロパティ (enableRemoteVerification)

クライアントが FTP サーバーに接続するときは、2 種類の接続またはチャネル、つまり、コマンド接続 (制御接続としても知られる) とデータ接続が確立されます。コマンド接続とは、クライアントが FTP コマンドをサーバーに送信し、またそれらのコマンドへの応答をサーバーから受信する接続で、データ接続とは、クライアントとサーバーの間でデータ転送が実行されるチャネルのことです。

このプロパティは、FTP サーバーとの間のデータ転送を要求するホスト・システムが、アダプターを実行しているホスト・システムと同じであるかどうかを検証するために使用されます。

この検証は、データ接続を確立し、データ転送を実行する間に行われます。

注: このプロパティは、FTP プロトコルおよび FTPS プロトコルのみに適用可能です。

表 315. リモート検証有効プロパティの特性

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	True
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティでは、データ接続と制御接続が同じホスト・システムから行われているかどうかを検証します。リモート検証プロパティは、デフォルトでは、FTP サーバーによって true に設定されています。</p> <p>このプロパティの設定内容によって、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true に設定されていると、実行時にアダプターは、データ接続が制御接続と同じホストで確立されているかどうかを検査します。データ接続が、制御接続とは別のホストから確立されていると、例外がスローされ、接続は失敗します。 • false に設定されていると、リモート検証は実行されません。 <p>注: リモート検証が使用不可に設定されると、セキュリティのレベルが低くなります。リモート検証を使用不可にする前にセキュリティの予防措置を取る必要があります。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

開始時に EIS 接続を再試行する (RetryConnectionOnStartup)

このプロパティは、アダプターが始動時に FTP サーバー に接続できない場合に、再度接続を試みるかどうかを指定します。

表 316. 「開始時に EIS 接続を再試行する」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティは、アダプターの始動時に、FTP サーバーに接続できない場合に、接続を再試行するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> アダプターが、FTP サーバー に対する接続を確立できたかどうかに関するフィードバックを直ちに必要とする場合、例えば、アダプターからのイベントを受信するアプリケーションを作成し、テストしている場合は、このプロパティを False に設定します。アダプターが接続できない場合、アダプターは、ログおよびトレース情報を書き込んで、停止します。管理コンソールは、アプリケーション状況を Stopped と表示します。この場合、接続の問題を解決後、手動でアダプターを始動してください。 接続に関するフィードバックをすぐに必要としない場合は、このプロパティは True に設定します。アダプターが始動時に接続できない場合、アダプターはログおよびトレース情報を書き込んでから、RetryInterval プロパティで再試行の頻度を判別して再接続を試み、RetryLimit プロパティの値で指定された値に達するまで、再試行を複数回行います。管理コンソールは、アプリケーション状況を Started と表示します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

接続が失敗した場合の再試行間隔 (RetryInterval)

このプロパティでは、アダプターが Inbound 接続に関連したエラーを検出した場合に、アダプターが新規接続を確立しようとするまで待機する時間の長さを指定します。

表 317. 再試行間隔の詳細

必須	はい
デフォルト	2000
計測単位	ミリ秒
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	<p>正の値のみが有効です。このプロパティでは、アダプターが Inbound 接続に関連したエラーを検出した場合に、アダプターが新規接続を確立しようとするまで待機する時間の長さを指定します。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

システム接続を再試行する回数 (RetryLimit)

このプロパティでは、アダプターが Inbound 接続の再確立を試行する回数を指定します。

表 318. 「システム接続を再試行する回数」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	0 および正の整数
デフォルト	0
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	<p>このプロパティは、アダプターが FTP サーバー に接続して Inbound 処理を実行できない場合に、接続を再試行する回数を指定します。値が 0 の場合は、再試行回数が無制限になることを指定します。</p> <p>アダプターの当初始動時に、FTP サーバー に接続できない場合、アダプターが再試行するかどうかを制御するには、RetryConnectionOnStartup プロパティを使用します。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

サーバー検査を使用可能にする プロパティ (EnableServerVerification)

このプロパティは、SFTP プロトコルのリモート・サーバー検査を使用可能にするために使用されます。

表 319. サーバー検査を使用可能にする プロパティの詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティの設定内容によって、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none">• True に設定されると、サーバー認証は使用可能です。• False に設定されると、サーバー認証は使用不可です。 <p>アダプターは、トラステッド・サーバーのホスト鍵を含むファイルのパス内の HostKeyFile プロパティを検査します。</p>
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

ホスト鍵ファイル プロパティ (HostKeyFile)

このプロパティでは、トラステッド・サーバーのホスト鍵を含むホスト鍵ファイルの絶対パスを指定します。

表 320. ホスト鍵ファイル プロパティの特性

必須	EnableServerVerification が使用可能の場合、このプロパティを指定する必要があります。
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	これは、このファイルに指定されているトラステッド・サーバーのホスト鍵でリモート・サーバーのホスト鍵を検査するために、アダプターが使用します。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

「ホスト名」プロパティ (SocksProxyHost)

アダプターの要求を FTP サーバーに送信する際に経由するプロキシ・サーバーとして使用されるマシンのホスト名。

表 321. 「ホスト名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「パスワード」プロパティ (SocksProxyPassword)

プロキシ・サーバーを認証するためのパスワード。

表 322. 「パスワード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ポート番号」プロパティ (SocksProxyPort)

アダプターの要求を FTP サーバーに送信する際に経由するプロキシ・サーバーのポート番号。

表 323. 「ポート番号」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	1080
プロパティ・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

「ユーザー名」プロパティ (SocksProxyUserName)

プロキシ・サーバーを認証するためのユーザー名。

表 324. 「ユーザー名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ソート・イベント・ファイル」プロパティ (SortEventFiles)

ポーリングされるイベント・ファイルのソート順を決定する。以下をサポートしています。

- ファイル名順 – ファイル名を基準に昇順にソート
- 日時順 – 最終変更日時のタイム・スタンプを基準に昇順でソート
- ソートなし – ソートされません

イベントを送信するためのイベント・ファイルの順序付けは、活動化仕様の DeliveryType プロパティが ORDERED に設定されている場合にのみ有効です。ファイル名のソートは、FTP サーバーのロケールに基づいて行われます。ロケールおよびそれに対応する規則の追跡には、ICU4J パッケージが使用されます。

表 325. 「ソート・イベント・ファイル」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	ソートなし (= ソートされません)
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「ファイル内容を分割するための基準の指定」プロパティ (SplitCriteria)

このプロパティには、SplittingFunctionClassName プロパティの値に基づいた各種の値を指定する。例: 5 KB ごとにファイルを分割するように指定するには、SplitCriteria プロパティを 5000 に設定します。

- SplittingFunctionClassName プロパティで、区切り文字に基づいてファイルを分割することを指定する場合、SplitCriteria にはイベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトを分割する区切り文字を指定します。
- SplittingFunctionClassName をサイズに基づいた分割を行う値に設定する場合、SplitCriteria プロパティには、バイト単位のサイズを表す有効な数値を指定します。
 - イベント・ファイルのサイズがこの値より大きい場合、アダプターはファイルをこのサイズのチャンクに分割し、各チャンクが送られます。
 - イベント・ファイルのサイズがこの値より小さい場合、イベント・ファイル全体が送られます。SplitCriteria=0 の場合、チャンクへの分割は無効です。

Inbound PassThrough 時に FilePassByReference を有効にすると、イベント・ファイルは分割されません。

注: 複数の COBOL コピーブック・レコードを含む入力ファイルの場合、サイズによってファイル分割ができるように、それぞれのレコードの正しい長さを指定する必要があります。それぞれのレコードのサイズを判別するには、次のいずれかの方式を使用します。

1. テキスト・エディターでビジネス・オブジェクトを開きます。

a. 例:

```
<element name="CustomerNumber">
  <annotation>
    <appinfo source="http://www.ibm.com/cam/2005/typedescriptor">
      <td:typeDescriptorElement>
        <td:initialValue kind="SPACE"/>
        <td:simpleInstanceTD accessor="readWrite" attributeInBit="false"
          contentSize="5" offset="0" size="5">
          <td:sharedType>
            <td:stringTD addrUnit="byte" alignment="byte" characterSize="1"
              lengthEncoding="fixedLength" paddingCharacter=" "
              prefixLength="0" width="5"/>
            </td:sharedType>
          </td:simpleInstanceTD>
        </td:typeDescriptorElement>
      </appinfo>
    </annotation>
  <simpleType>
    <restriction base="string">
      <maxLength value="5"/>
    </restriction>
  </simpleType>
</element>
```

ビジネス・オブジェクト内の各エレメントには、対応する <element> エレメントがあります。

- b. 各エレメント・タグの制限タグを見つけます (COBOL データ・バインディングには固定長のデータ・ハンドラーが必要です)。
- c. 各エレメントの maxLength 属性値を加算します。この例では、値は 5 です。maxLength 値の合計は、タイプが DFHCOMMAREA の各レコードのサイズです。

2. テキスト・エディターでビジネス・オブジェクトを開きます。

- a. 名前属性にビジネス・オブジェクト名の値を持つ複合タイプ・タグを見つけます。次の例では、ビジネス・オブジェクト名は DFHCOMMAREA です。
- b. 名前空間が追加された、aggregateInstanceTD という名前のタグを見つけて、属性 contentSize の値を使用します。この例では、値は 117 です。これは、タイプ DFHCOMMAREA のそれぞれのレコードのサイズです。

```
<complexType name="DFHCOMMAREA">
  <annotation>
    <appinfo source="http://www.ibm.com/cam/2005/typedescriptor">
      <td:typeDescriptorCT>
        <td:aggregateInstanceTD accessor="readWrite" attributeInBit="false"
          contentSize="117" offset="0" size="117">

```

表 326. 「ファイル内容を分割するための基準の指定」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	0
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	はい

「分割関数クラス名」プロパティ

この値には、ファイル分割を有効にするために使用するクラス・ファイルの完全修飾クラス名を指定する。以下の 2 つの値が必要です。

- 区切り文字に基づいてイベント・ファイルを分割する
com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitByDelimiter クラス。
- イベント・ファイル・サイズに基づいてイベント・ファイルを分割する
com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize クラス。

オプションで、カスタムのファイル分割クラスを指定し、そのクラス名を SplittingFunctionClassName プロパティに入力することによって使用することができます。

区切り文字またはファイル・サイズは、SplitCriteria プロパティで指定します。EventContentType プロパティが null に設定されている場合、ファイル・サイズに基づいて分割を実行するクラス名に自動的に設定されます。

表 327. 「分割関数クラス名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する (StopPollingOnError)

このプロパティでは、ポーリング時にアダプターがエラーを検出した場合、アダプターがイベントのポーリングを停止するかどうかを指定します。

表 328. 「ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	このプロパティを True に設定した場合、アダプターはエラーを検出するとポーリングを停止します。 このプロパティを False に設定した場合、アダプターはポーリング時にエラーを検出すると例外をログに記録し、ポーリングを続行します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

「ローカル・アーカイブ用の成功ファイル拡張子」プロパティ (SuccessArchiveExt)

正常に処理されたビジネス・オブジェクトすべてをアーカイブするために使用されるファイル拡張子。このプロパティは、LocalArchiveDirectory が有効で存在する場合にのみ使用されます。例: 12345.order > 12345.order.success

表 329. 「ローカル・アーカイブ用の成功ファイル拡張子」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	success
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ユーザー名」プロパティ (UserName)

FTP サーバーへの接続特権、および FTP 操作の実行特権を持つユーザーの名前。EventDirectory プロパティで指定した URL にユーザー名が含まれている場合は、このプロパティに値を指定する必要はありません。

表 330. 「ユーザー名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名」プロパティ (EP_UserName)

データ・ソースからデータベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスが使用するユーザー名。

表 331. 「イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター

このプロパティは、一定のルール・セットに基づいてイベント・ファイルをフィルター処理する場合に使用されます。

表 332. ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター

必須	任意指定
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String

表 332. ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター (続き)

使用法	Inbound 処理時に、ルール・テーブルの値が指定されている場合、指定されたルールに基づいてフィルター処理後、イベント・ファイルを取り出してから、これらのイベント・ファイルのポーリングを行います。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

Wrapper および対話仕様プロパティ

Wrapper プロパティは Wrapper ビジネス・オブジェクトの属性で、Wrapper ビジネス・オブジェクトによって、アプリケーション・プログラマーはラッパーの中のビジネス・オブジェクトの操作を制御できます。対話仕様プロパティは、全体のアダプターの操作の対話を制御します。

アダプターの構成時には、外部サービス・ウィザードによって対話仕様プロパティを設定します。これらのプロパティには、変更可能なものもありますが、すべてを変更することはできません。ただし、Outbound 操作の一部のプロパティは変更できます。アセンブリー・エディターを使用して、インポートのメソッド・バインディングに存在するこれらのプロパティを変更します。Wrapper プロパティは、WebSphere Integration Developer テスト・クライアントを使用して設定するか、実行時にプログラムで設定します。

以下の表は、Wrapper および対話仕様プロパティをリストしています。各プロパティの完全な説明は、表に続くセクションで説明します。これ以降のセクションのプロパティの詳細表を読む方法については、『プロパティ詳細についてのガイド』を参照してください。

表 333. 対話仕様プロパティ

プロパティ名		説明
ウィザード内	ラッパー・ビジネス・オブジェクト内	
Retrieve 操作のリモート・アーカイブ・ディレクトリー	ArchiveDirectoryForRetrieve	アダプターは、ファイルを Retrieve 操作中に削除される前に、このフォルダーにオプションでアーカイブする。
ファイルが存在しない場合に新規ファイルを作成する	CreateFileIfNotExists	ファイルが FTP サーバーに存在しない場合、Append および Overwrite 操作中にこのプロパティが true に設定されていると、アダプターはファイルを作成する。
FTP サーバー接続モード	DataConnectionMode	FTP サーバーがファイル転送時に使用するデータ接続モード。
retrieve 操作後のファイルの削除	DeleteOnRetrieve	このプロパティが true に設定されている場合、アダプターは、ファイルを取得した後、FTP サーバーからファイルを削除する。
FTP システム上のリモート・ディレクトリー	DirectoryPath	Outbound 操作を実行する必要がある FTP サーバー上のディレクトリーの絶対パス。
220 ページの『データ・チャネル保護レベル (dataProtectionLevel)』	dataProtectionLevel	FTPS プロトコルの場合、データ・チャネルの保護レベルを指定します。

表 333. 対話仕様プロパティ (続き)

ファイル内容のエンコード	FileContentEncoding	ファイルへの書き込み中に使用されるエンコード。
ローカル・ディレクトリー内のファイル	FileInLocalDirectory	Create 操作時に true に設定されている場合、アダプター・ワークステーションのローカル・ディレクトリー・パスからファイル内容が取り出される。
デフォルト・ターゲット・ファイル名	Filename	DirectoryPath プロパティで指定されたディレクトリー内のファイルの名前。
ファイル転送タイプ	FileTransferType	Outbound 操作時に使用されるファイル転送タイプ。
固有ファイルの生成	GenerateUniqueFile	アダプターは、このプロパティが true に設定されている場合、固有ファイル名を作成する。
ホスト名プロパティ	SecondServerHostName	2 次 FTP サーバーのホスト名。
「ファイル内のビジネス・オブジェクト間の区切り文字」プロパティ	IncludeEndBODelimiter	この値がファイルの内容に付加される。
Create 操作のローカル・アーカイブ・ディレクトリー	LocalArchiveDirForCreate	Create 操作時に LocalArchivingEnabledForCreate が true に設定されている場合、このディレクトリーのローカル・ワークステーションにファイルが保存される。
Create 操作のローカル・ディレクトリーへのファイルのアーカイブ	LocalArchivingEnabledForCreate	true に設定されている場合、ファイルは Create 操作時にローカル・ワークステーションに保存される。
ローカル・ディレクトリー	LocalDirectoryPath	このディレクトリーからファイルが取り出される。
(なし)	ResumeFailedTransfer	作成操作時にこのプロパティが true に設定されていると、アダプターは、接続エラーのためにファイル転送が中断された位置からファイル転送を再開します。
ポート番号	SecondServerPortNumber	2 次 FTP サーバーのポート番号。
プロトコル	SecondServerProtocol	2 次サーバーへの接続に使用されるプロトコルを指定します。
スクリプト・ファイル・パラメーター	ScriptFileParameters	FTP スクリプト・ファイルに必要なパラメーター。
ディレクトリー	SecondServerDirectory	ServerToServerFileTransfer 操作時の 2 次 FTP サーバーのディレクトリー・パス。
パスワード	SecondServerPassword	ServerToServerFileTransfer 操作時の 2 次 FTP サーバーのパスワード。
ユーザー名	SecondServerUsername	ServerToServerFileTransfer 操作時の 2 次 FTP サーバーのユーザー名。
ファイル内容を分割するための基準の指定	SplitCriteria	イベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトを分割する区切り文字。
関数クラス名の分割	SplittingFunctionClassName	ファイル分割を有効にするために使用するクラス・ファイルの完全修飾クラス名。

表 333. 対話仕様プロパティ (続き)

ステージング・ディレクトリー	StagingDirectory	ファイルはこのディレクトリーに最初に作成される。
一時ファイル名	TemporaryFilename	作成操作のための一時ファイル名を指定します。

「Create 操作のローカル・ディレクトリーへのファイルのアーカイブ」プロパティ (LocalArchivingEnabledForCreate)

Outbound の create 操作時に、ファイルの内容が、J2EE アプリケーションからビジネス・オブジェクトの一部として提供され、このプロパティが true に設定されている場合は、ファイルはローカル・ワークステーションの

LocalArchiveDirForCreate ディレクトリーに保存されてから、Outbound 操作が実行されます。

表 334. 「create 操作のローカル・ディレクトリーへのファイルのアーカイブ」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「ファイルが存在しない場合に新規ファイルを作成する」プロパティ (CreateFileIfNotExists)

Outbound Append および Overwrite 操作中に、ファイルが FTP サーバーに存在しない場合、このプロパティが true に設定されていると、アダプターはファイルを作成します。このプロパティが false でファイルが存在しない場合、アダプターはエラーを送信します。

表 335. 「ファイルが存在しない場合に新規ファイルを作成する」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

データ・チャネル保護レベル (dataProtectionLevel)

このプロパティでは、データ・チャネルを介したデータ転送の保護レベルを指定します。FTP アダプターとそのサーバーが使用するデータ・チャネル保護のタイプを指定します。

データ・チャネルを開く前に、保護バッファー・サイズ (PBSZ) コマンドおよびデータ・チャネル保護レベル (PROT) コマンドが FTP アダプターによって発行され、そのデータ・チャネルの保護レベルが指定されます。デフォルトでは、アダプターは PROT コマンドを発行する前に「PBSZ 0」コマンドを発行します。

表 336. データ・チャネル保護レベル プロパティの特性

必須	いいえ
----	-----

表 336. データ・チャンネル保護レベル プロパティの特性 (続き)

使用可能な値	Private - データは暗号化形式で転送されます Clear - データは平文として転送されます
デフォルト	Private - データは暗号化形式で転送されます
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティは、データ・チャンネルの保護レベルを選択するために使用します。以下は、保護レベルの値です。 <ul style="list-style-type: none"> • Private - データ転送の保全性および機密性が保護されることを示します。 • Clear - セキュリティー対策を取らずに、データ・チャンネルで、FTP アダプターとサーバーとの間のファイル転送用に生データが伝送されることを示します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

retrieve 操作後のファイルの削除 (DeleteOnRetrieve)

Outbound Retrieve 操作時に、このプロパティが true に設定されている場合、アダプターは、ファイルを取得した後、FTP サーバーからファイルを削除します。

表 337. 「retrieve 操作後のファイルの削除」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティ (Filename)

Outbound 操作時に使用するファイル名。

表 338. 「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイル内のビジネス・オブジェクト間の区切り文字」プロパティ (IncludeEndBODelimiter)

この値がファイルの内容に付加される。Outbound の create、append、および overwrite 操作時に使用されます。

表 339. 「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ特性

必須	いいえ
----	-----

表 339. 「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」プロパティ特性 (続き)

デフォルト	<p>Create および Overwrite 操作の場合、デフォルト値は設定されていません。</p> <p>Append 操作の場合、デフォルト値は <EndB0> です。</p> <p>Append 操作の場合、次の規則が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネス・オブジェクト・ラッパーで区切り文字が null に設定されている場合、ビジネス・オブジェクトの分離に区切り文字は使用されません。 ビジネス・オブジェクト・ラッパーに IncludeEndBODelimiter プロパティが設定されておらず、対話仕様の中の値も null である場合、デフォルトは <EndB0> です。 ビジネス・オブジェクト・ラッパーに特定の区切り文字の値が指定されていれば、指定されている値が付加されます。 ビジネス・オブジェクト・ラッパーと対話仕様の両方に値が指定されていれば、ビジネス・オブジェクト・ラッパー値が優先されます。
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ディレクトリー」プロパティ (SecondServerDirectory)

サーバー間のファイル転送の Outbound 操作の実行対象の 2 次 FTP サーバーのディレクトリー。これは、ファイルの転送先のリモート・イベント・ディレクトリーです。

表 340. 「ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	<p>対話仕様プロパティの場合、FTP サーバーにあって Outbound 操作で使用されるディレクトリーは、FTP ディレクトリーの絶対パスを表します。例えば、/home/usr/output です。これにはホスト名または URL 情報は含まれません。</p> <p>wrapper ビジネス・オブジェクト・プロパティの場合、Outbound 操作 ServerToServerFileTransfer の実行対象となる 2 次サーバーの URL。例えば、FTP URL を指定する場合の構文は ftp://[UserId:password@]FTPserver[:port]/DirectoryForSecondServer です。</p>
グローバル化	はい

「ファイル内容のエンコード」プロパティ (FileContentEncoding)

ファイルへの書き込み中に使用されるエンコード。このプロパティを指定しない場合、アダプターは特定のエンコードを使用せずに読み取りを行おうとします。Java がサポートする任意のエンコード・セットを指定できます。

表 341. 「ファイル内容のエンコード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「ローカル・ディレクトリー内のファイル」プロパティー (FileInLocalDirectory)

Outbound の create 操作時に、このプロパティーが true に設定されていると、ファイルの内容はビジネス・オブジェクト内で使用できません。ファイルは、アダプター・ワークステーションのローカル・ディレクトリーから取り出されます。

Outbound の retrieve 操作時に、このプロパティーが true に設定されていると、ファイルの内容はビジネス・オブジェクトの一部として J2EE アプリケーションに送信されません。ファイルは、アダプター・ワークステーションのローカル・ディレクトリーに保存されます。

表 342. 「ローカル・ディレクトリー内のファイル」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティー・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ

「ファイル転送タイプ」プロパティー (FileTransferType)

Outbound 操作時に使用されるファイル転送タイプ。ASCII または binary のいずれかの設定値を指定します。

表 343. 「ファイル転送タイプ」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	binary
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「FTP サーバー接続モード」プロパティー (DataConnectionMode)

FTP サーバーがファイル転送時に使用するデータ接続モード。active または passive のいずれかの設定値を指定します。この値は、ファイル転送が行われる場合にのみ使用されます。このプロパティーは、サーバー間のファイル転送の Outbound 操作の実行時は使用されません。

表 344. 「FTP サーバー接続モード」プロパティー特性

必須	いいえ
デフォルト	active
プロパティー・タイプ	String
使用可能な値	active または passive
グローバル化	いいえ

固有ファイルの生成 (GenerateUniqueFile)

このプロパティが true に設定されていると、Outbound Create 操作の実行中、アダプターは固有ファイル名を作成します。このプロパティが true に設定されている場合、アダプターは、Filename プロパティに設定されているあらゆる値を無視します。

注: アダプターは、GenerateUniqueFile と StagingDirectory の両方のオプションを同時にはサポートしません。

表 345. 「固有ファイルの生成」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean
グローバル化	いいえ
制約事項	この機能を使用するには、FTP サーバーが RFC1123 をサポートしている必要があります。

「ホスト名」プロパティ (SecondServerHostName)

Outbound 操作時に接続の確立先となる 2 次 FTP サーバーのホスト名。

表 346. 「ホスト名」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「create 操作のローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (LocalArchiveDirForCreate)

Outbound の create 操作時に、ファイルの内容が、ビジネス・オブジェクトの一部として提供され、LocalArchivingEnabledForCreate が true に設定されている場合は、ファイルはローカル・ワークステーションのこのディレクトリーに保存されます。

表 347. 「create 操作のローカル・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、LocalArchiveDirForCreate ディレクトリーを手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

「ローカル・ディレクトリー」プロパティ (LocalDirectoryPath)

Outbound の create 操作時に、FileInLocalDirectory プロパティが true に設定されていると、ファイルの内容はビジネス・オブジェクト内で使用できません。その代わりに、このディレクトリーからファイルが取り出されます。Outbound の retrieve 操作時に、FileInLocalDirectory プロパティが true に設定されていると、ファイルの内容はビジネス・オブジェクトの一部として送信できません。ファイルはこのディレクトリーに保存されます。

表 348. 「ローカル・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、LocalDirectoryPath ディレクトリーを手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

「ポート番号」プロパティ (SecondServerPortNumber)

Outbound 操作時に接続の確立先となる 2 次 FTP サーバーのポート番号。

表 349. 「ポート番号」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	FTP は 21、FTPS は 990
プロパティ・タイプ	Integer
グローバル化	いいえ

「プロトコル」プロパティ (SecondServerProtocol)

2 次サーバーへの接続を確立するために使用されるプロトコル。この FTP プロトコルは、接続の確立に使用されます。

表 350. 「プロトコル」プロパティ特性

必須	はい
デフォルト	FTP
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「パスワード」プロパティ (SecondServerPassword)

サーバー間のファイル転送の Outbound 操作時にファイルの転送先となる 2 次 FTP サーバーのパスワード。

表 351. 「パスワード」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし

表 351. 「パスワード」プロパティ特性 (続き)

プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「retrieve 操作のリモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ (ArchiveDirectoryForRetrieve)

Outbound Retrieve 操作時に、アダプターはファイルが削除される前に、このフォルダーにオプションでファイルをアーカイブします。アーカイブ・ディレクトリーが存在する必要があります。

表 352. 「retrieve 操作のリモート・アーカイブ・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「FTP システム上のリモート・ディレクトリー」プロパティ (DirectoryPath)

ExecuteFTPScript 以外のすべての操作に Outbound 操作を実行する必要がある FTP サーバー上のディレクトリーの絶対パス、または ExecuteFTPScript 操作のみのローカル・アダプター・ワークステーション上のディレクトリー・パス。ディレクトリーが存在している必要があります。

注: DirectoryPath として 値 <HOME_DIR> が指定されている場合、Outbound 操作はユーザーのホーム・ディレクトリーで実行されます。

表 353. 「FTP システム上のリモート・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、DirectoryPath ディレクトリーを手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

ResumeFailedTransfer

このプロパティは FTP サーバーへの接続エラーのために中断されたファイル転送の再開をサポートします。

注: このプロパティは、Outbound 処理のみに適用可能です。

表 354. 「ResumeFailedTransfer」プロパティ特性

必須	いいえ
----	-----

表 354. 「ResumeFailedTransfer」プロパティ特性 (続き)

デフォルト	false
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	作成操作時に、このプロパティが true に設定されていると、接続時のエラーが原因でファイル転送が中断された位置から、アダプターはファイル転送を再開します。
グローバル化	いいえ

「スクリプト・ファイル・パラメーター (Script File Parameters)」 プロパティ (ScriptFileParameters)

Outbound ExecuteFTPScript 操作時に、FTP スクリプト・ファイルに必要なパラメーターがこのプロパティに設定されます。ランタイム時に、アダプターはパラメーターをこれらの値で置換します。

表 355. 「スクリプト・ファイル・パラメーター (Script File Parameters)」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「ファイル内容を分割するための基準の指定」プロパティ (SplitCriteria)

このプロパティは、SplittingFunctionClassName プロパティの値に基づいた各種の値を受け入れます。

- SplittingFunctionClassName プロパティで、区切り文字に基づいてファイルを分割することを指定する場合、SplitCriteria にはイベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトを分割する区切り文字を指定します。
- SplittingFunctionClassName をサイズに基づいた分割を行う値に設定する場合、SplitCriteria プロパティには、バイト単位のサイズを表す有効な数値を指定します。
 - イベント・ファイルのサイズがこの値より大きい場合、アダプターはファイルをこのサイズのチャンクに分割し、各チャンクが送られます。
 - イベント・ファイルのサイズがこの値より小さい場合、イベント・ファイル全体が送られます。SplitCriteria=0 の場合、チャンクへの分割は無効です。

表 356. 「ファイル内容を分割するための基準の指定」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	0
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

「分割関数クラス名」プロパティ (SplittingFunction ClassName)

ファイル分割を有効にするために使用するクラス・ファイルの完全修飾クラス名を指定する。以下の 2 つの値が必要です。

- 区切り文字に基づいてイベント・ファイルを分割する
com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitByDelimiter クラス。
- イベント・ファイル・サイズに基づいてイベント・ファイルを分割する
com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize クラス。

区切り文字またはファイル・サイズは、SplitCriteria プロパティで指定します。

表 357. 「分割関数クラス名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	いいえ

「ステージング・ディレクトリー」プロパティ (StagingDirectory)

Outbound の create 操作時に、ファイルは最初にこのディレクトリー内に作成されます。ファイルの作成が完了したら、ファイルは DirectoryPath プロパティで指定されたディレクトリーにコピーされます。このステージング・ディレクトリーは、Append 操作および Overwrite 操作でも使用されます。ここでは、指定されたファイルは StagingDirectory (存在する場合) にコピーされます。付加された内容または上書きされた内容は、この後、元の指定されたディレクトリーに戻されます。StagingDirectory が指定されていない場合、操作は実際の必要なディレクトリー内で実行されます。

注: アダプターでは、StagingDirectory と GenerateUniqueFile の両方のオプションを同時にはサポートしていません。

表 358. 「ステージング・ディレクトリー」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプターを始動する前に、アダプターが実行されるマシン上に、StagingDirectory ディレクトリーを手動で作成する必要があります。アダプターはこのディレクトリーを自動的に作成しないためです。
グローバル化	はい

「一時ファイル名」プロパティ (TemporaryFilename)

このプロパティは、作成操作のための一時ファイル名を指定します。ファイルが正常に作成されると、そのファイルは、「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティで指定された値に名前変更されます。

表 359. 「一時ファイル名」プロパティ特性

必須	いいえ
使用可能な値	すべての有効なファイル名
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティは作成操作で使用されます。一時ファイル名が指定された場合、ファイルはその一時ファイル名を付けて作成されます。ファイルが正常に作成されると、そのファイルは、「デフォルト・ターゲット・ファイル名」プロパティで指定された値に名前変更されます。
例	xyz.tmp
グローバル化	いいえ

「ユーザー名」プロパティ (SecondServerUsername)

サーバー間のファイル転送の Outbound 操作時にファイルの転送先となる 2 次 FTP サーバーのユーザー名。

表 360. 「ユーザー名」プロパティ特性

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502
神奈川県大和市下鶴間 1623 番 14 号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Department 2Z4A/SOM1
294 Route 100
Somers, NY 10589-0100
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向性および指針に関するすべての記述は、予告なく変更または撤回される場合があります。これらは目標および目的を提示するものにすぎません。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを

経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。「(c) (お客様の会社名) (西暦年).このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 (c) Copyright IBM Corp. _年を入れる_。 All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報は、プログラムを使用してアプリケーション・ソフトウェアを作成する際に役立ちます。

一般使用プログラミング・インターフェースにより、お客様はこのプログラム・ツール・サービスを含むアプリケーション・ソフトウェアを書くことができます。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

警告:

診断、修正、調整情報は、変更される場合がありますので、プログラミング・インターフェースとしては使用しないでください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

この製品には、Eclipse Project (<http://www.eclipse.org>) により開発されたソフトウェアが含まれています。



Printed in Japan